

演習林年報

2021年度活動報告等

はじめに

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林は、森林を対象とした教育・研究の場を提供するために設置された研究科附属施設です。130年近い歴史を有し、学内のみならず、広く国内外の教育・研究機関から学生実習や多様な研究のフィールドとして利用されています。目的に応じて、千葉、北海道、秩父、田無、愛知、富士、伊豆の7箇所に設置された地方演習林の合計面積は、約32,300 haで、東京23区の面積の約半分に相当し、東京大学が管理する土地の99%にも達します。地方演習林と弥生キャンパスには計24名の専任教員、約70名の事務職員・技術職員、さらには研究員や非常勤職員など多くのスタッフが在籍し、森林の維持管理のみならず、宿泊施設、固定試験地、長期データの蓄積等の豊富な研究基盤を支えています。

2021年度は演習林「教育研究計画2021～2030」（2020年度策定、2025年度見直し）の初年度です。この教育研究計画の全文は雑誌「演習林」第64号に、関連する資料はUTokyo Repositoryに収められています。新計画では、常置委員会が大学教育委員会、研究委員会、社会連携委員会、国際委員会、森林管理委員会、環境安全委員会、管理運営委員会の7委員会に再編され、新たに教育・社会連携センター、フィールドデータ研究センターの2つのセンターが立ち上げられました。地方演習林でも、それぞれに特色ある10年計画を策定しています。これにより演習林の教育・研究機能のさらなる向上が期待されています。残念ながら新計画の初年度は新型コロナウイルス感染症の流行も未だ収まらず、多くの学生実習、公開講座、国際交流が中止やオンライン開催を余儀なくされました。そのような中でも、さまざまな対応を工夫し、この年報にまとめられたような教育・研究上の成果をあげています。この「ホップ」から、次年度以降の「ステップ」、「ジャンプ」に向けて演習林は加速していく所存です。今後とも演習林へのご支援をよろしくお願いいたします。

2022年6月

東京大学大学院農学生命科学研究科
附属演習林長 久保田耕平

第 1 部 附属演習林報告

| | | |
|----|----------------|-----|
| 1. | 全体組織 | … 4 |
| 2. | 企画部 | … 5 |
| 3. | 教育・社会連携センター | … 8 |
| 4. | フィールドデータ研究センター | …10 |

第1部 附属演習林報告

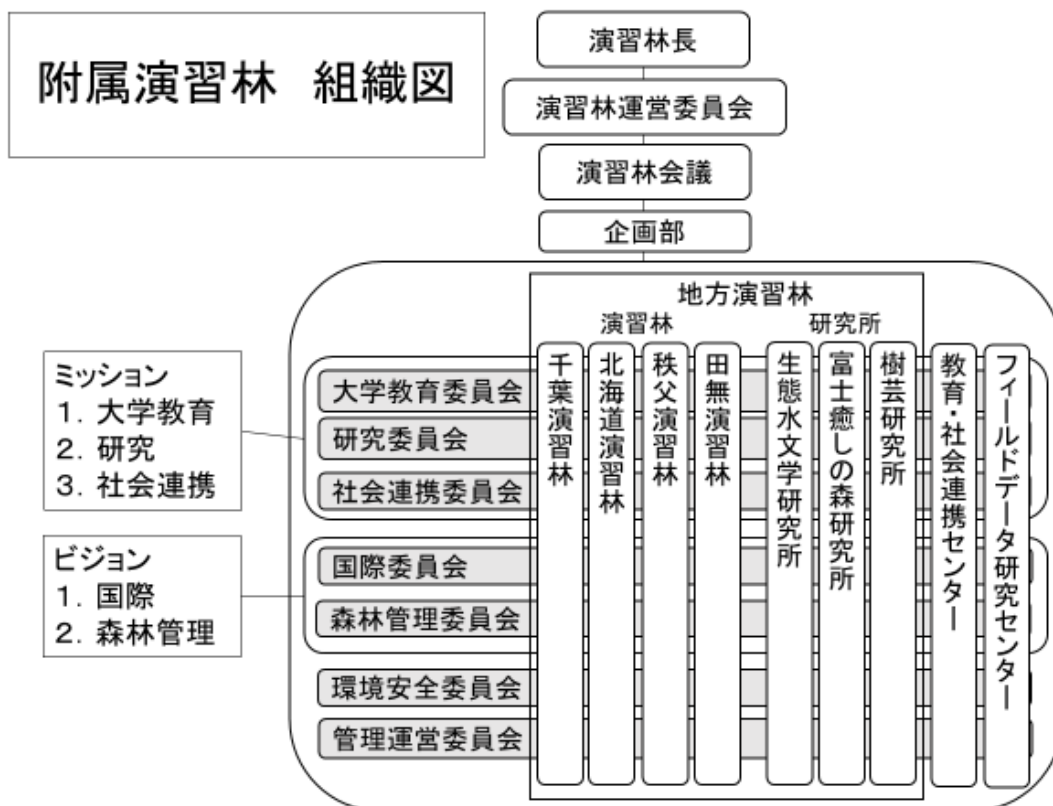
東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林（以下、附属演習林）は東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林規則（以下、附属演習林規則）に基づき設置されており、その第一条に、林学・林産学に関する基礎的及び応用的な試験・研究を行うとともに、学生の実習に便宜を与えることを目的とすることを定めている。

附属演習林は10年間を単位とし附属演習林全体を集約した「教育研究計画」により運営されている。現計画の期間は2021～2030年であり、2021年度は初年度にあたる。本計画は第一部（附属演習林計画）、第二部（常置専門委員会計画）、第三部（地方演習林計画）の3部で構成されている。

教育研究計画2021～2030の第一部は、基本方針、大学教育、研究、社会連携、国際、森林管理、環境安全、管理運営、組織について定めている。このうち大学教育、研究、社会連携、国際、森林管理、環境安全、管理運営についてはそれぞれ専門委員会を常置して実行することを第二部で定めているため、第一部では主に「組織」について活動を報告する。

1. 全体組織

演習林長および演習林運営委員会を頂点として、演習林会議および企画部のもとに、基本方針として定めているミッション、ビジョンを実現するために常置した7つの専門委員会と地方演習林との関係を明確化した組織体制を構築し、2021年度当初から運用した。



2. 企画部

企画部は、演習林会議の下で、附属演習林内、研究科内、東京大学内、東京大学外を対象とした企画調整(大学教育、研究、社会連携、国際、森林管理、管理運営、人事、財務等)を担当し、地方演習林、教育・社会連携センター、フィールドデータ研究センターの相互連携を促進すると定められている。2021年度に行った主な対応は以下のとおりである。

【1】新型コロナウイルス感染症に関連する対応

研究科長の指示により、各地方演習林は、所在地の状況を勘案の上、演習林長が制限レベルを設定することとなっている。地方演習林ごとの制限レベルは以下のように推移した。レベル変更の都度、研究科長および専攻長・附属施設長会議に報告した。

| 運用開始日 | 2021年 | | | | | | | | | | | | | 2022年 | | | |
|-----------|-------|------|------|------|------|-----|-----|------|------|------|------|------|-------|-------|------|------|------|
| | 4/1 | 4/27 | 5/17 | 6/21 | 7/12 | 8/2 | 8/3 | 8/23 | 8/27 | 9/13 | 10/1 | 10/4 | 11/26 | 1/18 | 1/21 | 1/24 | 1/27 |
| 弥生キャンパス | 0.5 | 準1 | 準1 | A | B | B | B | B | B | B | B | A | A | A | A | B | B |
| 千葉演習林 | 0.5 | 0.5 | 0.5 | A | A | B | B | B | B | B | A | A | A | A | A | B | B |
| 北海道演習林 | 0.5 | 0.5 | 準1 | A | A | A | A | A | B | B | A | A | A | A | A | A | B |
| 秩父演習林 | 0.5 | 0.5 | 0.5 | A | A | A | B | B | B | B | A | A | A | A | B | B | B |
| 田無演習林 | 1 | 1 | 1 | C | C | C | C | C | C | C | C | C | A | B | B | B | B |
| 生態水文学研究所 | 0.5 | 0.5 | 0.5 | A | A | A | A | A | B | B | B | A | A | A | A | B | B |
| 富士癒しの森研究所 | 0.5 | 0.5 | 0.5 | A | A | A | A | B | B | A | A | A | A | A | A | A | A |
| 樹芸研究所 | 0.5 | 0.5 | 0.5 | A | A | A | A | B | B | B | A | A | A | A | A | A | B |

【2】未来社会協創推進本部のプロジェクト等への登録

研究委員会、社会連携委員会、フィールドデータ研究センター(FDRC)と連携し、附属演習林の活動について、未来社会協創推進本部のプロジェクトやイニシアティブ(SDGs登録プロジェクト、地域連携登録プロジェクト、次世代サイバーインフライニシアティブ、データプラットフォームイニシアティブなど)に登録した。



▶ [SDGsについて](#)

蔵治 光一郎 農学生命科学研究科 附属演習林 教授

演習林は、大学設置基準に基づき、林学に関する学科の教育研究に必要な施設として設置されており、大学教育、研究、社会連携の3つのミッションを掲げています。大学教育では、学部、大学院において、森林に関わる教育を行うとともに、そのための最適なフィールドを提供することを目指しています。研究では、森林を中心とした自然環境および森林と人との関わりについての専門的な研究を促進するとともに、大学を中心とした研究組織に最適なフィールドおよび森林を中心とした自然環境の動態に関する記録(データ)を提供することを目指しています。社会連携では、学校教育や生涯教育をはじめとする社会教育をより豊かなものにするための仕組みとフィールドを提供することを目指しています。



2.8 地球環境（資源管理、気候変動、地球環境データベース）

2.11 農学・生命科学（農学・農業、森林工学・林業、水圏学・水産学 生物科学等）

平尾 聡秀 農学生命科学研究科 講師

森林や林業に関する課題解決のために社会のニーズに広く応えることのできる森林フィールドデータのプラットフォームを構築する。そのために、1) フィールドにおけるデータ取得および森林フィールドの管理のICT活用を推進する。2) データの集積とシステムの長期運用とデータサイエンスをサポートする基盤を整備する。3) グローバルな学術情報に貢献するため世界のオープンデータのコミュニティへ森林フィールドデータを提供する。また、これらのプロジェクトの長期的な持続のための人材育成にも同時に取り組む。

【2】グリーン・トランスフォーメーション (GX)

藤井総長のもと、UTokyo Compass にGXの推進が記載されたこと、東京大学がRace to Zeroへの参加を表明したことを受け、概算要求 TF の主導により、2021年12月に行われたOne Earth Guardians 公開シンポジウムにおいて演習林の取り組みについて講演した。また研究科が発行する広報誌「弥生」の特集「GXする」において「Yayoi Highlight」に演習林のGXへの挑戦について寄稿した。GXに向けた取り組みの一環として、北海道演習林で生産した丸太から製材した材を使った箸を東京大学コミュニティセンター(UTCC)で販売する取り組みを始めた。さらに2024年度施設概算要求としてGXの拠点を秩父演習林影森地区に建設する要求を行った。



Key Highlight

農学生命科学研究科の附属施設である演習林は、「科学と社会をつなぐ窓」として、「100年を超える長期データの蓄積」「地域社会と連携した教育研究の実践」といった強みを生かし、持続可能な木材生産の研究をを通じて東京大学GXへ挑戦します。

演習林のGXへの挑戦

森林の持続的な利用を促した化石資源依存社会の変革を目指す

https://www.forest.az.u-tokyo.ac.jp/



研究・教育に活用される全国7箇所の東京大学演習林
伐採した材から様々な商品を生み出しました

東京大学演習林

東京大学コミュニケーションセンター(UTCC)オンラインストアのトップページに表示される「東京大学×演習林」の商品企画

【3】タスクフォース（TF）の設置

時限的な課題に対応するために、以下のタスクフォースを設置して対応した。

- ・概算要求 TF(平尾(長), 楠本, 齋藤, 久保田, 蔵治)
- ・広報媒体の目的再定義 TF(齋藤(長), 福井, 水内, 當山, 井上, 蔵治)
- ・東京大学とクボタによる産学協創協定 TF(安村, 鴨田, 齋藤, 當山, 鈴木, 久保田, 蔵治)

【4】研究科と地方自治体との間の協定の締結

地方演習林(田無演習林を除く)が立地する市町村のうちこれまで唯一、協定が締結されていなかった静岡県湖西市と研究科との間で、市民の防災・減災、ゼロカーボンシティ・脱炭素型社会の形成および大学における教育・研究の推進に資するための連携協力協定を締結するための意見交換を開始した。

3. 教育・社会連携センター

当センターは准教授 1・准教授(兼)1・助教 1・技術専門員(兼)1・技術専門職員 1・事務補佐員 1 名で構成され、大学教育委員会と連携して大学教育、社会連携委員会と連携して社会連携の拠点として活動を行った。さらに、各専門委員会の活動支援、地方演習林と農学部事務との連絡調整などを行った。

【1】大学教育

附属演習林教員の指導を受ける大学院生・学部生は弥生地区に机を置いて学生生活を過ごす。所属学生数は 2018 年度ごろから伸びており、2020 年度と 2021 年度は合計で 30 名を超えている(図)。当センターは、週 1 回のゼミと指導教員との連携による個別指導を通じて、演習林に所属する学生(博士課程学生 4 名、修士課程学生 17 名、4 年生 5 名、研究生 11 名、合計 37 名)の卒論、修論、博論研究等の指導・支援を行うとともに、学生生活全般が円滑に行えるようにケアを行った。今年度は修士課程で 9 名が修了し、学部では 5 名が卒業した。新規進学生・入学生を中心として、過去にハチ毒アレルギー検査を受けていない学生全員に対してハチ毒アレルギー検査を病院・クリニックにて行ってもらった。陽性反応が出た学生にはエピペンを処方してもらい、万一の事態に対応できるようにした。

関連専攻の学部・大学院のガイダンスを担当し、演習林における教育研究の説明を行った。演習林教員で担当している講義のスケジュール調整、教養学部講義、演習林ゼミ等の教育推進に関わる経費管理等を通じて、演習林の教育活動を支援した。今年度も、学部講義・ガイダンス・ゼミ等はほぼオンラインで行われたが、学生らが平等にオンライン接続できるよう細かな配慮を行った。

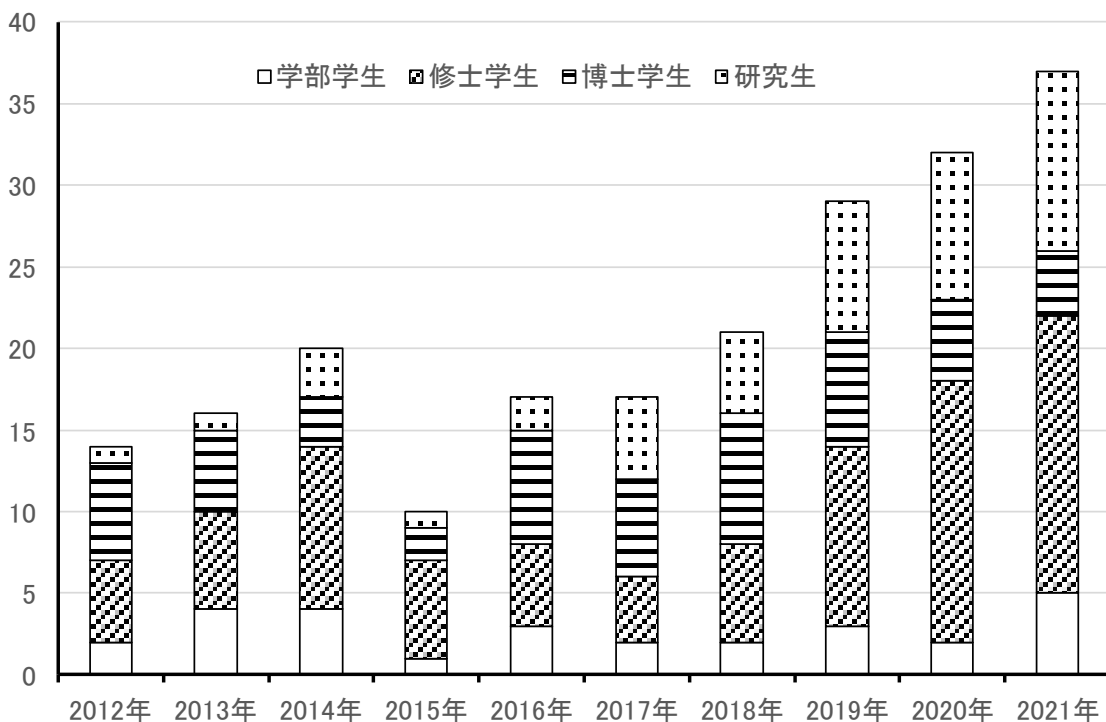


図 演習林所属学生数の最近 10 年間の推移

【2】社会連携

演習林の社会連携活動の拠点として、特に社会連携委員会と連携した活動を実施した。特に、ウェブサイト、科学の森ニュース、学内広報・弥生等の広報媒体を通じて、演習林の社会貢献に関する広報活動にかかわる実務を企画部と調整しながら実施した。また、演習林出版局の書籍の販売に関して、経理課とのやり取りを行うとともに、在庫管理を行った。なお、2021年4月～2021年3月までの演習林出版局の書籍の販売実績は、地方演習林と書店を合計して、276冊、175,503円であった。

弥生地区として、関係する委員会と協力して各地方演習林の広報活動を取りまとめ、専攻長・附属施設長会議に毎月報告した。また、教育目的での演習林利用希望者に対して、当該地方演習林との連絡調整を行い、必要な情報を提供した。学術分野では、演習林編集委員会の主事として、「演習林報告」、「演習林」の編集作業を行った。また、演習林内の委員会活動が円滑にできるよう、農学系事務との連絡調整を行うとともに、経費執行等の支援をした。今年度に発足したフィールドデータ研究センターと連携し、研究目的で演習林を利用する利用者に情報を提供した。

【3】その他

1号館の改修工事による引っ越しに伴い、教員の共有スペース、学生スペースのレイアウトを調整するとともに、耐震対策などを実施した。また、手指消毒のためのエタノールスプレーの設置、アクリル板の設置などを行い、コロナ感染予防を行った。希望者に対して、大学のPCR検査の実施がスムーズに行えるように支援を行った。

4. フィールドデータ研究センター

当センターは講師(兼)1名・助教1名・技術専門員1名で構成され、研究委員会と連携してデータベース構築、管理運営委員会と連携してネットワーク管理に関する活動を行うこととなった。また、データベースやネットワークにかかわる学内外の組織との連携・協力も担っている。

【1】データベース構築

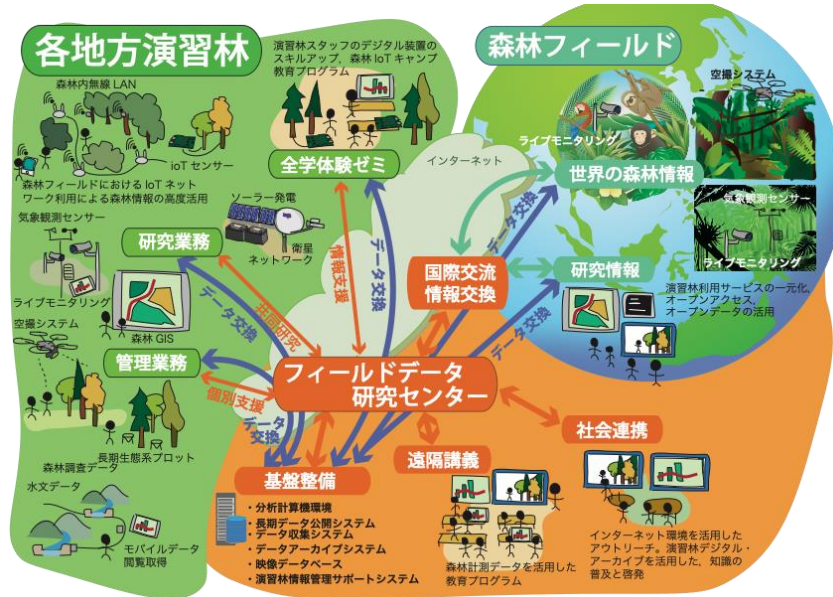
すでに公開されているフィールドデータ等を統合的に整理し、ユーザーフレンドリーで国際的に利用可能なデータベースを構築することを目指して、データ公開システムの設計を進めた。データベース構築に関する技術および学術情報管理の動向を踏まえて、演習林のデータ公開システムの設計を検討するため、システム開発業者によるコンサルティングを受けた。演習林ウェブサイトや雑誌「演習林」で公開されている長期生態系データのうち、データベースによる公開が適しているデータについて順次検討を行った。その結果、データ公開システムは、①学内共通の情報システムに搭載可能な部分と演習林で独自開発が必要な部分に分割したレイヤー構造とする、②データ構造に応じてデータセットごとにデータベース設計を行う、③EML をベースにデータセットに関するメタデータのフォーマットを開発する、④外部データベースと連携するための拡張性を担保するという技術的な指針を得た。これらを踏まえ、データ公開システムの要求分析の結果とシステム開発に必要な技術情報をまとめた。また、農学コンテンツ業務を担当し、東京大学デジタルアーカイブズ構築事業の支援を得て、演習林が所蔵する歴史的に価値のある図面や写真をスキャンした画像資料をアーカイブするためのデータベース構築を行った。2020年度事業の継続業務として公開データベースを完成させ、正式に公開した。2021年度事業として、千葉演習林と生態水文学研究所の画像資料のデジタル化を実施した。2022年度事業についても申請を行った。

【2】ネットワーク管理

地方演習林のネットワーク構成(サーバーや提供するサービス)に関する支援を行うため、フィールドデータ研究センターと管理運営委員会から派遣された全演アドバイザー3名により、ネットワーク管理に関する実務的な打ち合わせを月例で行った。また、各地方演習林のコンピューターネットワーク担当者として協力して実務遂行に当たった。具体的には、農学部1号館にある演習林サーバー群の日常的な管理と次期システムの検討、地方演習林と連携したIPアドレスリストの管理、地方演習林のネットワークトラブルへの対応(田無演習林の落雷被害)などのネットワークインフラの管理を行った。また、メーリングリストやサイボウズの管理、各種ソフトウェア(ウィルスバスター・ファイルメーカー)のライセンス管理、弥生地区に設置された学生用パソコンの管理を行った。さらに、全学のコンピューターネットワーク管理に関する組織(UTNET および UT-CERT)の部局担当としての業務、専門性の高い業務に対応するためのスキル向上の取り組み(デジタル庁情報システム統一研修の受講)、コンピューターおよびデータセキュリティに関する日常業務と管理計画の検討にも取り組んだ。特に、今年度は、ASANO システム導入に関する地方演習林へのアドバイスと情報基盤センターとの連絡調整を行った。また、演習林ウェブサーバーの改ざんインシデントが発生したため、その対応とそれを受けたコンピューターセキュリティに対応する体制の強化を行った。他に、管理運営委員会による将来的なネットワークインフラ整備計画への協力など、演習林のデジタルトランスフォーメーション(DX)への取り組みに関する業務にも取り組んだ。また、遠隔講義やハイブリッド講義実施の際にも、技術的なサポートを行った。

【3】学内外の組織との連携・協力

フィールドデータの取得と集積などデータサイエンスの基盤整備と、グローバルな学術情報への貢献を目指すフィールドデータ研究センターの取り組みについて、東京大学未来社会協創推進本部が推進するデータプラットフォームイニシアティブ登録プロジェクトおよび次世代サイバーインフライニシアティブ登録プロジェクトに登録を行った。また、東京大学情報基盤センターが運用するデータ活用社会創成プラットフォーム mdx との連携可能性を探るために、情報基盤センターの担当者と情報共有を進めた。また、学内外への広報として、科学の森ニュースに記事「FDRC ってなに？(フィールドデータ研究センター)」を掲載した。



フィールドデータ研究センターが目指す演習林デジタルトランスフォーメーション (DX)

第 2 部 常置專門委員會報告

| | | |
|----|---------|-----|
| 1. | 大學教育委員會 | …13 |
| 2. | 研究委員會 | …15 |
| 3. | 社會連携委員會 | …22 |
| 4. | 國際委員會 | …24 |
| 5. | 森林管理委員會 | …25 |
| 6. | 環境安全委員會 | …27 |
| 7. | 管理運營委員會 | …28 |

第2部 常置専門委員会報告

1. 大学教育委員会

【1】委員会の開催

2021年5月14日, 6月4日, 9月17日, 12月13日, 2022年2月18日にオンラインで打合せを行った。今年度は, 各委員の担当(部門)を決めるとともに, 委員会としての方向性・考え方などを検討した。

【2】教育活動に関する情報の共有

- ・教養学部講義の情報を収集し, 取りまとめを行った(図-1)。また, 教養学部講義の実施について, 宿泊の可否などについての情報を共有した(情報収集部門)。
- ・学部教育会議に出席し, 講義の方法や実習対応についての情報を共有した。
- ・公開森林実習部門では, 今年度は東大からのエントリーはなかったため, 他大学の実習状況を把握し, 情報を共有した(公開森林実習部門)。
- ・運営委員会資料の教育活動の情報収集のやり方を検討し, グーグルスプレッドシートを活用して情報収集を行った(情報収集部門)。

【3】教育活動に関する情報の発信

- ・演習林ウェブサイトの改訂に伴い, 大学教育に関するページの構成, コンテンツについて検討した(情報発信部門)。
- ・農学部進学選択ガイダンスの学部長メッセージ「農学研究・教育の意義と魅力」の素材として, 演習林の写真・動画を提供した。
- ・同ガイダンスの一環である「農学フェア」において, 写真や動画を20分程度にまとめたVTRを編集して, 演習林の紹介を行った。

【4】教育技術の向上

オンライン実施した講義の動画ファイルを演習林内部で共有し, 講義スキルの向上を図ることを検討したが, 著作権法の問題があることが判明したために提案を取りやめた。

【5】教育に関連したプロジェクトの検討

- ・講義等の教育活動における動画素材の利用に関するアンケートをグーグルフォームで演習林教員あてに行い, 利用実態の把握と今後のニーズの把握を行った(企画部門)。
- ・2022年度に東京大学から国立台湾大学への学生派遣を行うことを計画し, 同年度のJASSO海外留学支援制度(重点政策枠)の申請を行った(国際部門)。

【6】教育活動に関するその他支援

- ・月に1回開催される演習林ゼミの全体のスケジュールを調整し, 進行を担当した。今年度の修士2年と学部4年生の人数が多かったため, 通常のゼミに加えて, 学部4年生の卒業論文に関するゼミを1月初旬に行った(演習林ゼミ部門)。
- ・今年度から改定・適用された本委員会が取り扱う経費の支出基準と執行手続きを周知するとともに, 分かりにくいと思われる表現を修正した(経費執行部門)。
- ・生物材料科学の2専修についてオンライン実習の依頼があり, 本委員会が連絡調整し, 千葉演習林と北海道演習林からのオンライン実習を支援した。

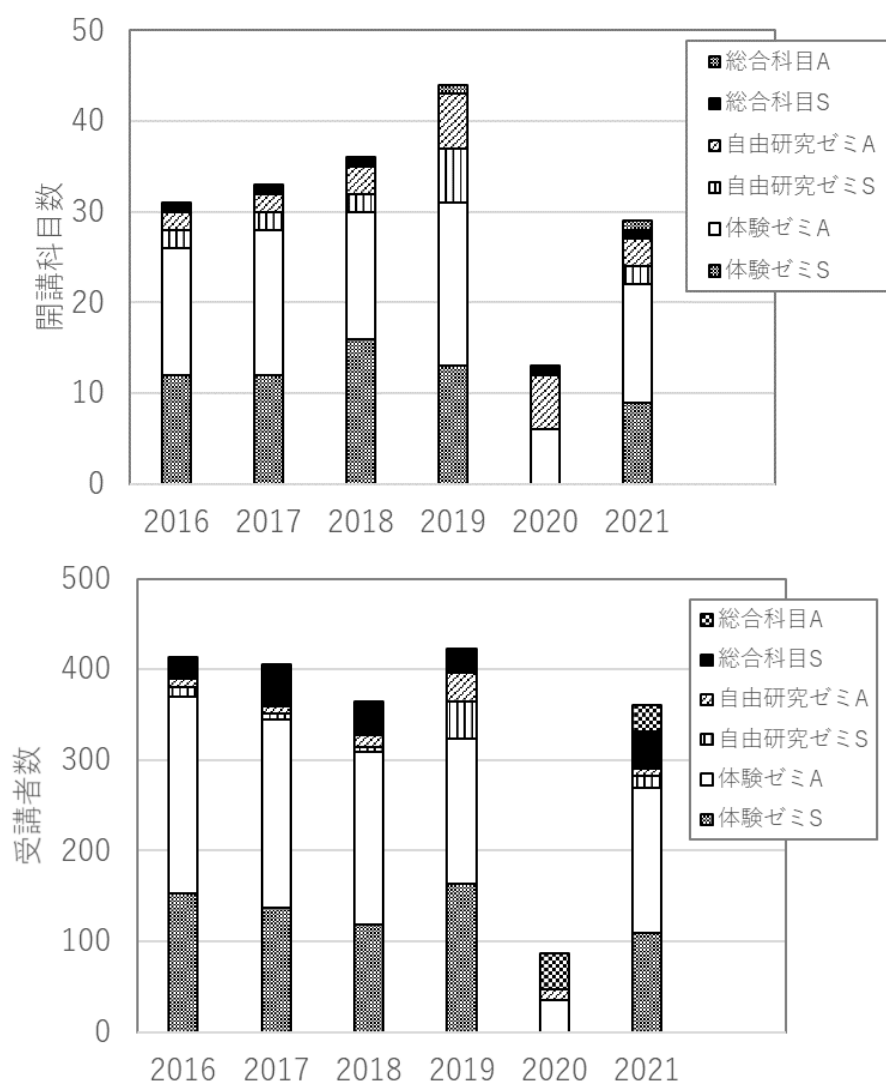


図-1 教養学部の開講科目数(上)と受講者数(下)の推移

2. 研究委員会

本委員会は、主に、森林に関するデータの収集・整備・公表、教職員の研究活動の推進および研究業績の集計、複数地方演習林にまたがる研究案件の調整を担う。4月6日と6月25日にオンライン会議を開催し、「教育研究計画 2021～2030」に書かれた活動計画を確認し、今後の運営方針および予算の取り扱いに関して議論等を行った。また、その他の議題が生じた場合には、適宜メールによる審議を行った。

【1】森林を中心とした自然環境の動態に関するデータの観測、整備、公表

委員会内に長期生態系データ担当を置き、その下に旧基盤データ整備委員会から引き継いだ気象水文水質、生物、固定試験地の3部門を置いた。長期生態系データ担当の活動として、前年度より継続している気象データ解析研究会と動物データ解析研究会の旅費や論文投稿費等の支援を行った。各部門の活動として下記の1)～3)を行った。

1) 気象水文水質部門

2021年4月1日からは「教育研究計画 2021-2030」に基づいた新体制の下での観測を実施している。2021年7月2日に担当者会議を行い、観測体制、データの状況、年間計画等について相談した。

[1] 気象分野

東京大学演習林では、これまで最長で100年を超える期間、気象観測を継続してきた。現在の観測システムは2001年から稼働し、現在は6地方演習林を網羅する合計15か所の観測地で観測を行っている。

気象水文水質部門で責任をもつI種観測地は札郷(千葉)、前山(北海道)、小赤沢(秩父)、白坂(生態水文)、青野(樹芸)の5地点、観測項目は気温、湿度、降水量、日射量、風速、風向である。I種以外の観測地はII種として各地方演習林の裁量で観測や全演でのデータ公開を行っているが、気象水文水質部門として各地方演習林で対応が困難な案件についてのサポートは継続している。

表 2021年度 各地方演の観測地と観測項目
(○観測公表項目、△観測しているが公表していない、()内は代替機器の有無)

| 演習林名 | 千葉演 | | | 北海道演 | | 秩父演 | | | | 田無演 | 生態水文学研 | | | 樹芸研 | |
|----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|--------|------|------|------|------|
| | I | II | II | I | II | I | II | II | II | II | I | II | II | I | II |
| I種とII種の別 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 観測地 | 札郷 | 清澄 | 新田 | 前山 | 山部 | 小赤沢 | 栃本 | 大血川 | ワサビ沢 | 第一苗畑 | 白坂 | 東山 | 穴の宮 | 青野 | 加納 |
| 観測項目 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 気温 | ○(○) | ○(-) | ○(-) | ○(○) | ○(○) | ○(○) | ○(○) | ○(○) | ○(○) | ○(○) | ○(○) | ○(-) | ○(-) | ○(○) | △(△) |
| 地温 | | | | | | | ○(-) | | | ○(-) | ○(-) | | | | |
| 湿度 | ○(-) | ○(-) | ○(-) | ○(-) | ○(○) | ○(-) | ○(-) | ○(-) | ○(-) | ○(-) | ○(-) | ○(-) | ○(-) | ○(-) | |
| 降水量 | ○(○) | ○(○) | ○(-) | ○(○) | ○(○) | ○(○) | ○(○) | ○(○) | ○(○) | ○(-) | ○(○) | ○(○) | ○(○) | ○(○) | △(-) |
| 日射量 | ○(-) | ○(-) | ○(-) | ○(-) | ○(-) | ○(-) | ○(-) | | ○(-) | | ○(-) | ○(-) | ○(-) | ○(-) | |
| 風速 | ○(-) | | ○(-) | ○(-) | ○(-) | ○(-) | ○(-) | | | | ○(-) | ○(-) | ○(-) | ○(-) | |
| 風向 | ○(-) | | | ○(-) | ○(-) | ○(-) | ○(-) | | | | ○(-) | ○(-) | ○(-) | ○(-) | |
| 積雪 | | | | | ○(-) | | | | | | | | | | |
| 降雪深 | | | | | △(-) | | | | | | | | | | |
| 積雪深 | | | | | ○(-) | | ○(-) | | | | | | | | |

本年度は、長期メンテナンス計画に基づいて定期的・計画的に行っているI種観測地5地点の湿度チップを調達し、今後、各地点で交換予定である。

観測データは演習林ホームページで観測の翌々月には公表している。2020年のデータは観測体制とともに「演習林」第65号(2022年3月発行)に2020年気象年報・月報として掲載した。「演習林」の投稿規定に従い、月報はレポジトリのみの公表となる。

2018年度から大学院農学生命科学研究科が推進している「農学コンテンツの情報化のためのプラットフォーム構築」事業との関連で、過去に「演習林」で公表されているがデジタルデータを公表していないデータに関して、デジタルデータを作成し、公表する作業を進めた。

[2] 水文水質分野

観測は、降水量、流出量、渓流水質については2003年から、降水の水質については2011年から実施している。千葉演習林、北海道演習林、秩父演習林、生態水文学研究所、樹芸研究所において、降水量と流出量の観測を行うとともに、定期的に降水と渓流水を採取し水質分析をおこなう。千葉演習林での観測は森林生物地球科学研究所の協力を得ている。データは各演習林と生態水文学研究所で保管・管理している。今年度の観測体制と観測地点、活動内容の詳細を以下に示す。

i) 降水量・流出量観測

降水量は転倒マスの転倒回数の記録値、流量は5分～30分間隔で瞬間水位を観測し、それぞれ日降水量・日流出量へ整理して生態水文学研究所に報告した。秩父演習林バケモノ沢は2019年10月の台風19号で被災し流量観測を中断していたが、2021年6月に観測を復旧した。

ii) 降水・渓流水の試料採取と分析

千葉演習林、北海道演習林、秩父演習林、生態水文学研究所で降水と渓流水を月に1度採取してpHとECを計測し、分析担当者へ送付した。秩父演習林では水試料のpHとECの計測はサントリーグローバルイノベーションセンター株式会社水科学研究所で行った。樹芸研究所では、加納観測地点での降水量1mm以上の降水を出勤日毎に採取するとともに、渓流水を月に1度採取してpHとECを計測し、分析に供した。

水試料の分析は次の研究室で行った。降水水質については、すべての演習林の水試料について樹芸研究所で、渓流水質については、千葉演習林、秩父演習林及び生態水文学研究所の水試料は生態水文学研究所で、北海道演習林と樹芸研究所の水試料は樹芸研究所で行った。分析項目は渓流水については Na^+ 、 K^+ 、 Mg^{2+} 、 Ca^{2+} 、 SO_4^{2-} 、 NO_3^- 、 Cl^- 、pH、ECの9項目、降水については、上記9項目に NH_4^+ を加えた10項目とした。

分析結果は水試料を採取した各演習林の担当者がとりまとめ、生態水文学研究所に報告した。

iii) 観測結果のとりまとめと公表

日降水量、日流出量、降水と渓流水の水質分析結果を生態水文学研究所でとりまとめた。今年度は2019年1月～12月の観測結果を「演習林」第65号(附表は東京大学学術機関リポジトリ)で公表した。また、とりまとめたデータを図化し、データのクオリティーチェック等に役立てた。

iv) その他

これまで森林生物地球科学研究室で行われていた新田の降水、袋山沢の渓流水の採取とpH、EC計測は千葉演習林で、水質分析は樹芸研究所と生態水文学研究所で引き継ぎ実施することとなった。2019年、2020年の水試料の分析も演習林で引き継いで行った。

機器更新計画に従い北海道演習林、生態水文学研究所および樹芸研究所のpH・EC電極の更新を行った。秩父演習林バケモノ沢の土砂撤去や観測機器の復旧は、災害復旧費や国大協保険の保険金等で行った。

表 2021年度の各地方演習林の観測項目、及び2019年データの公表状況

| 観測地 | 千葉演習林 | | | | 北海道演習林 | | 秩父演習林 | | 生態水文学研究所 | | 樹芸研究所 | | | |
|----------|--------------|-------|-------|-------|--------|-----|-------|-------|----------|--------|-------|----|-----|-----|
| | 新田 | 袋山沢 A | 袋山沢 B | 袋山沢 C | 東郷ダム | 丸山沢 | ワサビ沢 | バケモノ沢 | 白坂 | 白坂(本谷) | 青野 | 加納 | 2号沢 | 3号沢 |
| I種とII種の別 | I | I | II | II | I | I | I | I | I | I | I | I | II | I |
| 降水量 | 2021年度観測実施 | ○ | | | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| | 2019年日降水量公表 | ○ | | | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 流出量 | 2021年度観測実施 | | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | ○ |
| | 2019年日流出量公表 | | ○ | ○ | ○ | | ○ | | △ | | ○ | | ○ | ○ |
| 降水水質 | 2021年度観測実施 | ○ | | | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| | 2019年降水水質公表 | * | | | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 渓流水水質 | 2021年度観測実施 | | ○ | ○ | | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | ○ |
| | 2019年渓流水水質公表 | | ○ | ○ | | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | ○ |

△2019年10月の台風で被災し中断

* 2022年に公表予定

2) 生物部門

[1] 植物分野

演習林内に生育する維管束植物(自生種・導入植栽種)を対象として、1種につき3点のさく葉標本の作製(標本台紙への貼り付け、ラベルの作製、および台紙への貼り付け)とデータベース入力を今期期間(2021年～2030年)中に完了し、2033年度に全演の植物目録を更新することを目標に、資料の収集にあたっている。2021年度は、標本のデータ入力・確認作業を継続し、完全標本作製を進めるため、2月に標本作製に関する講習会をオンラインで開催し情報共有を行った。また、今期から、樹木実生と下層植生のモニタリングを開始し、2021年度は北海道演習林・生態水文学研究所で調査を行った。

2021年度の各演習林の活動

- ・千葉演習林: I種の活動として、植物採集(サワギク:標本3点)を行った。II種の活動として、過去に千葉県立中央博物館と共同で行った植物相調査のメッシュデータの整理を進めた。
- ・北海道演習林: I種の活動として、標本作製のために未採取植物の採取を実施した。また、2ヶ所の調査地を設定し、6月に下層植生調査、9月に樹木実生調査を行った。
- ・秩父演習林: I種の活動として、標本リストの確認と標本整理を行った。II種の活動として、クマガイソウ保全のための調査を行った。
- ・田無演習林: I種の活動として、標本整理を行った。II種の活動として、樹木園で自動撮影カメラによるフェノロジー調査を行った。
- ・生態水文学研究所: I種の活動として、1ヶ所の調査地を設定し、6月と11月に樹木実生調査、下層植生調査を行った。
- ・富士癒しの森研究所: I種の活動として、標本整理、データの確認を行った。
- ・樹芸研究所: I種の活動として、標本作製、テープの貼り直し、標本リストの確認を行った。

表 2021年度の各演習林の調査結果(植物)

| 演習林名 | 2021年度採取 | | | | 2021年度末 | 植生モニタリング調査 | |
|------|----------|------|------|------|---------|------------|------|
| | 調査日数 | 調査人員 | 標本種数 | 標本点数 | 総標本種数 | 調査日数 | 調査人員 |
| 千葉 | 0 | 0 | 1 | 3 | 927 | 0 | 0 |
| 北海道 | 1 | 1 | 1 | 3 | 945 | 3 | 9 |
| 秩父 | 0 | 0 | 0 | 0 | 905 | 0 | 0 |
| 田無 | 0 | 0 | 0 | 0 | 307 | 0 | 0 |
| 生態水文 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1202 | 2 | 4 |
| 富士 | 0 | 0 | 0 | 0 | 417 | 0 | 0 |
| 樹芸 | 0 | 0 | 0 | 0 | 628 | 0 | 0 |

千葉演習林の標本採取は短時間作業ため調査人員を0人とした。

[2] 脊椎動物分野

i) 脊椎動物（鳥類を除く）分野

脊椎動物のリスト作成を目的として、以下のⅠ種およびⅡ種の各調査を実施した。今期の重点調査分類群に位置づけた「地上性小型哺乳類(齧歯目・モグラ科・トガリネズミ科)」と「魚類」の調査については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施せず、調査道具の購入等の準備のみを行った。また、オンキャンパスジョブを活用し、自動撮影カメラ調査(千葉・秩父・樹芸)で得られたデータの処理の省力化を図った。さらに、2016年～2020年の5年間に得られた自動撮影カメラ調査の成果、および2013年～2020年の8年間に得られたコウモリ類調査の成果を雑誌「演習林」に発表した。

2021年度の各演習林の活動

- ・千葉演習林:シカ区画法調査の代替として2017年度より行っている自動撮影カメラ調査は、これまでⅡ種調査に含めてきたが、千葉演習林の基幹研究として行われることになったため、Ⅱ種調査の対象から除外した。
- ・北海道演習林:特になし。
- ・秩父演習林:自動撮影カメラ調査でツキノワグマが樹皮を剥ぐ様子が撮影された。目撃情報記録に電子野帳を使用した。
- ・田無演習林:Ⅰ種撮影地点の26小班第一苗畑13号圃において、2021年2月下旬に周囲の樹木の伐採が行われ、環境が大きく変化した。新たな場所に変更することを検討している。
- ・生態水文学研究所:Ⅰ種調査の自動撮影カメラ1台購入・交換した。ニホンジカ撮影回数(のべ頭数)が増加傾向にある。
- ・富士癒しの森研究所:山中湖村のシカ捕獲調査の実施時期の検討に際して、自動撮影カメラ調査によるシカの撮影頭数が参考にされた。
- ・樹芸研究所:特になし。

表 2021年の各演習林の調査結果(鳥類を除く脊椎動物)

| 演習林名 | | 千葉 | 北海道 | 秩父 | 田無 | 生態水文 | 富士 | 樹芸 |
|------|--------------|------|------|------|-----|------|-----|-----|
| 調査名 | Ⅰ種 自動撮影カメラ調査 | ○ 14 | ○ 8 | ○ 11 | ○ 2 | ○ 13 | ○ 5 | ○ 8 |
| | Ⅱ種 目撃情報記録 | ○ 17 | ○ 16 | ○ 9 | ○ 7 | ○ 3 | ○ 2 | ○ 2 |
| | ライトセンサス | | ○ 4 | ○ 3 | | | | |

○は実施した調査、数字は確認した種数を示す。

ii) 鳥類分野

I種調査として、2021年4月～12月の期間に、繁殖期ポイントセンサス調査(公式調査)を合計39回、任意調査を合計304回実施し、120種の鳥類を確認した。北海道演習林でジョウビタキ、秩父演習林でヤマシギとコムクドリ、樹芸研究所でリュウキュウサンショウクイを新たに記録した。2014年4月～2021年3月に確認された鳥類の記録を「東京大学演習林鳥類目録第3版」として雑誌「演習林」に発表した。また、各演習林において2019年度と2020年度に撮影した鳥類の画像を収集・管理した。Webサイト「東京大学演習林の鳥たち」にエッセイを2編追加した。II種調査については、巣箱調査を千葉演習林と生態水文学研究所で実施し、越冬期ポイントセンサス調査を秩父演習林で実施した。

社会貢献活動として、千葉演習林では、鴨川市との交流事業「野鳥の巣箱をかけよう！」を5月と11月に開催し、計22名の参加者があった。また、生態水文学研究所では、4月、6月、11月、1月に犬山市立今井小学校で開催された探鳥会の講師を担当した。

2022年3月には担当者会議をオンライン開催し、今年度の活動報告と今後の活動方針の検討を行った。

表 2021年の各演習林の調査結果(鳥類)

| 演習林名 | 確認種数合計 | | 調査回数 | | 調査人数 | | 調査別確認種数 | |
|------|--------|----|------|------|------|------|---------|------|
| | 科 | 種 | 公式調査 | 任意調査 | 公式調査 | 任意調査 | 公式調査 | 任意調査 |
| 千葉 | 20 | 30 | 6 | 44 | 6 | 45 | 19 | 19 |
| 北海道 | 31 | 72 | 12 | 57 | 20 | 57 | 50 | 47 |
| 秩父 | 30 | 61 | 10 | 51 | 10 | 51 | 30 | 58 |
| 田無 | 10 | 11 | 0 | 9 | 0 | 9 | 0 | 11 |
| 生態水文 | 31 | 54 | 4 | 28 | 8 | 35 | 25 | 52 |
| 富士 | 35 | 74 | 3 | 71 | 3 | 71 | 36 | 74 |
| 樹芸 | 29 | 45 | 4 | 44 | 8 | 44 | 22 | 39 |

注: 確認した種の分類は日本鳥類目録改訂第7版(日本鳥学会2012)に従った。

確認種数には演習林隣接地域の記録も含む。

任意調査は公式調査(ポイントセンサス)以外の野外業務の際に任意で行った調査・観察を指す。

iii) 昆虫分野

ピットフォールトラップを用いた地表徘徊性甲虫相の調査を実施した。2008年から演習林間で共通の方法による定期的・定量的な採集を行っており、採集された標本は北海道演習林に集められている。調査地は、各演習林内に2ヶ所(富士癒しの森研究所は1ヶ所)を設定し、5年間隔で移動する。千葉演習林、北海道演習林、秩父演習林、田無演習林、生態水文学研究所、樹芸研究所では、2013年より2017年まで2地点目の調査地で採取を行い、2018年から当初の調査地に戻して採取を実施した。富士癒しの森研究所では、調査地が1ヶ所しか設定されていないため、当初から同じ場所で行っている。2008～2010年の標本については、2011年に同定結果が得られている。2018年に2011～2012年の末同定分について同定を依頼し、同定結果が得られた。これらの2008～2012年の同定結果は、雑誌「演習林」へ2022年度中に投稿する。2013～2017年は同定が済み次第、以降は5年毎の公表を目標とする。

また、各演習林を利用した研究論文からの昆虫相のリスト化を各演習林で進め、2022年度に公表することを目標とする。

3) 固定試験地部門

固定試験地部門では、教育研究計画 2021～2030 において、①各地方演習林における固定試験地のメタデータ・測定データの収集とデータベース化、②ユーザーフレンドリーで国際的に利用可能なデータベース構築・ウェブ公開等の支援、③I 種試験地の選定と収集、整備、公表、の 3 つを活動方針としている。

①については、前年度に引き続き、固定試験地データベースの整備と、それに向けた各地方演習林の測定データの整理・紙資料(野帳)の電子ファイル(PDF)化を進めた。今年度は、約 700 回分の調査野帳を PDF 化し、約 300 回分の調査データを電子化した(2022 年 1 月末時点での 3 月末までの見込み数を含む)。千葉、北海道、秩父の各地方演習林においては、「2021 年度東京大学デジタルアーカイブズ構築事業」の一環として補助者に依頼(謝金)し作業を行った。次年度のさらなる整備を進めるため、2021 年 9 月には「2022 年度東京大学デジタルアーカイブズ構築事業」に応募した。

②については、整備が完了したデータベースのうち、外部公開が可能なデータは、今年度から運用を始めたデータ公開用データベース UTFEEP(The University of Tokyo Forests Experimental and Ecological Forest Plots, 日本語名:「東京大学演習林毎木調査試験地データベース」)に掲載した。2022 年 2 月 1 日現在、UTFEEP には、1,327 試験地における 4,447 回の調査で測定した立木 75,433 本の計 295,676 測定分(1 本 1 回の測定を 1 測定とするが、枯死や欠測などで実際には測定していないデータも含む)のデータが掲載されている。また、「オンキャンパスジョブ修学支援事業」を活用し、学生を雇用して UTFEEP のエラーチェックや改善案作成、データベース登録のためのデータ処理を進めた。この結果に基づき、エラー修正および改良を 2022 年 1 月に行った。

③については、I 種試験地の具体的な選定に向けた検討作業を進めた。天然林については、これまで各演で長期生態系プロット(LTER)として扱ってきた試験地を I 種とすることを基本方針としつつ、生物部門における実生調査の対象地選定の状況を確認しながら検討を行った。人工林については、適地で従来の毎木調査以上の詳細データを取得するといった基本方針案を担当者会議(後述)にて議論し、検討を継続している。

部門全体会議は、オンライン開催で 2022 年 1 月 18 日に行った。全体の活動進捗報告、各地方演習林の当部門担当者から試験地データの整備状況の報告、次年度の活動計画、I 種試験地選定に関する議論・意見交換を行った。

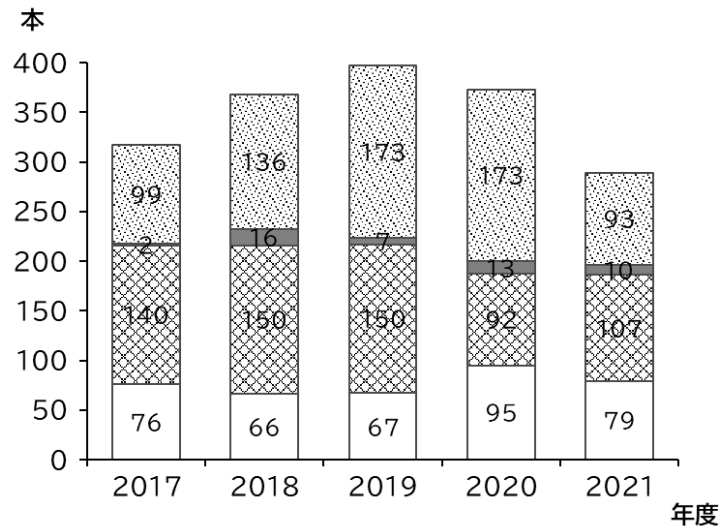
【2】森林を中心とした自然環境および森林と人間の関わりに関する専門的な研究の推進と研究業績の集計

1) 研究活動の推進

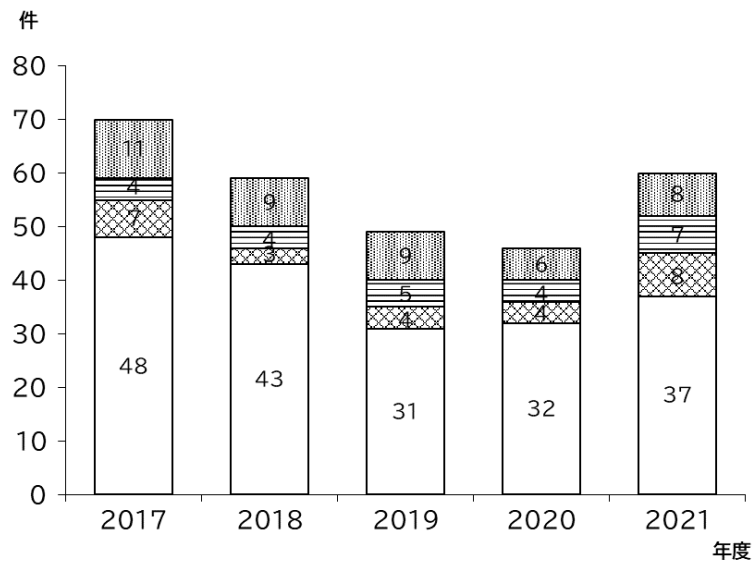
演習林教員の研究活動を推進するため企画担当を置いた。企画担当の活動として、教員の研究活動を推進するための新しい企画について検討した。

2) 研究業績の集計

演習林の研究業績を集計するため集計担当を置いた。集計担当の活動として、演習林教員の外部資金獲得および論文・学会発表等業績等の情報を収集・リスト化し、運営委員会資料や演習林年報に掲載する研究活動資料として企画部に情報提供した。



□教職員の論文等 □学会発表等 ■著書等 □利用者の論文等
 図 教職員の論文・学会発表・著書等の本数



□科学研究費 □共同研究 □受託研究 □奨学寄付金
 図 外部資金獲得数

3) 演習林の国際的研究活動への協力

日本学術振興会 (JSPS) 研究拠点形成事業 (B. アジア・アフリカ学術基盤形成型) のワーキンググループに参加し、企画・実行に協力した。

4) 海外の組織との協定等の締結

海外の組織との協定 (MOU, LoI など) や素材移転合意書 (MTA) の締結について演習林教員からの申請はなかった。

【3】演習林全体もしくは複数の地方演習林に関わる研究利用案件の調整

未来社会協創推進本部のプロジェクトに対する関連プロジェクトの募集が 3 件あり、演習林としての対応案を作成した。工学部と農学部の連携強化のための会合に参加し、話題提供を行った。森林・樹木に関する企業からの問い合わせ 2 件に対しアドバイスを行った。

3. 社会連携委員会

5月までに「各演広報担当」「各演科学の森ニュース担当」「各演育成資金担当」「各演連携推進担当」を置き、当委員会における活動体制を整備した。4月および5月に第1回、7月に第2回、9月に第3回、12月に第4回、3月に第5回の委員会会議をオンラインで開催した。

【1】アウトリーチ

1) 出版広報部門

- ・「科学の森ニュース」第94号(6月)、第95号(9月)、第96号(12月)、第97号(3月)を発行した。
- ・「概要2021(全演版/各演版)」を発行した。
- ・「演習林報告」145号、146号を発行した。「演習林」64号、65号を発行した。
- ・全演ウェブサイトのデザインリニューアルを行なった。「研究トピックス(1行ニュース)」32件を発信した。新計画に応じたページの新規作成、およびページ内の情報更新作業を行なった。過去の「演習林」「演習林報告」掲載記事の東京大学学術機関リポジトリへのリンク更新作業を行なった。

2) 育成資金部門

- ・2019年の台風15号、19号等による千葉演習林と秩父演習林の被災からの復興支援金の受け入れを2021年度当初で完了した。
- ・2021年度の寄付は14件、1,704,490円(東京大学基金取り分含む)であった(図-1)。

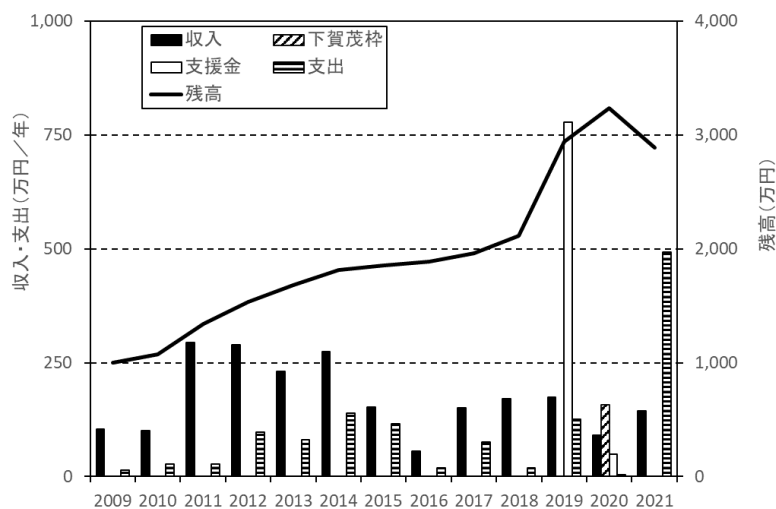


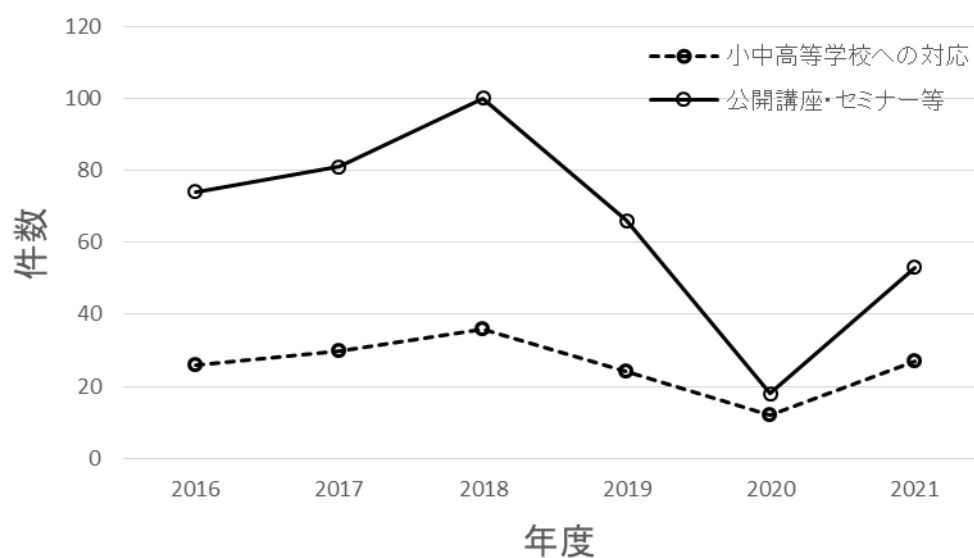
図-1 寄付金収入、支出、残高

【2】連携推進

- ・UTCC と連携し、東大演習林グッズ販売の支援をおこなった。UTCC において「演習林のおはし」と「演習林マグネット」が販売開始された。
 - (ア) 各地方演習林/センターにおいて、小中学校等への対応22件、公開講座・セミナー等38件が実施された(図-2)。新型コロナウイルス感染症のため、公開講座・セミナー等15件が中止となった。
 - (イ) 各地方演習林における社会連携活動の具体的内容に関する情報収集について検討を開始した。

【3】その他

11月に「広報媒体の再定義に関するタスクフォース」が立ち上げられ、これに委員が参画した。



図ー2 小中高等学校への対応と公開講座・セミナー等の件数

4. 国際委員会

演習林国際委員会は、おもに、各国の大学演習林との「国際交流」「教育研究」「その他」の交流計画の作成・実施を任務としている。2021年度は、COVID-19の影響で海外渡航をまったく行うことができず、渡航を伴う計画はすべて実施できなかった。

【1】国際交流

当初2020年夏に国立台湾大学で予定されていた第9回アジア大学演習林コンソーシウムシンポジウム(SAUFUC)は2021年度にも実施できず、結局2022年夏にオンライン開催と決まった。2019年度から採択となった日本学術振興会(JSPS)研究拠点形成事業(B.アジア・アフリカ学術基盤形成型)「環境変動と生態系応答の長期森林観測フィールド研究拠点:データ・知・人材の協創(代表:鎌田直人教授,2019~2021年度)」において、2020年夏に開催する予定であったインドネシア国ガジャマダ大学でのシンポジウムを2022年3月にオンラインで開催した。2021年度に予定されていたスリランカ国スリジャヤワルダナプラ大学でのシンポジウムは2022年度に延期された。戦略的パートナーシップ大学プロジェクトでは、従来のソウル国立大学、国立台湾大学(NTU)のグループに加え、スイス連邦工科大学チューリッヒ校/チューリッヒ大学のグループにも新たに参画した。NTUの学生を主な対象としたセミナー「NTU-UTokyo University Forest Seminar for Students」を10月13日にオンラインで開催し、121名(NTU学生80,NTU教員・スタッフ33,UTokyo教員8)が参加した。また、本学の主催で12月8~10日に開催されたUTokyo-NTU Joint Conference 2021において、森林科学・生物材料科学関係の平行セッションを12月10日に開催し、120名(UTokyo63(学生35,教員28),NTU57(学生30,教員・スタッフ27))が参加した。それ以外は、すべての戦略的パートナーシップ事業において、COVID-19の影響により具体的な活動は全く行うことができなかった。

【2】教育研究

国立台湾大学とのサマースクールは開催されなかった。2019年度まで行っていた海南大学のサマープログラムの学生受入と本学の体験活動プログラムによる海南島訪問はいずれも2020年度に引き続き中止となった。学術交流協定に基づく特別聴講学生として、2020年10月から2021年9月までと2021年4月から2022年3月までにそれぞれ1名ずつの海南大学の学生を受け入れた。また、演習林ならびに森林科学専攻の教員6名による海南大学学生を対象とした特別講義を2021年11月に2日間にわたりオンラインで行った。

【3】その他

フランスのÉcole Nationale du Génie de l'Eau et de l'Environnement de Strasbourg(ENGEES)から大学院生1名を2022年2月から6ヶ月間、インターン(国際短期プログラム受講生)として北海道演習林にて受け入れる予定であったが、入国ビザの手続きができない状況となっている。

農学生命科学研究科の特任教員[旧外国人研究員(客員Ⅲ種)]で2020年度に来日予定であった中国海南大学のZhang教授は、2021年11月から滞在している。同じく特任教員[旧外国人研究員(客員Ⅲ種)]で2020年9月に来日予定であったコロラド州立大学Kristin Bunte研究員の来日は、2022年度に延期される見込みである。

5. 森林管理委員会

当委員会は「森林の維持・管理および森林管理技術の習得・継承にかかる全演的な活動の推進」を目的とし、2021年度から新たに設置された。1) 大学教育・研究・社会連携のための最適なフィールドとして森林を維持・管理する、2) 「たしかな技術で調べられる森」のビジョンのもと、歴代の職員によって受け継がれてきた森林管理に関わる技術を次世代に継承するとともに、最先端の技術の習得を促進する、の2つを活動方針として掲げ、各担当においてそれぞれ以下の活動を行った。2021年4月21日には第1回委員会を開催し、教育研究計画2021-2030の内容および当年度組織体制・活動計画を確認するとともに、今後の委員会活動の進め方について意見交換を行った。

【1】全演的な森林の現況把握

管理担当では、教育研究計画2021-2030策定のために各演が行った森林現況調査方法を取りまとめた。内容は、調査に要した期間・日数・人工数、調査プロット数、プロットの選定方法・形状・面積・調査項目、プロットデータからの林分材積の計算方法などであり、情報の共有を図るとともに、次期計画策定のための現況調査要綱の作成を管理担当が担うこととなった場合は、遅くとも2028年度前半を目標に調査要綱を決定することを確認した。また、「森林管理計画の進行管理と助言」について、演習林年報に記載される面積・蓄積等の森林情報や、伐採・育林・土木等の作業量情報の項目や過去の実行状況を整理し、集計表の一部を修正した上で引き続き実行状況を定期的に把握することを確認した。さらに、教育研究計画2021-2030の進捗管理について、計画記載事項の確認や森林管理業務の把握のため秩父演習林で現地確認を行うなど、次年度からの管理作業開始に向けた準備を行った。

【2】森林病虫獣害への助言と対応

病虫獣害担当では、富士癒しの森研究所のナラ枯れと、生態水文学研究所74林班の松くい虫対策に関する活動を行った。富士癒しの森研究所から、事務所横にあるミズナラ2個体を枯らさないようにしたいとの相談があり、ヒノキチップを用いた忌避材を幹に巻きつける施工を、担当教員3名が2021年6月24日に現地で指導した。また、富士癒しの森研究所では枝打ちでヒノキの生枝が容易に入手できるため、移動式チップパーでチップ化してから不織布製の生ゴミ水切り袋に詰め、幹に吊り下げることとした。ヒノキチップは2週間に1度、新鮮なものと交換することとし、新たな枯れが発生しなくなる9月中旬まで続けることを指導した。その結果、2本ともカシノナガキクイムシの飛来や穿孔はほとんどみられなかった。また、富士癒しの森研究所が協力している山梨県立吉田高等学校の課題研究のプログラムに協力して、ナラ枯れに関する質問に回答した。生態水文学研究所の松くい虫対策に関しては、前年度に続き本年度も、当委員会予算で樹幹注入用の資材(グリーンガード・エイト)を購入し、技術職員の研修を兼ねて、82本のクロマツに樹幹注入を行った。担当教員3名のほか、生態水文学研究所の技術職員5名と、他演からの技術職員4名が参加した。本年度は、薬液の吸い上げが悪かったものが過半数に及んだ。注入日の気温が昨年度よりも高かったことが原因の一つと考えられたが、原因には不明な点が多い。次年度以降の樹幹注入には、薬剤の変更を検討する必要がある。一方で、予防散布と伐倒駆除に関しては、2008年度より静岡県と共同で実施してきた。具体的には、伐倒駆除は全額静岡県の予算で、地上散布は静岡県と費用を折半して実施してきた。2021年12月8日に、静岡県西部農林事務所から、激害化している浜松市での被害処理に予算を回す必要があるため、次年度の伐倒駆除においては、本年度の枯死木(年内枯れ約400本)の1割程度の予算しか74林班には使えないので演習林と伐倒駆除を共同で行えないかとの相談があった。過去の被害量と防除費用のデータを検討した結果、演習林予算による残りの伐倒駆除の実施は得策ではなく、数年以内に残したいクロマツへ樹幹注入を行うことを提言した。

【3】空間情報の整備と活用

技術担当・空間情報技術部門では、過去に基盤データ整備委員会 GIS 部門で整備した各演の基盤地図情報 5 m メッシュ DEM(国土地理院)を最新のものに更新した。また、全演共用機材のリストを更新し、演習林内で情報共有した。千葉演習林では保護樹調査の位置情報や天然林林況調査の位置情報(10 小班分)、J-クレジット事業のモニタリングプロット位置情報をそれぞれ整備するとともに、14 期計画作成にあたって林小班ポリゴンを再確認した。また、保育間伐地や南沢危険木伐採地の積算用測量に高性能 GNSS 受信機を活用した。北海道演習林では本年度施業区域と植栽予定地の UAV 空中写真や林相図、動物目撃調査(Survey123 を利用)、鳥類任意調査の記録、固定標準地の樹木位置図(3 か所)を整備した。また、現地検討会や伐採監護に GIS データ閲覧システム(ArcGIS Online, タブレット端末と ArcGIS Field Maps)を活用した。秩父演習林では高精度 GNSS 受信機とレーザーコンパス、UAV を活用して GIS データを整備した。田無演習林ではナラ枯れ被害木の位置図を整備した。生態水文学研究所ではモニタリングサイト 1000 プロットの杭位置図、74 林班と五位塚事務所の境界杭位置データを整備した。また、マツ枯れ調査、樹幹注入作業事前調査、樹幹注入選木作業に ArcGIS Field Maps や Survey123 を活用した。富士癒しの森研究所ではナラ枯れ被害木の調査データを ArcGIS Collector を用いて整備した。また、伐採計画の検討や申請、報告に林内の危険木位置情報を活用した。樹芸研究所では林小班・林相図、林道図、記念樹位置図、アブラギリ試験地位置図、2020 年長期生態系プロット新界木調査ポイントの整備、2014 年以前の毎木データ図化、2016 年国土地理院データを用いた等高線データ生成、2017 年 G 空間情報センターデータによる CS 立体図の整備を行った。

【4】技術の習得と継承

空間情報技術部門では、高性能 GNSS 受信機とタブレット端末を全演共用機材として追加導入した。2022 年 2 月 2 日には GIS 技術指導者養成研修会をオンラインで開催し高性能 GNSS 受信機に関する紹介とともに、その使用方法や使用実績、さらに各演が保有する GNSS 受信機の機種や使用状況に関する情報を共有した。秩父演習林では高精度 GNSS 受信機やレーザーコンパス、UAV を用いた GIS データ収集に関する講習会を開催した。富士癒しの森研究所では樹木の単木管理に IC タグの導入を試みるとともに、UAV 操作技術向上のために経験者からプログラム撮影の指導を受けた。生態水文学研究所では新たに RTK 対応の GNSS 受信機 V100(Hi-Target 社)を導入して操作方法を模索・共有した。樹芸研究所では空間情報技術に関する内部講習会を 3 度開催した。また、技術担当・基礎技術部門では、全演で対応してほしい継承したい技術のアンケート結果から「伐木グループ」を設置した。各演から 1~2 名のメンバーが選出され、今後の活動として、基本技術(手順、機械操作、手入れ、安全確認など)の共有と再確認、研修会を年 1 回程度開催(次年度以降)、実際の作業で困っていることや指導を受けたいことの情報共有等を進めることを確認した。作業で困っていることや指導を受けたいことについては、チェーンソー等の所有状況を含めアンケートを実施し、研修計画立案のための準備を開始した。

6. 環境安全委員会

【1】目的

- ・事前にリスクを取り除き、事故災害が起りにくい体制を整える。
- ・発生してしまった事故災害から学び、組織の安全意識を高める。

【2】活動方針

- ・教育研究活動や森林管理業務における環境安全管理の実効を高める。
- ・外部者の地方演習林への入林に関する環境安全管理の実効を高める。
- ・事故発生に際しては事故原因を徹底究明し、組織一体となって再発防止に努める。

【3】活動計画

- ・教育研究活動や森林管理業務における環境安全管理活動として、以下の①～③の対象別に、環境安全管理上の課題のリストアップ、検討、チェック、見直しを行う(MSの実施)。

① 附属演習林に所属する教職員の日常業務等

② 附属演習林に所属する教員が代表教員となって行う学生実習等

③ 附属演習林に所属する学生の調査研究等

- ▶ 地方演習林ごとにMSにしっかりと取り組み、研究科へ報告した。

- ・外部者の地方演習林への入林に関して、「積極的安全配慮義務」および「公の営造物を適切に管理する義務」を果たすために、以下の①～⑥の対象別に必要な措置を講ずる。

① 無断立入・事実上の利用

② 自由見学・一般公開等

③ 一般参加者募集行事・視察・見学等

④ 演習林業務への学外者の協力・サポート(ボランティア)

⑤ 教育利用

⑥ 研究利用

- ▶ そもそもこの様な区分でよいのかという点に立ち返り、各演習林から意見聴取を行った結果、狩猟などが特殊な事例に当たることが認識された。その上で、研究科環境安全管理室を訪ね、協力して「附属施設における安全管理の考え方」を策定することの合意を得た。演習林は演習林が関わる部分を担当して、2022年度中の策定を目指すこととなった。

- ・研究科環境安全管理室との連携を密にし、事故原因を徹底究明し、再発防止策を検討し開示する。

- ▶ 毎月開催される農学部の環境安全管理室会議に出席して、情報の収集にあたった。特に共有すべき情報は演習林会議を通して周知した。一例として、電気火災への備えは演習林にとっても重要な案件であり、当委員会からも注意喚起を行った。

- ・地方演習林間の情報交換を密にするために、年に1回程度、いずれかの地方演習林で環境安全研修を実施する。他演からも数名が参加し、実技も含めた研修とする。研修は管理運営員会と共同で企画・実施する。

- ▶ 新型コロナの感染拡大が収まらず、実現には至らなかった。

7. 管理運営委員会

【1】委員会の開催

2021年4月26日(ハイブリッド)、5月24日(オンライン)、6月28日(オンライン)、9月27日(オンライン)、12月20日(オンライン)、2021年3月18日(オンライン)の合計6回開催した。

【2】活動報告

「ミッションの実現のために必要な手段、人材育成プログラムについて、全演的な調整を担う。また全演的な情報収集、演習林の長期構想の検討を行う」ことを活動方針に掲げ、次の6つの活動を行った。

1) 土地・建物・車両等

ミッション実現に必要な手段である、生産(収入)の確保、土地、林道・歩道、重機・車両・マイクロバス、宿泊施設研究・実験施設の6項目のうち、「重機・車両・マイクロバス」の3項目について、各演の現状や要望を把握した上で2022年度から2031年度にかけての10カ年の更新計画を策定した。

2) インターネット環境

本業務について緊密に連携するフィールドデータ研究センターとは、整備を委員会、管理運用をセンターという形で大まかに役割を分担することを定めた。インターネット環境の全演的調整を担う「ネットワーク担当」を設けた。このうち3名を全演アドバイザーとして、フィールドデータ研究センターに派遣し、センターの担う管理・運用業務を支援することとした。

3) サバティカル

全学、研究科、演習林がそれぞれ定めるサバティカルに関する規則を改めて確認した。これらを簡潔にまとめた内容も記載した文書を演習林長より教員宛に発出し、サバティカル取得を奨励した。

4) 研修

演習林技術職員等試験研究・研修会議を10月7日(木)に開催した。今年度は北海道演習林がホストとなり、新型コロナウイルス感染対策としてオンラインで発表・参加する形式で、共通テーマは「フィールドデータのデジタル化への取り組み」とした。地方演習林とセンターから合わせて9件の報告があった(詳細は資料編に掲載)。技術職員等試験研究・研修会議の報告書について、教育社会連携センターとも連携しながら、編集・印刷を担当した。各演に必要部数を照会し、従来に比べ印刷部数・予算の縮減を図った。

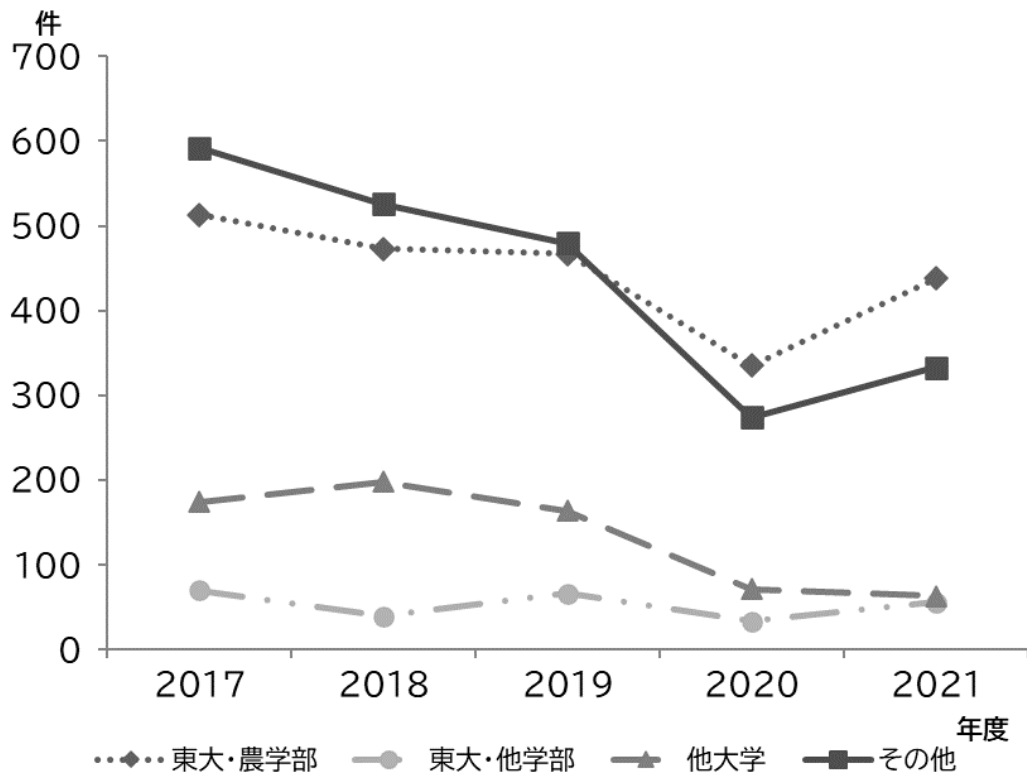
5) 全演的な情報収集

情報収集の理念について意見交換し、それを踏まえて専攻長附属施設長会議資料、運営委員会資料など「全演的な情報収集に関する提案」を行い、各委員会が情報収集項目の選定等を主導し、収集の実務を弥生3組織が担当する体制の構築を進めた。

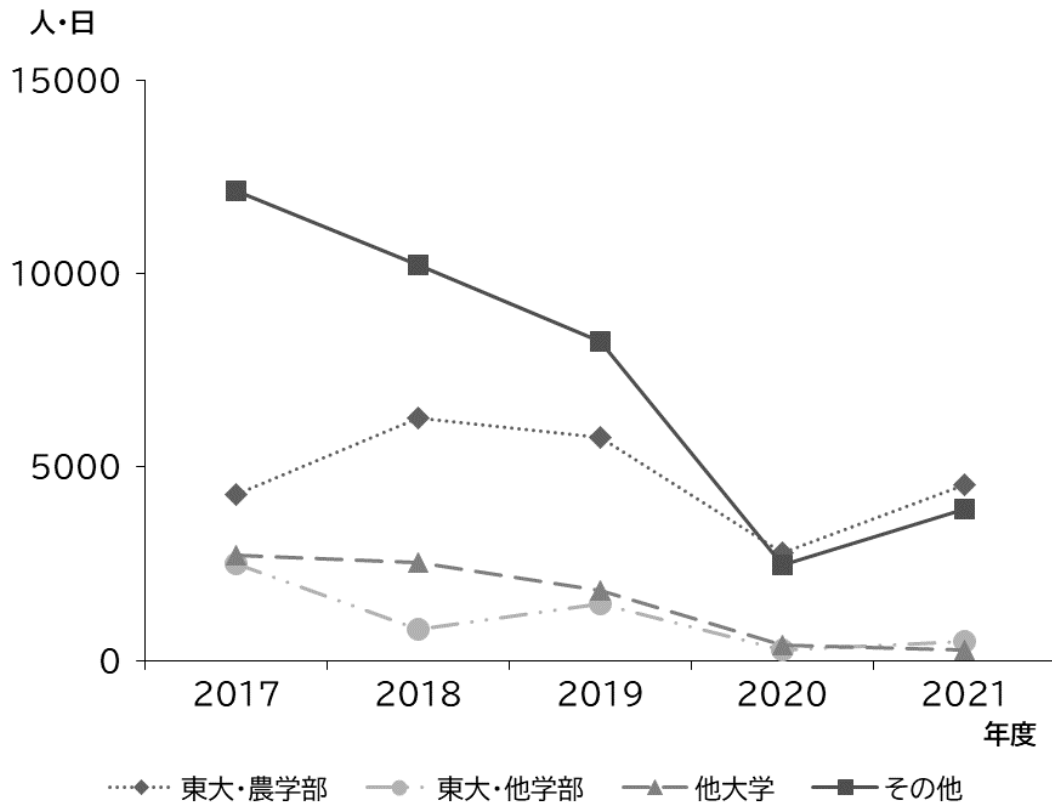
6) 演習林の長期構想の検討

管理運営委員以外のメンバーを中心とする長期構想班を設置して検討を開始した。

全演的な情報収集



図一1 利用件数の過去5年間の推移



図一2 利用者延べ人数の過去5年間の推移

第3部 地方演習林報告

| | | |
|----|-----------|-----|
| 1. | 千葉演習林 | …31 |
| 2. | 北海道演習林 | …33 |
| 3. | 秩父演習林 | …35 |
| 4. | 田無演習林一 | …37 |
| 5. | 生態水文学研究所 | …39 |
| 6. | 富士癒しの森研究所 | …41 |
| 7. | 樹芸研究所 | …43 |

第3部 地方演習林報告

1. 千葉演習林

【1】 大学教育

本年度も前年に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けたが、規模縮小や日程変更はあったものの中止した実習はなかった。受入れ時には一般的な感染防止対策のほか、個室での居室利用、宿泊人数制限、乗車人数制限、複数回の開講、日帰りでの開催、オンライン講義を併用したプログラムといった工夫をした。専門教育として、農学部2科目(森林科学基礎実習Ⅰ, 森圏管理学実習), 理学部1科目(地球惑星環境学野外調査Ⅰ), 大学院農学生命科学研究科1科目(生圏システム学特論)を対面で実施し、のべ143人日の学生が受講した。農学部1科目(バイオマス科学実習・森林科学実習)では現場を中継で繋いだオンライン講義を実施した。他大学(千葉大学)の実習1科目で21人日の対面利用があった。教養教育として、全学体験ゼミナール6科目(危険生物の知識(春編), 徹底検証・スギ&ヒノキ〜もっと知ろう, 木材のこと〜, 房総の常緑樹林で森林動態を学ぶ, 危険生物の知識(秋編), 森のエネルギーを使いこなす, 房総の森と生業(なりわい)を学ぶ)と総合科目2科目(森林環境資源学を2回)を対面実施し、計139人日が受講した。体験活動プログラム(「東大の森」の教育研究を支えよう!)は緊急事態宣言発出のため中止とした。学生の研究利用は例年よりやや少なく、卒論研究3件、修論研究6件、博論研究5件の利用があった。

【2】 研究

研究課題のうち、1)スギ・ヒノキ人工林の施業・管理では、スギ今澄長伐期施業試験地の現況補足情報を新たに取得したほか、森林管理上の新たな方法として、新植地で UAV 測量を行ってトランスバース測量・GNSS 測量と比較検証し、実用に足るとの知見を得た。2)暖温帯生態系の動態および保全では、堂沢長期生態系試験地の調査方針を決め、区画設定を行った。自動撮影カメラによるシカ生息密度調査を継続し、前年度の密度を6.4~8.6頭/km²と推定した。千葉県立中央博物館との協定に基づき昆虫相や菌類相の調査を実施するとともに、過去の調査で得られた維管束植物の在データの整理を進めた。ヒメコマツ荒瀬沢2個体の繁殖量モニタリングを実施した。3)林木育種と増殖技術の確立では、当演習林で選抜したマツ材線虫病抵抗性アカマツ2系統が認定機関による抵抗性検定に合格し、「千葉(東大演)アカマツ27号」「同31号」として品種登録された。抵抗性クロマツ候補10系統の一次検定を千葉県森林研究所と共同で行った。アカマツ挿し木の発根と光合成との関係を明らかにするために実験を行った。マツ類の挿し木や育種に関する論文1報を発表した。

長期データの収集と公表に関しては、調査計画に基づき人工林成長試験地「箕輪試験地」の定期調査と新たな方針に基づいた保護樹調査を実施した。人工林成長試験地「吉田試験地」、長伐期施業試験地、郷台モウソウチク開花周期実証試験地のデータ整理を進めた。今澄高齢人工林針広混交化試験地および天然林資源調査に関する論文を投稿した。

研究利用はコロナウイルス感染防止の観点から宿泊利用の受け入れ等に制約があったものの、日帰りでの研究利用はできる限り受け入れた。利用課題数は例年並みの32件(学生の研究活動を除く)であった。利用者に対する研究補助は感染防止の理由から必要最低限とした。利用者説明会はオンラインで実施した。林木育種センターとコウヨウザン・ユリノキに関して2件の共同研究覚書を締結し、(株)小松製作所と衛星・UAV データによる材積・バイオマス推定に関する共同研究契約を締結した。

【3】 社会連携

計画通り、地域交流協定に基づく鴨川市との共催事業「野鳥の巣箱をかけよう」にて観察会および巣箱作りを開催し、天津小湊小学校6学年の総合学習に協力した。高校生ゼミナールを千葉大

と共催で実施した。新型コロナウイルス感染拡大等の影響で一般公開・学内イベントを不開催とした代わりに、オンラインイベント「おもしろ動画いっぱい！千葉の森に暮らす動物たち」を実施し、学内外、近隣・遠方から多数の参加があった。計画通り Facebook による情報発信を継続したほか、対外資料「試験地・研究紹介」更新作業を行った。2路線とも通行止めだった「関東ふれあいの道」は、アジサイのみちを復旧・再公開したが、災害により再度通行止めとなっている。

【4】 国際

新型コロナウイルス感染拡大による渡航制限等により、海外からの外国人訪問はなかった。外国人留学生を含む教育研究利用は 16 件あり、参加留学生数はのべ 18 名であった。

【5】 森林管理

天然林の森林現況資源調査として 1～5 林班で 10 カ所(10 小班分)を調査した。生産林においては、主伐計画(隔年で 1 ha 程度)に基づき亀ノ沢 21C にて主伐を実施し、面積 1.62ha、スギ 431 本(約 816m³)、ヒノキ 172 本(約 281m³)、その他 4 本(約 5m³)を立木販売した。保育作業として、下刈り 1.23ha、除伐 0.77ha、保育間伐 3.64ha(直営 0.46ha、請負 3.18ha)を計画通り実施した。TSCP 促進事業である J-クレジットプロジェクトについては、東ノ沢 11C4-3 で保育間伐を実施し、排出削減・吸収量 44t-CO₂ を認証取得した。保護樹調査(全個体数 64 本)を約 70%完了させた。千葉演習林で選抜されたマツ材線虫病抵抗性アカマツ苗 1,000 本を苗木販売した。保護樹指定木であるヒメコマツ成木で新たに 2 本の枯死が確認され、マツ材線虫病が影響している可能性が考えられた。

【6】 環境安全

UTCIMS を適正に運用するとともに、今後使用の見込みのない農薬・肥料・試薬を適正に廃棄した。教育研究安全衛生マネジメントシステムを実施しリスク低減対策を進め、作業前にラジオ体操とツールボックスミーティングを行い安全作業への意識向上に努めた。事故災害は公用車の物損災害 1 件があった。新型コロナウイルスの対策については、本学の指針に沿って活動制限および感染予防・感染拡大防止に努めた。全学体験ゼミナールから帰宅後に発症した学生が 1 名あったが、それ以外の感染者はなかった。林内における携帯電話の通話エリア調査を進めた。交通安全教育として安全運転 DVD による学習をおこなった。大雨・台風等による水害・土砂災害に関する防災行動指針を新規作成した。消防総合訓練として清澄学生宿舎での火災を想定した通報・避難・消火訓練を実施した。

【7】 管理運営

天津事務所の土地 110.82 m²を千葉県の県道用地として売り払った。建物では、清澄森林博物資料館外壁改修工事、清澄森林博物資料館2階空調機更新工事、天津事務所境界擁壁設置工事をおこなった。林道では、本沢林道坂本橋架け替え工事(予備設計及び地質調査業務委託)、本沢林道路肩復旧工事、仙石林道路肩改修工事(測量設計)をおこなった。寄附金(千葉演習災害支援金)にて仁ノ沢林道路肩復旧工事(1～3 工区)をおこなった。7 月に一杯水林道が一部崩落した。必要性が特に高い歩道として、東ノ沢歩道、札穴下歩道、牛蒡沢歩道、小屋ノ沢歩道等の手入れを進めた。車両では、札郷作業所の廃止によりエルフ 150 が不要となったため、ニーズの高い軽乗用自動車に交換した。支障木・不用物品売払による収益(151 千円)を得た。清澄学生宿舎の全部屋からインターネットに接続できるように WiFi を整備した。

【8】 組織

9 月末と 3 月末にそれぞれ特任専門職員 1 名の退職があった。戦略会議・運営会議・教員会議・事業計画会議をそれぞれ月 1 回開催した。環境安全、企画広報、情報ネットワークの常置委員会を設置し業務を遂行した。

2. 北海道演習林

【1】大学教育

学部・大学院の専門教育として、農学部授業科目「森林科学総合実習」「バイオマス科学実習」「森林科学実習」をオンラインで担当実施した。卒業論文研究 4 件(茨城大, 帯広畜産大, 北海道大, 豊田工業高等専門学校), 修士論文研究 8 件(茨城大, 東京藝術大, 東京大, 北海道大, 名古屋大), 博士論文研究 4 件(東京大)を受け入れてこれらの実行を支援した。ICT を活用したフィールド遠隔教育の取り組みとして、弥生キャンパスで行う農学部授業科目等で 2 回の遠隔ライブ講義を実施した。教養教育として、教養学部授業科目「全学体験ゼミナール: 雪の森林に学ぶ～北海道演習林」をオンラインで開講した。体験活動プログラムを実施して教養学部生 3 名を受け入れた。

【2】研究

「北方林生態系」「天然林施業」に関する研究に主眼を置き、森林生態、森林経営、森林生態系管理の 3 分野のもと活動を行った。主なトピックは以下の通りである。

森林生態分野では、森林の更新・維持機構の解明に関して、岩魚沢大面積長期生態系プロットのこれまでの測定データをデータペーパーとして公表し、25 年間の変化傾向を明らかにして論文として発表した。野生動物の生態に関して、エゾシカのライトセンサスと自動撮影装置による野生動物モニタリングを継続実施したほか、中大型哺乳類 4 種の日周性を明らかにし公表した。また、同所的に生息するコウモリ 2 種の食性を公表した。生物多様性の把握とモニタリングについては、演習林研究委員会長期生態系データ生物部門の活動とも連携しながら、動植物の生物相・分布域など生物情報の収集を継続した。2016-2020 年のセンサーカメラデータ、2013-2020 年のコウモリ類の捕獲データを公表した。気候変動に対する生態系応答については、同委員会長期生態系データ気象水文水質および生物部門の活動とも連携しながら、気象観測、水文・水質観測、主要樹種のフェノロジー観測を継続した。気象観測については、山部(樹木園)の新旧露場の比較結果を公表した。

森林経営分野では、林分施業法の科学的・技術的基盤の強化に関して、低価格な 2 周波 GNSS 受信機の測位試験を行い、森林内でも活用が可能な精度で測位できる結果を得た。次年度施業予定地 6 ヶ所の一部において UAV 空撮を実施し、生成されたオルソ空中写真と 3 次元モデルを施業計画立案に活用した。機械地拵え後の植栽予定地において UAV 空撮を行い、オルソ空中写真を用いて植栽予定面積の算定に使用した。更新・保育施業による天然林再生技術の確立に関して、群状択伐と樹冠下地がきによる更新促進を試験的に開始した。2014-2015 年にかけて行った更新木の少ない針広混交林において伐根周囲に植栽した稚樹の成長調査を行った。2014-2017 年に作成した針葉樹 3 種のコンテナ苗の育苗結果をとりまとめて公表した。広葉樹優良木の管理・育成技術の開発に関して、樽用材として有用な香り成分を多く含有するミズナラ個体を立木の状態で特定する手法開発についての共同研究をサントリースピリッツ社と行った。多様な人工林施業技術の開発に関しては、大規模な攪乱をしない人工林更新技術の開発として、ヨーロッパトウヒ高齢級人工林内の伐根周辺に植栽したエゾマツコンテナ苗の健全度および生長量測定を行った。効率的な森林作業・土木技術の開発については、林況調査において活用している GNSS 測位データをタブレット端末用 GIS アプリ(ArcGIS Field Maps)へ直接入力できるシステムを学内外の技術発表会において報告した。幅員の広い主要林道の一部で屋根型盛り土を実践した。

森林生態系管理分野では、大規模攪乱後の森林回復過程や施業の影響評価に関して、風害後の長期的な森林変化を予測するシミュレーションモデルの構築、将来的な気候変動下における風害後の施業(風倒木の搬出と地がき)の影響予測についての論文を発表した。森林および周辺地

域に被害を及ぼす可能性がある種および保全すべき種の生育状況把握と管理については、希少生物の保全に配慮した施業の調整を行なった。自動撮影装置によるアライグマの生息実態モニタリングを継続したほか、オオハンゴンソウの分布調査を行った。森林の生態系サービスの評価に関して、各種試験地および蓄積調査を継続することによって、森林炭素蓄積に関する基礎的データを収集した。水に関する生態系サービスの評価に向けて丸山沢での流量観測を強化した。

【3】社会連携・国際

一般公開事業として親子向けオンラインセミナー(参加 20 組)、白鳥山ガイドツアー(9 名参加)を開催した。一方、当初計画していた神社山自然観察路一般公開と短時間セミナーは COVID-19 流行に伴い中止した。富良野市との地域交流協定に基づき教育委員会が演習林内で展開する森林学習プログラム推進事業に全面的に協力した。2021 年度に実施されたプログラムのうち、市内 5 校(小学校 4 校、中学校 1 校)のプログラムが神社山で実施され、計 41 名の児童・生徒および延べ 26 名の森林学習サポーターが参加した。技術者教育として、官公署・国有林、林業団体等の研修会・視察見学等計 3 件を受け入れ、それぞれ指導を行った。JICA の映像教材作成に向けた指導・協力を 2 件行った。北海道立北の森専門学院の実習を 1 件受け入れ、指導を行った。

北海道演習林の森林管理を英語で紹介する動画を制作した。国立台湾大学(NTU)の学生向けセミナー「NTU - UTokyo University Forest Seminar for Students」をオンライン開催し、北海道演習林の生態系や森林管理を紹介した。外国人研究者や学生のデータおよび標本・試料利用促進のために、データおよび標本・試料の利用申請書の英語版を作成し公開した。

【4】森林管理

立木伐採は資材量で 19,235m³(天然林 11,050 m³, 人工林 8,185 m³)を実行し、うち 1,246m³について素材生産・販売を行った(直営 970m³, 委託販売 276m³)。林産物の販売額は合計 104,813,050 円で、内訳は立木が 50,229,920 円、素材(委託販売を除く)が 17,816,900 円、委託販売(銘木市売)が 36,728,818 円、苗木販売(トドマツ 200 本)が 37,412 円であった。山出苗生産本数は 15,464 本(トドマツ 6,078 本、エゾマツ 4,938 本、アカエゾマツ 4,448 本)、地拵、植付、下刈の実行面積はそれぞれ 22.5ha、26.5ha、47.1ha、林道改良距離は 83.97km であった。森林保護に関して、春季に山火予消防活動(監視および啓発)、春と秋に野鼠発生予察調査、冬季に北海道猟友会富良野支部および富良野市と共同でエゾシカの有害獣駆除(1 回)、森林被害巡林調査(3 回)を実施した。

【5】環境安全、管理運営

安全衛生の向上を目的として、チェーンソー伐倒講習会、蜂対策講習会、交通安全講習会、建物火災避難訓練・スノーモービル安全運転講習会を実施した。事故災害発生件数は計 3 件で、1 件は退勤時の自転車走行中の路面凍結での転倒・骨折、2 件は軽微な自動車の物損事故であった。ハチ刺され被害は 0 件、ダニ刺され 6 件であり病院を受診して取り除く症例は発生しなかった。計 6 名の技術職員が無人航空機の操縦資格を取得した。新型コロナウイルスの対策として、全職員に本人や家族に風邪症状が出た際の対応など示した Q&A と緊急時フローチャートを配布した。

北海道開発局による西達布川の一部区域(約 1.6km:82,100.11m²)の河川改修工事が完了し、今後、同区域を売却予定である。潮田記念基金の寄附を受けて、麓郷セミナーハウス 3 棟の水回り改修を行った。普通貨物自動車 1 台、普通自動車 1 台の計 2 台を更新した。フォワード(グラップルローダー付)を政府調達にて購入した。

3. 秩父演習林

【1】大学教育

1) 学部・大学院生の教育

本学の学部課程 2 名, 修士課程 6 名, 博士課程 3 名が学位取得のための研究を行い, 研究指導, 研究計画助言, 研究地への送迎, 野外調査補助, 試験地の維持管理などの協力を行った。学部の実習 4 件, 森林科学基礎実習Ⅲ(森林生物科学専修・森林環境資源科学専修), バイオマス科学実習・森林科学実習(生物素材化学専修・木質構造科学専修), 森圏管理学実習(フィールド科学専修), 国際農学実験・実習Ⅰ個別実験(国際開発農学専修)を対面で受け入れた。また, 大学院の現地講義 1 件, 森圏水循環機能学(森林科学専攻・生圏システム学専攻)を対面で受け入れた。

2) 教養教育への参画

全学体験ゼミナール「春の奥秩父を巡る」, 「秋の奥秩父を巡る」を対面で開講した。

【2】研究

1) 冷温帯森林生態系に関する研究

人工林固定試験地の毎木調査(栃本 9 箇所), 環境省モニタリングサイト 1000 としてブナ・イヌブナ林の毎木調査を実施した。また, 民間企業との連携によるシカ排除柵試験地(30 箇所×内外 2 調査区)の植生・土壌調査, センサーカメラによる哺乳類調査, 渓流水の水質モニタリングなど, 植生保護・生態系管理に関する実証研究を行った。ライブモニタリングシステムによる森林景観と樹木フェノロジーの記録, 鳥類相の遠隔調査, 環境教育教材の開発に関する研究が覚書を締結して行われた。また, 不成績造林地試験地及び針葉樹人工林試験地の取り扱いについて覚書を締結した。

2) 長期生態系データ整備

気象分野では 2020 年の, 水文水質分野では 2019 年の観測結果を『演習林』に投稿した。また, 2019 年台風 19 号で被災したバケモノ沢の量水観測を再開, 栃本の気象観測タワー兼小屋を廃止して新たに風向風速日射計測タワーを設置した。過去の気象資料の整理を進めた。生物部門植物分野では標本の整理とデータベース化を行った(I 種)。鳥類分野では I 種調査として繁殖期ポイントセンサスと通年任意調査と 2014~2020 年目録投稿を行った。II 種調査として越冬期ポイントセンサスを行い, バンディング調査のための資格を取得した。昆虫分野ではピットフォール調査を行った(I 種)。II 種の埼玉昆虫談話会とのライトトラップ調査は台風災害と新型コロナウイルス感染症拡大の影響で実施しなかった。脊椎動物分野では自動撮影カメラ調査を実施, 2016 年~2020 年の調査成果を投稿し(I 種), ライトセンサスを実施した(II 種)。固定試験地部門では試験地のメタデータを整備し, データの電子化を進めた。

3) 利用者ガイダンス・利用者発表会

5 月 17 日にオンラインにて開催し, 利用者の研究要旨集, 演習林利用のガイダンスを配布した。

【3】社会連携

秩父地域の木材業・森林・林業の普及啓発を目的とする「木が香る秩父フェスティバル」(5 月・11 月, 道の駅ちちぶ), 「ちちぶ木の駅プロジェクト」(12 月)に参加した。また, 特別天然記念物カモシカ, 埼玉県特定鳥獣保護管理, 埼玉県環境科学国際センター, 甲武信ユネスコエコパーク, 秩父地域森林林業活性化, 秩父地域鳥獣害対策にかかわる委員会等に参加した。小中高校への対応では, 埼玉県立秩父農工科学高校の樹木採集実習(7 月)の実習を受け入れた。公開講座は「東大の森林で昆虫採集」(日帰り, 7 月), 「樹木のボディランゲージ」(オンライン, 2 月)を開催した。秩父演習林ボランティア会「しおじの会」は, ガイドツアー「しおじの会と東大秩父演習林を歩こう」(11 月)の他, シカ防除柵の点検補修, 歩道巡視, お土産づくり(木工品), 樹木園保全などの活動にのべ 127 名が参加した。社会発信では, ワサビ沢展示室の展示の更新やイベント情報メールの配信

を行った。「東京大学の森」育成資金は、新たに 8 件の寄付をいただいた。

【4】国際

英語版ウェブサイトの整備に向けて作業を進めた。

【5】森林管理

林地の利用について、完全保全、利用制限、利用可能の 3 段階の「利用レベル」を設けてゾーニングを行った(図)。ナラ枯れは秩父地域では確認されていないが、対策 WG を設置して未被害木利用の検討などを行った。空間情報関連では、高精度 GNSS 受信機、レーザーコンパス、UAV を活用した GIS データの整備を行った。7~14 林班を対象に森林経営計画(2021 年 9 月 1 日~2026 年 8 月 31 日)の認定を受けた。育林実行量は、獣害対策がクマ剥皮防除樹皮ガード保守管理 1 箇所(1.28 ha)、シカ防護柵保守管理 1 箇所(1.18 ha)であった。埼玉県の水源地域の森づくり事業により、枝打ち 3 箇所 3 小班(0.91ha)、保育間伐 6 箇所 6 小班(7.03ha)を実施した。また、民間企業との協定による森林整備で、29 林班と大プロの一部に健全な人工林育成と植生回復を目的とした防獣柵(2 箇所, 1.47ha)・樹皮ガード設置、バケモノ沢モノレール沿線危険木伐採・危険枝剪定、作業道 1 路線(2,827m 内)補修を実施した。

図 秩父演習林利用レベル区分

2022年2月21日確定



【6】環境安全

新型コロナウイルス感染症対策として、本学や農学部の方針に沿うとともに、秩父演習林独自の活動制限レベルを設定、「秩父演習林における新型コロナウイルス対応ガイドライン」、「秩父演習林活動制限レベル別利用受入基準」、「利用申込時チェックシート COVID-19 対応」、「新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じたしおじの会の活動実施について」等の指針に基づいた対策を講じた。また、活動制限レベルに対応してローテーションを組んで在宅勤務を実施した。

災害は、立木伐採による倉庫破損、針による掌への刺傷、公用車のサイドミラー破損、脱輪があった。5・2 月に教育研究安全衛生マネジメントシステム会議、8・1 月に消防訓練及び機器点検、9 月に安全運転の DVD 回覧、12 月に公用車自主点検を実施した。

【7】管理運営

施設の整備では、川俣学生寄宿舍屋根塗替えを実施した。同宿舍食堂のテーブルを秩父演習林産材で製作した。路網の維持管理では、車道(7 路線 15,850m)・歩道(5 路線 5,454m)・モノレール(3 路線 6,929m)の維持および車道の災害復旧 5 箇所を実施した。工事は、東谷林道要倉沢暗渠補修及び要倉沢付近拡幅工事を実施した。2019 年の台風 19 号で被災した林道・作業道、モノレール、樹木園防獣柵の復旧工事について、文部科学省の災害復旧費(土地・設備)によって 2020 年度内の完成を目指し、工区を 3 つに分けた。しかし、入川林道で新たに発生した法面崩壊、新型コロナウイルス感染症拡大により、年度内に事業を完了することが困難となり、それぞれ工期を 5 月 31 日、6 月 30 日、9 月 30 日に延長、予算を繰越し実施した。

4. 田無演習林

【1】大学教育

農学部の実習を5件、講義を1件、実施した。農学部の実習には連携する生態調和農学機構による実習1件が含まれている。教養学部の実習を6件実施した。このうち全学体験ゼミナール「体験して考える森林ガイドボランティアの現在と未来」は社会連携イベントである「子ども樹木博士」と関連付けて実施した。卒業論文研究等では卒業論文4名(うち本学1名)、修士論文10名(うち本学8名)、博士論文3名(うち本学2名)の利用があった。教育利用全体での延べ利用者数は476人(外国人来訪は1人)であった。

【2】研究

単回・通年利用を含め25件の申請があり、延べ114人(外国人来訪は0人)の研究利用があった。内容別には都市林の機能評価など都市林の計画に関する研究が16件と約5割を占め、都市林の管理に関する研究が14件、都市林の利活用に関する研究が3件となっている。これらに加え、田無演習林独自研究としてブナ科樹木萎凋病の初期侵入過程を調査した。分野の異なる利用者との交流を深め、研究可能性をさらに広げることを目的とした研究利用者交流会を例年通り6月に実施する予定であったが、COVID-19感染防止対策のため開催を見送った。

【3】社会連携

今年度も昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症(COVID-19)による活動制限があったが、感染防止対策措置を施し、小中学生向け講座(子ども樹木博士認定会)を2回実施した。小中学校から校外学習の受入依頼が7件あり、COVID-19感染防止対策を十分に行うことなどを条件に受け入れて指導した。そのほか、非営利団体の見学が1件、七夕用のササの分譲が3件あった。平日の一般見学の受け入れについては今年度も完全に中止したが、12月には休日公開を事前申込みにより人数制限して2日間行い、260名来演した。11月28日に学内教職員向けとして例年実施している「リース作り体験会」をハイブリット形式で実施し、オンサイトで10名、オンラインで10組15名が参加した。オンライン参加者には田無演習林内で収集したクリスマスリース用の材料を宅配便で事前送付し、当日は田無演習林の職員がオンラインで指導をしながらリースを制作してもらった。

演習林の南側一部が売却地になり、8月には都市計画道路が開通したことに伴い、正門の位置が変わり、新たに林内案内看板を設置した。このほか、樹木剪定作業により生じた枝葉を花材・園芸資材として東京都板橋市場にて委託販売した。また、市町村交付金相当額予算を用いて伐採した境界支障木のシラカシ大径木の丸太を製材し、(株)兵右衛門に箸を作製してもらった。この箸は東京大学コミュニケーションセンターでも販売を計画している。森林教育パートナー(小中学生の森林教育関連授業の補助)の登録制度を次年度から開始することについて検討した。

【4】国際

海南大学から特任准教授として東京大学に滞在中の張輝氏の視察を受け入れたが、COVID-19感染拡大の影響もありそれ以外の海外からの訪問者の受入はなかった。

【5】森林管理

実習および研究用としてアカマツ、クロマツ、スギ、ヒノキの実生苗の育成を行い、研究者から委託された苗木育成のための苗畑管理(灌水や除草等)も行った。また、試験地として整備されたフィールドの適切な管理を行うため、下草刈り等の作業を行った。

田無演習林では、年間を通して多数の利用者が林内見学を目的として来演する。COVID-19 感染防止対策として今年度は平日の一般見学を行わなかったが、いつ再開しても安全に見学利用してもらえるように、散策路沿いや樹木園の休憩場所の枯損木および危険木の伐採を、小径木については直営で、大径木(アカマツ、ポプラ等)については請負で行った。枯損枝、掛り枝についても、スローラインや高所作業車を用いて直営で除去した。

敷地境界からはみ出した枝の処理や境界沿いの小径木の伐採は直営で適宜行った。西側境界沿いのシラカシ等(4本)、北側境界沿いのコナラ等(4本)は請負で伐採し、重点的に整備した。伐採した材は、簡易製材機を用い板に挽いて箸の材料として提供するなど有効活用した。

また、昨年度はナラ枯れ被害が初めて田無演習林内で発生したが、今年度はさらに増加した。マツ材線虫病により枯損したマツも引き続き発生した。枯損木を直営および請負にて伐採し、燻蒸処理等の対策を行った。今後は田無本館に設置された木質バイオマスボイラーの薪として有効活用するとともに森林整備も進めたい。

【6】環境安全

毎月の安全衛生マネジメントシステム会議では、他で発生した災害発生報告や、熱中症やハチ刺され対策など季節に応じた注意喚起を行い、災害を未然に防ぐよう努力した結果、今年度は幸いなことに災害の発生報告はなかった。ただ、7月に2回の落雷被害があり、ネットワーク関連設備やインターフォン等が故障した。生態調和農学機構敷地内の田無本館へ教職員室と実験室が移転し、職員が不在のことが多くなったため、業務用携帯電話を配備した。COVID-19 感染防止対策の中で環境整備や防災訓練が昨年度に引き続き実施できなかったため、来年度はこうした活動も実施し、防災意識をさらに高めていきたい。

【7】管理運営

今年度もCOVID-19感染拡大に伴う活動制限下での活動が続いた。田無演習林では、教員2名が交代で在宅勤務、技術職員と非常勤職員が週1回の在宅勤務を行い、事務所に出勤する人数を減らした状態で日常の業務ならびに研究、教育、見学等の利用受入を行った。昨年度はほぼ中止したイベントや社会連携活動も11月以降徐々に再開したが平日の一般見学は再開できなかった。次年度は出来るだけ早期の正常化を実現したいと考えている。

田無キャンパス整備は順調に進み、新築の田無本館に昨年度末から今年度初めにかけて事務所と実験室を移転した。旧事務所庁舎は演習林セミナーハウスとして耐震改修工事が行われ1月に完了した。また12月に保全施設2(車両倉庫)の新設工事が着工し3月に完成した。未通知建物の解体撤去は3月末までに20棟が完了し残るは9棟となった。来年度中には田無演習林の敷地内にある建物関係の整備はすべて終わる予定である。

【8】その他

「東京大学の森」育成資金に1名の方から寄付いただいた他、「武蔵野に大学の森をたずねて～東京大学田無試験地の80年～」を4冊、「”森たび”東京大学演習林のみどころ100」を14冊、「気持ちよく納められる森林環境税とは？」を88冊販売した。

5. 生態水文学研究所

【1】大学教育

第6期計画に基づき、森と水の自然科学的、森と水と人の関係についての社会科学的なテーマの教育活動を実施している。また、「研究」や「社会連携」と連動した「大学教育」とすることを心掛けた。農学部森林生物科学専修・森林環境資源科学専修の森林科学基礎実習Ⅳの現地実習を8月23～27日に実施予定であったが、現地における対面実習は実施できなかった。

教養学部前期課程Sセメスター総合科目D人間・環境「森林環境資源学」のフィールドワークを6月5日～6日に実施予定であったが、実施できなかった。昨年度までは全学体験ゼミナール「人の手で造り管理する森林－林業・風景計画の視点から」を実施してきたが、今年度は、「人の手で造り管理する森林－武蔵野編」として開講され、生水研での受け入れはなかった。

造園学会中部支部との共催でデザインワークショップ「サマースタジオ 2021」を企画していたが、実施できなかった。全て、新型コロナウイルス感染症の拡大を理由としている。本学体験活動プログラム「森・水・土砂の長期モニタリング調査体験～世界の水文研究を支える90年を全身で感じてみよう～」は、2月15日～17日で実施し、2名の参加者があった。なお、当初は9月に4名を受け入れて実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、延期して実施した。

【2】研究

森林の水源涵養機能や水土保持機能が、森林の二次遷移や気候変動へどのように応答するのかを明らかにするために、水文水質、気象、土砂、生態データを継続して取得・分析・公開を行っている。

白坂・穴の宮・東山・犬山において水文観測、気象、雨水・渓流水サンプリング、水質分析を継続した。長期生態系プロットにおいて毎木調査、リター調査、種子調査、地上徘徊性昆虫調査、鳥類調査を継続した。

白坂の2020年の日降水量・日流出量、2019年の降水と渓流水の水質データが雑誌「演習林」に掲載された。穴の宮試験地におけるリター除去と森林伐採が表面流に及ぼす影響に関する論文がwater誌に(岸本)、愛知県尾張北部地域の天然林における約20年間の変化に関する論文が中部森林研究(澤田・井上・岸本・梁瀬)に掲載された。愛知赤津モニタリング1000((白坂)サイトを利用した土壌に関するデータペーパーがEcological Research誌に掲載された(岸本)。

令和3年度技術職員等試験研究・研修会議において梁瀬が演習林業務におけるデジタルイラストと漫画の作成について発表した。第11回中部森林学会において澤田(佐藤・岸本)が白坂小流域固定試験地におけるヒノキ球果の落下特性について発表した。第133回日本森林学会大会において、澤田(佐藤・岸本)が白坂小流域固定試験地におけるコナラ堅果の落下特性について発表した。

研究所に保管されている明治末期から昭和初期の古い地図を対象に、約70点のデジタルアーカイブ化を行った。利用者研究集会・尾張東部丘陵自然環境研究者の会を5月27日にオンライン開催し、40名の参加者があった。データ利用規則に基づき、データ利用を4件許可した。また、データ利用システムの効率化を図り、電子書類による許可書の発行を導入した。

【3】社会連携

2021年度も2020年度と同様、新型コロナウイルス感染症の影響により例年開催しているイベントの多くが中止あるいは規模縮小となった。犬山市立今井小学校で開催されている「探鳥会」は今井小学校で4回開催し、梁瀬・澤田が講師として参加した。2019年度まで開催していた犬山市立城

東小学校探鳥会は廃止となった。今年度は地元小学校の出張授業への参加があり、瀬戸市水野小学校の総合学習に澤田と梁瀬、犬山市楽田小学校に澤田と平野が講師として参加した。東京大学赤津研究林サポーターズクラブ「シデコブシの会」、「犬山研究林利用者協議会」による赤津研究林、犬山研究林での主催行事、見学団体ガイド等がそれぞれ4件、22件行われ、2件、10件が中止になった。市主催のイベントでは、9月に瀬戸市主催の赤津研究林内のイベントが予定されていたが、中止した。犬山市は4月と11月に市民を対象にした自然観察会を主催し、それぞれ18名が犬山研究林を見学したほか、全3回の市民向け講座「犬山市民大学環境学部」を開き、第2回の犬山研究林を見学する現地講座では17名が見学した。その他に他団体主催で一般向けの公開講座を1件に11名が参加し、中高生の実習を1件開催して約30名が参加した。瀬戸市環境審議会と犬山市環境審議会に所長が委員として参加した。瀬戸市教育委員会発行の副読本「せと」の執筆に協力した。全国各地の高校の生徒を対象にした「東大の研究室をのぞいてみよう！」プログラムに技術職員が中心となって対応し、観測の技術や工夫など実際の作業を紹介した。

【4】国際

ブラジルからインターン生を1名迎える予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、年度中の実現はならなかった。

【5】森林管理

第6期計画において4つにゾーニングした研究林を、それぞれの施業方針に従って管理した。2月から3月にかけて10林班ふれあいゾーン内の歩道を直営で整備した。愛知県の小規模治山事業(森林機能回復緊急整備)により4.10ha、森林ボランティアにより0.10haの間伐を実施した。2021年度施設整備(修繕)準備金の支援により、愛知県道461号線尾張パークウェイ沿いにある危険木の伐採と、東山林道の崩れた路肩と横断排水溝の改修を行った。2021年度市町村交付金相当額予算により、犬山市道犬山今井上線沿いにある危険木の伐採、犬山市都市美化センター敷地に張り出した危険枝の除去、瀬戸市道上品野線沿いにある危険木の伐採、東山林道補修用の砂利購入を実施した。74林班においてマツ枯れ対策として湖西市と協働で地上からの予防散布(5月23日)を行った。また2021年度のマツ枯れ枯死木調査を11月7, 11, 17日に行ったところ、本数400本、材積254m³の被害を確認した。前年度までと比べて大きく被害が拡大したため森林病虫害委員会に報告し、同委員会および他演技術職員の協力を得て12月21, 22, 23日に計82本のマツにマツ枯れ予防剤の樹幹注入を実施。さらに1月31日に12月に予防剤吸収の悪かった9本のマツに再注入を実施した。

【6】環境安全

集材中に転倒し、腕を骨折する労務災害が1件発生した。

【7】管理運営

岸本一般技術職員が「現場の技術をスマホの中で～マニュアル動画による技術の伝達と共有～」により2021年度業務改革総長賞の特別賞を受賞した。五位塚長期宿泊施設のさらなる活用を図るため、短期宿泊施設に転換する手続きを進めた。

6. 富士癒しの森研究所

第5期計画に基づき2021年度の事業計画を立てた上で各事業に取り組んだ。大学教育・研究・社会連携・森林管理いずれにおいても、概ね計画通り活動を実施できた。

【1】大学教育

1) 実習等の受け入れ

教養学部の現地講義5件、農学部の現地講義5件(うちオンライン1件)、大学院の現地講義3件を受け入れた。他大学の学生実習の受け入れはなかった。担当教員とコミュニケーションをとり、教育利用における利便性を高めるよう努めた。体験活動プログラムを実施し、4名の学生が参加した。

2) 教育活動支援

卒業研究1件、修士論文1件、博士論文2件の利用があり、基礎データ提供等の支援を行なった。

3) 教育プログラムの企画実施

全学体験ゼミ「東大の別荘「癒しの森」で心も体もリフレッシュ」、総合科目「森林環境資源学」を、続・癒しの森プロジェクトの一環として実施した。体験活動プログラムは、新型コロナウイルス感染症の影響で夏の部を中止としたが、冬の部を実施した。運動会学生との共同作業は新型コロナウイルス感染症の影響で中止とした。

【2】研究

1) 研究所が組織的に取り組む研究

- [1]森林管理:所内全域のナラ枯れ被害を把握する研究を実施した。山中湖村と共同して村内のナラ枯れ把握のための調査方法を開発した。
- [2]資源化および資源活用 ナラ枯れ被害木の薪活用に関する試験を実施した。
- [3]ソーシャルデザイン 所内の一部地区を一般開放する際のエリア設定やルール設定の妥当性を検証する試験を実施した。湖畔広場の園地デザイン計画に関する研究には着手できなかった。
- [4]試験地および基盤データ等 実証林において林内気象データを蓄積した。実証林の管理計画は立案できなかった。カラマツ系統別試験地において、過去の試験データの総括を行い、試験木情報の電子化に関する研究を実施した。長期生態系データ調査として、動物センサーカメラ調査、昆虫調査、鳥類調査を実施した。キノコ放射性物質調査に参加し、サンプリングを行った。

2) 研究利用の受け入れ、共同研究

19件の研究利用を受け入れ、基礎的データの提供等の支援を行なった。随時研究利用の呼びかけを行なった。共同研究として、山梨県森林総合研究所とのナラ枯れ被害木の処理方法に関する試験に着手した。

【3】社会連携

1) 一部エリアの一般開放

11月に2日間、暫定的に開放エリアを設定し、試験的に一般開放を行った。

2) 知識・技術の提供

住民を対象にしたチェーンソー講座の教程を検討した。研究所の研究事業を紹介する公開講座、山中湖村と共同でナラ枯れに関する住民説明会を企画したが、新型コロナウイルス感染症のため

め、中止となった。

3) 村行政との共同事業

ナラ枯れ調査および被害木の利活用について、村行政と共同して取り組んだ。イベントを開催する際に、村行政の後援を得た上で実施した。他演習林の過去の創立記念事業について情報収集を行なった。

4) 住民活動の支援

「癒しの森の会」による活動を支援し、共同して「癒しの森の宵闇音楽会」および「森の文化祭」を企画・実施した。

【4】国際

英語によるウェブサイトでの情報発信を計画していたが、着手できなかった。

【5】森林管理

今期より導入した路線管理システムに沿って林道・歩道および沿線森林の管理施業を行った。危険木・危険枝のリストアップを行い、外注事業および直営事業により、すべての対象木の処理を完了した。計画していた景観管理のための下刈り等の施業、試験地保全のためのツル切り作業を計画通り行った。

【6】環境安全

安全管理のため定期的および随時の情報共有を行うことで職員の安全作業を期すとともに、危険情報を利用者に伝達し、利用者の安全管理を支援した。

【7】管理運営

全国演習林協議会関東甲信越地区技術職員研修を企画・実施した。職員1名がマツ樹幹注入に関する研修に参加し、関連する知識を所内で共有した。森林管理のデジタル化に取り組み、所内での研修および演習林内研修等を通じ知識向上と技術研鑽に努めた。



癒しの森の宵やみ音楽会



附属病院の教員らと共同企画した全学体験ゼミ

7. 樹芸研究所

樹芸研究所の大きな特徴は、教育に全エフォートの 50%を割き、教育と研究とがともに社会貢献を意識しつつがいに強くリンクすることである。例えば林業復活が現代の日本社会にとって如何に重要であるかという視点を学生に示すことなどが社会貢献を意識した教育であり、例えば南伊豆町というローカルで今後取り組むべきは何かという視点を学生に示すことなどが社会貢献を意識した研究となる。教育と研究がともに社会貢献を目指すことで、研究を最終的に教育に資することを目的とすることができる。小さい組織はその一点に集中して活躍の活路を見出す。

【1】大学教育

樹芸研究所は全学教育を担うことになった。特に 2006 年度に開始した前期教養課程の主題科目・全学体験ゼミナールの充実に注力している。全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ」シリーズは、現代社会においては見えにくい「プロセス」を、体験を通して気付かせる仕掛けであることを基本と、「学ぶ」ことの原点を問うことに重きを置く。「体験」ゼミであるが、「考える」ことの重要性を強調している。2021 年度は新型コロナの影響により、従来の合宿型のゼミを実施できなかった。S セメスターでは日帰りで伊豆に来るゼミを実施した。日帰り1回では十分ではない反省を込めて、A セメスターでは伊豆の日帰りを2回と東京講義を2回を組み合わせることに改善した。

1) 農学部 国際開発農学専修 3 年生

「森林実習」(新型コロナにより宿泊できず、本郷・弥生キャンパス+オンラインで実施)

2) 教養学部前期課程 1, 2 年生 主題科目 全学自由研究ゼミナール

「伊豆に学ぶプラス」(S セメスターは不開講, A セメスターに駒場で対面)

「獣害問題とは何の問題か」(S セメスターはオンライン実施, A セメスターは駒場で対面実施)

「チョコレートはお好き? 外来種は?」(S セメスターはオンライン実施, A セメスターは駒場で対面実施)

3) 教養学部前期課程 1, 2 年生 主題科目 全学体験ゼミナール

「伊豆に学ぶ(夏)伊豆編 S1」, 「伊豆に学ぶ(夏)伊豆編 S2」(伊豆に日帰りで実施)

「伊豆に学ぶ(夏)東京編 S1」, 「伊豆に学ぶ(夏)東京編 S2」(弥生実施予定, コロナにより中止)

「伊豆に学ぶ 熱帯植物編 A1」, 「同 熱帯植物編 A2」(伊豆日帰り2回+弥生2回)

「伊豆に学ぶ 竹林管理・炭焼き編 A1」, 「同 炭焼き編 A2」(伊豆日帰り2回+弥生2回)

4) 東京大学体験活動プログラム

「南伊豆という一地域との連携に学ぶ」(2/19-21, 3/5-7)

「伝統工芸木炭生産技術保存会とともに伝統工芸に必要な駿河炭を焼く」(3/13-16)

【2】研究

- ・2021 年 7 月に加賀市・(株)フェリシモ・(株)DK パワーと共同研究:「バイオマス発電による排熱を活用したカカオ豆・南国樹木の栽培・産業育成」を行う契約を交わした。加賀市にて、2,000 本のカカオノキの森づくりを目指し、春に播種を行い、20cm 超の苗を 300 本以上用意した。
- ・バニラの簡便なキュアリング法は開発の途上にあり、品質向上を実現した上で特許申請を目指して取り組んでいる。新法によるキュアリング済バニラを成果有体物として香料会社に有償提供して分析されることになった。
- ・森林総合研究所の受託研究「国産早生樹種の用材利用に向けた材質・加工特性の解明」では、樹芸研究所産のユーカリを伐採し、材質(密度と強度)等の基礎データを収集した。樹芸研究所に植栽された、*Eucalyptus robusta*, *E. maidenii*, *E. bicostata*, *E. smithii*, *E. racemosa*, *Corymbia*

citriodora (Eucalyptus 属の近縁, 和名はレモンユーカリ) を伐採して各種試験に提供した。樹芸研究所は容積密度, 静的曲げ応力, 静的曲げヤング率の測定に携わった。

- ・(株)エコグリーンホールディングスの受託研究を足掛かりとして, NEDOの「木質バイオマス燃料等の安定的・効率的な供給・利用システム構築支援事業」に係る公募に協力者として加わるようになった。新たな燃料ポテンシャル(早生樹等)を開拓・利用可能とする“エネルギーの森”実証事業として本年より助成を受けることが決定された。
- ・これと並行して, 単位面積当たりの生産性を明らかにする目的であらたに植栽試験を進めている。近年新たに植栽したユーカリたちは非常に良い成長を示し, 見学した学生に早生樹活用の可能性を示し関心を持ってもらう魅力的な教材となっている。データをとるばかりではなく, 見せる「ユーカリ林分」を造成することを重視している。

【3】社会連携

伝統工芸木炭生産技術保存会へのアブラギリの安定供給を通して, 日本の伝統工芸の一つである漆器・蒔絵に欠かせない研き炭(駿河炭)を供給するという社会連携に取り組んでいる。研磨炭(駿河炭)の原料となるアブラギリを中心にハゼノキ, ヤブツバキなどの油糧植物の資源を確保し, 搾油も実際に行った。この磨き炭焼きから発展させた体験活動プログラムに6人の学生を迎え3/13~16に実施した。

市民向け公開講座は, 新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止した。

【4】国際

温室で栽培した外来種を用いた教育プログラムとして, 全学体験ゼミナールにてカカオノキを用いたチョコレート作り, キヤッサバを用いた桜餅作りを実施した。

【5】森林管理

1 林班 21 小班の 1944 年植栽アブラギリ林において, 天然下種更新を目的とした一部除伐を行った。竹林では間伐による密度調整, 新竹の個体記録を行った。ユーカリ試験地の造成については, 1 林班口小班に *E. nitens*, *E. viminalis* の 2 種各 65 本を植栽した。

温室では一部の種について開花結実のコントロールを目的に栽培条件を見直したが, これまでのところ新たに開花結実が認められたものはない。森林の落葉から作った腐葉土の導入を試みたが, 虫が多く何らかの対策が必要であると考えられた。

【6】環境安全

研究所内の安全講習会として, 温泉管取扱い講習, 林道走行安全講習を実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止策として, 2021 年度の全学体験ゼミナールは宿泊を伴わない形で実施した。体験活動は十分な対策下, 下賀茂寮宿泊施設の宿泊を伴う形で受け入れた。

【7】管理運営

山下林道路肩修繕工事, 山下林道5号橋補修工事, 加納事務所構内建物シロアリ防除工事, 下賀茂寮宿泊施設電気配線器具改修工事, 温室倉庫照明工事, A 重油タンク修繕工事, 構内付近温泉管改修工事を行った。

【8】その他

本部ダイバーシティ推進課経費で2名を雇用した。

資料

| | | |
|-----|--------------|------|
| 1. | 大学教育 | … 46 |
| 2. | 研究 | … 69 |
| 3. | 社会連携 | … 95 |
| 4. | 国際 | …115 |
| 5. | 森林管理 | …118 |
| 6. | 環境安全 | …125 |
| 7. | 管理運営 | …128 |
| 8. | 組織図 | …131 |
| 9. | 人事 | …144 |
| 10. | 予算 | …145 |
| 11. | 委員会・会議等 | …146 |
| 12. | 利用状況 | …147 |
| 13. | 演習林所在地および連絡先 | …202 |

1. 大学教育

1) 大学院講義等

生圏システム学専攻修士課程

| 講義名 | 担当教員 |
|--------------|---|
| 森林圏生態学 | 鎌田直人・後藤 晋・平尾聡秀・鈴木智之・前原 忠・久本洋子・福井 大 |
| 森林圏生態学演習 | 鎌田直人・後藤 晋・平尾聡秀・福井 大 |
| 森林生物機能学 | 山田利博・鴨田重裕・楠本 大 |
| 森林生物機能学演習 | 山田利博・鴨田重裕・楠本 大 |
| 森林生態圏管理学特論 | 石橋整司 |
| 国際森林学特論 | 安村直樹・齋藤暖生・當山啓介 |
| 森林圏水循環機能学 | 蔵治光一郎・浅野友子・田中延亮 |
| 森林圏生態社会学演習 | 山田利博・鴨田重裕・楠本 大 |
| 森林流域管理学演習 | 蔵治光一郎・尾張敏章・浅野友子 |
| 生圏システム学特論 | 日浦 勉・鎌田直人・當山啓介・楠本 大・ほか9名 |
| 生圏システム学実験・研究 | 鎌田直人・山田利博・石橋整司・蔵治光一郎・後藤 晋・鴨田重裕・安村直樹・尾張敏章・平尾聡秀・楠本 大・齋藤暖生・廣嶋卓也・浅野友子・田中延亮・福井 大 |

森林科学専攻修士課程

| 講義名 | 担当教員 |
|------------|--|
| 森林圏生態学 | 鎌田直人・後藤 晋・平尾聡秀・鈴木智之・前原 忠・久本洋子・福井 大 |
| 森林生物機能学 | 山田利博・鴨田重裕・楠本 大 |
| 国際森林学特論 | 安村直樹・齋藤暖生・當山啓介 |
| 森林生態圏管理学特論 | 石橋整司 |
| 森林圏水循環機能学 | 蔵治光一郎・浅野友子・田中延亮 |
| 森林科学特別実験 | 鎌田直人・山田利博・石橋整司・蔵治光一郎・後藤 晋・鴨田重裕・安村直樹・尾張敏章・平尾聡秀・楠本 大・齋藤暖生・浅野友子・田中延亮・福井 大 |
| 森林科学特別演習 | 鎌田直人・山田利博・石橋整司・蔵治光一郎・後藤 晋・鴨田重裕・安村直樹・尾張敏章・平尾聡秀・楠本 大・齋藤暖生・浅野友子・田中延亮・福井 大 |
| 森林科学セミナー I | 鎌田直人・山田利博・石橋整司・蔵治光一郎・後藤 晋・鴨田重裕・安村直樹・尾張敏章・平尾聡秀・楠本 大・齋藤暖生・浅野友子・田中延亮・福井 大 |

農学国際専攻修士課程

| 講義名 | 担当教員 |
|---------------------------------|------|
| 森林昆虫生態学 (Forest Insect Ecology) | 鎌田直人 |

生圏システム学専攻博士課程

| 講義名 | 担当教員 |
|----------------|---|
| 森林圏生態学特別演習 | 鎌田直人・後藤 晋・平尾聡秀・福井 大 |
| 森林生物機能学特別演習 | 山田利博・鴨田重裕・楠本 大 |
| 森林圏生態社会学特別演習 | 石橋整司・安村直樹・齋藤暖生 |
| 森林流域管理学特別演習 | 蔵治光一郎・尾張敏章・浅野友子 |
| 生圏システム学特別実験・研究 | 鎌田直人・山田利博・石橋整司・蔵治光一郎・後藤 晋・鴨田重裕・安村直樹・尾張敏章・平尾聡秀・楠本 大・齋藤暖生・浅野友子・田中延亮・福井大 |

森林科学専攻博士課程

| 講義名 | 担当教員 |
|-----------------|-------------------------------------|
| 森林生態圏管理学特別演習 I | 鎌田直人・山田利博・後藤 晋・鴨田重裕・平尾聡秀・楠本 大・福井 大 |
| 森林生態圏管理学特別演習 II | 石橋整司・蔵治光一郎・尾張敏章・安村直樹・齋藤暖生・浅野友子・田中延亮 |
| 森林生態圏管理学特別実験 I | 鎌田直人・山田利博・後藤 晋・鴨田重裕・平尾聡秀・楠本 大・福井 大 |
| 森林生態圏管理学特別実験 II | 石橋整司・蔵治光一郎・尾張敏章・安村直樹・齋藤暖生・浅野友子・田中延亮 |

2) 学部講義等

農学部講義・演習・実験実習

| 講義名 | 課程・専修等 | 開講年次・ ターム | 担当教員 | 備考 |
|---------------|------------------------|---------------|---|--------------------------------|
| 森林環境科学汎論 | 農学基礎科目 | 2年次・ A1-A2 | 龍原 哲・蔵治光一郎・尾張敏章・ 安村直樹・ほか6名 | |
| 森林資源と木材利用 | 農学総合科目 | 2年次・A2 | 古井戸宏通・安村直樹・ほか4名 | |
| 農学リテラシー | 農学共通科目 | 2年次・W (集中) | 中嶋康博・蔵治光一郎・ほか12名 | |
| 森林生態圏管理学 | 応用生命科学課程・ 環境資源科学課程 | 3年次・ S1-SP | 鎌田直人・山田利博・石橋整司・蔵 治光一郎・後藤 晋・鴨田重裕・安 村直樹・尾張敏章・平尾聡秀・楠本 大・齋藤暖生・浅野友子 | |
| 森林政策学 | 森林生物学専修・ 森林環境資源科学専修 | 3年次・ S1-SP | 古井戸宏通・安村直樹・ほか2名 | |
| 造林学 | 森林生物学専修・ 森林環境資源科学専修 | 3年次・ S1-SP | 丹下 健・益守眞也・後藤 晋 | |
| 森林遺伝育種学 | 森林生物学専修・ 森林環境資源科学専修 | 3年次・SP | 後藤 晋・久本洋子 | |
| 森林科学基礎実習Ⅰ | 森林生物学専修・ 森林環境資源科学専修 | 3年次・ S1-SP | 福田健二・楠本 大・久本洋子・當 山啓介・藤原章雄・竹本周平・ほか 8名 | |
| 森林科学基礎実習 Ⅱ | 森林生物学専修・ 森林環境資源科学専修 | 3年次・ S1-SP | 熊谷朝臣・田中延亮・ほか3名 | |
| 森林科学基礎実習Ⅲ | 森林生物学専修・ 森林環境資源科学専修 | 3年次・ S1-SP | 福田健二・坂上大翼・ほか8名 | |
| 森林科学基礎実習Ⅳ | 森林生物学専修・ 森林環境資源科学専修 | 3年次・ S1-SP | 古井戸宏通・安村直樹・ほか9名 | |
| 森林科学総合実習 | 森林生物学専修・ 森林環境資源科学専修 | 3, 4年 次・S2 | 龍原 哲・尾張敏章・田中延亮・福 井 大・鈴木智之 | オンラ イン |
| 森林政策学演習 | 森林生物学専修・ 森林環境資源科学専修 | 3年次・ A1-A2 | 古井戸宏通・安村直樹・齋藤暖生・ ほか2名 | |
| 森林風景計画実習 | 森林生物学専修・ 森林環境資源科学専修 | 3年次・ A1-A2 | 山本清龍・藤原章雄 | オンラ イン |
| 森林実習 | 国際開発農学専修 | 3年次・SP | 露木 聡・鴨田重裕・ほか2名 | オンラ イン+ 弥生・ 本郷で 実施 |
| バイオマス科学実習 | 生物素材化学専修 | 3, 4年 次・S2 | 横山朝哉・尾張敏章・後藤 晋・福 井 大・當山啓介 | オンラ イン |

| 講義名 | 課程・専修等 | 開講年次・ ターム | 担当教員 | 備考 |
|---------------------|----------|---------------|------------------------------|-----------|
| 森林科学実習 | 木質構造科学専修 | 3, 4年 次・S2 | 横山朝哉・尾張敏章・後藤 晋・ 福井 大・當山啓介 | オンライ ン |
| 国際農学実験・実習 I 個別実験 | 国際開発農学専修 | 3年次・ S1-SP | 石橋整司・齋藤暖生 | |

教養学部講義・演習 【実施できたもの】

| 講 義 名 | 開講ターム・ セメスター | 担 当 教 員 | 備考 |
|--|-----------------|-------------------------------------|---------------|
| 総合科目「森林環境資源学（森と癒し、森の最終形）」 | S | 蔵治光一郎・楠本 大・齋藤暖生・當山啓介・藤原章雄・三浦直子・水内佑輔 | 千葉・富士で現地開催 |
| 総合科目「森林環境資源学（森の最終形）」 | A | 蔵治光一郎・楠本 大・當山啓介 | 千葉で現地開催 |
| 総合科目「森の生物学」 | S | 久保田耕平・鎌田直人ほか4名 | オンライン |
| 全学体験ゼミナール「危険生物の知識（春編）」 | S1 | 石橋整司・齋藤暖生・井上広喜・前原 忠・久本洋子 | 田無・富士・千葉で現地開催 |
| 全学体験ゼミナール「体験して考える森林ガイドボランティアの現在と未来」 | S1 | 石橋整司・竹本周平 | 田無で現地開催 |
| 全学体験ゼミナール「徹底検証・スギ&ヒノキ〜もっと知ろう、木材のこと〜」 | S2 | 石橋整司・安村直樹・齋藤暖生・藤原章雄・當山啓介 | 都内・千葉で現地開催 |
| 全学体験ゼミナール「東大の別荘『癒しの森』で心も体もリフレッシュ」 | S2 | 齋藤暖生・後藤 晋・浅野友子・藤原章雄・三浦直子 | 駒場・本郷・富士で現地開催 |
| 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ（夏）伊豆編S1」 | S1 | 鴨田重裕 | 伊豆で現地開催 |
| 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ（夏）伊豆編S2」 | S2 | 鴨田重裕 | 伊豆で現地開催 |
| 全学体験ゼミナール「森に学ぶ（森林・林業を意識しながら歩く低山S2）」 | S2 | 鴨田重裕 | 東京・埼玉で現地開催 |
| 全学体験ゼミナール「春の奥秩父を巡る」 | S | 山田利博・平尾聡秀・浅野友子・坂上大翼 | 秩父で現地開催 |
| 全学体験ゼミナール「房総の常緑樹林で森林動態を学ぶ」 | S | 楠本 大・久本洋子・當山啓介 | オンラインと千葉で現地開催 |
| 全学体験ゼミナール「危険生物の知識（秋編）」 | A1 | 石橋整司・齋藤暖生・井上広喜・前原 忠・久本洋子 | 田無・富士・千葉で現地開催 |
| 全学体験ゼミナール「森の魅力をマッピング〜GPSを使ったオリジナル地図づくり〜」 | A1 | 石橋整司・露木 聡・藤原章雄 | 田無で現地開催 |
| 全学体験ゼミナール「体験して考える森林ガイドボランティアの現在と未来（秋）」 | A1 | 石橋整司・竹本周平 | 田無で現地開催 |
| 全学体験ゼミナール「人の手で造り管理する森林―武蔵野編」 | A1 | 安村直樹・水内佑輔・佐藤貴紀 | 田無・明治神宮で現地開催 |
| 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ_熱帯植物編1」 | A2 | 鴨田重裕・井上広喜 | 伊豆2回 弥生1回 対面 |

| 講 義 名 | 開講ターム・セ メスター | 担 当 教 員 | 備 考 |
|--|-----------------|-------------------------|-----------------------|
| 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ_熱帯植 物編 2」 | A2 | 鴨田重裕・井上広喜 | 伊豆 2 回 弥生 1 回 対面 |
| 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ_竹林管 理・炭焼き編 1」 | A2 | 鴨田重裕 | 伊豆 2 回 弥生 1 回 対面 |
| 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ_竹林管 理・炭焼き編 2」 | A2 | 鴨田重裕 | 伊豆 2 回 弥生 1 回 現地開催 |
| 全学体験ゼミナール「房総の森と生業 (なりわい) を学ぶ」 | A2 | 鎌田直人・楠本 大・久本 洋子・當山啓介 | オンラインと千 葉で現地開催 |
| 全学体験ゼミナール「雪の森林に学ぶ～ 北海道演習林」 | A2 | 尾張敏章・田中延亮・福井 大・鈴木智之 | オンライン |
| 全学体験ゼミナール「森のエネルギーを 使いこなす」 | A | 安村直樹・齋藤暖生・當山 啓介 | 富士, 千葉で現 地開催 |
| 全学体験ゼミナール「秋の奥秩父を巡 る」 | A | 山田利博・平尾聡秀・浅野 友子・坂上大翼 | 秩父で現地開催 |
| 全学体験ゼミナール「森に学ぶ SDG s と 林業を意識する低山歩き A」 | A | 鴨田重裕 | 東京, 山梨, 埼 玉で現地開催 |
| 全学自由研究ゼミナール (昆虫と節足動 物の生物学) | S | 松尾隆嗣・鎌田直人 ほか 8 名 | オンライン |
| 全学自由研究ゼミナール「ビーントゥバ ーチョコレート作り体験から学ぶべきこ と 20A 2」 | A2 | 鴨田重裕 | オンライン+弥 生 |
| 全学自由研究ゼミナール「古典落語で知 る江戸の自然・文化」 | A | 石橋整司・露木 聡 | |
| 全学自由研究ゼミナール「伊豆に学ぶプ ラス」 | A | 鴨田重裕 | 駒場対面 |
| 全学自由研究ゼミナール「獣害問題とは 何の問題か A」 | A | 鴨田重裕 | 駒場対面 |
| 全学自由研究ゼミナール「伊豆に学ぶプ ラス」 | A | 鴨田重裕 | 駒場対面 |

【予定していたがコロナの影響で不開講となったもの】

| 講 義 名 | 開講ターム・ セメスター | 担 当 教 員 | 備考 |
|--------------------------------------|-----------------|--------------------------------|-----|
| 全学体験ゼミナール「森に学ぶ（森林・林業を意識しながら歩く低山 S1）」 | S1 | 鴨田重裕 | 不開講 |
| 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ（夏）東京編 S1」 | S1 | 鴨田重裕 | 不開講 |
| 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ（夏）東京編 S2」 | S2 | 鴨田重裕 | 不開講 |
| 全学体験ゼミナール「ダムと土砂と海」 | A2 | 蔵治光一郎・安村直樹・浅野友子・水内佑輔・菊池 潔・佐藤貴紀 | 不開講 |

3) 他大学の非常勤講師（委嘱あり）

| 教員名 | 講 義 名 | 大 学 名 | 学 部 | 学 科 等 | 学 年 |
|------|--------------|--------|---------------|-----------|--------|
| 石橋整司 | 環境論 | 電気通信大学 | 電気通信学部 | 総合文化講座 | 1 |
| 鈴木智之 | 生物環境論 | 群馬大学 | 社会情報学部 | 情報社会学科 | 2～4 |
| 山田利博 | 樹木医演習 | 法政大学 | 生命科学部 | 応用植物科学科 | 2 |
| 山田利博 | 風致造園学実習 | 日本大学 | 生物資源科学部 | 森林資源科学科 | 3 |
| 鎌田直人 | 森林病虫害論（虫害） | 宇都宮大学 | 農学部 | 森林科学科 | 2・3 |
| 安村直樹 | 森林生態学・地盤工学 | 岡山県立大学 | デザイン学部 | デザイン工学科 | 1～4 |
| 福井 大 | 農林生物学特別講義 II | 筑波大学 | 理工情報生命学 術院 | 生命地球科学研究群 | 修士 1・2 |

4) その他の講義・実習対応

| 科目名 | 大学名 | 学部等 | 学科等 | 学年 | 対応教職員 | 備考 |
|----------------------|----------|--------------|-------------------------------|---------|--|---------|
| 森林生物機能学 | 東京大学 | 大学院農学生命科学研究科 | 森林科学専攻・生圏システム学専攻 | 修士課程 | 坂上大翼・井上広喜・竹本周平 | |
| 生圏システム学特論 | 東京大学 | 大学院農学生命科学研究科 | 生圏システム学専攻 | 修士課程 | 軽込勉 | |
| 森林圏水循環機能学 | 東京大学 | 大学院農学生命科学研究科 | 生圏システム学専攻・森林科学専攻 | 大学院 | 高野充広・吉田弓子・千嶋武・磯崎靖雄 | |
| 現代科学技術概論1 | 東京大学 | 大学院総合文化研究科 | 科学技術インタープリター養成プログラム | 修士・博士課程 | 蔵治光一郎 | オンライン |
| JDS 国際セミナー | 筑波大学 | 生命地球科学研究群 | 大学院理工情報生命学術院 | 大学院 | 浅野友子 | |
| 日本における森林管理—保護地域と流域管理 | 海南大学(中国) | 全学部 | 林学院 | 学部、大学院生 | 蔵治光一郎・山本清龍・柴崎茂光・浅野友子・田中延亮・水内佑輔 | オンライン |
| 森林生態圏管理学 | 東京大学 | 農学部 | 応用生命科学課程・環境資源科学課程 | 3 | 木村恒太・福岡哲・井上崇・中川雄治・犬飼慎也・遠國正樹・小林徹行・平間睦樹 | オンライン |
| 森林科学総合実習 | 東京大学 | 農学部 | 森林生物科学専修・森林環境資源科学専修・フィールド科学専修 | 3 | 松井理生・井口和信 | オンライン |
| 森林政策学実習 | 東京大学 | 農学部 | 森林生物科学専修・森林環境資源科学専修 | 3 | 辻 良子 | |
| 森林科学基礎実習I | 東京大学 | 農学部 | 森林生物科学専修・森林環境資源科学専修 | 3 | 栗田直明・相川美絵子・鈴木祐紀・鶴見康幸・村川功雄・里見重成・阿達康真・藤平晃司・塚越剛史・米道学・軽込勉・岡田康則・鈴木愛 | |
| 森林科学基礎実習III | 東京大学 | 農学部 | 森林生物科学専修・森林環境資源科学専修 | 3,4 | 栗田直明・相川美絵子 | 田無で現地開催 |

| 科目名 | 大学名 | 学部等 | 学科等 | 学年 | 対応教職員 | 備考 |
|--------------------------------------|------|------|---------------------|------|---------------------|---------|
| 森林科学基礎実習Ⅲ | 東京大学 | 農学部 | 森林生物科学専修・森林環境資源科学専修 | 3, 4 | 千嶋 武・高徳佳絵 | 秩父で現地開催 |
| バイオマス科学実習・森林科学実習 | 東京大学 | 農学部 | 生物素材化学専修・木質構造科学専修 | 3 | 鈴木祐紀・鶴見康幸・松井理生・井口和信 | オンライン |
| バイオマス科学実習・森林科学実習 | 東京大学 | 農学部 | 生物素材化学専修・木質構造科学専修 | 3 | 高野充広・磯崎靖雄・才木道雄・坂上大翼 | 秩父で現地開催 |
| 森圏管理学実習 | 東京大学 | 農学部 | フィールド科学専修 | 3 | 楠本大・久本洋子・當山啓介・藤平晃司 | |
| 森圏管理学実習 | 東京大学 | 農学部 | フィールド科学専修 | 3 | 平尾聡秀・齋藤俊浩・吉田弓子 | |
| 国際農学実験・実習Ⅰ個別実験 | 東京大学 | 農学部 | 国際開発農学専修 | 3 | 平尾聡秀・吉田弓子・磯崎靖雄 | |
| 森林環境科学汎論 | 東京大学 | 農学部 | 農学基礎科目 | 2 | 鈴木智之・井上崇・高橋功一・小林徹行 | オンライン |
| 総合科目「森林環境資源学（森と癒し、森の最終形）」 | 東京大学 | 教養学部 | 全科類 | 1, 2 | 藤平晃司・塚越剛史 | |
| 総合科目「森林環境資源学（森の最終形）」 | 東京大学 | 教養学部 | 全科類 | 1, 2 | 三次充和・軽込勉 | |
| 全学体験ゼミナール「森のエネルギーを使いこなす」 | 東京大学 | 教養学部 | 全科類 | 1, 2 | 鶴見康幸・塚越剛史・西山教雄・辻 良子 | |
| 全学体験ゼミナール「春の奥秩父を巡る」 | 東京大学 | 教養学部 | 全科類 | 1, 2 | 大村和也・高野充広・高徳佳絵 | |
| 全学体験ゼミナール「秋の奥秩父を巡る」 | 東京大学 | 教養学部 | 全科類 | 1, 2 | 千嶋 武・高徳佳絵・原口竜成・大村和也 | |
| 全学体験ゼミナール「危険生物の知識（春編）」 | 東京大学 | 教養学部 | 全科類 | 1, 2 | 村川功雄・米道学 | |
| 全学体験ゼミナール「徹底検証・スギ&ヒノキ～もっと知ろう、木材のこと～」 | 東京大学 | 教養学部 | 全科類 | 1, 2 | 藤平晃司 | |

| 科目名 | 大学名 | 学部等 | 学科等 | 学年 | 対応教職員 | 備考 |
|--|------|------|-----|------|--|---------------|
| 全学体験ゼミナール「房総の常緑樹林で森林動態を学ぶ」 | 東京大学 | 教養学部 | 全科類 | 1, 2 | 軽込勉 | オンラインと千葉で現地開催 |
| 全学体験ゼミナール「危険生物の知識（秋編）」 | 東京大学 | 教養学部 | 全科類 | 1, 2 | 鶴見康幸 | |
| 全学体験ゼミナール「房総の森と生業（なりわい）を学ぶ」 | 東京大学 | 教養学部 | 全科類 | 1, 2 | 藤平晃司・塚越剛史・阿達康眞・村川功雄・鈴木祐紀・鶴見康幸・嶋崎拓・岡田康則・鈴木愛 | オンラインと千葉で現地開催 |
| 全学体験ゼミナール「雪の森林に学ぶ～北海道演習林」 | 東京大学 | 教養学部 | 全科類 | 1, 2 | 松井理生・井口和信・犬飼慎也・木村徳志・木村恒太 | オンライン |
| 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ（夏）伊豆編 S1」 | 東京大学 | 教養学部 | 全科類 | 1, 2 | 村瀬一隆・渡邊良広・辻和明・江口由典 | |
| 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ（夏）伊豆編 S2」 | 東京大学 | 教養学部 | 全科類 | 1, 2 | 村瀬一隆・渡邊良広・辻和明・江口由典 | |
| 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ」熱帯植物編1」 | 東京大学 | 教養学部 | 全科類 | 1, 2 | 村瀬一隆・渡邊良広・辻和明・江口由典 | |
| 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ」熱帯植物編2」 | 東京大学 | 教養学部 | 全科類 | 1, 2 | 村瀬一隆・渡邊良広・辻和明・江口由典 | |
| 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ」竹林管理・炭焼き編1」 | 東京大学 | 教養学部 | 全科類 | 1, 2 | 村瀬一隆・渡邊良広・辻和明・江口由典 | |
| 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ」竹林管理・炭焼き編2」 | 東京大学 | 教養学部 | 全科類 | 1, 2 | 村瀬一隆・渡邊良広・辻和明・江口由典 | |
| 全学体験ゼミナール「体験して考える森林ガイドボランティアの現在と未来」 | 東京大学 | 教養学部 | 全科類 | 1, 2 | 相川美絵子・栗田直明・石浦恭子・川村啓 | |
| 全学体験ゼミナール「体験して考える森林ガイドボランティアの現在と未来（秋）」 | 東京大学 | 教養学部 | 全科類 | 1, 2 | 相川美絵子・栗田直明・石浦恭子・川村啓 | |

| 科目名 | 大学名 | 学部等 | 学科等 | 学年 | 対応教職員 | 備考 |
|-------------------|------|------|----------|---------|------------|---------|
| 高校生と大学生のための金曜特別講座 | 東京大学 | 教養学部 | | 大学生、高校生 | 蔵治光一郎 | オンライン |
| 国際農学実験・実習 I 個別実験 | 東京大学 | 農学部 | 国際開発農学専修 | 3 | 齋藤純子・柴田ゆう子 | 富士で現地開催 |

5) 4 研究室の所属メンバー

森林圏生態学研究室

| | |
|--------|----------------------|
| 教授 | 鎌田 直人 |
| 准教授 | 後藤 晋 |
| 講師 | 平尾 聡秀 |
| 講師 | 福井 大 |
| 助教 | 前原 忠 |
| 助教 | 久本 洋子 |
| 助教 | 鈴木 智之 |
| 博士 2 年 | 陳 淑芬 |
| 博士 2 年 | 牧 貴大 |
| 修士 2 年 | 塚本 宝 |
| 修士 2 年 | 吉田 拓矢 |
| 修士 2 年 | Paing Aye Myat Myat |
| 修士 2 年 | 稲田 涼吾 |
| 修士 2 年 | 三宮 望 |
| 修士 1 年 | 竹内 虎輔 |
| 修士 1 年 | 森川 周 |
| 修士 1 年 | Andreas Ade Kristian |
| 学部 4 年 | 上野 大輔 |
| 学部 4 年 | 齋藤 周 |

森林圏生態社会学研究室

| | |
|--------|--------|
| 教授 | 石橋 整司 |
| 准教授 | 安村 直樹 |
| 講師 | 齋藤 暖生 |
| 助教 | 藤原 章雄 |
| 助教 | 當山 啓介 |
| 修士 2 年 | 徐 喬逸 |
| 修士 2 年 | 陳 田 |
| 修士 2 年 | 劉 馨遥 |
| 修士 1 年 | 蔡 寧馨 |
| 修士 1 年 | 高 涵 |
| 修士 1 年 | 查 世昊 |
| 学部 4 年 | 竹ノ内 亮太 |
| 学部 4 年 | 上妻 誠也 |
| 研究生 | 陳 悦如 |
| 研究生 | 尤 曉安 |
| 研究生 | 倪 寬 |
| 研究生 | 劉 衡 |
| 研究生 | 胡 睿喆 |
| 研究生 | 張 珂 |
| 研究生 | 蘆 美靈 |
| 研究生 | 曹 偲 |
| 研究生 | 卑 依璠 |
| 研究生 | 張 嘯宇 |
| 特別聴講学生 | 陳 方怡 |
| 特別聴講学生 | 弥 勍成 |

森林生物機能学研究室

| | |
|--------|-------|
| 教授 | 山田 利博 |
| 准教授 | 嶋田 重裕 |
| 講師 | 楠本 大 |
| 助教 | 坂上 大翼 |
| 助教 | 井上 広喜 |
| 助教 | 竹本 周平 |
| 修士 1 年 | 戴 健平 |
| 学部 4 年 | 坂巻 実佳 |

森林流域管理学研究室

| | |
|----------|--------------------------|
| 教授 | 蔵治 光一郎 |
| 准教授 | 尾張 敏章 |
| 講師 | 広嶋 卓也 |
| 講師 | 浅野 友子 |
| 講師 | 田中 延亮 |
| 助教 | 三浦 直子 |
| 助教 | 水内 佑輔 |
| 特任助教 | 佐藤 貴紀 |
| 博士 2/3 年 | Pei Huiqing |
| 博士 1/2 年 | Nyo Me Htun |
| 修士 2 年 | 潘 濟楚 |
| 修士 1 年 | Ibtisam Binti Mohd Ghaus |
| 研究生 | 張 遠哲 |

6) 所属学生の学位論文

修士論文

| 学生氏名 | 研究課題 |
|------------------------|--|
| 稲田 涼吾 | 枯死後の経過年数が異なるコナラから羽化する甲虫相 |
| 三宮 望 | 日本産コウモリ類の分布推定と将来予測 |
| 徐 喬逸 | 名古屋木材市場の性格の変化とその要因 |
| 陳 田 | 竹林拡大対策の地域性に関する分析 |
| 塚本 宝 | ライム病ボレリアを媒介するシュルツマダニの歴史的な集団動態と遺伝構造に影響を及ぼす要因の解明 |
| Paing Aye Myat Myat | Evaluating the effects of global warming on survival and growth of <i>Betula ermanii</i> based on range-wide provenance trials (広域産地試験データに基づく地球温暖化がダケカンバの生存と成長に及ぼす影響の評価) |
| 潘 濟楚 | Effects of thinning on rainfall partitioning in a dense unmanaged Japanese cypress plantation |
| 吉田 拓矢 | シカ食害下の森林における送粉サービスのソース・シンク効果 |
| 劉 馨遙 | 浮世絵を資料とした江戸末期の樹木環境の推定復元 |

卒業論文

| 学生氏名 | 研究課題 |
|--------|---|
| 上野 大輔 | 同所的に生息するキョンとシカの日周活動と行動様式の比較 |
| 上妻 誠也 | 合併が森林組合の組織運営と林業機械導入にもたらす影響 一鹿児島県を事例として一 |
| 齋藤 周 | 人間活動がニホンジカの行動様式と日周性に及ぼす影響 |
| 竹ノ内 亮太 | 近代建築の実態と保全上の課題 登録有形文化財に着目して |
| 坂巻 実佳 | 国産ユーカリの物理的・生理的特性の評価 |

7) 森林生態圏管理学大講座ゼミ

第1回 (2021年4月16日(金) 13:00~16:30/森林圏生態社会学研究室)

| 発表者 | 所属・学年 | 演題 |
|-------|-----------|-------------------------------------|
| 石橋 整司 | 田無演習林 | 2020年6月に撮影されたクマ剥ぎ動画 |
| 齋藤 暖生 | 富士癒しの森研究所 | COVID-19状況下における人と緑地・自然環境に関するレビュー |
| 當山 啓介 | 千葉演習林 | 森林蓄積量は、なかなかわからないというお話：千葉演習林の歴代計画も例に |
| 安村 直樹 | 生態水文学研究所 | センダンの造林利回り |

第2回 (2020年5月21日(金) 13:00~16:30/森林圏生態学研究室)

| 発表者 | 所属・学年 | 演題 |
|-------|--------|---|
| 陳 淑芬 | 生圏・D2 | The selection of superior individuals based on paternity analysis in hybrid larch open-pollinated orchard (グイマツ雑種F1の採種園における父性分析に基づく優良個体の選択) |
| 牧 貴大 | 生圏・D2 | 日本列島におけるコウモリ類のマクロスケールでの多様性パターン |
| 福井 大 | 北海道演習林 | コウモリの進化 |
| 鈴木 智之 | 北海道演習林 | 北海道演習林における択伐施業が枯損量に与える影響 |

第3回 (2020年6月18日(金) 13:00~15:30/森林生物機能学研究室)

| 発表者 | 所属・学年 | 演題 |
|-------|-------|-----------------------------|
| 嶋田 重裕 | 樹芸研究所 | 日本にユーカリを植えよう |
| 楠本 大 | 千葉演習林 | ナラ枯れによるマテバシイの枯死について |
| 坂上 大翼 | 秩父演習林 | 苗床における日本産主要針葉樹苗に対する熱傷害発生リスク |

第4回 (2020年7月16日(金) 13:00~16:10/森林流域管理学研究室)

| 発表者 | 所属・学年 | 演題 |
|-------------|-------------|--|
| 水内 佑輔 | 生態水文学研究所 | 明治神宮の風致調査の今後に向けて |
| Pei Huiqing | IPADS・D2/D3 | Forest stand type and above ground biomass estimation using deep learning methods based on multi-remote sensing data |
| 尾張 敏章 | 北海道演習林 | 林分施業法の60年 |
| 佐藤 貴紀 | 生態水文学研究所 | ヒノキ人工林における土砂流出観測結果のMUSLEの適用 |
| 浅野 友子 | 秩父演習林 | 付加体堆積岩からなり起伏大な秩父山地では、流域面積が大きいほど洪水比流量が大きい |

| 第5回 (2020年9月17日(金) 13:00~16:30/森林圏生態社会学研究室) | | |
|---|----------------|--|
| 発表者 | 所属・学年 | 演題 |
| 高 涵 | 生圏・M1 | 日本における銘木の流通構造 |
| 查 世昊 | 生圏・M1 | 森林計画制度と各自治体の森林政策に関する分析ー森林・林業基本計画の比較検討 |
| 蔡 寧馨 | 生圏・M1 | 巨木の持つ価値の形成過程に関する研究 |
| 柴崎 茂光 | 林政学研究室 | 自然に関する文化的資産の保全 自然に関する文化的資産の保全と教育・観光資源化の可能性 -林業遺産を事例として- |
| 藤原 章雄 | フィールドデータ研究センター | オープンアクセス (OA) を取り巻く歴史と現状 |
| 第6回 (2020年10月22日(金) 13:00~15:40/森林圏生態学研究室) | | |
| 発表者 | 所属・学年 | 演題 |
| 鎌田 直人 | 千葉演習林 | ナラ枯れとカシノナガキクイムシの生態 |
| 後藤 晋 | 大学教育・社会連携センター | 外国樹種人工林からの天然林再生：ストロブマツ人工林の事例 |
| 久本 洋子 | 千葉演習林 | トドマツの 高温・乾燥ストレスに関わる 遺伝子発現解析 |
| 平尾 聡秀 | 秩父演習林 | 中大型哺乳類の日周活動パターンの種間差と時空間的な変動 |
| 第7回 (2020年11月19日(金) 13:00~16:20/森林流域管理学研究室) | | |
| 発表者 | 所属・学年 | 演題 |
| Nyo Me Htun | IPADS・D1 | Self-introduction |
| 蔵治 光一郎 | 企画部 | 皆伐が保水力と表層崩壊に及ぼす影響 |
| Moein Farahnak | 生態水文学研究所・特任研究員 | Soil water repellency in the managed and unmanaged Japanese cypress plantation (管理されたおよび管理されていないヒノキ林におけるの土壌撥水性) |
| Ibtisam Binti Mohd Ghaus | 生圏・M1 | Streamflow discharge responses to thinning treatment in unmanaged Japanese conifer plantation (管理放棄された針葉樹人工林における間伐に対する河川流量の応答) |
| 田中 延亮 | 北海道演習林 | 気象露場近傍の障害物が気温計測値に与える影響：北海道演習林の樹木園新旧露場の比較 |
| 三浦 直子 | 富士癒しの森研究所 | 時系列 UAV データを用いた半自然草地のススキの草丈とバイオマスの推定 |

第8回 (2020年12月17日(金) 9:00~16:40/修士論文発表)

| 発表者 | 所属・学年 | 演題 |
|---------------------|-------|---|
| 塚本 宝 | 森林・M2 | ライム病ボレリアと媒介者であるシュルツェマダニの相互作用の地理的変異の解明 |
| 吉田 拓矢 | 生圏・M2 | シカ食害下の森林における送粉サービスのソース・シンク効果の解明 |
| 潘 濟楚 | 森林・M2 | Effects of thinning on rainfall partitioning in dense unmanaged Japanese cypress plantation |
| 三宮 望 | 生圏・M2 | 日本産コウモリ類の分布推定と将来予測 |
| 徐 喬逸 | 生圏・M2 | 名古屋木材市場を中心に見る木材流通の変遷とその要因 |
| 陳 田 | 生圏・M2 | 竹林拡大対策の地域性に関する分析 |
| 劉 馨遥 | 生圏・M2 | 浮世絵を資料とした江戸末期の樹木環境の推定復元 |
| Paing Aye Myat Myat | 生圏・M2 | Evaluating the effects of global warming on survival and growth of <i>Betula ermanii</i> based on large scale provenance trials (大規模産地試験に基づく地球温暖化がダケカンバの生存と成長に及ぼす影響の評価) |
| 稲田 涼吾 | 生圏・M2 | 枯死後の経過年数が異なるコナラから羽化する甲虫の食性ギルドの比較 |

第9回 (2021年1月7日(金) 13:00~15:50/卒業論文発表)

| 発表者 | 所属・学年 | 演題 |
|--------|-------|------------------------------------|
| 上野 大輔 | 森林・B4 | キョンの密度増加の生態的要因の解明 |
| 齋藤 周 | 森林・B4 | 人間活動がニホンジカの行動様式と日周性に及ぼす影響 |
| 竹ノ内 亮太 | 森林・B4 | 近代建築の実態と保全上の課題 登録有形文化財に着目して |
| 上妻 誠也 | 森林・B4 | 森林組合の組織運営と機械化における合併の意義-鹿児島県を事例として- |
| 坂巻 実佳 | 国際・B4 | 国産ユーカリの物理的・生理的特性の評価 |

第10回 (2021年1月21日(金) 13:00~15:30/森林生物機能学研究室)

| 発表者 | 所属・学年 | 演題 |
|-------|-------|---|
| 山田 利博 | 秩父演習林 | 東京大学演習林での福島原発事故後10年の野生きのこの放射性セシウム推移 |
| 井上 広喜 | 樹芸研究所 | <i>Eucalyptus elata</i> の in vitro クローン増殖 |
| 戴 健平 | 森林・M1 | クマ剥ぎによるヒノキ腐朽の生物防除 |
| 竹本 周平 | 田無演習林 | 外国産コナラ属樹種はナラ枯れに弱いのか |

第 11 回 (2021 年 2 月 18 日 (金) 13 : 00 ~ 16 : 10 / 森林圏生態学研究室)

| 発表者 | 所属・学年 | 演題 |
|-------------------------|----------|--|
| 竹内 虎輔 | 森林・M1 | 東日本におけるミネカエデ類の遺伝構造 |
| 森川 周 | 生圏・M1 | 自然環境下における人間活動がホンドテンに与える影響の解明 |
| 久保田 耕平 | 森林動物学研究室 | ルリクワガタ属とその共生酵母の共進化的関係 |
| Andreas Ade Kristian | 森林・M1 | Seasonal occurrence of flying <i>Platypus quercivorus</i> adults and their body sizes (飛翔するカシノナガキクイムシ成虫の数と体サイズの季節変動) |

今年度の演習林ゼミはすべてオンラインで実施された。

8) 演習林教育研究センターゼミ

| 月 | 日 | 内容 | 発表者 |
|----|----|-----------------------|---|
| | 2 | ガイダンス | 全員 |
| 4 | 9 | スタッフ紹介・環境安全MS・新入生自己紹介 | 全員 |
| | 23 | 研究進捗報告 | 劉 馨遥 |
| | | 研究進捗報告 | 徐 喬逸 |
| 5 | 7 | わかりやすいプレゼンテーションの基本 | 前原 忠 |
| | 28 | 研究進捗報告 | 陳 田 |
| | | 学生・教員交流 | 全員 |
| | 4 | 研究進捗報告 | Paing Aye Myat Myat |
| | | 研究進捗報告 | 陳 淑芬 |
| 6 | 11 | R 講習会 (超初心者向け) | 後藤 晋 |
| | 25 | 研究進捗報告 | 坂巻 実佳・Ibtisam Binti Mohd Ghaus・Andreas Ade Kristian |
| | 2 | 研究進捗報告 | 吉田 拓矢・竹内 虎輔 |
| | 9 | 研究進捗報告 | 塚本 宝・牧 貴大・森川 周 |
| 7 | 27 | 研究進捗報告 | 三宮 望・蔡 寧馨・上妻 誠也 |
| | 30 | 研究進捗報告 | 稲田 涼吾・査 世昊・上野 大輔・高 涵・戴 健平・潘 濟楚 |
| | 3 | ガイダンス・環境安全MS | 全員 |
| | | 文献の探し方・使い方 | 後藤 晋 |
| 9 | 10 | 文献の整理法 | 前原 忠 |
| | 24 | 研究進捗報告 | 劉 馨遥 |
| | | 研究進捗報告 | 陳 田 |
| | 1 | 学生・教員交流 | 全員 |
| | | 研究進捗報告 | Paing Aye Myat Myat |
| 10 | 8 | 自己紹介 | 新入生 |
| | 15 | 研究進捗報告 | 徐 喬逸 |
| | 29 | 研究進捗報告 | 稲田 涼吾 |
| | 5 | 研究進捗報告 | 高 涵・三宮 望・牧 貴大 |
| 11 | 12 | 研究進捗報告 | 査 世昊 |
| | 26 | 研究進捗報告 | 竹内 虎輔・潘 濟楚・蔡 寧馨・陳 淑芬 |
| | 3 | 研究進捗報告 | 坂巻 実佳・齋藤 周・吉田 拓矢・塚本 宝 |
| | 10 | 研究進捗報告 | 上妻 誠也・上野 大輔・森川 周 |
| 12 | 24 | 研究進捗報告 | 戴 健平・Ibtisam Binti Mohd Ghaus・Andreas Ade Kristian・竹ノ内 亮太 |

| 月 | 日 | 内容 | 発表者 |
|---|----|--------|---|
| | 20 | 修論発表練習 | 塚本 宝・潘 濟楚 |
| | 22 | 修論発表練習 | 塚本 宝・潘 濟楚 |
| 1 | 24 | 修論発表練習 | 稲田 涼吾・三宮 望・Paing Aye Myat Myat・吉田 拓矢・徐 喬逸・陳 田・劉 馨遙 |
| | 26 | 修論発表練習 | 稲田 涼吾・Paing Aye Myat Myat・吉田 拓矢・徐 喬逸・陳 田・劉 馨遙・三宮 望 |
| 2 | 2 | 卒論発表練習 | 上野 大輔・上妻 誠也・齋藤 周・坂卷 実佳・竹ノ内 亮太 |
| | 5 | 卒論発表練習 | 上野 大輔・齋藤 周・坂卷 実佳・上妻 誠也・竹ノ内 亮太 |

9) 実習等

| 演習林名 | 学校名 | 科目名 | 学部等 | 学科等 | 学年 | 学生数 | 実施月 | 日数 | 備考 |
|--------|------|--|-----------|-------------------------------|----------|-----|-----|----|-----------------|
| 千葉演習林 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール「危険生物の知識（春編）」 | 教養学部 | | 1・2年 | 10 | 5月 | 1 | |
| 千葉演習林 | 東京大学 | 総合科目「森林環境資源学」 | 教養学部 | | 1・2年 | 28 | 6月 | 2 | 19-20日で日帰り2日間利用 |
| 千葉演習林 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール「徹底検証・スギ&ヒノキ〜もっと知ろう、木材のこと〜」 | 教養学部 | | 1・2年 | 4 | 6月 | 1 | |
| 千葉演習林 | 東京大学 | 地球惑星環境学科野外調査実習 I | 理学部 | 地球惑星環境学科 | 大学院生3・4年 | 97 | 8月 | 6 | |
| 千葉演習林 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール「房総の常緑樹林で森林動態を学ぶ」（オンラインによる実習を含む） | 教養学部 | | 1・2年 | 58 | 8月 | 5 | 10・18日で日帰り2日間利用 |
| 千葉演習林 | 東京大学 | 森林科学基礎実習 I | 農学部 | 森林系2専修 | 3年 | 28 | 9月 | 3 | |
| 千葉演習林 | 東京大学 | バイオマス科学実習・森林科学実習（オンライン） | 農学部 | 生物素材化学専修・木質構造科学専修 | 3年 | 16 | 9月 | 1 | |
| 千葉演習林 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール「危険生物の知識（秋編）」 | 教養学部 | | 1・2年 | 10 | 10月 | 1 | |
| 千葉演習林 | 千葉大学 | 地質学野外実験Ⅱ、地殻構造学野外実験Ⅰ | 理学部 | 地球科学科 | 大学院生3・4年 | 21 | 10月 | 3 | |
| 千葉演習林 | 東京大学 | 生圏システム学特論 | 農学生命科学研究科 | 生圏システム学専攻 | 大学院生 | 11 | 10月 | 1 | |
| 千葉演習林 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール「森のエネルギーを使いこなす」 | 教養学部 | | 1・2年 | 20 | 11月 | 2 | 6-7日で日帰り2日間利用 |
| 千葉演習林 | 東京大学 | 森圏管理学実習 | 農学部 | フィールド科学専修 | 3年 | 7 | 12月 | 1 | |
| 千葉演習林 | 東京大学 | 総合科目「森林環境資源学」 | 教養学部 | | 1・2年 | 28 | 12月 | 2 | 11-12日で日帰り2日間利用 |
| 千葉演習林 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール「房総の森と生業（なりわい）を学ぶ」（オンラインによる実習を含む） | 教養学部 | | 1・2年 | 31 | 2月 | 4 | 7・9日で日帰り2日間利用 |
| 北海道演習林 | 東京大学 | 森林生態圏管理学「空間情報技術を用いた森林情報の管理」 | 農学部 | 森林生物科学専修・森林環境資源科学専修・フィールド科学専修 | 3年 | 26 | 6月 | 1 | |
| 北海道演習林 | 東京大学 | 森林科学総合実習（オンライン） | 農学部 | 森林生物科学専修・森林環境資源科学専修 | 3年 | 5 | 9月 | 3 | |

| 演習林名 | 学校名 | 科目名 | 学部等 | 学科等 | 学年 | 学生数 | 実施月 | 日数 | 備考 |
|--------|------|---|-----------|---------------------|------|-----|------|----|---------------------------|
| 北海道演習林 | 東京大学 | バイオマス科学実習・森林科学実習（オンライン） | 農学部 | 生物素材科学専修・木質構造科学専修 | 3年 | 17 | 9月 | 1 | |
| 北海道演習林 | 東京大学 | 森林環境科学汎論（オンライン） | 農学部 | | 2年 | 79 | 10月 | 1 | |
| 北海道演習林 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール「雪の森林に学ぶ」（オンライン） | 教養学部 | | 1・2年 | 20 | 3月 | 3 | |
| 秩父演習林 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール「春の秩父を巡る」 | 教養学部 | | 1・2年 | 7 | 5月 | 2 | ※日帰り |
| 秩父演習林 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール「春の秩父を巡る」 | 教養学部 | | 1・2年 | 6 | 6月 | 1 | |
| 秩父演習林 | 東京大学 | 森林科学基礎実習 III | 農学部 | 森林生物科学専修・森林環境資源科学専修 | 3年 | 11 | 9月 | 1 | |
| 秩父演習林 | 東京大学 | バイオマス科学実習・森林科学実習 | 農学部 | 生物素材化学専修・木質構造科学専修 | 3年 | 17 | 9月 | 1 | |
| 秩父演習林 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール「秋の秩父を巡る」 | 教養学部 | | 1・2年 | 7 | 10月 | 3 | ※日帰り |
| 秩父演習林 | 東京大学 | 国際農学実験・実習 I 個別実験 | 農学部 | 国際開発農学専修 | 3年 | 3 | 10月 | 2 | ※宿泊 |
| 秩父演習林 | 東京大学 | 森圏管理学実習 | 農学部 | フィールド科学専修 | 3年 | 9 | 10 | 1 | |
| 秩父演習林 | 東京大学 | 森林圏水循環機能学 | 農学生命科学研究科 | 森林科学専攻・生圏システム専攻 | 大学院生 | 7 | 12月 | 2 | ※日帰り |
| 田無演習林 | 東京大学 | 森林科学基礎実習 I | 農学部 | 森林生物科学専修・森林環境資源科学専修 | 3年 | 13 | 4,5月 | 3 | ※履修13名に加え2名がオプザーバ参加 |
| 田無演習林 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール「体験して考える森林ガイドボランティアの現在と未来」 | 教養学部 | | 1・2年 | 10 | 4-6月 | 3 | |
| 田無演習林 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール「危険生物の知識（春編）」 | 教養学部 | | 1・2年 | 10 | 5月 | 1 | |
| 田無演習林 | 東京大学 | 森林生態圏管理学特論 | 農学生命科学研究科 | 森林科学専攻 | 修士 | 13 | 5月 | 3 | ※13名を3グループに分け、1日1グループずつ実施 |
| 田無演習林 | 東京大学 | 森林科学基礎実習 III | 農学部 | 森林生物科学専修・森林環境資源科学専修 | 3年 | 12 | 9月 | 1 | |
| 田無演習林 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール「危険生物の知識（秋編）」 | 教養学部 | | 1・2年 | 10 | 10月 | 1 | |
| 田無演習林 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール「体験して考える森林ガイドボランティアの現在と未来-秋編-」 | 教養学部 | | 1・2年 | 1 | 10月 | 3 | |

| 演習林名 | 学校名 | 科目名 | 学部等 | 学科等 | 学年 | 学生数 | 実施月 | 日数 | 備考 |
|-----------|------|--|-----------|---------------------|------|-----|-----|----|----|
| 田無演習林 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール「森の魅力のマッピング～GPSを使ったオリジナル地図づくり～」 | 教養学部 | | 1・2年 | 5 | 11月 | 1 | |
| 田無演習林 | 東京大学 | 2021年度森林二専修内定者用クラスルーム | 農学部 | 森林生物科学専修・森林環境資源科学専修 | 2年 | 14 | 11月 | 1 | |
| 田無演習林 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール「人の手で作り管理する森林-武蔵野編」 | 教養学部 | 文科,理科 | 1・2年 | 6 | 11月 | 1 | |
| 田無演習林 | 東京大学 | 森林土壌学実験 | 農学部 | 森林生物科学専修・森林環境資源科学専修 | 4年 | 4 | 12月 | 1 | |
| 田無演習林 | 東京大学 | 緑地環境実地実習 | 農学部 | 緑地環境学専修 | 3年 | 6 | 1月 | 1 | |
| 富士癒しの森研究所 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール「危険生物の知識(春編)」 | 教養学部 | | 1・2年 | 10 | 5月 | 1 | |
| 富士癒しの森研究所 | 東京大学 | 総合科目「森林資源学」フィールドワーク1「森と癒し」 | 教養学部 | | 1・2年 | 20 | 6月 | 2 | |
| 富士癒しの森研究所 | 東京大学 | 森林科学基礎実習Ⅲ | 農学部 | 森林生物科学専修・森林環境資源科学専修 | 3年 | 16 | 7月 | 3 | |
| 富士癒しの森研究所 | 東京大学 | 東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻「地球観測実習」 | 理学部 | | 大学院生 | 1 | 8月 | 2 | |
| 富士癒しの森研究所 | 東京大学 | 森圏管理学実習 | 農学部 | フィールド科学専修 | 3・4年 | 7 | 8月 | 3 | |
| 富士癒しの森研究所 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール「東大の別荘「癒しの森」で心も体もリフレッシュ」 | 教養学部 | | 1・2年 | 19 | 9月 | 1 | |
| 富士癒しの森研究所 | 東京大学 | 国際農学実験実習Ⅰ個別実験 | 農学部 | 国際開発農学専修 | 3年 | 1 | 9月 | 2 | |
| 富士癒しの森研究所 | 東京大学 | 森林科学基礎実習Ⅳ(オンライン) | 農学部 | 森林系2専修 | 3年 | 13 | 9月 | 2 | |
| 富士癒しの森研究所 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール「危険生物の知識(秋編)」 | 教養学部 | | 1・2年 | 10 | 10月 | 1 | |
| 富士癒しの森研究所 | 東京大学 | 森林風景計画実習 | 農学部 | 森林系2専修 | 3・4年 | 6 | 10月 | 4 | |
| 富士癒しの森研究所 | 東京大学 | 森林圏生態社会学特別演習 | 農学生命科学研究科 | 森林科学専攻・生圏システム学専攻 | 大学院生 | 8 | 11月 | 3 | |
| 富士癒しの森研究所 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール「森のエネルギーを使いこなす」 | 教養学部 | | 1・2年 | 20 | 11月 | 2 | |
| 富士癒しの森研究所 | 東京大学 | 森林政策学演習 | 農学部 | 森林生物科学専修・森林環境資源科学専修 | 3年 | 4 | 11月 | 2 | |
| 樹芸研究所 | 東京大学 | 全学体験ゼミ「伊豆に学ぶ伊豆編 S1」 | 教養学部 | | 1・2年 | 24 | 4月 | 2 | |

| 演習林名 | 学校名 | 科目名 | 学部等 | 学科等 | 学年 | 学生数 | 実施月 | 日数 | 備考 |
|-------|------|-----------------------------------|------|---------------------|------|-----|-------|----|----|
| 樹芸研究所 | 東京大学 | 全学体験ゼミ「伊豆に学ぶ伊豆編 S1」 | 教養学部 | | 1・2年 | 24 | 4月 | 2 | |
| 樹芸研究所 | 東京大学 | 全学体験ゼミ「森に学ぶ(森林・林業を意識して歩く低山歩き) S2」 | 教養学部 | | 1・2年 | 17 | 6月 | 1 | |
| 樹芸研究所 | 東京大学 | 全学体験ゼミ「森に学ぶ(森林・林業を意識して歩く低山歩き) S2」 | 教養学部 | | 1・2年 | 17 | 7月 | 1 | |
| 樹芸研究所 | 東京大学 | 森林実習 | 農学部 | 国際開発農学専修 | 3年 | 84 | 8・9月 | 4 | |
| 樹芸研究所 | 東京大学 | 全学体験ゼミ「伊豆に学ぶ伊豆編 s 2」 | 教養学部 | | 1・2年 | 16 | 9月 | 2 | |
| 樹芸研究所 | 東京大学 | 全学体験ゼミ「森に学ぶ(森林・林業を意識しながら歩く低山 S2)」 | 教養学部 | | 1・2年 | 5 | 9月 | 1 | |
| 樹芸研究所 | 東京大学 | 全学体験ゼミ「森に学ぶ(SDG s と林業を意識する低山歩き)」 | 教養学部 | | 1・2年 | 28 | 10月 | 2 | |
| 樹芸研究所 | 東京大学 | 全学体験ゼミ「森に学ぶ(SDG s と林業を意識する低山歩き)」 | 教養学部 | | 1・2年 | 26 | 11月 | 2 | |
| 樹芸研究所 | 東京大学 | 全学体験ゼミ「森に学ぶ(SDG s と林業を意識する低山歩き)」 | 教養学部 | | 1・2年 | 26 | 12月 | 2 | |
| 樹芸研究所 | 東京大学 | 全学体験ゼミ「伊豆に学ぶー熱帯植物編①」 | 教養学部 | | 1・2年 | 24 | 12・1月 | 2 | |
| 樹芸研究所 | 東京大学 | 森林土壌学実験 | 農学部 | 森林生物科学専修・森林環境資源科学専修 | 4年 | 10 | 1月 | 2 | |
| 樹芸研究所 | 東京大学 | 全学体験ゼミ「伊豆に学ぶー熱帯植物編②」 | 教養学部 | | 1・2年 | 27 | 1・2月 | 2 | |
| 樹芸研究所 | 東京大学 | 全学体験ゼミ「伊豆に学ぶー竹林管理・炭焼き編①」 | 教養学部 | | 1・2年 | | 2月 | 2 | |
| 樹芸研究所 | 東京大学 | 全学体験ゼミ「伊豆に学ぶー竹林管理・炭焼き編②」 | 教養学部 | | 1・2年 | | 2・3月 | 2 | |

2. 研究

1) 教職員の論文等

| 発表者全氏名 | 題目 | 誌名 | 巻—号 | 頁 | 発行年 |
|--|--|--|--------|-----------|------|
| Shigyo N, Hirao T | Saprotrophic and ectomycorrhizal fungi exhibit contrasting richness patterns along elevational gradients in cool-temperate montane forests | Fungal Ecology | 50 | 101036 | 2021 |
| Oda T, Egusa T, Ohte N, Hotta N, Tanaka N, Green MB, Suzuki M | Effects of changes in canopy interception on stream runoff response and recovery following clear-cutting of a Japanese coniferous forest in Fukuroyamasawa Experimental Watershed in Japan | Hydrological Processes | 35 | e14177 | 2021 |
| Nainar A, Tanaka N, Sato T, Mizuuchi Y, Kuraji K | A comparison of hydrological characteristics between a cypress and mixed-broadleaf forest: Implication on water resource and floods | Journal of Hydrology | 595 | 125679 | 2021 |
| Nainar A, Kishimoto K, Takahashi K, Gomyo M, Kuraji K | How do ground litter and canopy cover regulate surface runoff? – a paired-plot investigation after 80 years of forest regeneration | Water | 13 (9) | 1205 | 2021 |
| Hino T, Kanno Y, Abe S, Abe T, Enoki T, Hirao T, Hiura T, Hoshizaki K, Ida H, Ishida K, Maki M, Masaki T, Naoe S, Noguchi M, Otani T, Sato T, Sakimoto M, Sakio H, Takagi M, Takashima A, Tokuchi N, Utsumi S, Hidaka A, Nakamura M | Assessing insect herbivory on broadleaf canopy trees at 19 natural forest sites across Japan | Ecological Research | 36 (3) | 562–572 | 2021 |
| Nakanishi A, Goto S, Sumiyoshi C, Isagi Y | Directional seed and pollen dispersal and their separate effects on anisotropy of fine-scale spatial genetic structure among seedlings in a dioecious, wind-pollinated, and wind-dispersed tree species, <i>Cercidiphyllum japonicum</i> | Ecology and Evolution | 11 | 7754–7767 | 2021 |
| Miura N, Koyanagi TF, Yamada S, Yokota S | Classification of Grass and Forb Species on Riverdike Using UAV LiDAR-Based Structural Indices | International Journal of Automation Technology | 15 | 268–273 | 2021 |
| Gugliuzzo A, Biedermann PHW, Carrillo D, Castrillo LA, Egonyu JP, Gallego D, Haddi K, Hulcr J, Jactel H, Kajimura H, Kamata N, Meurisse N, Li Y, Oliver JB, Ranger CM, Rassati D, Stelinski LL, Sutherland R, Garzia GT, Wright MG, Biondi A | Recent advances toward the sustainable management of invasive <i>Xylosandrus</i> ambrosia beetles | Journal of Pest Science | 94 | 615–637 | 2021 |
| Saragih SA, Takemoto S, Kusumoto D, Kamata N | Fungal diversity in the mycangium of an ambrosia beetle <i>Xylosandrus crassiusculus</i> (Coleoptera: Curculionidae) in Japan during their late dispersal season | Symbiosis | 84 (1) | 111–118 | 2021 |
| Suzuki M, Karukome T, Fujihira K, Mitsugi M, Hisamoto Y | Clear-cutting triggers regeneration of abandoned secondary forests but risks alternative successional trajectories with high deer density | Applied Vegetation Science | 24 (3) | e12596 | 2021 |

| 発表者全氏名 | 題目 | 誌名 | 巻一号 | 頁 | 発行年 |
|---|---|--|---------|-----------|------|
| Matsuda H, Elsayed AM, Kim WG, Yamauchi S, Libra M, Kamata N, Yukawa J, Tokuda M | A new species of Pseudasphondylia (Diptera: Cecidomyiidae) associated with <i>Magnolia kobus</i> DC. var. <i>borealis</i> Sarg. (Magnoliaceae) in Japan | Biodiversity Data Journal | 9 | e68016 | 2021 |
| Abe T, Volf M, Libra M, Kumar R, Abe H, Fukushima H, Lilip R, Salminen JP, Novotny V, Kamata N, Murakami M | Effects of plant traits on caterpillar communities depend on host specialisation | Insect Conservation and Diversity | 14 | 756-767 | 2021 |
| Ishizuka W, Kon H, Kita K, Kuromaru M, Goto S | Local adaptation to contrasting climatic conditions in Sakhalin fir (<i>Abies sachalinensis</i>) revealed by long-term provenance trials | Ecological Research | 36(4) | 720-732 | 2021 |
| Matsunaga H, Matsuo N, Nakai T, Yoshifuji N, Tanaka N, Tanaka K, Tantasirin C | Absorption and emission of water vapor from the bark of teak (<i>Tectona grandis</i>), a deciduous tree, in a tropical region during the dry season | Hydrological Research Letters | 15 | 58-63 | 2021 |
| Mizuuchi Y, Nakamura KW | Landscape assessment of a 100-year-old sacred forest within a shrine using geotagged visitor employed photography | Journal of Forest Research | 26(4) | 267-277 | 2021 |
| Torii M, Kusumoto D, Yamada T | Variation in virulence and its relation to hyphal growth and enzyme activity of <i>Raffaelea quercivora</i> , a Japanese oak wilt pathogen | Forest Pathology | 51(4) | e12702 | 2021 |
| Goto S, Mori H, Uchiyama K, Ishizuka W, Taneda H, Kono M, Kajiyama-Kanegae H, Iwata H | Genetic dissection of growth and eco-physiological traits associated with altitudinal adaptation in Sakhalin fir (<i>Abies sachalinensis</i>) based on QTL mapping | Genes | 12(8) | 1110 | 2021 |
| Parhizkar M, Shabanpour M, Lucas-Borja ME, Zema DA, Li SY, Tanaka N, Cerdà A | Effects of size and rate of rice straw mulch on surface runoff and soil loss under laboratory simulated rainfall | International Journal of Sediment Research | 36 | 468-478 | 2021 |
| Paing AMM, Chen SF, Tsumura Y, Tomaru N, Homma K, Kadomatsu M, Yoshida T, Kobayashi H, Iio A, Osumi K, Taneda H, Hisamoto Y, Goto S | Determination of intraspecific variation in seed weight, leaf functional traits, and sapling size of <i>Betula ermanii</i> using a common garden experiment | Journal of Forest Research | 26(6) | 419-426 | 2021 |
| Hirao T, Fujii M, Shigyo N, Kojima H, Fukui M | Influence of understory vegetation on soil bacterial communities and nitrogen cycling gene abundance in cool-temperate and sub-alpine forests along an elevational gradient | Pedobiologia | 87-88 | 150746 | 2021 |
| Fibich P, Ishihara MI, Suzuki SN, Doležal J, Altman J | Contribution of conspecific negative density dependence to species diversity is increasing towards low environmental limitation in Japanese forests | Scientific Reports | 11 | 18712 | 2021 |
| Saragih SA, Kusumoto D, Takemoto S, Torii M, Kamata N | Virulence of fungi isolated from ambrosia beetles to <i>Acer amoenum</i> branches | Plant Disease | 105(10) | 3087-3091 | 2021 |

| 発表者全氏名 | 題目 | 誌名 | 巻—号 | 頁 | 発行年 |
|---|---|-------------------------------|--------|-------------|------|
| Heim O, Puisto AE, Sääksjärvi I, Fukui D, Vesterinen EJ | Dietary analysis reveals differences in the prey use of two sympatric bat species | Ecology and Evolution | 11 | 18651–18661 | 2021 |
| Hotta W, Morimoto J, Haga C, Suzuki SN, Inoue T, Matsui T, Owari T, Shibata H, Nakamura F | Long-term cumulative impacts of windthrow and subsequent management on tree species composition and aboveground biomass: A simulation study considering regeneration on downed logs | Forest Ecology and Management | 502 | 119728 | 2021 |
| Kimura Y, Fukui D, Yoshiyuki M, Higashi K | Conservation paleobiology on Minami-Daito Island, Okinawa, Japan: anthropogenic extinction of cave-dwelling bats on a tropical oceanic island | PeerJ | 10 | e12702 | 2022 |
| Peng Y, Buranapanichpan A, Kamata N | Succession of Ambrosia Beetles Colonizing the Logs of Fallen Alder and Birch Trees | Insects | 13(3) | 223 | 2022 |
| 鎌田直人 | 在・不在データと環境アセスメント | JEAS NEWS | 169 | 14-15 | 2021 |
| 浅野友子・鈴木智之 | 秩父山地の山地帯林と亜高山帯林からなる流域における水収支 —1 km メッシュ解析雨量の精度検証と流域平均降水量の算出— | 日本森林学会誌 | 103(2) | 145-155 | 2021 |
| 水内佑輔 | 造園学からみた明治神宮林苑の”風致” | 神園 | 25 | 23-35 | 2021 |
| 内田太郎・浅野友子・水垣滋・横尾善之・丹羽諭・五味高志・勝山正則・平岡真合乃 | 山地流域の水・土砂流出における空間スケールの影響(4)：水・土砂流出予測精度向上に向けた提案 | 水文・水資源学会誌 | 34(3) | 192-204 | 2021 |
| 澤田晴雄・井上淳・岸本光樹・梁瀬桐子 | 東京大学生態水文学研究所の天然林における約20年間の変化 | 中部森林研究 | 69 | 37-40 | 2021 |
| 陳元君・石橋整司 | 中国海南省鸚哥嶺自然保護区管理機関の現状と問題点 | 東京大学農学部演習林報告 | 144 | 1-32 | 2021 |
| 當山啓介・尾張敏章・千嶋武 | 歴代の経営案・計画の精査に基づく東京大学千葉演習林の森林蓄積量の推移 | 東京大学農学部演習林報告 | 144 | 33-48 | 2021 |
| 蔵治光一郎・藤原章雄・村瀬一隆・西山教雄・齋藤暖生・辻良子・山本清龍 | 富士癒しの森研究所における降水量の推定 | 東京大学農学部演習林報告 | 144 | 49-62 | 2021 |
| 水内佑輔 | 日本森林学会 2020年度「林業遺産」選定事業 | 森林技術 | 951 | 30-34 | 2021 |
| 當山啓介 | 日本の林業遺産を知ろう！第27回 平蔵沢ヒバ人工林施業展示林 | 林野 | 172 | 16-17 | 2021 |
| 三次充和・久本洋子・鈴木廣志 | 千葉県房総半島より確認された外来カワリヌマエビ属の一種の外部形態、遺伝子情報および生活史 | CANCER | 30 | 1-9 | 2021 |

| 発表者全氏名 | 題目 | 誌名 | 巻一号 | 頁 | 発行年 |
|-------------------------------------|---|--------------|--------|---------|------|
| 山田祐亮・當山啓介 | 「植栽を促進する地域」の内外における伐採傾向の差 | 日本森林学会誌 | 103(4) | 259-265 | 2021 |
| 蔵治光一郎・齋藤暖生・西山教雄・辻良子 | 富士癒しの森研究所における降水量の長期変化傾向 | 東京大学農学部演習林報告 | 145 | 1-18 | 2021 |
| 蔵治光一郎 | 人工林の皆伐と保水力の関係 雨水遮断力の洪水緩和効果を活かす | 季刊「地域」 | 47 | 104-109 | 2021 |
| 坂上大翼 | サクラ類栽培品種‘ソメイヨシノ’の挿木増殖における挿付条件 | 樹木医学研究 | 25(4) | 125-135 | 2021 |
| 後藤晋 | 【特集】林木育種の視点からみたコンテナ苗の現状と課題 今、なぜ森林遺伝育種学会で、コンテナ苗なのか | 森林遺伝育種 | 8(4) | 164-166 | 2021 |
| 江崎功二郎・八木豊夫・鎌田直人 | マツの枝せん定処理によるマツノマダラカミキリの誘引 | 日本森林学会誌 | 103(5) | 367-371 | 2021 |
| 齋藤暖生 | 東京大学富士癒しの森研究所における薪の活用 | 森林技術 | 955 | 16-19 | 2021 |
| 北村系子・石塚航・後藤晋 | 日本の森林樹木の地理的遺伝構造 (31) トドマツ (マツ科モミ属) | 森林遺伝育種 | 10 | 44-48 | 2021 |
| 齋藤暖生 | 遊び仕事 | 森林レクリエーション | 415 | 3 | 2021 |
| 松岡佑典・林宇一・有賀一広・白澤紘明・當山啓介・守口海 | 森林 GIS を用いた木質バイオマス発電のための未利用材利用可能量推計 | 日本森林学会誌 | 103(6) | 416-423 | 2021 |
| 米道学・軽込勉・鈴木祐紀・塚越剛史・阿達康真・久本洋子・楠本大 | 高齢なヒメコマツ天然木の遺伝子保存に向けた挿し木クローン作出のための手順の開発 | 森林遺伝育種 | 11(1) | 1-7 | 2022 |
| 赤坂信・水内佑輔・木下剛 | 上原敬二賞受賞者に聞く 赤坂 信先生 | ランドスケープ研究 | 85(4) | 348-351 | 2022 |
| 當山啓介 | 林業遺産座談会「林業遺産の歴史的資料の現状とこれから」 | 森林科学 | 94 | 6-10 | 2022 |
| 佐藤貴紀・田中延亮・ナイナール アナン・蔵治光一郎・五名美江・鈴木春彦 | 間伐遅れのヒノキ人工林斜面を対象とした小型トラップを用いた土壌侵食と表面流の同時観測 | 水利科学 | 65(6) | 15-35 | 2022 |
| 石塚航・内山憲太郎・陳淑芬・後藤晋 | グイマツとカラマツにおける葉緑体ミトコンドリア変異検出マーカーセット LgLk-CMV の開発 | 日本森林学会誌 | 104(1) | 44-49 | 2022 |
| 小川瞳・大川あゆ子・井口和信・鈴木智之 | 溪畔林 18ha 長期生態系プロットにおける 25 年間の森林動態 | 北方森林研究 | 70 | 49-52 | 2022 |
| 及川希・松井理生・福井大・平川浩文 | カメラトラップを用いた北海道中央部の哺乳類相と日周性の解明 | 北方森林研究 | 70 | 65-68 | 2022 |

| 発表者全氏名 | 題目 | 誌名 | 巻一号 | 頁 | 発行年 |
|--------------------------------------|---|---------|-----|---------|------|
| 浅野友子・川崎雅俊・浅井和由 | 秩父山地の滝川流域，入川流域で採取した湧水の CFCs と SF ₆ を用いた平均滞留時間推定 | 演習林（東大） | 65 | 1-12 | 2022 |
| 東京大学演習林基盤データ整備委員会生物部門脊椎動物分野 | 東京大学演習林自動撮影カメラ調査成果報告（2016年4月～2021年3月） | 演習林（東大） | 65 | 13-16 | 2022 |
| 三次充和・里見重成 | 千葉演習林自動撮影カメラ調査成果報告（2016年4月～2021年3月） | 演習林（東大） | 65 | 17-19 | 2022 |
| 及川希・小林徹行・片平可奈 | 北海道演習林自動撮影カメラ調査成果報告（2016年4月～2021年3月） | 演習林（東大） | 65 | 21-23 | 2022 |
| 高野充広・磯崎靖雄・富澤貴志・中川雄治 | 秩父演習林自動撮影カメラ調査成果報告（2016年4月～2021年3月） | 演習林（東大） | 65 | 25-27 | 2022 |
| 栗田直明・相川美絵子 | 田無演習林自動撮影カメラ調査成果報告（2016年4月～2021年3月） | 演習林（東大） | 65 | 29-31 | 2022 |
| 丹羽悠二・高橋功一・里見重成 | 生態水文学研究所自動撮影カメラ調査成果報告（2016年4月～2021年3月） | 演習林（東大） | 65 | 33-35 | 2022 |
| 辻良子・辻和明・西山教雄 | 富士癒しの森研究所自動撮影カメラ調査成果報告（2016年4月～2021年3月） | 演習林（東大） | 65 | 37-39 | 2022 |
| 渡邊良広・小林徹行 | 樹芸研究所自動撮影カメラ調査成果報告（2016年4月～2021年3月） | 演習林（東大） | 65 | 41-43 | 2022 |
| Tanigawa K, Hirao T | Invasion of the raccoon <i>Procyon lotor</i> into the remote mountainous area of the Chichibu region, Saitama Prefecture, Japan | 演習林（東大） | 65 | 45-50 | 2022 |
| 浅野友子・川崎雅俊・高德佳絵・原口竜成・齋藤俊浩・相川美絵子・五十嵐勇治 | 秩父演習林における渓流水と降水の水質分析結果報告 | 演習林（東大） | 65 | 51-57 | 2022 |
| 小川瞳・田中延亮・福井大 | 北海道演習林山部気象観測点新露場における2018年11月から2020年12月までの観測データ | 演習林（東大） | 65 | 59-69 | 2022 |
| 小川瞳・井口和信・高橋康夫・岡村行治・大川あゆ子・松井理生・鈴木智之 | 北海道演習林における岩魚沢大面積長期生態系プロットの林分成長資料（1994-2019） | 演習林（東大） | 65 | 71-80 | 2022 |
| 東京大学演習林鳥類研究会 | 東京大学演習林鳥類目録 第3版（2014年4月～2021年3月） | 演習林（東大） | 65 | 81-101 | 2022 |
| 木村徳志・福岡哲・小川瞳・廣田善己・鎌田直人 | 東京大学北海道演習林における2011～2020年の樹木フェノロジーデータ | 演習林（東大） | 65 | 103-110 | 2022 |
| 東京大学演習林基盤データ整備委員会生物部門脊椎動物分野 | 東京大学演習林コウモリ類調査成果報告（2013年～2020年） | 演習林（東大） | 65 | 111-122 | 2022 |

| 発表者全氏名 | 題目 | 誌名 | 巻一号 | 頁 | 発行年 |
|-------------------------|---|----------|-------|---------|------|
| 齋藤暖生・三浦直子・西山教雄・辻良子・石橋整司 | 富士癒しの森研究所カラマツ系統別試験地資料 | 演習林（東大） | 65 | 123-136 | 2022 |
| 岸本光樹 | 愛知県瀬戸市に位置する東京大学生態水文学研究所のチョウ類相 | 演習林（東大） | 65 | 137-148 | 2022 |
| 東京大学演習林 | 東京大学演習林水文観察・水質分析報告（自2019年1月至2019年12月） | 演習林（東大） | 65 | 149-159 | 2022 |
| 東京大学演習林 | 東京大学演習林気象報告（自2020年1月至2020年12月） | 演習林（東大） | 65 | 161-196 | 2022 |
| 才木道雄 | 東京大学秩父演習林で発生した森林火災がカミキリムシ類に与えた影響 | 関東森林研究 | 73 | 81-84 | 2022 |
| 原口竜成・平尾聡秀・山田利博 | 東京大学秩父演習林におけるナミダタケモドキによる根株心腐の感染経路についての検討-支障木伐採根の解体による予備的調査結果- | 関東森林研究 | 73 | 137-140 | 2022 |
| 斉藤明子・村川功雄・尾崎煙雄 | 千葉県におけるアマミトガリナナフシの再発見 | 月刊むし | 614 | 39-41 | 2022 |
| 福岡哲・木村徳志・松井理生・鈴木智之 | 東京大学北海道演習林におけるコンテナ苗栽培 | 北海道の林木育種 | 64(2) | 29-33 | 2022 |

2021年度より前に発表し、これまでの年報に未掲載の論文

| 発表者全氏名 | 題目 | 誌名 | 巻一号 | 頁 | 発行年 |
|-------------------|-----------------------------------|----------------|-----|-------|------|
| 金道知聖・楠本大・後藤晋・久本洋子 | 地中の障害物がモウソウチク実生の成長および地下茎の伸長に及ぼす影響 | Bamboo Journal | 32 | 11-19 | 2021 |

2) 学会発表等

| 発表者全氏名 | 題目 | 大会名 | 発表年 |
|---|--|--|------|
| Saito H | Transformation of forest commons in Japan: functions and stakeholders | XVIII Biennial IASC Conference | 2021 |
| Owari T | Collaborative research activities within Asian university forests for long-term growth monitoring | IUFRO World Day | 2021 |
| Fukui D, Akasaka T, Fujioka E, Hirao T, Hiryu S, Matsui T | Current status of the bat-windfarm conflict in Japan, and overview of an ongoing project. | 1st International Bat Research Online Symposium | 2021 |
| Nainar A, Kuraji K, Cleophas F, Justine VT, Maidin N, Kamlun KU, Hassan R, Bidin K, Mahali M | Differences in stream responsiveness between a Tropical Montane Cloud Forest (TMCF) and a Tropical Lowland Rainforest (TLRF) | The Tropical Forestry (TF 2021) Virtual Conference | 2021 |
| Kuraji K | Ecosystem Services with Special Reference on Water Resources | The Tropical Forestry (TF 2021) Virtual Conference | 2021 |
| Xu QY, Ishibashi S, Yasumura N, Toyama K | Changes in the Character of the Nagoya Timber Market and Its Factors | 2nd International Symposium of Long-term Forest Monitoring Research in Asia | 2022 |
| Htun NM, Owari T, Tsuyuki S, Hiroshima T | Delineating the coniferous canopy in a mixed conifer–broadleaf forest by integrating winter Unmanned Aerial Vehicle (UAV) imagery and a machine learning algorithm | 2nd International Symposium of Long-term Forest Monitoring Research in Asia | 2022 |
| Paing AMM, Chen SF, Araki K, Aihara T, Hirota M, Tsumura Y, Tomaru N, Homma K, Yoshida T, Kobayashi H, Iio A, Nagamatsu D, Takagi M, Taneda H, Hisamoto Y, Goto S | Differential responses of <i>Betula ermanii</i> populations to elevated temperature revealed by range-wide provenance trials | 2nd International Symposium of Long-term Forest Monitoring Research in Asia | 2022 |
| Pan JC, Tanaka N, Sato T, Farahnak M, Nainar A, Gomyo M, Kuraji K, Suzuki H, Nakane Y | Effects of thinning on rainfall partitioning in a dense unmanaged Japanese cypress plantation | 2nd International Symposium of Long-term Forest Monitoring Research in Asia | 2022 |
| Chen SF, Ishizuka W, Kuromaru M, Goto S | Estimation of breeding values for height growth considering spatial autocorrelation in hybrid larch progeny derived from a <i>Larix gmelinii</i> var. <i>japonica</i> × <i>L. kaempferi</i> open-pollinated seed orchard | 2nd International Symposium of Long-term Forest Monitoring Research in Asia. | 2022 |
| Zha SH, Ishibashi S, Yasumura N, Toyama K | Forest maintenance of privately owned forests after 2000 as seen from the regional forest plan | 2nd International Symposium of Long-term Forest Monitoring Research in Asia | 2022 |
| Kuraji K, Tanaka N | Interim Report of Collaborative Research Activities within Asian University Forests by Research Group 1 (Water & Climate) | 2nd International Symposium of Long-term Forest Monitoring Research in Asia | 2022 |
| Kamata N, Fukui D | Interim Report of Collaborative Research Activities within Asian University Forests by Research Group 2 (Ecosystem & Biodiversity) | 2nd International Symposium of Long-term Forest Monitoring Research in Asia | 2022 |
| Owari T | Interim Report of Collaborative Research Activities within Asian University Forests by Research Group 3 (Sustainable Management) | 2nd International Symposium of Long-term Forest Monitoring Research in Asia | 2022 |

| 発表者全氏名 | 題目 | 大会名 | 発表年 |
|--|--|---|------|
| Kuraji K | Organization restructuring based on the University of Tokyo Forest Education and Research Plan (2021-2030) | 2nd International Symposium of Long-term Forest Monitoring Research in Asia | 2022 |
| Chen T, Ishibashi S, Yasumura N, Saito H | Regionality and Diversity in Measures to Maintain Abandoned Bamboo Forests in Japan | 2nd International Symposium of Long-term Forest Monitoring Research in Asia | 2022 |
| Liu XY, Ishibashi S, Saito H, Fujiwara A | Restoration of Tree Environment in the Late Edo period from Ukiyo-e | 2nd International Symposium of Long-term Forest Monitoring Research in Asia | 2022 |
| Farahnak M, Tanaka N, Sato T, Nainar A, Gomyo M, Kuraji K, Suzuki T, Suzuki H, Nakane Y | Runoff response to felled logs' placement direction on a slope after thinning in a Japanese cypress plantation | 2nd International Symposium of Long-term Forest Monitoring Research in Asia | 2022 |
| Mohd Ghaus IB, Tanaka N, Sato T, Farahnak M, Nainar A, Gomyo M, Kuraji K, Suzuki H, Nakane Y | Streamflow discharge responses to thinning treatment in an unmanaged Japanese cypress plantation | 2nd International Symposium of Long-term Forest Monitoring Research in Asia | 2022 |
| Cai NX, Ishibashi S, Saito H, Fujiwara A | Study about the value of giant trees in Japan | 2nd International Symposium of Long-term Forest Monitoring Research in Asia | 2022 |
| Tanaka N, Lai YJ, Im SJ, Mahali M, Tuankrua V, Kuraji K, Cleophas F, Tantasirin C, Gomyo M, Tseng CW, Nainar A, Shiraki K, Hotta N, Asano Y, Inoue H | Climate elasticity of annual runoff from fifteen Asian forested catchments | 2nd International Symposium of Long-term Forest Monitoring Research in Asia | 2022 |
| Lucas JJ, Gunggot E, George SG, Rasiah A, Wong W, Lardizabal MLT, Kamata N | Diversity and Dynamics of Bark and Ambrosia Beetles in Three Land-use Types of Ulu Padas Forest Reserve Sipitang, Sabah, Malaysia | 2nd International Symposium of Long-term Forest Monitoring Research in Asia | 2022 |
| Toyama K | Historical forest management plans as long-term research materials | 2nd International Symposium of Long-term Forest Monitoring Research in Asia | 2022 |
| Guan BT, Kamata N, Tanaka N, Nonaka K | Imputing Long-term Tree Species First Leafing and Flowering Dates at the Tokyo University Hokkaido Forest | 2nd International Symposium of Long-term Forest Monitoring Research in Asia | 2022 |
| Kamata N | Long-term Population Dynamics of the Beech Caterpillar, <i>Syntypistis punctatella</i> (Motshulsky) (LEPIDOPTERA: Notodontidae) | 2nd International Symposium of Long-term Forest Monitoring Research in Asia | 2022 |
| Owari T | Old Sugi (<i>Cryptomeria japonica</i>) plantations at the University of Tokyo Chiba Forest: Long-term growth trends and current status | 2nd International Symposium of Long-term Forest Monitoring Research in Asia | 2022 |
| Li CL, Wu LW, Kamata N | Proposal of study on altitudinal variation of bark beetle assemblages in Indo-Pacific forests | 2nd International Symposium of Long-term Forest Monitoring Research in Asia | 2022 |
| Kristian AA, Kamata N | Seasonal changes in the number of flying adults, body size, and the number of mycangium pits of <i>Platypus quercivorus</i> | 2nd International Symposium of Long-term Forest Monitoring Research in Asia | 2022 |
| Wong H, Mojikon T, Selvester S, Wong W, Lardizabal MLT, Kamata N | Seasonality and Ecology of Bark and Ambrosia beetles at Ulu Padas Forest Reserve, Sabah, Malaysia | 2nd International Symposium of Long-term Forest Monitoring Research in Asia | 2022 |

| 発表者全氏名 | 題目 | 大会名 | 発表年 |
|--|---|---|------|
| Lardizabal MLT, Lucas JJ, Wong H, Gunggot E, Mojikon T, Wong WVC, Kamata N | Species Diversity of Bark and Ambrosia Beetles in a Tropical Montane Forest of Northern Borneo Island | 2nd International Symposium of Long-term Forest Monitoring Research in Asia | 2022 |
| Maki T, Sannomiya N, Hirao T, Fukui D | Patterns of functional alpha and beta diversity of Japanese bat assemblages | The 69th Annual Meeting of the Ecological Society of Japan | 2022 |
| 浅野友子・内田太郎・友村光秀・三浦直子 | 山地流域の斜面と河道での洪水流出 | 日本地球惑星科学連合 2021 年大会 | 2021 |
| 齋藤暖生・藤原章雄・竹内啓恵・森田えみ・高山範理 | 地域住民の森林との関わりの実態と地域の特性 ―山梨県山中湖村におけるアンケート調査から― | 森林保健学会第 11 回学術総会 | 2021 |
| JoonHyuk Sohn・Vuong Tan Tu・福井大・野尻太郎・木村順平・小藪大輔 | コウモリ類における雄生殖器の三次元比較解剖学的研究 | 日本哺乳類学会 2021 年度大会 | 2021 |
| 小藪大輔・福井大・長谷一麿・藤岡慧明・Christian E Vincenot・Jason H Preble・中本敦・梶原将大 | コウモリ類研究の新展開（自由集会企画） | 日本哺乳類学会 2021 年度大会 | 2021 |
| 木村由莉・福井大・川田伸一郎・吉行瑞子・東和明 | 沖縄県南大東島における洞穴性コウモリ地域個体群の絶滅 | 日本哺乳類学会 2021 年度大会 | 2021 |
| Brualla Nicolas・Laura Wilson・野尻太郎・Michael Doube・Vuong Tan Tu・福井大・小藪大輔 | 旧世界コウモリ類における喉頭器官の三次元比較解剖と超音波発声の多様性進化 | 日本哺乳類学会 2021 年度大会 | 2021 |
| 野尻太郎・Laura A. B. Wilson・Camilo Lopez-Aguirre・Vuong Tu Tan・福井大・遠藤秀紀・小藪大輔 | 胎子期発生からひも解くコウモリ類のエコーロケーションの進化的起源 | 日本哺乳類学会 2021 年度大会 | 2021 |
| 當山啓介 | 各地の材積表・材積式におけるスギ大径木の単木材積の差異 | 森林計画学会夏季セミナー | 2021 |
| 高野充広・原口竜成・吉田弓子・中川雄治 | 秩父演習林における森林現況調査のデジタル化の変遷 | 令和 3 年度技術職員等試験研究・研修会議 | 2021 |
| 江口由典・村瀬一隆・渡邊良広・辻和明 | 樹芸研究所における電子野帳導入への取り組みと課題 | 令和 3 年度技術職員等試験研究・研修会議 | 2021 |
| 相川美絵子・栗田直明 | 全木調査における電子野帳の利用 | 令和 3 年度技術職員等試験研究・研修会議 | 2021 |
| 小川瞳・井口和信 | 試験地データを FileMaker で管理することでできるようになったこと | 令和 3 年度技術職員等試験研究・研修会議 | 2021 |
| 辻良子・西山教雄 | 試験地樹木の個体管理におけるデジタル技術の活用 | 令和 3 年度技術職員等試験研究・研修会議 | 2021 |
| 小林徹行・中川雄治 | 林種区分測量におけるタブレット端末の利用事例 | 令和 3 年度技術職員等試験研究・研修会議 | 2021 |
| 鶴見康幸 | 千葉演習林におけるシカ生息数調査の変遷 | 令和 3 年度技術職員等試験研究・研修会議 | 2021 |
| 梁瀬桐子 | 演習林業務におけるデジタルイラストと漫画の作成 | 令和 3 年度技術職員等試験研究・研修会議 | 2021 |

| 発表者全氏名 | 題目 | 大会名 | 発表年 |
|---|---|------------------------|------|
| 大石諭 | フィールドデータ研究センターについて | 令和3年度技術職員等試験研究・研修会議 | 2021 |
| 才木道雄 | 東京大学秩父演習林で発生した森林火災がカミキリムシ類に与えた影響 | 第11回関東森林学会大会 | 2021 |
| 原口竜成・平尾聡秀・山田利博 | 東京大学秩父演習林におけるナミダケモドキによる根株心腐の感染経路についての検討-支障木伐採根の解体による予備的調査結果- | 第11回関東森林学会大会 | 2021 |
| 相原隆貴・荒木響子・後藤晋・戸丸信弘・本間航介・高木正博・吉田俊也・飯尾淳弘・永松大・久本洋子・津村義彦 | ダケカンバ産地試験を用いた葉形質の種内変異と気温上昇による変化の検出 | 森林遺伝育種学会第10回大会 | 2021 |
| 荒木響子・相原隆貴・後藤晋・飯尾淳弘・津村義彦 | 地球温暖化を想定したダケカンバ産地試験を用いた樹木の形態形質への影響評価と遺伝的関連 | 森林遺伝育種学会第10回大会 | 2021 |
| 及川希・松井理生・福井大・平川浩文 | カメラトラップを用いた北海道中央部の哺乳類相と日周性の解明 | 第70回北方森林学会大会 | 2021 |
| 小川瞳・大川あゆ子・井口和信・鈴木智之 | 溪畔林18ha長期生態系プロットにおける25年間の森林動態 | 第70回北方森林学会大会 | 2021 |
| 澤田晴雄・佐藤貴紀・岸本光樹 | モニ1000愛知赤津サイトにおけるヒノキの種子および球果の落下特性 | 第11回中部森林学会大会 | 2021 |
| 佐藤貴紀・Moein Faranak・田中延亮・Nainar Anand・蔵治光一郎・五名美江・鈴木春彦・中根慶旺 | 間伐遅れのヒノキ人工林における間伐前後の土砂流出と表面流の変化 | 第11回中部森林学会大会 | 2021 |
| Chen S, Ishizuka W, Unno Y, Kusunoki K, Goto S | The selection of paternal clones by Breeding without Breeding strategy in hybrid larch open-pollinated seed orchard | 森林遺伝育種学会第10回大会 | 2021 |
| 竹本周平・相川美絵子・栗田直明 | カシノナガキクイムシによる外国産コナラ属樹木の穿入被害の関東地方における2事例 | 樹木医学会第26回大会 | 2021 |
| 坂上大翼 | 日本産主要針葉樹種の苗の胚軸部における熱傷害に対する感受性 | 樹木医学会第26回大会 | 2021 |
| 齋藤暖生 | 大学演習林の一般市民への公開および開放の実態と課題-東京大学演習林を事例に- | 林業経済学会2021年秋季大会 | 2021 |
| 當山啓介 | 地域森林計画の外形的特徴および公表状況 - 公的計画のあり方を検討するための材料として - | 林業経済学会2021年秋季大会 | 2021 |
| 小林徹行 | 森林測量におけるタブレット端末の利用事例 | 令和3年度 北の国・森林づくり技術交流発表会 | 2022 |
| 松岡史晃・岸上真子・鈴木智之・山迫淳介・土岐和多瑠 | ハナカミキリ幼虫の共生酵母の獲得経路: 母親由来? 環境由来? | 第69回生態学会福岡大会 | 2022 |

| 発表者全氏名 | 題目 | 大会名 | 発表年 |
|---|---|----------------|------|
| 平間睦樹・中川雄治・福土憲司・千井野聡・江口由典 | 低価格な2周波 RKT-GNSS 受信機の森林内での測位制度 | 第4回東京大学技術発表会 | 2022 |
| 相川美絵子・栗田直明 | 田無演習林におけるナラ枯れ被害の発生 | 第4回東京大学技術発表会 | 2022 |
| 高野充広 | 農学生命科学研究科実務研修成果報告—北海道演習林での研修— | 第4回東京大学技術発表会 | 2022 |
| 木村恒太・小林徹行・井上崇 | 北海道演習林における、小学生親子向けオンラインセミナー実施報告 | 第4回東京大学技術発表会 | 2022 |
| 岸本光樹 | マニュアル動画による技術の伝達と共有 | 第4回東京大学技術発表会 | 2022 |
| 澤田晴雄・岸本光樹・梁瀬桐子・丹羽悠二・井上淳 | モニ 1000 愛知赤津サイトで実施している毎木調査の方法 | 第4回東京大学技術発表会 | 2022 |
| 米道学・軽込勉・鈴木祐紀・塚越剛史・里見重成 | 千葉演習林で実施されたマツ材線虫病に対する抵抗性マツの選抜育種 | 第4回東京大学技術発表会 | 2022 |
| 吉田拓矢・梅木清・平尾聡秀 | シカ食害下の森林における送粉サービスのソース・シンク効果の解明 | 日本生態学会第69回全国大会 | 2022 |
| 荒木響子・相原隆貴・後藤晋・飯尾淳弘・津村義彦 | ダケカンバ産地試験を用いた樹木の温暖化に対する形態形質への影響評価と遺伝的関連 | 日本生態学会第69回全国大会 | 2022 |
| 森川周・谷川鴻介・平尾聡秀 | 自然環境下における人間の存在が中型食肉類の日周活動と生息地選択に及ぼす影響 | 日本生態学会第69回全国大会 | 2022 |
| 小南裕志・深澤遊・高木正博・鈴木智之・竹本周平 | 土壌呼吸ホットスポット要因としての枯死木の効果 | 日本生態学会第69回全国大会 | 2022 |
| 三宮望・牧貴大・平尾聡秀・福井大 | 日本産コウモリ類の分布推定と将来予測 | 日本生態学会第69回全国大会 | 2022 |
| Nojiri T, Wilson LAB, Lopez-Aguirre C, Tu VT, Fukui D, Endo H, Koyabu D | 胚発生・化石記録の統合解析による翼手類の反響定位の進化的起源の解明 | 日本生態学会第69回全国大会 | 2022 |
| 藤岡薫子・鈴木牧・久本洋子 | イタヤカエデとオオモミジにおける成長フェーズから繁殖フェーズへの変化 | 日本生態学会第69回全国大会 | 2022 |
| 松岡佳奈・藤井紀帆・藤岡慧明・福井大・飛龍志津子 | モモジロコウモリの餌場利用とコミュニケーション音声の関係 | 日本生態学会第69回全国大会 | 2022 |
| 後藤晋・小川瞳・福岡哲・木村徳志・田中延亮・福井大 | 長期測定データから気候変動が北方針葉樹3種の苗木の生存と成長に及ぼす影響を考える | 第133回日本森林学会大会 | 2022 |
| 當山啓介 | 公的森林計画における計画文の類似度比較の試行 | 第133回日本森林学会大会 | 2022 |
| 浅野友子・川崎雅俊・高德佳絵 | 秩父山地の堆積岩からなるバケモノ沢における降雨—流出特性 | 第133回日本森林学会大会 | 2022 |
| Paing AMM, Chen SF, Araki K, Aihara T, Hirota M, Tsumura Y, Tomaru N, Homma K, Yoshida T, Kobayashi H, Iio A, Nagamatsu D, Takagi M, Taneda H, Hisamoto Y, Goto S | Effects of elevated temperature on survival and growth of <i>Betula ermanii</i> two years after transplantation | 第133回日本森林学会大会 | 2022 |

| 発表者全氏名 | 題目 | 大会名 | 発表年 |
|---|--|-----------------|------|
| Li CF, Yuan C, Shi YY, Geng QF, Zhang TX, Zhang SK, Li JL, Matsushita N, Tsuruta M, Xia Y, Goto S, Obase K, Vaario LM, Kameyama N, Vélez JM, Jiao B, Schadt CW, Piapukiew J, Pawara P, Kosolwattana P, Xu JP, Lian CL | Pan-genome and whole-genome resequencing reveals genetic diversity and stress responses of <i>Cenococcum geophilum</i> | 第 133 回日本森林学会大会 | 2022 |
| 藤岡薫子・久本洋子・鈴木牧 | カエデ属 2 種の花芽形成期に発現する花成関連遺伝子の探索 | 第 133 回日本森林学会大会 | 2022 |
| 戴健平・原口竜成・平尾聡秀・山田利博 | クマ剥ぎによるヒノキ被害部の腐朽程度と菌類組成 | 第 133 回日本森林学会大会 | 2022 |
| 陳淑芬・石塚航・海野大和・楠和隆・内山憲太郎・後藤晋 | クリーンラーチ（グイマツ雑種 F1）における材質のゲノムワイド関連解析 | 第 133 回日本森林学会大会 | 2022 |
| 中田修人・佐藤温起・荒木響子・津村義彦・後藤晋・飯尾淳弘 | ダケカンバのクロロフィル蛍光特性の産地間変異と可塑性について | 第 133 回日本森林学会大会 | 2022 |
| 藤森悠菜・内山憲太郎・後藤晋・高橋誠・鳥丸猛・三須直也・戸丸信弘 | ブナの表現形質に関する一塩基多型を用いたゲノムワイド関連解析 | 第 133 回日本森林学会大会 | 2022 |
| 塚本宝・平尾聡秀 | ライム病の原因菌と媒介者のシュルツェマダニの遺伝構造の関係 | 第 133 回日本森林学会大会 | 2022 |
| 本郷恵莉・平尾聡秀・梅木清 | 奥秩父山地における気温・地温の広域時系列予測モデル | 第 133 回日本森林学会大会 | 2022 |
| 梅木清・平尾聡秀 | 奥秩父山地における航空レーザーデータを用いたササ稈密度の推定 | 第 133 回日本森林学会大会 | 2022 |
| 藤原章雄・齋藤暖生・高山範理・森田えみ・竹内啓恵 | 山中湖村住民の「森と健康」に関するアンケート調査：居住者属性による違い | 第 133 回日本森林学会大会 | 2022 |
| 相原隆貴・荒木響子・Ragini Sarmah・蔡一涵・後藤晋・戸丸信弘・本間航介・高木正博・吉田俊也・飯尾淳弘・永松大・久本洋子・廣田充・津村義彦 | 出身地の異なるダケカンバの葉形質の違い：8 箇所での産地試験を用いた分析 | 第 133 回日本森林学会大会 | 2022 |
| 尾張敏章・松井理生・鈴木智之・延栄一・木村徳志 | 択伐後の伐根周囲に植栽したトドマツ大苗の生存と樹高成長 | 第 133 回日本森林学会大会 | 2022 |
| 後藤晋・小川瞳・福岡哲・木村徳志・田中延亮・福井大 | 長期測定データから気候変動が北方針葉樹 3 種の苗木の生存と成長に及ぼす影響を考える | 第 133 回日本森林学会大会 | 2022 |
| 山田利博・村川功雄・井口和信・大村和也・五十嵐勇治・齋藤俊浩・高德佳絵・齋藤暖生・小林奈通子・田野井慶太郎・中西友子 | 東京大学演習林での福島原発事故後 10 年の野生きのこの放射性セシウム推移 | 第 133 回日本森林学会大会 | 2022 |

| 発表者全氏名 | 題目 | 大会名 | 発表年 |
|--------------------|---|----------------------|------|
| 竹内虎輔・齋藤陽子・平尾聡秀 | 東日本におけるミネカエデ類の分布境界とその形成過程 | 第133回日本森林学会大会 | 2022 |
| 齋藤暖生 | 文献資料に見る第二次世界大戦期における松根油生産の概観 | 第133回日本森林学会大会 | 2022 |
| 上野大輔・平尾聡秀 | 房総半島のキョンの密度増加における生態学的要因の解明 | 第133回日本森林学会大会 | 2022 |
| 澤田晴雄・佐藤貴紀・岸本光樹 | 東京大学愛知赤津サイトにおけるコナラ種子の落下特性 | 第133回日本森林学会大会 | 2022 |
| 石橋整司 | 星の観察の森林体験学習への活用可能性 | 第133回日本森林学会大会 | 2022 |
| 查世昊・石橋整司・安村直樹・當山啓介 | 地域森林計画から見る2000年以降の民有林の森林整備 | 第133回日本森林学会大会 | 2022 |
| 蔡寧馨・石橋整司・齋藤暖生・藤原章雄 | 日本における巨木の持つ価値について | 第133回日本森林学会大会 | 2022 |
| 劉馨遥・石橋整司・齋藤暖生・藤原章雄 | 浮世絵を資料とした江戸末期の樹木環境の推定復元 | 第133回日本森林学会大会 | 2022 |
| 陳田・石橋整司・安村直樹・齋藤暖生 | 放置竹林整備対策の地域性と多様性 | 第133回日本森林学会大会 | 2022 |
| 鈴木智之 | 菌経路か?細菌経路か?:安定同位体と脂肪酸分析による腐朽枯死木利用者の食性解析 | 第28回森林昆虫談話会 | 2022 |
| 野尻太郎・福井大・遠藤秀紀・小薮大輔 | 胎子期器官形成から紐解くコウモリ類のエコーロケーションの進化的起源 | 第127回日本解剖学会総会・全国学術集会 | 2022 |

3) 著書

| 著者名 | 題目 | 著書名 | 発行会社 | 頁 | 発行年 |
|--|--|---|---------------------------------------|---------|------|
| 後藤晋 | コラム3 温暖化とフェノロジー | 樹木医学入門 福田健二（編） | 朝倉書店 | 57-59 | 2021 |
| 楠本大 | 第10章 樹木の防御反応 | 樹木医学入門 福田健二（編） | 朝倉書店 | 142-154 | 2021 |
| 山田利博 | 第12章 樹木の診断と治療 | 樹木医学入門 福田健二（編） | 朝倉書店 | 167-180 | 2021 |
| 楠本大 | 第2章5 農薬の利用と注意点 | 農学基礎シリーズ 森林保護学の基礎 小池孝良・中村誠宏・宮本敏澄（編著） | 農山漁村文化協会 | 36-38 | 2021 |
| 鎌田直人 | コラム4-8 ナラ枯れが日本で発生する理由 | 農学基礎シリーズ 森林保護学の基礎 小池孝良・中村誠宏・宮本敏澄（編著） | 農山漁村文化協会 | 96 | 2021 |
| 齋藤暖生 | 第11章 つくられた野生—エノキタケ栽培がたどった道 | 野生性と人類の論理：ポスト・ドメスティケーションを捉える4つの思考 卯田宗平（編著） | 東京大学出版会 | 221-233 | 2021 |
| 災害低減共同研究機関（著）・齋藤仁志・當山啓介（編） | | 山地災害リスクを考慮した森林計画の手引き 第2版 | | 45pp | 2021 |
| 蔵治光一郎 | 4.1 森林管理による水資源の安定供給レベル向上は可能か | 水資源対策としての森林管理大規模モニタリングデータからの提言 恩田裕一・五味高志（編） | 東京大学出版会 | 142-167 | 2021 |
| Morimoto J, Goto S, Kuroyanagi A, Toyoshima M, Shida Y | Natural Succession of Wetland Vegetation in a Flood-Control Pond Constructed on Abandoned Farmland | Green Infrastructure and Climate Change Adaptation Nakamura F (Ed) | Springer | 209-224 | 2022 |
| Tanaka N, Im SJ, Lai YJ, Tantasirin C, Mahali M, Zhang H, Suryatmojo H, Chandrathilake T (Eds) | | Experimental Watersheds and Weather Stations in Asian University Forests Consortium | The University of Tokyo Forests Press | 54pp | 2022 |

4) 演習林を利用して行った論文等

| 発表者全氏名 | 題 目 | 誌 名 | 巻一 号 | 頁 | 年 | 演習林 |
|---|--|-------------------------------|--------|-----------|------|------|
| Shigyo N, Hirao T | Saprotrophic and ectomycorrhizal fungi exhibit contrasting richness patterns along elevational gradients in cool-temperate montane forests | Fungal Ecology | 50 | 1E+05 | 2021 | 秩父 |
| Suzuki K, Ishiyama N, Koizumi I, Nakamura F | Combined effects of summer water temperature and current velocity on the distribution of a cold-water-adapted sculpin (<i>Cottus nozawae</i>) | Water | 13(7) | 945 | 2021 | 北海道 |
| Nainar A, Kishimoto K, Takahashi K, Gomyo M, Kuraji K | How do ground litter and canopy cover regulate surface runoff? – a paired-plot investigation after 80 years of forest regeneration | Water | 13(9) | 1205 | 2021 | 生態水文 |
| Hino T, Kanno Y, Abe S, Abe T, Enoki T, Hirao T, Hiura T, Hoshizaki K, Ida H, Ishida K, Maki M, Masaki T, Naoe S, Noguchi M, Otani T, Sato T, Sakimoto M, Sakio H, Takagi M, Takashima A, Tokuchi N, Utsumi S, Hidaka A, Nakamura M | Assessing insect herbivory on broadleaf canopy trees at 19 natural forest sites across Japan | Ecological Research | 36(3) | 562–572 | 2021 | 秩父 |
| Nakanishi A, Goto S, Sumiyoshi C, Isagi Y | Directional seed and pollen dispersal and their separate effects on anisotropy of fine-scale spatial genetic structure among seedlings in a dioecious, wind-pollinated, and wind-dispersed tree species, <i>Cercidiphyllum japonicum</i> | Ecology and Evolution | 11(12) | 7754–7767 | 2021 | 北海道 |
| Tsunoda H | Human disturbances increase vigilance levels in sika deer (<i>Cervus nippon</i>): A preliminary observation by camera-trapping | Russian Journal of Theriology | 20(1) | 59–69 | 2021 | 秩父 |
| Saragih SA, Takemoto S, Kusumoto D, Kamata N | Fungal diversity in the mycangium of an ambrosia beetle <i>Xylosandrus crassiusculus</i> (Coleoptera: Curculionidae) in Japan during their late dispersal season | Symbiosis | 84(1) | 111–118 | 2021 | 田無 |
| Tamura N, Ito M, Hayashi F | Different responses of endemic and alien tree squirrels to tree seed chemicals | Mammal Study | 46 | 237–250 | 2021 | 北海道 |
| Suzuki M, Karukome T, Fujihira K, Mitsugi M, Hisamoto Y | Clear-cutting triggers regeneration of abandoned secondary forests but risks alternative successional trajectories with high deer density | Applied Vegetation Science | 24(3) | e12596 | 2021 | 千葉 |
| Wijenayake PR, Hiroshima T | Age-based survival analysis of coniferous and broad-leaved trees: A case study of preserved forests in northern Japan | Forests | 12(8) | 1014 | 2021 | 北海道 |

| 発表者全氏名 | 題 目 | 誌 名 | 巻一 号 | 頁 | 年 | 演習林 |
|---|---|---|---------|-------------|------|-----|
| Goto S, Mori H, Uchiyama K, Ishizuka W, Taneda H, Kono M, Kajiya-Kanegae H, Iwata H | Genetic dissection of growth and eco-physiological traits associated with altitudinal adaptation in Sakhalin fir (<i>Abies sachalinensis</i>) based on QTL mapping | Genes | 12(8) | 1110 | 2021 | 北海道 |
| Wijenayake PR, Hiroshima T | Survival analyses of individual tree populations in natural forest stands to evaluate the maturity of forest stands: A case study of preserved forests in Northern Japan | Journal of Forest Planning | 28 | 1-13 | 2021 | 北海道 |
| Torii M, Kusumoto D, Yamada T | Variation in virulence and its relation to hyphal growth and enzyme activity of <i>Raffaella quercivora</i> , a Japanese oak wilt pathogen | Forest Pathology | 51(4) | e12702 | 2021 | 田無 |
| Nakajima S, Sueyoshi M, Hirota SK, Ishiyama N, Matsuo A, Suyama Y, Nakamura F | A strategic sampling design revealed the local genetic structure of cold-water fluvial sculpin: a focus on groundwater-dependent water temperature heterogeneity | Heredity | 127 | 413-422 | 2021 | 北海道 |
| Ohi-Toma T, Komaki Y, Ideno T, Ishihara S | DNA-based identification of <i>Cedrus</i> (Pinaceae) planted in Japan | The Journal of Japanese Botany | 96(4) | 213-223 | 2021 | 田無 |
| Hirao T, Fujii M, Shigyo N, Kojima H, Fukui M | Influence of understory vegetation on soil bacterial communities and nitrogen cycling gene abundance in cool-temperate and sub-alpine forests along an elevational gradient | Pedobiologia | 87-88 | 2E+05 | 2021 | 秩父 |
| Ota K, Yokoyama Y, Miyairi Y, Yamamoto S, Miyajima T | Lake water dissolved inorganic carbon dynamics revealed from monthly measurements of radiocarbon in the Fuji Five Lakes, Japan | Elementa: Science of the Anthropocene | 9(1) | 00149 | 2021 | 富士 |
| Aizawa M, Worth JRP | Phylogenetic origin of two Japanese <i>Torreya</i> taxa found in two regions with strongly contrasting snow depth | Journal of Plant Research | 134(5) | 907-919 | 2021 | 千葉 |
| Miyata U, Arakawa K, Takei M, Asami T, Asanbou K, Toshima H, Suzuki Y | Identification of an aromatic aldehyde synthase involved in indole-3-acetic acid biosynthesis in the galling sawfly (<i>Pontania</i> sp.) and screening of an inhibitor | Insect Biochemistry and Molecular Biology | 137 | 1E+05 | 2021 | 千葉 |
| Iwakiri A, Matsushita N, Fukuda K | Snow mold fungus <i>Racodium therryanum</i> is phylogenetically <i>Herpotrichia juniperi</i> | Mycoscience | 62 | 406-409 | 2021 | 北海道 |
| Saragih SA, Kusumoto D, Takemoto S, Torii M, Kamata N | Virulence of fungi isolated from ambrosia beetles to <i>Acer amoenum</i> branches | Plant Disease | 105(10) | 3087-3091 | 2021 | 田無 |
| Heim O, Puisto AE, Sääksjärvi I, Fukui D, Vesterinen EJ | Dietary analysis reveals differences in the prey use of two sympatric bat species | Ecology and Evolution | 11 | 18651-18661 | 2021 | 北海道 |

| 発表者全氏名 | 題 目 | 誌 名 | 巻一 号 | 頁 | 年 | 演習林 |
|---|---|-------------------------------|--------|---------|------|-------|
| Hotta W, Morimoto J, Haga C, Suzuki SN, Inoue T, Matsui T, Owari T, Shibata H, Nakamura F | Long-term cumulative impacts of windthrow and subsequent management on tree species composition and aboveground biomass: A simulation study considering regeneration on downed logs | Forest Ecology and Management | 502 | 119728 | 2021 | 北海道 |
| Paing AMM, Chen SF, Tsumura Y, Tomaru N, Homma K, Kadomatsu M, Yoshida T, Kobayashi H, Iio A, Osumi K, Taneda H, Hisamoto Y, Goto S | Determination of intraspecific variation in seed weight, leaf functional traits, and sapling size of <i>Betula ermanii</i> using a common garden experiment | Journal of Forest Research | 26 (6) | 419-426 | 2021 | 北海道 |
| Zhu XJ, Zhang SN, Watanabe K, Kawakami K, Kubota N, Takagi E, Tanahashi M, Wen XJ, Kubota K | Diverse Heat Tolerance of the Yeast Symbionts of <i>Platycerus</i> Stag Beetles in Japan | Frontiers in Microbiology | 12 | 8E+05 | 2022 | 秩父 |
| Peng Y, Buranapanichpan A, Kamata N | Succession of ambrosia beetles colonizing the logs of fallen alder and birch trees | Insects | 13 (3) | 223 | 2022 | 北海道 |
| Sakio H, Nirei T | Is the High Proportion of Males in a Population of the Self-Incompatible <i>Fraxinus platypoda</i> (Oleaceae) Indicative of True Androdioecy or Cryptic-Dioecy? | Plants | 11 (6) | 753 | 2022 | 秩父 |
| Aye Myat Myat Paing | Evaluating the effects of global warming on survival and growth of <i>Berula ermanii</i> based on range-wide provenance trials | 東京大学 修士論文 | | 57pp | 2022 | 千葉 |
| Li Yanbo | Locating Windthrown Area in the University of Tokyo Chiba Forest Using Aerial Photos | 東京大学 修士論文 | | 72pp | 2021 | 千葉 |
| 吉田拓矢 | シカ食害下の森林における送粉サービスのソース・シンク効果 | 東京大学 修士論文 | | 92pp | 2022 | 秩父 |
| 白間菜々海 | ズミの隔離小集団における自家不和合性遺伝子の多様性と結実率および種子の発芽特性 | 東京大学 修士論文 | | 101pp | 2022 | 田無・富士 |
| 塚本宝 | ライム病ボレリアを媒介するシュルツェマダニの歴史的な集団動態と遺伝構造に影響を及ぼす要因の解明 | 東京大学 修士論文 | | 78pp | 2022 | 秩父 |
| 上野大輔 | 同所的に生息するキョンとシカの日周活動と行動様式の比較 | 東京大学 卒業論文 | | 39pp | 2022 | 千葉・秩父 |
| 齋藤周 | 人間活動がニホンジカの行動様式と日周性に及ぼす影響 | 東京大学 卒業論文 | | 41pp | 2022 | 秩父 |
| 小林裕子 | 酢酸施用がスギコンテナ苗の灌水停止による乾燥への応答に与える影響 | 東京大学 卒業論文 | | 46pp | 2022 | 田無 |

| 発表者全氏名 | 題 目 | 誌 名 | 巻一 号 | 頁 | 年 | 演習林 |
|------------------------------------|--|-----------------|--------|---------|------|------|
| 坂巻実佳 | 国産ユーカリの物理的・生理的特性の評価 | 東京大学 | 卒業論文 | 33pp | 2022 | 樹芸 |
| 宮田海 | 昆虫のインドール酢酸生成における芳香族アルデヒド合成酵素の機能に関する研究 | 茨城大学 | 修士論文 | 78pp | 2022 | 千葉 |
| 松木優香 | ウイルス感染がヤマモの葉緑素量・多糖類量に与える影響 | 日本大学 | 卒業論文 | 20pp | 2022 | 田無 |
| 前田裕 | 都内5地域におけるヤマノイモ個体群の遺伝的多様性とウイルス感染率の関係 | 日本大学 | 卒業論文 | 19pp | 2022 | 田無 |
| 佐々木真優 | Factors controlling net soil nitrogen mineralization rates in Japanese forest ecosystems | 京都大学 | 修士論文 | 52pp | 2022 | 生態水文 |
| 笈優祐 | コナラ二次林における樹幹流の水質特性 | 豊田工業高等専門学校 | 卒業論文 | 19pp | 2022 | 生態水文 |
| 大澤光太郎 | コナラ林の樹幹流下量に影響を及ぼす複数の樹木特性因子の相互関係、林内雨量に影響を及ぼす要因の検討 | 豊田工業高等専門学校 | 卒業論文 | 27pp | 2022 | 生態水文 |
| 大沼裕貴 | 森林流域における蛍光回帰法を用いた溶存有機炭素流出負荷量の推定 | 豊田工業高等専門学校 | 卒業論文 | 26pp | 2022 | 生態水文 |
| 横田聖弥 | 森林流域における腐植物質の森林間差異の比較 | 豊田工業高等専門学校 | 卒業論文 | 25pp | 2022 | 生態水文 |
| 原口雅人・木村恵・大谷雅人・平岡宏一・高橋誠 | 埼玉県内におけるブナの天然集団および植栽された実生苗の遺伝的特徴 | 森林遺伝育種 | 10(2) | 70-79 | 2021 | 秩父 |
| 浅野友子・鈴木智之 | 秩父山地の山地帯林と亜高山帯林からなる流域における水収支 —1 km メッシュ解析雨量の精度検証と流域平均降水量の算出— | 日本森林学会誌 | 103(2) | 145-155 | 2021 | 秩父 |
| 澤田晴雄・井上淳・岸本光樹・梁瀬桐子 | 東京大学生態水文学研究所の天然林における約20年間の変化 | 中部森林研究 | 69 | 37-40 | 2021 | 生態水文 |
| 當山啓介・尾張敏章・千島武 | 歴代の経営案・計画の精査に基づく東京大学千葉演習林の森林蓄積量の推移 | 東京大学農学部演習林報告 | 144 | 33-48 | 2021 | 千葉 |
| 蔵治光一郎・藤原章雄・村瀬一隆・西山教雄・齋藤暖生・辻良子・山本清龍 | 富士癒しの森研究所における降水量の推定 | 東京大学農学部演習林報告 | 144 | 49-62 | 2021 | 富士 |
| 田悟敏弘 | 主に関東地方で採集したハチ目・広腰亜目の分布資料 | 寄せ蛾記 (埼玉昆虫談話会誌) | 181 | 3-8 | 2021 | 秩父 |
| 蔵治光一郎・齋藤暖生・西山教雄・辻良子 | 富士癒しの森研究所における降水量の長期変化傾向 | 東京大学農学部演習林報告 | 145 | 1-18 | 2021 | 富士 |
| 野澤雅美・田悟敏弘・奥田恭介・室紀行 | <東京大学秩父演習林の昆虫類データベース>東京大学秩父演習林とその周辺地で記録した昆虫 異翅類 (第2報) | 寄せ蛾記 (埼玉昆虫談話会誌) | 182 | 1-8 | 2021 | 秩父 |

| 発表者全氏名 | 題 目 | 誌 名 | 巻一 号 | 頁 | 年 | 演習林 |
|---|--|---|-------|-------------|------|---|
| 阿部功・萩原昇 | 東大秩父演習林で採集した小蛾類の記録 (注目すべき種) | 寄せ蛾記 (埼玉昆虫 談話会誌) | 182 | 23-25 | 2021 | 秩父 |
| 坂上大翼 | サクラ類栽培品種'ソメイヨシノ'の挿 木増殖における挿付条件 | 樹木医学研 究 | 25(4) | 125- 135 | 2021 | 田無 |
| 齋藤暖生 | 東京大学富士癒しの森研究所における薪 の活用 | 森林技術 | 955 | 16-19 | 2021 | 富士 |
| 鶴田燃海・内貴章世・ 練春蘭 | 外来の <i>Oldenlandia boscii</i> (アカネ科) を 東京大学田無演習林に記録する | 植物地理・ 分類研究 | 69(2) | 211- 214 | 2021 | 田無 |
| 米道学・軽込勉・鈴木 祐紀・塚越剛史・阿達 康真・久本洋子・楠本 大 | 高齢なヒメコマツ天然木の遺伝子保存に 向けた挿し木クローン作出のための手順 の開発 | 森林遺伝育 種 | 11(1) | 1-7 | 2022 | 千葉 |
| 小川瞳・大川あゆ子・ 井口和信・鈴木智之 | 溪畔林 18ha 長期生態系プロットにおける 25 年間の森林動態 | 北方森林研 究 | 70 | 49-52 | 2022 | 北海道 |
| 及川希・松井理生・福 井大・平川浩文 | カメラトラップを用いた北海道中央部の 哺乳類相と日周性の解明 | 北方森林研 究 | 70 | 65-68 | 2022 | 北海道 |
| 岡本貴久子 | 奈良公園の人気者「ニホンジカ」と東京 大学千葉演習林 | NARA 奈良に蒔か れた言葉-近 世・近代の 思想- | 3 | 133- 138 | 2022 | 千葉 |
| 浅野友子・川崎雅俊・ 浅井和由 | 秩父山地の滝川流域, 入川流域で採取し た湧水の CFCs と SF6 を用いた平均滞留時 間推定 | 演習林 (東 大) | 65 | 1-12 | 2022 | 秩父 |
| 東京大学演習林基盤デ ータ整備委員会 生物部門脊椎動物分野 | 東京大学演習林自動撮影カメラ調査成果 報告 (2016 年 4 月~2021 年 3 月) | 演習林 (東 大) | 65 | 13-16 | 2022 | 千葉・ 北海 道・秩 父・田 無・生 態水 文・富 士・樹 芸 |
| 三次充和・里見重成 | 千葉演習林自動撮影カメラ調査成果報告 (2016 年 4 月~2021 年 3 月) | 演習林 (東 大) | 65 | 17-19 | 2022 | 千葉 |
| 及川希・小林徹行・片 平可奈 | 北海道演習林自動撮影カメラ調査成果報 告 (2016 年 4 月~2021 年 3 月) | 演習林 (東 大) | 65 | 21-23 | 2022 | 北海道 |
| 高野充広・磯崎靖雄・ 富澤貴志・中川雄治 | 秩父演習林自動撮影カメラ調査成果報告 (2016 年 4 月~2021 年 3 月) | 演習林 (東 大) | 65 | 25-27 | 2022 | 秩父 |
| 栗田直明・相川美絵子 | 田無演習林自動撮影カメラ調査成果報告 (2016 年 4 月~2021 年 3 月) | 演習林 (東 大) | 65 | 29-31 | 2022 | 田無 |
| 丹羽悠二・高橋功一・ 里見重成 | 生態水文学研究所自動撮影カメラ調査成 果報告 (2016 年 4 月~2021 年 3 月) | 演習林 (東 大) | 65 | 33-35 | 2022 | 生態水 文 |
| 辻良子・辻和明・西山 教雄 | 富士癒しの森研究所自動撮影カメラ調査 成果報告 (2016 年 4 月~2021 年 3 月) | 演習林 (東 大) | 65 | 37-39 | 2022 | 富士 |
| 渡邊良広・小林徹行 | 樹芸研究所自動撮影カメラ調査成果報告 (2016 年 4 月~2021 年 3 月) | 演習林 (東 大) | 65 | 41-43 | 2022 | 樹芸 |

| 発表者全氏名 | 題 目 | 誌 名 | 巻一 号 | 頁 | 年 | 演習林 |
|--------------------------------------|---|----------|------|---------|------|-------------------------|
| Tanigawa K, Hirao T | Invasion of the raccoon <i>Procyon lotor</i> into the remote mountainous area of the Chichibu region, Saitama Prefecture, Japan | 演習林 (東大) | 65 | 45-50 | 2022 | 秩父 |
| 浅野友子・川崎雅俊・高德佳絵・原口竜成・齋藤俊浩・相川美絵子・五十嵐勇治 | 秩父演習林における渓流水と降水の水質分析結果報告 | 演習林 (東大) | 65 | 51-57 | 2022 | 秩父 |
| 小川瞳・田中延亮・福井大 | 北海道演習林山部気象観測点新露場における2018年11月から2020年12月までの観測データ | 演習林 (東大) | 65 | 59-69 | 2022 | 北海道 |
| 小川瞳・井口和信・高橋康夫・岡村行治・大川あゆ子・松井理生・鈴木智之 | 北海道演習林における岩魚沢大面積長期生態系プロットの林分成長資料 (1994-2019) | 演習林 (東大) | 65 | 71-80 | 2022 | 北海道 |
| 東京大学演習林鳥類研究会 | 東京大学演習林鳥類目録 第3版 (2014年4月~2021年3月) | 演習林 (東大) | 65 | 81-101 | 2022 | 千葉・北海道・秩父・田無・生態水文・富士・樹芸 |
| 木村徳志・福岡哲・小川瞳・廣田善己・鎌田直人 | 東京大学北海道演習林における2011~2020年の樹木フェノロジーデータ | 演習林 (東大) | 65 | 103-110 | 2022 | 北海道 |
| 東京大学演習林基盤データ整備委員会 生物部門脊椎動物分野 | 東京大学演習林コウモリ類調査成果報告 (2013年~2020年) | 演習林 (東大) | 65 | 111-122 | 2022 | 千葉・北海道・秩父・田無・生態水文・富士・樹芸 |
| 齋藤暖生・三浦直子・西山教雄・辻良子・石橋整司 | 富士癒しの森研究所カラマツ系統別試験地資料 | 演習林 (東大) | 65 | 123-136 | 2022 | 富士 |
| 岸本光樹 | 愛知県瀬戸市に位置する東京大学生態水文学研究所のチョウ類相 | 演習林 (東大) | 65 | 137-148 | 2022 | 生態水文 |
| 東京大学演習林 | 東京大学演習林水文観察・水質分析報告 (自2019年1月至2019年12月) | 演習林 (東大) | 65 | 149-159 | 2022 | 千葉・北海道・秩父・生態水文・樹芸 |
| 東京大学演習林 | 東京大学演習林気象報告 (自2020年1月至2020年12月) | 演習林 (東大) | 65 | 161-196 | 2022 | 千葉・北海道・秩父・田無・生態水文・樹芸 |

| 発表者全氏名 | 題 目 | 誌 名 | 巻一 号 | 頁 | 年 | 演習林 |
|--------------------|---|----------|-------|---------|------|-----|
| 才木道雄 | 東京大学秩父演習林で発生した森林火災がカミキリムシ類に与えた影響 | 関東森林研究 | 73 | 81-84 | 2022 | 秩父 |
| 原口竜成・平尾聡秀・山田利博 | 東京大学秩父演習林におけるナミダタケモドキによる根株心腐の感染経路についての検討-支障木伐採根の解体による予備的調査結果- | 関東森林研究 | 73 | 137-140 | 2022 | 秩父 |
| 福岡哲・木村徳志・松井理生・鈴木智之 | 東京大学北海道演習林におけるコンテナ苗栽培 | 北海道の林木育種 | 64(2) | 29-33 | 2022 | 北海道 |

2021 年度より前に発表し、これまでの年報に未掲載の論文

| 発表者全氏名 | 題 目 | 誌 名 | 巻一 号 | 頁 | 年 | 演習林 |
|---|---|------------------|-------|-------|------|-----|
| 木勢庄平・城田義友 | 東京大学千葉演習林での県内採集会報告(Ⅱ) | 房総の昆虫 | 64 | 38-42 | 2019 | 千葉 |
| Isobe K, Ise Y, Kato H, Oda T, Vincenot CE, Koba K, Tateno R, Senoo K, Ohte N | Consequences of microbial diversity in forest nitrogen cycling: diverse ammonifiers and specialized ammonia oxidizers | The ISME Journal | 14 | 12-25 | 2020 | 千葉 |
| 野澤雅美・奥田恭介・室紀行 | 埼玉県から新たに記録されるカメムシ類 | 寄せ蛾記 (埼玉昆虫談話会誌) | 175 | 1-6 | 2020 | 秩父 |
| 萩原昇 | 東大秩父演習林(秩父市大滝の川俣宿舎及び入川観光釣場)で確認した蛾の記録(2018年) | 寄せ蛾記 (埼玉昆虫談話会誌) | 175 | 18-24 | 2020 | 秩父 |
| 萩原昇 | 東大秩父演習林(秩父市大滝の川俣宿舎及び矢竹沢等)で確認した蛾の記録(2019年) | 寄せ蛾記 (埼玉昆虫談話会誌) | 177 | 50-55 | 2020 | 秩父 |
| 水上久雄 | 埼玉県初確認の蛾 28 種の記録 | 寄せ蛾記 (埼玉昆虫談話会誌) | 179 | 51-54 | 2020 | 秩父 |
| 水上久雄 | 東京大学秩父演習林等にて 2018, 2019 年に採集した蛾 | 寄せ蛾記 (埼玉昆虫談話会誌) | 179 | 55-67 | 2020 | 秩父 |
| 石塚航・佐藤弘和・今博計・成田あゆ・花岡創・田中了五・福田陽子・黒沼幸樹・辻山善洋 | 1986 年造成のアカエゾマツ次代検定林における優良個体の選抜 | 北海道林業試験場研究報告 | 58 | 61-69 | 2021 | 北海道 |
| 渡邊定元 | 富士山域における持続的経営林の展開-森のシンク機能を持続させる経済林についての研究- | 富士学研究 | 16(2) | 1-17 | 2021 | 北海道 |
| 金道知聖・楠本大・後藤晋・久本洋子 | 地中の障害物がモウソウチク実生の成長および地下茎の伸長に及ぼす影響 | Bamboo Journal | 32 | 11-19 | 2021 | 田無 |

項目「演習林」は利用した地方演習林を示す。

(千葉：千葉演習林，北海道：北海道演習林，秩父：秩父演習林，田無：田無演習林，生態水文：生態水文学研究所，富士：富士癒しの森研究所，樹芸：樹芸研究所)

5) 受賞・特許等

全国大学演習林協議会第23回森林管理技術賞

| 受賞者氏名 | 受賞理由 |
|--------------|--|
| 特別功労賞 | |
| 井口 和信 | 北海道演習林における天然林施業の管理・運営・研究への多大な貢献 |
| 技術貢献賞 | |
| 塚越 剛史 | 東京大学千葉演習林における林道施設の災害復旧と安全確保への技術的貢献 |
| 学術貢献賞 | |
| 三次 充和 | 千葉県外房地域における水生生物の分布と生態に関する学術的貢献 |
| 若手奨励賞 | |
| 及川 希 | 林道路網維持管理から哺乳類調査・写真による演習林PR活動まで多岐にわたる技術貢献 |

2021年度 業務改革特別賞

| 受賞者氏名 | 題目 |
|-------|-----------------------------------|
| 岸本 光樹 | 現場の技術をスマホの中で ～マニュアル動画による技術の伝達と共有～ |

2021年度 北の国・森林づくり技術交流発表会 奨励賞（森林技術部門）

| 受賞者氏名 | 題目 |
|-------|----------------------|
| 小林 徹行 | 森林測量におけるタブレット端末の利用事例 |

2021年度 森林遺伝育種学会賞

| 受賞者氏名 | 題目 |
|-------|---|
| 後藤 晋 | 北海道における有用針葉樹トドマツの環境適応に関する研究とその遺伝研究基盤の構築 |

2021年度 学生表彰（研究科長賞・生圏システム学専攻・修士課程）

| 受賞者氏名 | 題目 |
|------------------------|--|
| AYE MYAT MYAT PAING | Evaluating the effects of global warming on survival and growth of <i>Betula ermanii</i> based on range-wide provenance trials (広域産地試験データに基づく地球温暖化がダケカンバの生存と成長に及ぼす影響の評価) |

6) 外部資金によって行われた研究

科学研究費補助金

| 氏名 | 研究種目 | 研究課題 | 研究代表者 | 代表者所属 |
|--------------------------------|------------------|--|-------|-----------|
| 鎌田直人・ 楠本 大・ 竹本周平 | 基盤研究 (A) (海外) | 養菌性キクイムシが媒介する樹木萎凋病の発生リスクに影響する環境要因と系統的制約性 | 鎌田直人 | 東京大学 |
| 後藤 晋・ 久本洋子 | 基盤研究 (A) | 大規模産地試験林を用いた樹木の局所環境適応遺伝子の解明 | 津村義彦 | 筑波大学 |
| 福井 大・ 平尾聡秀 | 基盤研究 (A) | 風力発電施設におけるコウモリ類衝突リスク低減に向けた情報・技術基盤形成 | 福井 大 | 東京大学 |
| 楠本 大 | 基盤研究 (A) | マツ材線虫病の萎凋枯死メカニズムの全容解明 | 福田健二 | 東京大学 |
| 鎌田直人 | 基盤研究 (B) | 環境 DNA を用いた森林葉食性昆虫の天敵微生物のモニタリング技術の開発 | 鎌田直人 | 東京大学 |
| 鎌田直人・ 後藤晋・藤 原章雄・鈴 木智之 | 基盤研究 (B) | 次世代の自然風景地の保護と利用 | 齋藤 馨 | 東京大学 |
| 山田利博・ 平尾聡秀 | 基盤研究 (B) | 微生物群集機能に基づく樹木の材腐朽進展プロセスの解明 | 山田利博 | 東京大学 |
| 後藤 晋・ 久本洋子 | 基盤研究 (B) | 長距離ジーンフローが卓越する針葉樹でなぜ高標高エコタイプが存在しうるのか？ | 後藤 晋 | 東京大学 |
| 後藤 晋 | 基盤研究 (B) | 縞枯れ現象を通して常緑針葉樹の衰退・枯死過程を解き明かす | 種子田春彦 | 東京大学 |
| 齋藤暖生 | 基盤研究 (B) | 自然アクセス制度の国際比較ーコモンズ論の新展開にむけて | 三俣 学 | 兵庫県立大学 |
| 齋藤暖生 | 基盤研究 (B) | 里山における自然資本の意識化とネットワークのための地域参加型研究 | 深町加津枝 | 京都大学 |
| 浅野友子 | 基盤研究 (B) | 気候変動により増大する災害リスク定量化のための洪水・土砂流出量予測手法の提案 | 内田太郎 | 筑波大学 |
| 鈴木智之・ 田中延亮・ 竹本周平 | 基盤研究 (B) | 病虫害による大量枯死が森林生態系の CO2 放出におよぼす影響の解明 | 深澤 遊 | 東北大学 |
| 鈴木智之 | 基盤研究 (B) | 森林土壌圏の炭素収支における枯死木効果の包括的評価 | 小南裕志 | 森林研究・整備機構 |
| 福井 大 | 基盤研究 (B) | インドシナ半島周縁海域に存在する小島嶼は“哺乳類固有種”の創出機関であるのか？ | 押田龍夫 | 帯広畜産大学 |
| 當山啓介 | 基盤研究 (B) | 広葉樹林化のための人工林撤退戦略を経済性から考える | 中島 徹 | 東京大学 |
| 三浦直子 | 基盤研究 (B) | 粗放管理時代における河川堤防の合理的な植生管理・生態緑化手法の開発 | 山田 晋 | 東京農業大学 |
| 尾張敏章・ 石橋整司・ 當山啓介 | 基盤研究 (C) | 森林経営史料と旧空中写真を用いたスギ高齢人工林の長期成長過程の定量的復元 | 尾張敏章 | 東京大学 |

| 氏名 | 研究種目 | 研究課題 | 研究代表者 | 代表者所属 |
|-----------|------------|---|---------------|-------|
| 平尾聡秀 | 基盤研究 (C) | 森林攪乱に伴う土壌の機能的コア微生物叢の改変が生態系修復に及ぼす影響の解明 | 平尾聡秀 | 東京大学 |
| 平尾聡秀 | 基盤研究 (C) | 森林の急激な環境変化が野生植物の生態的・進化的変化に与える影響 | 森長真一 | 日本大学 |
| 齋藤暖生 | 基盤研究 (C) | Revitalising/Re-imagining the Commons in an era of social and environmental change: A Next step in Commons Research | Delaney Alyne | 東北大学 |
| 浅野友子 | 基盤研究 (C) | 豪雨時の山地河川における洪水の実態把握と予測精度向上 | 浅野友子 | 東京大学 |
| 久本洋子 | 基盤研究 (C) | 長期の無性繁殖を行うタケ類における有性繁殖の適応的意義の解明 | 久本洋子 | 東京大学 |
| 久本洋子 | 基盤研究 (C) | 日本におけるタケ類の開花現象の実態とその生態系影響 | 小林 剛 | 香川大学 |
| 鈴木智之 | 基盤研究 (C) | 景観スケールにおける亜高山帯針葉樹林の更新に及ぼす風倒攪乱と獣害の相互作用的影響 | 西村 尚之 | 東京大学 |
| 鈴木智之 | 基盤研究 (C) | 北方林において落葉広葉樹は増加しているのか？多地点・長期・年輪データの利用 | 鈴木智之 | 東京大学 |
| 梅林利弘・山田利博 | 基盤研究 (C) | 樹木における心材形成様式の種特性の解明と心材腐朽菌類の感染経路の特定 | 梅林利弘 | 東京大学 |
| 當山啓介 | 基盤研究 (C) | 森林計画の分析を通じた実効的な行政計画のあり方の提示 | 當山啓介 | 東京大学 |
| 當山啓介 | 基盤研究 (C) | 木材生産が可能な林分はどこにあるのか？災害リスクを考慮した供給可能量の推定 | 齋藤仁志 | 岩手大学 |
| 水内佑輔 | 若手研究 | 公共空間としての神社の風致計画論の形成過程と展開の解明 | 水内佑輔 | 東京大学 |
| 山田利博・平尾聡秀 | 挑戦的研究 (萌芽) | マイクロバイオームに基づく森林環境の評価手法の開発 | 山田利博 | 東京大学 |
| 久本洋子 | 挑戦的研究 (萌芽) | 遺伝子発現解析によるカエデ2属の繁殖開始メカニズムの解明 | 鈴木 牧 | 東京大学 |

| 氏名 | 研究種目 | 研究課題 | 研究代表者 | 代表者所属 |
|------|-------------------------|---------------------------------------|-------|-------|
| 福井 大 | 国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B）） | 頭蓋骨解剖学体系の枠組みから外れた未知の新奇形質「耳舌骨」の多角的解明 | 小薮大輔 | 筑波大学 |
| 福井 大 | 学術変革領域研究（A）計画研究 | 音響サイバー空間を利用したコウモリの階層ナビゲーションの理解 | 飛龍志津子 | 同志社大学 |
| 米道 学 | 奨励研究 | 光合成促進と蒸散抑制を併せ持つアカマツ挿し木の試み | 米道 学 | 東京大学 |
| 丹羽悠二 | 奨励研究 | 高解像度画像から得られる三次元データを用いた半自然草地の光環境計測法の検証 | 丹羽悠二 | 東京大学 |

その他補助金

| 氏名 | 研究種目 | 研究課題 | 研究代表者 | 代表者所属 |
|------|----------------------------|--|-------|-------|
| 鎌田直人 | 研究拠点形成事業（B アジアアフリカ学術基盤形成型） | 環境変動と生態系応答の長期森林観測フィールド研究拠点：データ・知・人材の協創 | 鎌田直人 | 東京大学 |

奨学寄付金

| 氏名 | 寄付目的 | 寄付者 |
|------|--|-------------------|
| 尾張敏章 | 天然林におけるミズナラ優良木の単木管理及び樽材好適ミズナラの選定法開発に向けたデータ収集 | サントリースピリッツ株式会社 |
| 山田利博 | 学術研究の経費 | サントリーホールディングス株式会社 |
| 山田利博 | 森林動態にかかる学術研究の経費 | 一般財団法人自然環境研究センター |
| 安村直樹 | 炭素循環動態にかかる学術研究の経費 | 一般財団法人自然環境研究センター |
| 安村直樹 | 森林動態にかかる学術研究の経費 | 一般財団法人自然環境研究センター |
| 浅野友子 | 秩父山地における水安定同位体比を用いた降雨-流出過程の解明 | サントリーホールディングス株式会社 |
| 平尾聡秀 | 農学に関する研究助成 | 公益財団法人大下財団 |
| 平尾聡秀 | 学術研究の経費 | 公益財団法人旭硝子財団 |

受託研究

| 氏名 | 研究課題名 | 委託機関 |
|-----------------------------------|---|------------------------|
| 蔵治光一郎・田中延亮・ 佐藤貴紀・安村直樹・ 浅野友子 | 水源かん養機能モニタリング研究委託 | 豊田市 |
| 蔵治光一郎 | タイ国における統合的な気候変動適応戦略 の共創推進に関する研究 | JST |
| 蔵治光一郎 | 「流域治水を核とした復興を起点とする持 続社会」地域共創拠点 | JST |
| 鴨田重裕 | 国産早生樹種の用材利用に向けた材質・加 工特性の解明 | 森林研究・整備機構 森林総合 研究所 |
| 鴨田重裕 | 千葉県における効率的な造林と施業システ ムの構築 | 株式会社エコグリーンホールデ ィングス |
| 當山啓介 | 千葉県における効率的な造林と施業システ ムの構築 | 株式会社エコグリーンホールデ ィングス |
| 三浦直子 | ドローン等による革新的リモートセンシン グ技術の開発および高度情報活用技術の研究 開発 | NEDO |

共同研究

| 氏名 | 研究課題名 | 共同研究機関 |
|-----------|--|---------------------------------|
| 尾張敏章 | 環境変動下における森林生態系攪乱に対する北 海道演習林の順応的管理に関する研究 | 王子木材緑化株式会社 北海道 支店 |
| 後藤 晋 | クリーンラーチ若齢木を用いた初期成長性の系 統評価に関する研究 | 住友林業株式会社 |
| 久本洋子 | 造園植栽地を用いた植物の域外保全に関する 研究 | 箱根植木株式会社 |
| 三浦直子 | 樹木のハイスループットフェノタイプピング方法 の開発 | 住友林業株式会社 |
| 田中延亮・安村直樹 | 太陽光発電施設周辺の河川環境や気温のモニタ リング | 株式会社鈴鹿インベストメント |
| 田中延亮・安村直樹 | 裸地斜面への太陽光パネル敷設が雨水の表面流 発生に与える影響 | 株式会社鈴鹿インベストメント |
| 鎌田直人・當山啓介 | 衛星データや UAV データを使用した材積量・バ イオマス量の推定 | 株式会社小松製作所 |
| 鴨田重裕 | バイオマス発電による排熱を活用したカカオ 豆・南国樹木の栽培・産業育成 | 加賀市・株式会社 DK-Power・ 株式会社フェリシモ |

3. 社会連携

1) 学外各種委員会等委員

| 氏名 | 委員会等名称 | 委員会等所属機関 |
|-------|--|--|
| 鎌田直人 | 日本昆虫学会英文誌編集部編集諮問委員 | 日本昆虫学会 |
| 鎌田直人 | 兼六園マツ等保全対策指導者 | 石川県 |
| 鎌田直人 | 事務局代表補佐 | 森林野生動物研究会 |
| 鎌田直人 | 代議員 | 日本森林学会 |
| 鎌田直人 | 千葉県森林審議会委員 | 千葉県 |
| 鎌田直人 | 千葉県土石採取対策審議会委員 | 千葉県 |
| 鎌田直人 | 鴨川市環境審議会委員 | 鴨川市 |
| 鎌田直人 | 鴨川市文化財保護審議会委員 | 鴨川市 |
| 楠本 大 | 理事 | 樹木医学会 |
| 久本洋子 | 千葉県ヒメコマツ協議会委員 | 千葉県 |
| 久本洋子 | 理事（技術） | 樹木医学会 |
| 久本洋子 | 技術部会員 | 日本樹木医会 |
| 久本洋子 | 運営委員 | 竹林景観ネットワーク |
| 久本洋子 | 森林遺伝育種 編集委員 | 森林遺伝育種学会 |
| 久本洋子 | Plant Species Biology 編集委員 | 種生物学会 |
| 當山啓介 | 林業遺産選定委員 | 日本森林学会 |
| 當山啓介 | 『森林科学』編集委員 | 日本森林学会 |
| 當山啓介 | 企画運営委員会委員 | 森林計画学会 |
| 當山啓介 | 広報委員会委員 | 森林計画学会 |
| 當山啓介 | 幹事（事務局） | 木材利用システム研究会 |
| 尾張 敏章 | 地域管理経営計画等に関する懇談会委員 | 北海道森林管理局 |
| 尾張 敏章 | 北海道林木育種協会顧問 | 北海道林木育種協会 |
| 尾張 敏章 | 富良野市環境審議会委員 | 富良野市 |
| 尾張 敏章 | 富良野市防災会議委員 | 富良野市 |
| 尾張 敏章 | 北方森林学会評議員 | 北方森林学会 |
| 尾張 敏章 | Research Group 1.05.00: Uneven-aged silviculture, Deputy Coordinator | International Union of Forest Research Organizations (IUFRO) |
| 尾張 敏章 | Working Party 1.01.09: Ecology and silviculture of fir, Deputy Coordinator | International Union of Forest Research Organizations (IUFRO) |
| 尾張 敏章 | Remote Sensing, Topics Board Editor | MDPI |
| 尾張 敏章 | Frontiers in Forests and Global Change, Review Editor | Frontiers |
| 福井 大 | 日本生態学会 Ecological Research 編集委員 | 日本生態学会 |
| 福井 大 | 生物音響学会理事 | 生物音響学会 |
| 福井 大 | 和歌山市専門技術委員 | 和歌山市 |
| 福井 大 | 日本哺乳類学会代議員 | 日本哺乳類学会 |
| 福井 大 | 日本哺乳類学会保護管理専門委員 | 日本哺乳類学会 |
| 福井 大 | 日本哺乳類学会保護管理専門委員会レッドデータ作業部会員 | 日本哺乳類学会 |
| 福井 大 | 日本哺乳類学会分類群名・標本検討委員 | 日本哺乳類学会 |
| 福井 大 | 日本哺乳類学会大会企画・将来構想委員長 | 日本哺乳類学会 |
| 福井 大 | 日本哺乳類学会奨励賞選考委員 | 日本哺乳類学会 |
| 福井 大 | 日本哺乳類学会国際交流委員 | 日本哺乳類学会 |

| 氏名 | 委員会等名称 | 委員会等所属機関 |
|-------|---|--------------------------------|
| 福井 大 | 日本哺乳類学会英文誌編集委員 | 日本哺乳類学会 |
| 福井 大 | 日本哺乳類学会常任理事（大会企画・将来構想委員会担当） | 日本哺乳類学会 |
| 福井 大 | Member of the IUCN SSC Bat Specialist Group | IUCN |
| 福井 大 | 道道きたひろしま総合運動公園線の整備における環境保全を考える協議会構成員 | 北海道空知総合振興局 |
| 福井 大 | 絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会哺乳類分科会委員 | 自然環境研究センター |
| 田中延亮 | 日本森林学会編集委員会 | 日本森林学会 |
| 鈴木智之 | 日本生態学会キャリア支援専門委員会 | 日本生態学会 |
| 鈴木智之 | 北海道林木育種協会編集委員 | 北海道林木育種協会 |
| 鈴木智之 | 北海道林木育種協会評議員 | 北海道林木育種協会 |
| 鈴木智之 | 北海道林木育種協会地方連絡員 | 北海道林木育種協会 |
| 鈴木智之 | 日本森林学会ダイバーシティ推進委員 | 日本森林学会 |
| 山田利博 | 樹木医学会理事会／評議員会／表彰委員会／編集委員会（委員長） | 樹木医学会 |
| 山田利博 | 埼玉県特定鳥獣保護管理検討委員会 | 埼玉県 |
| 山田利博 | 甲武信ユネスコエコパーク保全活用委員会 | 山梨県 |
| 山田利博 | 国指定名勝「おくのほそ道の風景地 草加松原」保存活用委員会 | 草加市 |
| 山田利博 | （関東山地）特別天然記念物カモシカ保護対策事業通常調査指導委員会 | 埼玉県 |
| 山田利博 | モニタリングサイト1000（森林・草原調査）コアサイト・準コアサイト検討会 | 環境省／自然環境研究センター |
| 山田利博 | 樹木の腐朽等への対応に関する検討委員会 | 国土交通省東京国道事務所 |
| 山田利博 | 秩父地域森林林業活性化協議会 | 秩父市 |
| 山田利博 | 秩父地域鳥獣被害対策協議会 | 埼玉県 |
| 山田利博 | 美森の大ヤマツツジ樹勢回復検討委員会 | 山梨県 |
| 山田利博 | 茨城県文化財保護審議会 | 茨城県 |
| 山田利博 | 森林総合研究所研究報告編集委員会 | 森林総合研究所 |
| 浅野友子 | 東京都森林審議会委員 | 東京都 |
| 浅野友子 | Hydrological Research Letter 編集委員 | 水文・水資源学会 |
| 浅野友子 | Journal of Hydrology Guest Editor | Journal of Hydrology, Elsevier |
| 浅野友子 | 第75回全国植樹祭埼玉県準備委員会 | 埼玉県 |
| 平尾聡秀 | JaLTER 代表者委員会 | JaLTER |
| 平尾聡秀 | JaLTER 運営委員会 | JaLTER |
| 平尾聡秀 | 秩父地域森林林業活性化協議会幹事 | 秩父市 |
| 平尾聡秀 | 埼玉県環境科学国際センター客員研究員 | 埼玉県 |
| 坂上大翼 | 樹木医学会理事（編集）／編集委員会幹事 | 樹木医学会 |
| 大村和也 | 秩父地域鳥獣被害対策協議会幹事会 | 埼玉県 |
| 大村和也 | 秩父地域森林林業活性化協議会分科会 | 秩父市 |
| 竹本周平 | 理事 | 樹木医学会 |
| 竹本周平 | 市民スタッフ | 我孫子市鳥の博物館（教育委員会委嘱） |
| 竹本周平 | 和文誌編集委員 ※2020年1月から | 日本土壌微生物学会 |
| 竹本周平 | 和文誌編集委員 | 日本森林学会 |
| 相川美絵子 | 技術部会 | 日本樹木医学会 |
| 相川美絵子 | 広報委員 | 樹の生命を守る会 |

| 氏名 | 委員会等名称 | 委員会等所属機関 |
|-------|--|---------------------|
| 安村直樹 | 愛知県瀬戸市環境審議会委員 | 瀬戸市 |
| 安村直樹 | せと環境塾運営協議会員 | 瀬戸市 |
| 安村直樹 | 猿投の森づくりの会・理事 | 日本山岳会東海支部 |
| 安村直樹 | 全国林業グループコンクール審査委員長 | 全国林業改良普及協会 |
| 安村直樹 | 企画委員 | 林業経済研究所 |
| 安村直樹 | 理事 | 中部森林学会 |
| 安村直樹 | 愛知県犬山市環境審議会委員 | 犬山市 |
| 水内佑輔 | 編集委員会 | 日本造園学会 |
| 水内佑輔 | 論文集委員会 幹事 | 日本造園学会 |
| 水内佑輔 | 学会賞等選考委員会 幹事 | 日本造園学会 |
| 水内佑輔 | 関東支部運営委員会 | 日本造園学会 |
| 水内佑輔 | 中部支部常任運営委員 | 日本造園学会 |
| 水内佑輔 | 高等学校職業教育教科書「造園計画」審査協力委員 | 文部科学省 |
| 水内佑輔 | 林業遺産選定委員会 主事 | 森林学会 |
| 齋藤暖生 | 公募助成事業選考委員会 | 栗井英朗環境財団 |
| 齋藤暖生 | 顧問 | やまなし木質バイオマス協議会 |
| 齋藤暖生 | 顧問 | 山中湖エコミュージアム推進事業団 |
| 鴨田重裕 | 南伊豆町再生可能エネルギー農山村活性化協議会委員 | 南伊豆町 |
| 鴨田重裕 | 南伊豆町総合計画等審議会アドバイザー | 南伊豆町 |
| 蔵治光一郎 | 座長 | 水循環基本法フォローアップ委員会 |
| 蔵治光一郎 | 参与 | 超党派水制度改革議員連盟 |
| 蔵治光一郎 | 矢作川流域圏懇談会副座長・山部会部会長 | 国土交通省中部地方整備局豊橋河川事務所 |
| 蔵治光一郎 | 大阪府森林環境整備事業評価審議会委員 | 大阪府 |
| 蔵治光一郎 | 長良川河口堰最適運用検討委員会委員 | 愛知県 |
| 蔵治光一郎 | 森林審議会 委員 | 静岡県 |
| 蔵治光一郎 | とよた森づくり委員会 委員 | 豊田市 |
| 蔵治光一郎 | とよた森林学校 校長 | 豊田市 |
| 蔵治光一郎 | 水循環推進協議会 委員 | 岡崎市 |
| 蔵治光一郎 | 岡崎市森づくり協議会 会長 | 岡崎市 |
| 蔵治光一郎 | 国際委員会 委員 | 水文・水資源学会 |
| 蔵治光一郎 | 理事・編集委員会 委員 | 不知火海・球磨川流域圏学会 |
| 蔵治光一郎 | 顧問 | 猿投の森づくりの会 |
| 蔵治光一郎 | 共同代表 | 矢作川森の研究者グループ |
| 蔵治光一郎 | 理事 | オの木 |
| 蔵治光一郎 | 理事 | ニッセイ緑の財団 |
| 後藤 晋 | 交付金プロジェクト「スギの基盤遺伝情報の高精度化と有用遺伝子の機能解明」評価委員 | 森林総合研究所 |
| 後藤 晋 | 農林総合研究センター研究等評価委員 | 埼玉県 |
| 前原 忠 | 日本土壌動物学会評議員会評議員 | 日本土壌動物学会 |

2) 小中高等学校への対応

| 教職員名 | 講演名 | 主催 | 開催場所 | 日程 |
|-------------------------------|--------------------------------|----------------|-----------|--------------------------|
| 梁瀬桐子 澤田晴雄 | 探鳥会 | 犬山市立今井小学校 | 犬山市 | 4/22 |
| 齋藤暖生 三浦直子 | 課外プログラム「課題研究」「富士山学」指導 | 山梨県立吉田高等学校 | 富士癒しの森研究所 | 5/14-3/31 |
| 相川美絵子 栗田直明 | 校外学習（下見） | 実践学園中学 | 田無演習林 | 5/31 |
| 石橋整司 竹本周平 相川美絵子 栗田直明 | 校外学習 | 実践学園中学 | 田無演習林 | 6/18 |
| 梁瀬桐子 澤田晴雄 | 探鳥会 | 犬山市立今井小学校 | 犬山市 | 6/22 |
| 大村和也 | 樹木採集実習 | 埼玉県立秩父農工科学高等学校 | 秩父演習林 | 7/26 |
| 松井理生 小林徹行 | 大麓自然愛護少年団 夏山登山 | 富良野市立麓郷中学校 | 北海道演習林 | 7/27 |
| 尾張敏章 | 持続可能な森林作りプロジェクト特別講義「近自然型の森林管理」 | 青森明の星高等学校 | オンライン | 8/2 |
| 栗田直明 | 校外学習（打合せ） | 西東京市立田無第二中学校 | 田無演習林 | 8/31 |
| 相川美絵子 | 校外学習（下見） | 西東京市立谷戸小学校 | 田無演習林 | 9/6 |
| 福井 大 福岡 哲 廣田善巳 | 「園芸デザイン」 | 富良野緑峰高等学校 | 北海道演習林 | 9/9（オンライン）、 10/14（対面） |
| 相川美絵子 栗田直明 | 校外学習（下見） | 西東京市立中原小学校 | 田無演習林 | 9/28 |
| 松井理生 | 総合学習「富良野の未来をつくろう」 | 富良野市立東小学校 | 富良野市立東小学校 | 10/1 |
| 福井 大 小林徹行 | 1年道内研修（獣医・理数コース） | とわの森三愛高等学校 | 北海道演習林 | 10/14 |
| 相川美絵子 栗田直明 | 校外学習（下見） | 自由学園初等部 | 田無演習林 | 10/15 |
| 竹本周平 相川美絵子 栗田直明 川村 啓 | 校外学習 | 西東京市立中原小学校 | 田無演習林 | 10/21 |
| 相川美絵子 栗田直明 川村 啓 | 校外学習 | 自由学園初等部 | 田無演習林 | 10/25 |
| 石橋整司 竹本周平 | 校外学習 | 西東京市立田無第二中学校 | 田無演習林 | 10/27 |
| 蔵治光一郎 | 水源かん養機能モニタリング現地案内 | 豊田市立小原中学校 | 豊田市大洞市有林 | 11/2 |
| 栗田直明 | 校外学習（下見） | 西東京市立田無小学校 | 田無演習林 | 11/5 |
| 梁瀬桐子 澤田晴雄 | 出張授業 | 瀬戸市立水野小学校 | 瀬戸市立水野小学校 | 11/12 |

| 教職員名 | 講演名 | 主催 | 開催場所 | 日程 |
|-------------------------------|------|-------------|-----------|-------|
| 梁瀬桐子 澤田晴雄 | 探鳥会 | 犬山市立今井小学校 | 犬山市 | 11/20 |
| 石橋整司 竹本周平 相川美絵子 栗田直明 | 校外学習 | 西東京市立田無小学校 | 田無演習林 | 11/22 |
| 石橋整司 相川美絵子 栗田直明 | 校外学習 | 西東京市立住吉小学校 | 田無演習林 | 11/26 |
| 澤田晴雄 平野圭二 | 出張授業 | 犬山市立楽田小学校 | 犬山市立楽田小学校 | 12/3 |
| 三次充和 | 総合学習 | 鳴川市立天津小湊小学校 | 千葉演習林 | 12/20 |
| 梁瀬桐子 澤田晴雄 | 探鳥会 | 犬山市立今井小学校 | 犬山市 | 1/27 |

3) 公開講座・セミナー等

| 講座名 | 主催 | 開催場所 | 日程 |
|---|-------------------------------|-----------------------------------|---------------|
| ガイド練習会 | 秩父演習林しおじの会 | 秩父演習林 | 4/10 |
| 「犬山の森」春のふれあい自然観察会 | 犬山市 | 生態水文学研究所 | 4/10 |
| 教職員向け特別ガイド「春の彩りを訪ねて」 | 富士癒しの森研究所 | 富士癒しの森研究所 | 4/24 (中止) |
| 春の一般公開 | 千葉演習林 | 千葉演習林 | 4月下旬 (中止) |
| ガイド練習会 | 秩父演習林しおじの会 | 秩父演習林 | 5/8 |
| 鴨川市・東京大学交流事業「野鳥の巣箱をかけよう！(観察編)」 | 鴨川市 | 千葉演習林 | 5/15 |
| 利用者研究集会・尾張東部丘陵自然環境研究者の会 | 生態水文学研究所 | 生態水文学研究所(オンライン開催) | 5/27 |
| 森林学習サポーター認定研修 | 北海道演習林 | 北海道演習林 | 5/28 |
| 神社山自然観察路一般公開 | 北海道演習林 | 北海道演習林 | 6/6 (中止) |
| 第38回子ども樹木博士認定会 | 田無演習林 | 田無演習林 | 6/6 |
| 休日公開 | 田無演習林 | 田無演習林 | 6/6 (中止) |
| ガイド練習会 | 秩父演習林しおじの会 | 秩父演習林 | 6/12 |
| キノコ観察会 | シデコブシの会 | 生態水文学研究所 | 6/20 (中止) |
| 癒しの森の宵やみ音楽会 | 癒しの森の会 | 富士癒しの森研究所 | 6/27 |
| ガイド練習会 | 秩父演習林しおじの会 | 秩父演習林 | 7/10 (中止) |
| しおじの会新規会員募集講座 | 秩父演習林しおじの会 | 秩父演習林 | 7/15 |
| 変形菌観察会 | シデコブシの会 | 生態水文学研究所 | 7/18 |
| 公開講座「東大の森林で昆虫採集」 | 秩父演習林 | 秩父演習林 | 7/30 |
| 高校生のための森と海のゼミナール ～大学の先生と考える環境問題と生物多様性～ | 千葉演習林・千葉大学海洋 バイオシステム研究センター | 千葉演習林・千葉大学海 洋バイオシステム研究セ ンター | 7/30 |
| 親子向けオンラインセミナー「植物標本を作ってみよう」 | 北海道演習林 | 北海道演習林(オンライン開催) | 7/31 |
| 親子水生生物観察会 | シデコブシの会 | 生態水文学研究所 | 8/1 |
| 中高生向け生学研講義と見学コース案内 | シデコブシの会 | 生態水文学研究所 | 8/3 (中止) |
| ガイド練習会 | 秩父演習林しおじの会 | 秩父演習林 | 8/21 |
| 菌類勉強会 | 秩父演習林しおじの会 | 秩父演習林 | 9/11 |
| せと環境塾「発見! 東大演習林の秘密と水辺のいきものたち」 | 瀬戸市 | 生態水文学研究所 | 9/18 (中止) |
| ナラ枯れ調査説明会 | 富士癒しの森研究所 | 富士癒しの森研究所 | 9/30 |
| 教職員向け特別ガイド「きのこに親しむ」 | 富士癒しの森研究所 | 富士癒しの森研究所 | 10/2 |
| ガイド練習会 | 秩父演習林しおじの会 | 秩父演習林 | 10/9 |
| とよた森林学校「森林と災害」 | 豊田森林組合 | 生態水文学研究所 | 10/16 |
| キノコ観察会 | シデコブシの会 | 生態水文学研究所 | 10/17 |
| 白鳥山ガイドツアー「麓郷の小さな森で秋探し」 | 北海道演習林 | 北海道演習林 | 10/19 |
| 第39回「子ども樹木博士」認定会 | 田無演習林 | 田無演習林 | 10/31 |
| 休日公開 | 田無演習林 | 田無演習林 | 10/31 (中止) |
| 犬山市民総合大学環境学部第2回現地講義 | 犬山市 | 生態水文学研究所 | 10/31 |
| 森の文化祭 | 癒しの森の会 | 富士癒しの森研究所 | 10/31 |
| 試験一般開放 | 富士癒しの森研究所 | 富士癒しの森研究所 | 11/4-5 |

| 講座名 | 主催 | 開催場所 | 日程 |
|---|---------------|-----------------|---------------|
| しおじの会と巡る東大秩父演習林樹木園 | 秩父演習林しおじの会 | 秩父演習林 | 11/13 |
| 「犬山の森」秋のふれあい自然観察会 | 犬山市 | 生態水文学研究所 | 11/13 |
| 東大教職員向け「リース作り体験会」 | 田無演習林 | 田無演習林（ハイブリッド開催） | 11/28 |
| 休日公開 | 田無演習林 | 田無演習林 | 11/28 (中止) |
| 鴨川市・東京大学交流事業「野鳥の巣箱をかけよう！（巣箱作り編）」 | 鴨川市 | 千葉演習林 | 12/4 |
| 休日公開 | 田無演習林 | 田無演習林 | 12/4-5 |
| ガイド練習会 | 秩父演習林しおじの会 | 秩父演習林 | 12/11 |
| 千葉演習林オンラインイベント「おもしろ動画いっぱい！千葉の森に暮らす動物たち」 | 千葉演習林 | 千葉演習林（オンライン開催） | 12/27 |
| ぶらり 東大の森さんぽ「冬の樹木園を歩こう」 | 北海道演習林 | 北海道演習林 | 2/2 (中止) |
| 森林博物資料館一般公開 | 千葉演習林 | 千葉演習林 | 2/3 (中止) |
| 東大教職員向け特別ガイド「冬の散歩みち」 | 富士癒しの森研究所 | 富士癒しの森研究所 | 2/5 (中止) |
| 公開講座「樹木のボディランゲージ」 | 秩父演習林 | 秩父演習林（オンライン開催） | 2/9 |
| 公開講座「富士癒しの森研究所研究報告 2021」 | 富士癒しの森研究所 | 富士癒しの森研究所 | 3/9 (中止) |
| 長期生態系プロットの計測と林業遺産を含む研究林の見学 | 名古屋経済大学市邨高等学校 | 生態水文学研究所 | 3/25 |
| ナラ枯れ住民説明会 | 山中湖村 | 未定 | 3/25 (中止) |
| ガイド練習会 | 秩父演習林しおじの会 | 秩父演習林 | 3/26 |
| 民生委員児童委員協議会委員のための里山再生と林業遺産研修 | 犬山民生委員児童委員協議会 | 生態水文学研究所 | 3/29 |

4) 学会・研究・市民教育等における講師等（招待講演を含む）

| 教職員名 | 講演名 | 主催 | 開催場所 | 日程 |
|------------------------------------|--|-----------------------------|------------------------------------|---------------------|
| 安村直樹・澤田晴雄・岸本光樹・梁瀬桐子 | 「犬山の森」春のふれあい自然観察会 | 犬山市 | 生態水文学研究所 犬山研究林 | 4/10 |
| 福井 大 | 風力発電事業のコウモリ類に関するアセスメント審査に係る環境省勉強会講師 | 環境省 | オンライン | 4/27 |
| 齋藤暖生 | かわさき市民アカデミー2021年度前期環境とみどり講座『SDGs時代の環境・みどり・防災』「東大式 癒しの森のつくり方」 | かわさき市民アカデミー | 川崎市生涯学習プラザ 3F 301 会議室とオンラインのハイブリッド | 5/13 |
| 三次充和・阿達康真 | 鴨川市・東京大学交流事業「野鳥の巣箱をかけよう！（観察編）」 | 鴨川市 | 千葉演習林 | 5/15 |
| 鈴木智之 | 富良野市森林学習プログラム 森林学習サポーター認定研修 | 富良野市生涯学習センター | オンライン・北海道演習林 | 5/28 |
| 鎌田直人 | カシノナガキクイムシの生態とナラ枯れのメカニズム，防除の現状 | NPO 法人 いろいろ生きものネットワーク埼玉 | オンライン | 5/29 |
| 石橋整司・竹本周平・相川美絵子・栗田直明・石浦恭子・川村啓・小幡理恵 | 子ども樹木博士 | 西東京市「子ども樹木博士」を育てる会（田無演習林） | 田無演習林 | 6/6 |
| 蔵治光一郎 | かわさき市民アカデミー環境とみどり講座（SDGs時代の環境・みどり・防災）「森林環境（譲与）税の位置づけと使い方」 | かわさき市民アカデミー | 川崎市生涯学習プラザ 3F 301 会議室とオンラインのハイブリッド | 7/1 |
| 平尾聡秀 | ちちぶ学セミナー「奥秩父山地の生物多様性と森林生態系」 | 秩父市 | 秩父市歴史文化伝承館 | 7/3 |
| 栗田直明 | 視察案内 | 西東京市文化振興課 | 田無演習林 | 7/8 |
| 蔵治光一郎 | 座談会「水循環基本法改正に込めた思い～水循環基本法への地下水関連規定の追加に関する報告書の作成を振り返る～」 | 日本水道新聞社 | オンライン | 7/22 |
| 蔵治光一郎 | 矢作川水源の山づくりガイドブック策定会議「南九州の山で起きていることとこれからの矢作川の施業」 | 矢作川流域圏懇談会山部会・矢作川森の健康診断実行委員会 | 岡崎森林組合 | 7/26 |
| 中川雄治・小池征寛・笠原久臣・大川あゆ子・延栄一 | 収穫調査（選木）の見学・体験 | 住友林業紋別山林事業所 | 北海道演習林 | 7/28-30 |
| 田中延亮・松井理生 | 富良野の高校生による水源探訪フィールドワーク | 北海道立総合研究機構 | 北海道演習林 | 8/3 |
| 蔵治光一郎 | 座長報告「水循環基本法について」 | 水循環基本法フォローアップ委員会 | 衆議院第一議員会館国際会議室 | 8/31 |
| 蔵治光一郎 | 対談「水循環基本法の改正」 | 公益社団法人日本河川協会 | 衆議院第2議員会館地下1階第4会議室 | 9/13 |
| 山田利博 | 樹木医研修「幹の外科技術と機器による診断」 | 日本緑化センター | オンライン（オンデマンド） | 9/27-10/2, 10/11-16 |

| 教職員名 | 講演名 | 主催 | 開催場所 | 日程 |
|---|--|---------------------------|------------------------------------|----------|
| 齋藤暖生・三浦直子 | ナラ枯れ調査説明会 | 富士癒しの森研究所 | 富士癒しの森研究所 | 9/30 |
| 竹本周平 | 特別ガイド「きのこに親しむ」 | 富士癒しの森研究所 | 富士癒しの森研究所 | 10/2 |
| 尾張敏章・松井理生 | JICA 研修「地域住民の参加による持続的な森林管理」リモート研修ビデオプログラム撮影 | JICA | 北海道演習林 | 10/4-5 |
| 松井理生 | 南富良野町 第43回町民登山 | NPO 法人どんころ野外学校 | 北海道演習林 | 10/9 |
| 尾張敏章 | 施業技術2「天然林施業：東京大学北海道演習林の『林分施業法』」講義 | 北海道立北の森づくり専門学院 | 北海道立北の森づくり専門学院 | 10/12 |
| 尾張敏章・田中延亮・福井大・鈴木智之 | NTU-UTokyo Seminar for Students | 国立台湾大学森林環境及資源学系・東京大学演習林 | オンライン | 10/13 |
| 蔵治光一郎・佐藤貴紀・梁瀬桐子 | とよた森林学校（森林と災害～東海豪雨を忘れない～）第1回「森林の持つ公益的機能」 | とよた森林学校（豊田市役所森林課・豊田森林組合） | 生態水文学研究所 赤津研究林 | 10/16 |
| 安村直樹 | 犬山市民総合大学環境学部第1回講義 | 犬山市 | 犬山市民交流センターフロイデ | 10/17 |
| 尾張敏章・松井理生・犬飼浩・井口和信・中川雄治・犬飼慎也・井上崇・高橋功一・木村恒太・小林徹行 | 施業技術2「森林施業実習」 | 北海道立北の森づくり専門学院 | 北海道演習林 | 10/25-26 |
| 鈴木祐紀・塚越剛史 | 令和3年度関東甲信越地区大学演習林等技術職員研修「森林の保健休養機能の活用に関わる技術と知識」 | 富士癒しの森研究所 | 富士癒しの森研究所 | 10/27-29 |
| 蔵治光一郎・佐藤貴紀 | とよた森林学校（森林と災害～東海豪雨を忘れない～）第2回「間伐すれば人工林はよみがえる」 | とよた森林学校（豊田市役所森林課・豊田森林組合） | 豊田市小原交流館・大洞市有林 | 10/30 |
| 石橋整司・竹本周平・相川美絵子・栗田直明・石浦恭子・川村啓・小幡理恵 | 子ども樹木博士 | 西東京市「子ども樹木博士」を育てる会（田無演習林） | 田無演習林 | 10/31 |
| 安村直樹・水内佑輔・澤田晴雄 | 犬山市民総合大学環境学部第2回現地講義 | 犬山市 | 生態水文学研究所 犬山研究林 | 10/31 |
| 齋藤暖生 | 東大こころのリトリート | 東京大学医学部 精神医学教室 | 富士癒しの森研究所(オンライン) | 10/31 |
| 蔵治光一郎 | かわさき市民アカデミー環境とみどり講座（SDGs時代の環境・みどり・防災）「東大演習林の森林生態系紹介」 | かわさき市民アカデミー | 川崎市生涯学習プラザ 3F 301 会議室とオンラインのハイブリッド | 11/7 |
| 松井理生 | 上川管内における優良広葉樹資源視察 | 上川総合振興局 南部森林室富良野事務所 | 北海道演習林 | 11/8 |

| 教職員名 | 講演名 | 主催 | 開催場所 | 日程 |
|----------------------|--|---------------------------------------|--------------------|----------------|
| 竹本周平 | 樹木講座 | 自由学園リビングアカデミー | 自由学園南沢キャンパス | 11/13 |
| 澤田晴雄・梁瀬桐子 | 「犬山の森」秋のふれあい自然観察会 | 犬山市 | 生態水文学研究所 犬山研究林 | 11/13 |
| 齋藤暖生 | さっぽろ自由学校「遊」公開研究会 『森林の権利とアイヌ民族』『共用林野制度の沿革と特質：アイヌ共用林野の限界と可能性』 | さっぽろ自由学校「遊」 | オンライン | 11/15 |
| 蔵治光一郎 | かわさき市民アカデミーオンライン特別公開講座「知の豊かさを楽しむ」シリーズ「環境とみどりー改めて学ぶ日本の国土ー」第2回「森林・林業と災害」 | かわさき市民アカデミー | Youtube 公開放映 | 11/20 (収録日) |
| 石橋整司・相川美絵子・石浦恭子・小幡理恵 | リース作り体験会 | 田無演習林 | オンライン | 11/28 |
| 岸本光樹・梁瀬桐子 | 犬山市民総合大学環境学部第3回講義 | 犬山市 | 犬山市民交流センターフロイデ | 11/28 |
| 蔵治光一郎 | 2021年高知県緑の環境会議・講演会「豪雨時代の森林管理 流域治水・木材生産・長期持続性」 | 高知県緑の環境会議 | 四国森林管理局大会議室 | 11/28 |
| 三次充和・阿達康真 | 鴨川市・東京大学交流事業「野鳥の巣箱をかけよう（巣箱づくり）」 | 鴨川市 | 千葉演習林 | 12/4 |
| 竹本周平 | 樹木講座 | 自由学園リビングアカデミー | 自由学園南沢キャンパス | 12/4 |
| 石橋整司・竹本周平・相川美絵子 | 休日公開 | 田無演習林 | 田無演習林 | 12/4-5 |
| 相川美絵子 | 見学案内 | 練馬区立関町リサイクルセンター | 田無演習林 | 12/7 |
| 鈴木智之 | 富良野地区高等学校PTA役員研修会 | 北海道富良野緑峰高等学校PTA | 北海道富良野緑峰高等学校 | 12/8 |
| 蔵治光一郎 | 第27回桂川・相模川流域シンポジウム「流域の森林の実態と未来可能性」 | 桂川・相模川流域協議会 | ユニコムプラザさがみはら | 12/12 |
| 蔵治光一郎 | TF2021 Virtual Conference Invited Speech: Ecosystem Services with Special Reference on Water Resources | マレーシアサバ大学熱帯林業学部 | オンライン | 12/14 |
| 福井 大 | 赤谷プロジェクト自然環境モニタリング会議「コウモリを指標とした森林の生物多様性評価の可能性」 | 日本自然保護協会 | 群馬県みなかみ町 | 12/21 |
| 竹本周平 | 樹木講座 | 自由学園リビングアカデミー | 田無演習林 | 12/22 |
| 蔵治光一郎 | 公開シンポジウム2021「農学が示す、暮らしのなかのGX（グリーントランスフォーメーション）」「人の暮らしと森林とGX ～演習林の挑戦～」 | 大学院農学生命科学研究科 One Earth Guardians 育成機構 | オンライン | 12/26 |
| 蔵治光一郎 | NPO 法人才の木トークカフェ「保津川流域の森林資源と水運」 | NPO 法人才の木 | 亀岡市役所地下1階 開かれたアトリエ | 1/9 |
| 浅野友子 | Hydrological Observation and Rainfall-Runoff Processes in Mountainous Catchments | JDS 国際セミナーPrat2 | 筑波大学 | 1/14 |
| 才木道雄 | 第2回環境セミナー「森林火災とカミキリムシ～東京大学秩父演習林の事例～」 | 秩父市環境市民会議 | 秩父市歴史文化伝承館 | 1/22 |

| 教職員名 | 講演名 | 主催 | 開催場所 | 日程 |
|--------------------|---|----------------------|-------------|------|
| 齋藤暖生 | 『コモンズと地方自治』の著者と一緒に考える Webinar 森林の自治を問う：入会・財産区・コモンズ「森林の自治と財産区」 | 日本林業調査会 (J-FIC) | オンライン | 1/24 |
| 竹本周平 | てがたん樹木検定 | 我孫子市鳥の博物館 | 手賀沼遊歩道 | 2/12 |
| 當山啓介 | 東京大学千葉演習林の概要と最近の話題 | NPO 法人千葉県森林インストラクター会 | オンライン | 2/13 |
| 蔵治光一郎 | 第 38 回岐阜シンポジウム 木曾・長良・揖斐：歴史、自然、地域づくりを考える「健全な水循環に基づくサステナブルな流域社会をめざして」 | 岐阜大学 | 岐阜大学 | 3/21 |
| 尾張敏章・田中延亮・福井大・鈴木智之 | 「東大の研究室をのぞいてみよう！～多様な学生を東大に～」プログラム | 東京大学 | オンライン | 3/23 |
| 竹本周平 | 樹木講座 | 自由学園リビングアカデミー | 自由学園南沢キャンパス | 3/26 |
| 竹本周平 | 森林学会におけるダイバーシティ～多様な立場に寄り添える学会を目指して～「男性研究者による育児休業体験談」 | 日本森林学会 | オンライン | 3/29 |

5) 演習林報告・演習林

演習林報告

第 144 号 (2021 年 5 月 24 日 発行)

| 開始頁 | 終了頁 | 著者 | 表題 |
|-----|-----|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 1 | 32 | 陳 元君・石橋整司 | 中国海南省鹦哥嶺自然保護区管理機関の現状と問題点 |
| 33 | 48 | 當山啓介・尾張敏章・千嶋武 | 歴代の経営案・計画の精査に基づく 東京大学千葉演習林の森林蓄積量の推移 |
| 49 | 62 | 蔵治光一郎・藤原章雄・村瀬一隆・西山教雄・齋藤暖生・辻 良子・山本清龍 | 富士癒しの森研究所における降水量の推定 |

第 145 号 (2021 年 9 月 28 日 発行)

| 開始頁 | 終了頁 | 著者 | 表題 |
|-----|-----|----------------------|-------------------------|
| 1 | 18 | 蔵治光一郎・齋藤暖生・西山教雄・辻 良子 | 富士癒しの森研究所における降水量の長期変化傾向 |

第 146 号 (2022 年 3 月 10 日 発行)

| 開始頁 | 終了頁 | 著者 | 表題 |
|-----|-----|-------------|-------------------------------------|
| 1 | 20 | 藤井美由紀・仁多見俊夫 | 歴史的環境保全地域における歩行負担を考慮した山岳歩道のトレッキング利用 |

演習林

第 64 号 (2022 年 3 月 31 日 発行)

| 開始頁 | 終了頁 | 著者 | 表題 |
|-----|-----|-----------------------|--|
| 1 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究計画 2021～2030 はじめに |
| 5 | 30 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究計画 2021～2030 第一部 附属演習林計画 |
| 33 | 49 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究計画 2021～2030 第二部 常置専門委員会計画 |
| 53 | 102 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究計画 2021～2030 第三部 地方演習林計画 (千葉演習林第 14 期) |
| 103 | 190 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究計画 2021～2030 第三部 地方演習林計画 (北海道演習林第 14 期) |
| 191 | 228 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究計画 2021～2030 第三部 地方演習林計画 (秩父演習林第 11 期) |
| 229 | 248 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究計画 2021～2030 第三部 地方演習林計画 (田無演習林第 5 期) |
| 249 | 270 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究計画 2021～2030 第三部 地方演習林計画 (生態水文学研究所第 6 期) |
| 271 | 300 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究計画 2021～2030 第三部 地方演習林計画 (富士癒しの森研究所第 5 期) |
| 301 | 330 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究計画 2021～2030 第三部 地方演習林計画 (樹芸第 5 期) |

第 65 号 (2022 年 3 月 31 日 発行)

| 開始頁 | 終了頁 | 著者 | 表題 |
|-----|-----|--------------------------------------|---|
| 1 | 12 | 浅野友子・川崎雅俊・浅井和由 | 秩父山地の滝川流域，入川流域で採取した湧水の CFCs と SF ₆ を用いた平均滞留時間推定 |
| 13 | 16 | 東京大学演習林基盤データ整備委員会生物部門脊椎動物分野 | 東京大学演習林自動撮影カメラ調査成果報告 (2016 年 4 月～2021 年 3 月) |
| 17 | 19 | 三次充和・里見重成 | 千葉演習林自動撮影カメラ調査成果報告 (2016 年 4 月～2021 年 3 月) |
| 21 | 23 | 及川 希・小林徹行・片平可奈 | 北海道演習林自動撮影カメラ調査成果報告 (2016 年 4 月～2021 年 3 月) |
| 25 | 27 | 高野充広・磯崎靖雄・富澤貴志・中川雄治 | 秩父演習林自動撮影カメラ調査成果報告 (2016 年 4 月～2021 年 3 月) |
| 29 | 31 | 栗田直明・相川美絵子 | 田無演習林自動撮影カメラ調査成果報告 (2016 年 4 月～2021 年 3 月) |
| 33 | 35 | 丹羽悠二・高橋功一・里見重成 | 生態水文学研究所自動撮影カメラ調査成果報告 (2016 年 4 月～2021 年 3 月) |
| 37 | 39 | 辻 良子・辻 和明・西山教雄 | 富士癒しの森研究所自動撮影カメラ調査成果報告 (2016 年 4 月～2021 年 3 月) |
| 41 | 43 | 渡邊良広・小林徹行 | 樹芸研究所自動撮影カメラ調査成果報告 (2016 年 4 月～2021 年 3 月) |
| 45 | 50 | Kohsuke TANIGAWA・Toshihide HIRAO | Invasion of the raccoon <i>Procyon lotor</i> into the remote mountainous area of the Chichibu region, Saitama Prefecture, Japan |
| 51 | 57 | 浅野友子・川崎雅俊・高德佳絵・原口竜成・齋藤俊浩・相川美絵子・五十嵐勇治 | 秩父演習林における渓流水の水質分析結果報告 (自 2011 年 4 月至 2021 年 3 月) |
| 59 | 69 | 小川 瞳・田中延亮・福井大 | 北海道演習林山部気象観測点新露場における 2018 年 11 月から 2020 年 12 月までの観測データ |
| 71 | 80 | 小川 瞳・井口和信・高橋康夫・岡村行治・大川あゆ子・松井理生・鈴木智之 | 北海道演習林における岩魚沢大面積長期生態系プロットの林分成長資料 (1994-2019) |
| 81 | 101 | 東京大学演習林鳥類研究会 | 東京大学演習林鳥類目録 第 3 版 (2014 年 4 月～2021 年 3 月) |
| 103 | 110 | 木村徳志・福岡 哲・小川 瞳・廣田善己・鎌田直人 | 東京大学北海道演習林における 2011～2020 年の樹木フェノロジーデータ |
| 111 | 122 | 東京大学演習林基盤データ整備委員会生物部門脊椎動物分野 | 東京大学演習林コウモリ類調査成果報告 (2013 年～2020 年) |
| 123 | 136 | 齋藤暖生・三浦直子・西山教雄・辻 良子・石橋整司 | 富士癒しの森研究所カラマツ系統別試験地資料 |
| 137 | 148 | 岸本光樹 | 愛知県瀬戸市に位置する東京大学生態水文学研究所のチョウ類相 |
| 149 | 159 | 東京大学演習林 | 東京大学演習林水文観測・水質分析報告 (自 2019 年 1 月至 2019 年 12 月) |
| 161 | 196 | 東京大学演習林 | 東京大学演習林気象報告 (自 2020 年 1 月至 2020 年 12 月) |

6) 科学の森ニュース

■第94号■ 2021年6月10日発行

【表紙記事】演習林長着任の挨拶（演習林長 久保田耕平）

＜記事＞

- ・ワールド・ウッド・デー2021 記念植樹を開催（田無演習林）
- ・大村和也さんが林業科学技術振興賞（研究支援功労賞）を受賞（秩父演習林）
- ・360度写真で見る森林博物資料館（千葉演習林）

＜クローズアップ＞

附属演習林の教育研究計画 2021-2030 がスタートしました（企画部）

＜四コマ漫画＞

オンライン会議あるある

＜科学の森の動植物紹介＞

クサギ（田無演習林）

＜名所・名物紹介＞

川俣学生寄宿舎（秩父演習林）



■第95号■ 2021年9月10日発行

【表紙記事】千葉県立中央博物館と千葉演習林が連携協力の協定を締結（千葉演習林）

＜記事＞

- ・梅雨の強雨による土砂流出と「砂出し」（生態水文学研究所）
- ・公開講座 「東大の森林で昆虫採集」を開催（秩父演習林）
- ・「東京大学演習林のおはし」第一弾「北海道ウダイカンバ」販売開始（企画部）

＜クローズアップ＞

FDRC ってなに？（フィールドデータ研究センター）

＜四コマ漫画＞

退化

＜科学の森の動植物紹介＞

ハッチョウトンボ（生態水文学研究所）

＜コラム＞

癒しの森の宵やみ音楽（富士癒しの森研究所）



■第96号■ 2021年12月10日発行

【表紙記事】富士癒しの森研究所で「森の文化祭」を開催（富士癒しの森研究所）

≪記事≫

- ・白鳥山ガイドツアーをオンサイトで開催（北海道演習林）
- ・技術職員4名が森林管理技術賞を受賞（企画部）
- ・医学系の教員とコラボした教育プログラム（富士癒しの森研究所）

<クローズアップ>

演習林におけるオンライン実習の現状と課題（大学教育委員会）

<四コマ漫画>

死体がほしい

<科学の森の動植物紹介>

ズセンリョウ（千葉演習林）

<名所・名物紹介>

森林資料館（北海道演習林）



■第97号■ 2022年3月10日発行

【表紙記事】生態水文学研究所の岸本光樹技術職員が業務改革総長賞特別賞を受賞（生態水文学研究所）

≪記事≫

- ・千葉演習林で動物動画紹介のオンラインイベントを開催（千葉演習林）
- ・秩父演習林産材で川俣宿泊施設のダイニングテーブルを新調しました（秩父演習林）
- ・千葉演習林産材のアカマツ2系統が材線虫病抵抗性品種として登録（千葉演習林）

<クローズアップ>

グリーントランスフォーメーション（GX）への演習林の取り組み（企画部）

<四コマ漫画>

そうだったのか...

<科学の森の動植物紹介>

ナミスジフユナミシヤク（北海道演習林）

<コラム>

スマートにナラ枯れ調査（富士癒しの森研究所）



7) 演習林出版局

■Experimental Watersheds and Weather Stations in Asian University Forests Consortium

2022年2月28日発行

編集 Nobuaki TANAKA・Sangjun IM・Yen-Jen LAI・Chatchai TANTASIRIN・Maznah MAHALI・Hui ZHANG・Hatma SURYATMOJO・Thilakawansha CHANDRATHILAKE

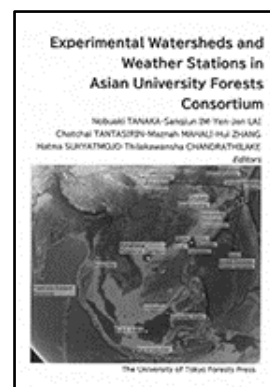
発行 The University of Tokyo Forests Press

定価 本体 1,200 円 (税別) A5 判 54 頁

ISBN 978-4-903321-29-5

<Contents>

- Preface
- Acknowledgements
- Contents
- Contributing authors
- Seoul National University (SNU)
 - Chusan Experimental Watershed
 - Gwangyang Automatic Weather Station
 - Chusan Automatic Weather Station
- National Taiwan University Experimental Forest (NTUEF)
 - Xitou Experimental Watershed
 - Zhushan Automatic Weather Station
 - Xitou Automatic Weather Station
 - Shuili Automatic Weather Station
 - Neimaopu Automatic Weather Station
 - Heshe Automatic Weather Station
- Kasetsart University (KU)
 - Kog Ma Experimental Watershed
- Universiti Malaysia Sabah (UMS)
 - Gunung Alab Experimental Catchment
 - Inobong Experimental Catchment
- The University of Tokyo (UT)
 - Fukuroyamasawa Experimental Watershed
 - Fudago Automatic Weather Station
 - Maruyamasawa Experimental Watershed
 - Maeyama Automatic Weather Station
 - Bakemonozawa Experimental Watershed
 - Yatakezawa Experimental Watershed
 - Wasabizawa Automatic Weather Station
 - Ananomiya Experimental Watershed
 - Shirasaka Experimental Watershed
 - Shirasaka Automatic Weather Station



Higashiyama Experimental Watershed

Arboricultural Research Institute Catchment No.3

Arboricultural Research Institute Catchment No.2

Aono Automatic Weather Station

- Hainan University (HU)

Xinglong Tropical Garden Automatic Weather Stations

Xinglong Tropical Garden Experimental Watersheds

- Universitas Gadjah Mada (UGM)

Experimental Watersheds in the Indonesian Tropical Rainforest

- University of Sri Jayewardenepura (USJ)

Yagirala Forest Reserve Experimental Watershed

- Supplemental references

8) 新聞・雑誌・放送等

| 演習林名 | メディア | 日付 | 内容 |
|-----------|-------------------------------|------------|---|
| 企画部 | 日本水道新聞 | 2021.4.15 | 水制度改革議員連盟総会にて水循環基本法への地下水関連規定の追加に関する報告書の要点説明(蔵治教授) |
| 千葉演習林 | 産経新聞(夕刊) | 2021.5.13 | 120年に1度花が咲くクロチクが京都市で開花タケ類の開花についてコメント(久本助教) |
| 千葉演習林 | 房日新聞 | 2021.5.19 | 鴨川市との交流事業「野鳥の巣箱をかけよう(観察会)」 |
| 企画部 | 熊本日日新聞 | 2021.6.6 | 不知火海・球磨川流域圏学会研究発表会 人工林の皆伐の影響について発表(蔵治教授) |
| 企画部 | 日本水道新聞 | 2021.6.10 | 水循環基本法改正を受けてのコメント(蔵治教授) |
| 千葉演習林 | 房日新聞 | 2021.6.11 | 千葉県立中央博物館と連携協力に関する協定締結 |
| 企画部 | 水道産業新聞 | 2021.6.28 | 水道関係者に意識してほしい地下水保全と水源涵養の重要性(蔵治教授) |
| 企画部 | 水道産業新聞 | 2021.6.28 | 蔵治教授が津島議員と You tube チャンネルで対談 |
| 企画部 | 地球元気村通信 2021年夏号 vol.101 | 2021.6 | 「川に行こう!“水循環”って知っていますか?」水循環から学ぶ水の重要性(蔵治教授) |
| 樹芸研究所 | 日本農業新聞 | 2021.7.8 | 石川県加賀市と樹芸研究所がエネルギー供給などの2社と連携してカカオ生産の共同研究契約 |
| 樹芸研究所 | 日本経済新聞 | 2021.7.8 | 石川県加賀市と樹芸研究所がエネルギー供給などの2社と連携してカカオ生産の共同研究契約 |
| 樹芸研究所 | 中日新聞 | 2021.7.8 | 石川県加賀市と樹芸研究所がエネルギー供給などの2社と連携してカカオ生産の共同研究契約 |
| 企画部 | 日本水道新聞 | 2021.8.5 | 水循環基本法フォローアップ委員会座談会(蔵治教授) |
| 千葉演習林 | 房日新聞 | 2021.9.3 | 千葉演習林ウェブページで森林博物館資料館内部360度写真公開 |
| 企画部 | 静岡新聞 | 2021.9.4 | 「大井川とリニア 私の視点」水は地域の共有財産という認識が大事(蔵治教授) |
| 北海道演習林 | 北海道新聞 | 2021.9.10 | 富良野緑峰高校園芸化学科と樹木について学ぶ連携授業開始 |
| 富士癒しの森研究所 | UTY テレビ山梨 「スゴろく」 | 2021.9.15 | カエントケ山中湖村で相次いで確認 |
| 企画部 | NHK「クローズアップ現代+」 | 2021.9.15 | 国土の7割を森林に覆われた日本で持続可能な林業とは何か。「自伐型林業」という“小さな林業”の取り組みなども例に、林業の未来を考える(蔵治教授) |
| 富士癒しの森研究所 | 読売新聞オンライン | 2021.9.19 | カエントケ山中湖村各地で見つかる、注意喚起(写真提供) |
| 富士癒しの森研究所 | NHK 甲府放送局 | 2021.9.22 | ドローンを使いナラ枯れの被害調査始まる(三浦助教) |
| 千葉演習林 | Soil mag. 第1号 | 2021.9.30 | 「IDEAS FOR THE FUTURE 竹林の未来」タケ類の生態や対処法などの解説(久本助教) |
| 富士癒しの森研究所 | NHK 甲府放送局 | 2021.9.30 | ナラ枯れ実態の効率的な調査にむけ講習会開催 |
| 富士癒しの森研究所 | 山梨日日新聞 | 2021.10.1 | 山中湖村と研究所が連携しナラ枯れ実態調査始める |
| 富士癒しの森研究所 | UTY テレビ山梨 「スゴろく」 | 2021.10.5 | タブレット端末を使用したナラ枯れの調査を山中湖村と東大が共同実施 |
| 北海道演習林 | 北海道新聞 | 2021.10.15 | 富良野緑峰高校園芸化学科の生徒が樹木園などで植栽実習 |
| 企画部 | 朝日新聞 | 2021.10.19 | 東海豪雨きっかけで人工林の間伐に力を入れる豊田市の取り組みにコメント(蔵治教授) |

| 演習林名 | メディア | 日付 | 内容 |
|-----------|------------------------------|------------|---|
| 企画部 | テレビ朝日系列 「テレメンタリー 2021」 | 2021.10.22 | 「土砂災害と森林伐採—民家に迫る危険—」研究室でのインタビューと現場取材（蔵治教授） |
| 樹芸研究所 | 週刊循環経済新聞 | 2021.10.25 | 北陸エリアバイオマス資源有効活用の事例紹介、石川県加賀市国産カカオ産業育成、樹芸研究所などと共同研究契約締結 |
| 富士癒しの森研究所 | 毎日新聞（山梨地方版） | 2021.11.5 | 研究所と地域の交流 「癒しの森の会」と共催で「森の文化祭」を開催 |
| 北海道演習林 | 北海道新聞別刷 （日曜版） | 2021.11.28 | 「五感紀行」寺田文は倒木更新に興味を持ち北海道演習林で倒木更新を見学。北海道演習林では現在、倒木更新に関する生育調査を行っている。 |
| 富士癒しの森研究所 | 山梨日日新聞 | 2021.12.5 | 「時標」ナラ枯れ迅速把握が対策の鍵、森林調査管理のスマート化（三浦助教） |
| 千葉演習林 | 房日新聞 | 2021.12.12 | 鴨川市との交流事業「野鳥の巣箱をかけよう！（巣箱作り編）」 |
| 富士癒しの森研究所 | NHK 甲府放送局 「News かいドキ」 | 2021.12.22 | ナラ枯れの木を効率的に発見するための新たな研究始まる（三浦助教） |
| 富士癒しの森研究所 | NHK 「おはよう日本」 | 2021.12.23 | ナラ枯れの木を効率的に発見するための新たな研究始まる（三浦助教） |
| 企画部 | 京都新聞 | 2022.1.10 | 森林資源の保全や活用について考えるイベント「保津川流域の森林資源と水運」でのコメント（蔵治教授） |
| 富士癒しの森研究所 | NHK オンライン WEB 特集 | 2022.1.13 | 広がるナラ枯れ被害、早期発見の新研究に期待（三浦助教） |
| 富士癒しの森研究所 | YBS 山梨放送 「ワイドニュース」 | 2022.1.17 | ナラ枯れ被害新たに 3600 本を確認 |
| 富士癒しの森研究所 | UTY テレビ山梨 「スゴろく」 | 2022.1.17 | ナラ枯れ去年の被害がおととの約 45 倍 山中湖村と東大が調査 |
| 富士癒しの森研究所 | 山梨日日新聞 | 2022.1.18 | 山中湖村ナラ枯れ 3600 本を確認、2020 年調査の 45 倍 |
| 北海道演習林 | 北海道新聞 | 2022.1.29 | 旭川の銘木市、北海道演習林のマカバ人気 |
| 千葉演習林 | 北海道新聞 | 2022.2.2 | 苫小牧の屋内庭園でクロチクが開花 タケ類の一斉開花についてコメント（久本助教） |
| 富士癒しの森研究所 | 朝日新聞朝刊関西 | 2022.2.7 | 「おかしとことば」フキノトウと山菜採りについてコメント（齋藤講師） |
| 富士癒しの森研究所 | 読売新聞 | 2022.2.17 | ナラ枯れ対策の最新技術紹介（三浦助教） |
| 富士癒しの森研究所 | InterFM897 「DARE2CARE」 | 2022.2.18 | 研究所紹介・今後の展開等インタビュー（齋藤講師） |
| 富士癒しの森研究所 | 山梨日日新聞 | 2022.2.21 | 「時越え山梨の旅明治から令和へ」山中湖のワカサギ釣りにコメント（齋藤講師） |
| 富士癒しの森研究所 | 日経グローバル 432 号 | 2022.3.21 | 「特集 コロナで膨張、自治体財政 総額 130 兆円、10 年間でどう変化したか」入会やコモンズに関するコメント（齋藤講師） |
| 千葉演習林 | 千葉日報 | 2022.3.27 | 県立中央博が訂正、昨年 11 月に発見されたナナフシ類の正体はアマミトガリナナフシ |

9) 地方自治体等との協定

| 演習林名 | 自治体等の名称 | 協定の名称 | 期間 |
|-----------|---------|---|-------------|
| 千葉演習林 | 千葉県鴨川市 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林と鴨川市との間における地域交流に関する協定書 | 2009.7.1～ |
| 千葉演習林 | 千葉県君津市 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林と君津市との間における地域交流に関する協定書 | 2009.7.21～ |
| 北海道演習林 | 北海道富良野市 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林と北海道富良野市との交流に関する協定書 | 2016.1.13～ |
| 秩父演習林 | 埼玉県秩父市 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林と秩父市との間における地域交流に関する協定書 | 2019.3.26～ |
| 生態水文学研究所 | 愛知県瀬戸市 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所と瀬戸市との間における地域交流に関する協定書 | 2011.11.10～ |
| 生態水文学研究所 | 愛知県犬山市 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所と犬山市との間における地域交流に関する協定書 | 2011.6.1～ |
| 富士癒しの森研究所 | 山梨県山中湖村 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所と山中湖村との間における地域交流に関する協定書 | 2017.3.7～ |
| 樹芸研究所 | 静岡県南伊豆町 | 東京大学大学院農学生命科学研究科と静岡県南伊豆町との連携・協力に関する協定書 | 2018.10.29～ |

10) SNS の運用

| 演習林名 | 運用媒体 | アクセス URL |
|-----------|----------|---|
| 千葉演習林 | Facebook | https://www.facebook.com/東京大学-千葉演習林-509050409292447/ |
| 北海道演習林 | Facebook | https://www.facebook.com/東京大学北海道演習林-101023278753701/ |
| 田無演習林 | Twitter | https://twitter.com/tanashi_forest |
| 生態水文学研究所 | Tumblr | https://www.tumblr.com/blog/view/eri-utf |
| 富士癒しの森研究所 | Facebook | https://www.facebook.com/fuji.iyashinomori |
| 富士癒しの森研究所 | YouTube | https://www.youtube.com/channel/UCeOCZWjm6-nNXy37uZf5NQw |

4. 国際

1) 交流事業・国際シンポジウム・国際共同研究

交流事業

| 相手大学および機関名 | 国名 | 協定締結の有無 | 交流期間 | 目的 |
|------------|----|---------|------|----|
| 該当なし | | | | |

国際シンポジウム

| 参加者氏名 | シンポジウム名 | 主 催 | 開催地 | 日 程 |
|---|--|---|--------|--------------------|
| 福井大 | SILVA Network Annual Conference | SILVA Network | online | 2021/7/7 - 8 |
| 尾張敏章 | Live Session at the IUFRO World Day "Role of Data, Inventory, Model in Sustainable Forest Management in Asian Forests" | IUFRO | online | 2021/9/29 |
| 尾張敏章・田中 延亮・福井大・ 鈴木智之・蔵治 光一郎・鎌田直 人・當山啓介 | NTU-UTokyo Seminar for Students | 国立台湾大学森林環境及資 源学系・東京大学演習林 | online | 2021/10/13 |
| 福井大・平尾聡 秀 | 1st International Bat Research Online Symposium 2021 | Leibniz Institute for Zoo and Wildlife Research | online | 2021/11/2 |
| 鎌田直人・尾張 敏章 | UTokyo-NTU Joint Conference 2021: Plenary Session | The University of Tokyo | online | 2021/12/8 |
| 鎌田直人・尾張 敏章 | UTokyo-NTU Joint Conference 2021: Parallel Session "Cooperation in Agriculture towards the Post-Corona Era" | The University of Tokyo | online | 2021/12/9 |
| 久保田耕平・鎌 田直人・蔵治光 一郎・石橋整 司・後藤晋・尾 張敏章・楠本 大・浅野友子・ 田中延亮・福井 大・平尾聡秀・ 齋藤暖生・前原 忠・鈴木智之・ 久本洋子・坂上 大翼・竹本周 平・藤原章雄・ 當山啓介・三浦 直子・水内佑 輔・佐藤貴紀 | UTokyo-NTU Joint Conference 2021: Parallel Session "Cooperation in Forest Science and Biomaterial Sciences towards the Post Corona Era" | The University of Tokyo | online | 2021/12/10 |
| 蔵治光一郎 | TF2021 Virtual Conference | Faculty of Tropical Forestry, University Malaysia Sabah (UMS) | online | 2021/12/14 - 15 |

| 参加者氏名 | シンポジウム名 | 主 催 | 開催地 | 日 程 |
|--|--|---|--------|----------------|
| 久保田耕平・鎌田直人・山田利博・蔵治光一郎・石橋整司・後藤晋・尾張敏章・楠本大・浅野友子・田中延亮・福井大・鈴木智之・久本洋子・坂上大翼・竹本周平・藤原章雄・當山啓介・三浦直子・水内佑輔・佐藤貴紀 | 2nd International Symposium of Long-term Forest Monitoring Research in Asia: "A research hub of long-term forest monitoring field centers on environmental changes and ecosystem responses: Collaborating for data, knowledge and young researchers" | Faculty of Forestry, Universitas Gadjah Mada & The University of Tokyo Forests, The University of Tokyo | online | 2022/3/12 - 13 |

国際共同研究

| 氏名 | 研究課題 | 共同研究者所属 | 氏名 | 国籍 |
|---------------|---|-------------|---|--------|
| 蔵治光一郎 | Impact of climate change on rainfall variability in Mae Chaem Watershed and Whole Mountainous Area in the Upper Chao Phraya River Basin | タイ王立灌漑局 | Nilobol Aranyabhaga | タイ |
| 蔵治光一郎 | Hydrological Monitoring in Mount Alab and Inobong, Crocker Range Park, Sabah | マレーシアサバ大学 | Maznah Mahali, Anand Nainar | マレーシア |
| | | マレーシアサバ大学 | Maria Lourdes T Lardizabal Wilson V. C. Wong | マレーシア |
| | | カセサート大学 | Sunisa Sanguansub | タイ |
| 鎌田直人 | Environmental factors and phylogenetic constraints influencing a risk of tree mortality by ambrosia beetle attacks | チェンマイ大学 | Teerapong Saowaphak Sawai Buranapanichpan | タイ |
| | | チェコ農学生命科学大学 | Amit Roy | チェコ |
| | | カタールニヤ大学 | Antonio Gugliuzzo・Antonio Biondi | イタリア |
| 鎌田直人・楠本大・竹本周平 | Environmental factors and phylogenetic constraints influencing a risk of tree mortality by ambrosia beetle attacks | ガジャマダ大学 | Sri Rahayu | インドネシア |
| 鎌田直人 | Mechanisms of trichomes and terpene compounds in indigenous and commercial Thai rice varieties against brown planthopper | カセサート大学 | Sunisa Sanguansub | タイ |

| 氏名 | 研究課題 | 共同研究者所属 | 氏名 | 国籍 |
|------|-------------------------|----------------------------|------------------|----|
| 鎌田直人 | ブナアオシヤチホコの密度変動に関する研究 | 海南大学 | Hui Zhang | 中国 |
| 後藤 晋 | 東南アジアにおけるヒノキ属の系統推定と産地試験 | Seoul National University | Dr. Kyu-Suk Kang | 韓国 |
| | | National Taiwan University | Dr. Fang-HuaChu | 台湾 |

2) 海外渡航

該当なし

3) 外国人研究者・学生等の来訪

| 演習林名 | 来訪目的 | 日程 | 国 | 人数 |
|-------------|---------------------------------|----------------------|-------|----|
| 北海道演習林 | 風倒攪乱とその後の管理法が北方林の回復力に与える複合的影響 | 2021/8/3-5 | 中国 | 1 |
| 千葉演習林 | JICA イノベーティブアジアインターンシップ実地研修（見学） | 2021/9/22 | スリランカ | 1 |
| 生態水文学研究所 | GPR を用いた治山ダム堆砂物調査地の下見 | 2021/10/20-22 | フランス | 2 |
| 教育・社会連携センター | 外国人教員（旧客員Ⅲ種） | 2021/11/11-2022/5/10 | 中国 | 1 |
| 田無演習林 | 見学および交流 | 2021/12/14 | 中国 | 1 |
| 富士癒しの森研究所 | 見学および交流 | 2021/12/18-19 | 中国 | 1 |

5. 森林管理

1) 管理面積集計表・林相別蓄積集計表・植栽樹種

管理面積集計表

2021年4月1日現在 ha

| 演習林名 | 管理面積合計 | 立木地 | | | | | | | | 無立木地 | その他 |
|-----------|--------|-------|-------|-------|------|--------|------|--------|-------|------|-----|
| | | 人工林 | | | | 天然林 | | | | | |
| | | 小計 | 針葉樹林 | 針広混交林 | 広葉樹林 | 小計 | 針葉樹林 | 針広混交林 | 広葉樹林 | | |
| 千葉演習林 | 2,170 | 866 | 852 | | 14 | 1,294 | | 279 | 1,015 | 1 | 9 |
| 北海道演習林 | 22,714 | 3,427 | 3,121 | 157 | 149 | 18,415 | | 14,112 | 4,303 | 21 | 850 |
| 秩父演習林 | 5,812 | 713 | 695 | 5 | 14 | 5,013 | 167 | 1,027 | 3,819 | | 86 |
| 田無演習林 | 8 | 7 | 1 | 4 | 1 | | | | | | 2 |
| 生態水文学研究所 | 1,292 | 304 | 302 | | 2 | 949 | | 949 | | | 39 |
| 富士癒しの森研究所 | 41 | 37 | 25 | 9 | 3 | | | | | | 4 |
| 樹芸研究所 | 247 | | 49 | | 59 | | | | 106 | 32 | |
| 合計 | 32,283 | 5,354 | 5,045 | 174 | 243 | 25,671 | 167 | 16,367 | 9,243 | 54 | 990 |

但し、「立木地」は実験林、樹木園、採穂園、採種園を含む森林の合計面積、「無立木地」は竹林、伐採跡地、未立木地の合計面積、「その他」は道路敷、林道敷、集材路、土場、河川敷、水路敷、池敷、崩壊地、荒地、苗畑、苗畑跡地、圃場、圃場付帯地、庁舎構内、事務所構内、作業所構内、宿舎、建物敷、馬房、露場、湖畔広場、古在ヶ原、グラウンド、貸付地、鉄塔敷、送電線、鉱山跡、採石跡、鹿柵敷、林班外の土地の合計面積（誤差を含む）とした。

端数処理を四捨五入で行っているため、合計と内訳の計は必ずしも一致しない。

林相別蓄積集計表

2021年4月1日現在 m³

| 演習林名 | 計 | 人工林 | 天然林 |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 千葉演習林 | 1,262,363 | 605,061 | 657,302 |
| 北海道演習林 | 5,400,738 | 706,906 | 4,693,832 |
| 秩父演習林 | 2,128,144 | 445,924 | 1,682,521 |
| 田無演習林 | 2,389 | 2,389 | |
| 生態水文学研究所 | 297,219 | 134,177 | 163,041 |
| 富士癒しの森研究所 | 16,151 | 16,151 | |
| 樹芸研究所 | 79,059 | 53,428 | 25,631 |
| 合計 | 9,186,064 | 1,964,036 | 7,222,326 |

植栽樹種

(本)

| 演習林名 | 樹種 | | | |
|-----------|-------|-------|--------|---------|
| | 本数 | | | |
| 千葉演習林 | スギ | | | |
| | 235 | | | |
| 北海道演習林 | トドマツ | エゾマツ | アカエゾマツ | グイマツ F1 |
| | 6,078 | 4,938 | 4,448 | 3,000 |
| 秩父演習林 | | | | |
| 田無演習林 | | | | |
| 生態水文学研究所 | | | | |
| 富士癒しの森研究所 | | | | |
| 樹芸研究所 | | | | |

2) 立木伐採量

m³

| 演習林名 | 主伐材積 | | | | | 小計 | 利用 間伐 材積 | 主伐・間伐 合計 |
|---------------|---------|-------|-----|-------|-------|--------|----------------|-------------|
| | 人工林 | | 天然林 | | | | | |
| | 針葉樹 | 広葉樹 | 針葉樹 | 広葉樹 | | | | |
| 千葉演習林 | 立木販売 | 1,102 | | | | 1,102 | | 1,102 |
| | 素材生産資材量 | | | | | | 14 | 14 |
| | その他 | | | | | | | |
| | 合 計 | 1,102 | | | | 1,102 | 14 | 1,116 |
| 北海道演習林 | 立木販売 | 3,150 | 481 | 4,481 | 5,415 | 13,527 | 4,462 | 17,989 |
| | 素材生産資材量 | | | 558 | 688 | 1,246 | | 1,246 |
| | その他 | | | | | | | |
| | 合 計 | 3,150 | 481 | 5,039 | 6,103 | 14,773 | 4,462 | 19,235 |
| 秩父演習林 | 立木販売 | | | | | | | |
| | 素材生産資材量 | | | | | | | |
| | その他 | | | | | | | |
| | 合 計 | | | | | | | |
| 田無演習林 | 立木販売 | | | | | | | |
| | 素材生産資材量 | | | | | | | |
| | その他 | | | | | | | |
| | 合 計 | | | | | | | |
| 生態水文学 研究所 | 立木販売 | | | | | | | |
| | 素材生産資材量 | | | | | | | |
| | その他 | | | | | | | |
| | 合 計 | | | | | | | |
| 富士癒しの 森研究所 | 立木販売 | | | | | | | |
| | 素材生産資材量 | | | | | | | |
| | その他 | | | | | | | |
| | 合 計 | | | | | | | |
| 樹芸研究所 | 立木販売 | | | | | | | |
| | 素材生産資材量 | | | | | | | |
| | その他 | | | | | | | |
| | 合 計 | | | | | | | |
| 合 計 | 立木販売 | 4,252 | 481 | 4,481 | 5,415 | 14,629 | 4,462 | 19,091 |
| | 素材生産資材量 | | | 558 | 688 | 1,246 | 14 | 1,260 |
| | その他 | | | | | | | |
| | 合 計 | 4,252 | 481 | 5,039 | 6,103 | 15,875 | 4,477 | 20,351 |

立木・素材等の販売に関する数量を記載。伐捨間伐は含まない。
端数処理を四捨五入で行っているため、合計と内訳の計は必ずしも一致しない。

3) 育林実行量①(地拵え, 新植および補植, 下刈り, 除伐)

| 演習 林名 | 地拵え | | | 新植および補植 | | | | 下刈り | | | 除伐 | | |
|------------|-----|------------|------|---------|------------|----------|-----------|---------|------------|----|---------|------------|---------|
| | 林小班 | 面積 (ha) | 備考 | 林小班 | 面積 (ha) | 植栽 本数 | 備考 | 林小班 | 面積 (ha) | 備考 | 林小班 | 面積 (ha) | 備考 |
| 千葉 演習林 | | | | 44C5-1 | 0.04 | 235 | 教育特 別林 | 44C11-2 | 0.07 | | 45C11-2 | 0.77 | |
| | | | | | | | | 44C11-3 | 0.27 | | | | |
| | | | | | | | | 44C11-4 | 0.16 | | | | |
| | | | | | | | | 10C4-3 | 0.50 | | | | |
| | | | | | | | | 10C4-4 | 0.23 | | | | |
| 北海道 演習林 | 33 | A | 5.96 | 請負 | 33 | A | 5.96 | 4,453 | 請負 | 2 | A | 3.07 | 請負 2017 |
| | 33 | C | 4.51 | 請負 | 33 | C | 4.51 | 3,364 | 請負 | 2 | B | 2.74 | 請負 2017 |
| | 45 | A | 1.57 | 直営 | 45 | A | 1.57 | 1,132 | 請負 | 3 | E | 0.10 | 請負 2015 |
| | 45 | B | 8.30 | 直営 | 45 | B | 8.30 | 5,343 | 請負 | 3 | E | 4.72 | 請負 2017 |
| | 68 | E | 1.92 | 直営 | 68 | E | 1.92 | 812 | 直営 | 4 | B | 5.16 | 請負 2015 |
| | 70 | A | 0.23 | 直営 | 70 | A | 0.23 | 360 | 直営 | 4 | C | 1.27 | 請負 2015 |
| | | | | | 73 | C | 2.99 | 2,000 | 請負 | 41 | B | 0.15 | 請負 2017 |
| | | | | | 74 | K | 1.27 | 1,000 | 直営 | 41 | C | 6.87 | 請負 2017 |
| | | | | | | | | | | 42 | B | 0.14 | 請負 2017 |
| | | | | | | | | | | 43 | A | 0.49 | 請負 2017 |
| | | | | | | | | | | 43 | B | 3.65 | 請負 2017 |
| | | | | | | | | | | 44 | A | 0.01 | 請負 2017 |
| | | | | | | | | | | 45 | A | 0.02 | 請負 2017 |
| | | | | | | | | | | 20 | A | 1.24 | 直営 2018 |
| | | | | | | | | | | 20 | B | 0.27 | 直営 2018 |
| | | | | | | | | | | 23 | B | 0.37 | 直営 2018 |
| | | | | | | | | | | 23 | C | 0.19 | 直営 2018 |
| | | | | | | | | | 41 | C | 3.81 | 直営 2017 | |
| | | | | | | | | | 44 | A | 0.11 | 直営 2017 | |
| | | | | | | | | | 64 | A | 4.07 | 直営 2019 | |
| | | | | | | | | | 72 | A | 2.96 | 直営 2019 | |
| | | | | | | | | | 74 | C | 1.21 | 直営 2017 | |
| | | | | | | | | | 74 | H | 1.96 | 直営 2019 | |
| | | | | | | | | | 98 | B | 2.49 | 直営 2019 | |
| 合計 | | 22.49 | | | 26.79 | 18,699 | | | 48.30 | | | 0.77 | |

育林実行量②（枝打ち，保育間伐，獣害対策，その他）

| 演習林名 | 枝打ち | | | 保育間伐 | | | 獣害対策(シカ柵設置など) | | | その他 | | |
|----------|-----|------------|------|-------------|------------|------------|---------------|-------------|------|--------|------------|---------------------|
| | 林小班 | 面積 (ha) | 備考 | 林小班 | 面積 (ha) | 備考 | 林小班 | 面積 (ha) | 備考 | 林小班 | 面積 (ha) | 備考 |
| 千葉演習林 | | | | 45C2-2 | 0.54 | | | | | 45D2-5 | 0.75 | 危険木伐採(請負) |
| | | | | 11C4-3 | 2.30 | jクレ対象地(請負) | | | | | | |
| | | | | 44C10 | 0.88 | 請負 | | | | | | |
| 北海道演習 | | | | 98 | D | 22.97 | 請負(補助金) | 51 | C | 0.73 | 野鼠毒餌 | |
| | | | | | | | | 71 | D | 2.63 | 野鼠毒餌 | |
| | | | | | | | | 72 | D | 4.53 | 野鼠毒餌 | |
| | | | | | | | | 73 | C | 2.09 | 野鼠毒餌 | |
| | | | | | | | | 73 | D | 2.85 | 野鼠毒餌 | |
| | | | | | | | | 74 | C | 2.66 | 野鼠毒餌 | |
| | | | | | | | | 74 | H | 4.74 | 野鼠毒餌 | |
| | | | | | | | | 74 | J | 0.91 | 野鼠毒餌 | |
| | | | | | | | | 74 | K | 2.19 | 野鼠毒餌 | |
| | | | | | | | | 74 | P | 0.23 | 野鼠毒餌 | |
| | | | | | | | | 74 | D | 1.12 | 野鼠毒餌 | |
| | | | | | | | | 75 | B | 3.09 | 野鼠毒餌 | |
| | | | | | | | | 87 | J | 0.81 | 野鼠毒餌 | |
| | | | | | | | 87 | C | 1.80 | 野鼠毒餌 | | |
| | | | | | | | 87 | K | 0.56 | 野鼠毒餌 | | |
| 秩父演習林 | 29 | 37 | 0.24 | 水源地域の森づくり事業 | 1 | 5 | 1.36 | | 29 | 1 | 3.76 | 樹皮ガード設置、サントリー森林整備事業 |
| | 29 | 38 | 0.31 | | 1 | 19 | 1.32 | | 29 | 40 | 0.22 | シカ柵設置、サントリー森林整備事業 |
| | 29 | 39 | 0.36 | | 29 | 37 | 0.20 | 水源地域の森づくり事業 | | | | |
| | | | | | 31 | 18 | | | | | | |
| | | | | | 31 | 20 | 2.83 | | | | | |
| | | | | 31 | 22 | 1.04 | | | | | | |
| 生態水文学研究所 | | | | 39 | い2 | 0.10 | 愛知県小規模治山整備事業 | | | | | |
| | | | | 39 | い4 | 1.83 | 〃 | | | | | |
| | | | | 39 | い5 | 0.08 | 〃 | | | | | |
| | | | | 39 | い6 | 0.70 | 〃 | | | | | |
| | | | | 39 | い7 | 1.09 | 〃 | | | | | |
| | | | | 39 | い8 | 0.30 | 〃 | | | | | |
| | | | 72 | い1 | 0.10 | ボランティア | | | | | | |
| 合計 | | 0.24 | | | | 37.64 | | | | 30.94 | | 0.75 |

4) 素材生産総括表・土木実行総括表・道路現況

素材生産総括表

| 演習林名 | 素材生産資材量 | | | 素材生産量 | | | 歩留 (%) | | |
|---------------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|
| | 計 | 針葉樹 | 広葉樹 | 計 | 針葉樹 | 広葉樹 | 平均 | 針葉樹 | 広葉樹 |
| | | | | | | | | | |
| 千葉演習林 | 37.69 | 37.69 | | 14.47 | 14.47 | | 38.39 | 38.39 | |
| 北海道演習林 | 1,245.83 | 558.16 | 687.67 | 815.94 | 412.00 | 403.94 | 65.49 | 73.81 | 58.74 |
| 秩父演習林 | | | | | | | | | |
| 田無演習林 | | | | | | | | | |
| 生態水文学 研究所 | | | | | | | | | |
| 富士癒しの森 研究所 | | | | | | | | | |
| 樹芸研究所 | | | | | | | | | |
| 合 計 | | | | | | | | | |

土木実行総括表

| 演習林名 | 実行内容 | | | |
|-----------|---------|-------|-------|-------|
| | 実行数量 | | | |
| | 林道維持 | 林道改修 | 歩道維持 | 災害復旧 |
| 千葉演習林 | 30,900 | 50 | 4,845 | 24 箇所 |
| 北海道演習林 | 309,778 | | | 1 箇所 |
| 秩父演習林 | 13,370 | 2,480 | 7,354 | 6,929 |
| 田無演習林 | 1,603 | | | |
| 生態水文学研究所 | 4,100 | 1,580 | | 1 箇所 |
| 富士癒しの森研究所 | 600 | 900 | | 1 箇所 |
| 樹芸研究所 | 16,972 | 8,000 | | 6 箇所 |

道路現況

| 演習林名 | 車道延長 | | | | 歩道延長 | |
|---------------|---------|--------|-----------|----------|---------|----------|
| | 林道延長 | 作業道延長 | 計 | 密度(m/ha) | 延長 | 密度(m/ha) |
| | | | | | | |
| 千葉演習林 | 31,436 | | 31,436 | 14.5 | 125,361 | 57.8 |
| 北海道演習林 | 947,080 | | 947,080 | 41.7 | 6,649 | 0.3 |
| 秩父演習林 | 11,395 | 10,132 | 21,527 | 3.7 | 182,371 | 31.4 |
| 田無演習林 | | | | | 1,550 | 186.1 |
| 生態水文学 研究所 | 3,150 | 10,070 | 13,220 | 10.2 | 26,470 | 20.5 |
| 富士癒しの森 研究所 | 2,422 | | 2,422 | 59.1 | 2,287 | 55.8 |
| 樹芸研究所 | 3,486 | 3,657 | 7,143 | 29.0 | 11,753 | 47.8 |
| 合 計 | 998,969 | 23,859 | 1,022,828 | | 356,441 | |

5) 演習林林産物収入細分表

| 演習林名 | 立 木 | | 素 材 | | そ の 他 | | | 合 計 | | |
|------------|------------|----------------|------------|----------------|--------|-----|----------|-----|----------------|---------------|
| | | | | | ヒサカキ | 苗 木 | 残材等, その他 | | | |
| 千葉 演習林 | 1,102,000 | m ³ | 14.469 | m ³ | 24 | 束 | 1,000 | 本 | m ³ | 2,981,788 円 |
| | 2,001,000 | 円 | 416,788 | 円 | 14,000 | 円 | 550,000 | 円 | 円 | |
| 北海道 演習林 | 17,989,020 | m ³ | 815.940 | m ³ | | 束 | 200 | 本 | m ³ | 104,813,050 円 |
| | 50,229,920 | 円 | 54,545,718 | 円 | | 円 | 37,412 | 円 | 円 | |
| 秩父 演習林 | | m ³ | 11.670 | m ³ | | 束 | | 本 | m ³ | 7,000 円 |
| | | 円 | 7,000 | 円 | | 円 | | 円 | 円 | |
| 合計 | | m ³ | | m ³ | | 束 | | 本 | m ³ | 107,801,838 円 |
| | | 円 | | 円 | | 円 | | 円 | 円 | |

6. 環境安全

1) 安全・防災のための講習会等

| 研 修 名 | 開 催 機 関 等 | 開催月 | 参加人数 |
|-----------------------------------|----------------------|-------|------|
| 環境安全委員会 | 千葉演習林 | 毎月 | 8 |
| 環境安全委員会 | 北海道演習林 | 毎月 | 10 |
| 労働安全衛生会議 | 生態水文学研究所 | 毎月 | 10 |
| 教育研究安全衛生マネジメントシステム会議 | 田無演習林 | 毎月 | 6 |
| 教育研究安全衛生マネジメントシステム説明会 (オンライン) | 農学生命科学研究科 環境安全管理室 | 4月 | 2 |
| 運搬車, 三脚脚立, バッテリーチャージャーの 安全実地講習 | 田無演習林 | 4月 | 5 |
| 温泉管取り扱い講習 | 樹芸研究所 | 4月 | 4 |
| 刈払機取扱作業安全衛生教育 | 千葉県林業サービスセンター | 5月 | 1 |
| MS 会議及びハチ対策講習会 (Zoom) | 北海道演習林 | 6月 | 40 |
| チップ安全講習 | 富士癒しの森研究所 | 6月 | 4 |
| 教育研究安全衛生マネジメントシステム会議 | 秩父演習林 | 6月・2月 | 各 16 |
| 環境安全講習会 (オンライン) | 環境安全研究センター | 8月 | 1 |
| チェンソー安全講習 | 富士癒しの森研究所 | 9月 | 4 |
| 建物火災避難訓練 | 北海道演習林 | 10月 | 40 |
| 安全運転管理者講習 | 千葉県公安委員会 | 10月 | 1 |
| 交通安全講習会 (Zoom) | 千葉演習林 | 11月 | 22 |
| 交通安全講習会 (Zoom) | 北海道演習林 | 11月 | 42 |
| 自衛消防総合訓練 | 千葉演習林 | 11月 | 6 |
| チェンソー伐倒安全講習会 | 北海道演習林 | 11月 | 24 |
| 安全運転管理者講習 | 北海道旭川方面公安委員会 | 11月 | 1 |
| 運搬車安全講習 | 富士癒しの森研究所 | 12月 | 4 |
| 環境安全見学会 | 環境安全研究センター | 12月 | 1 |
| 電気火災対応説明会 (オンライン) | 農学生命科学研究科 環境安全管理室 | 12月 | 1 |
| スノーモバイル安全運転講習会 | 北海道演習林 | 1月 | 20 |
| 林道走行安全講習 | 樹芸研究所 | 1月 | 4 |
| 自衛消防総合訓練 | 千葉演習林 | 3月 | 2 |

2) 資格取得のための講習等

| 研 修 名 | 開 催 機 関 等 | 開催月 | 参加人数 |
|---------------------|-----------------------|-----|------|
| 刈払機取扱作業安全衛生教育 | 千葉県林業サービスセンター | 5月 | 1 |
| 甲種防火管理者新規講習 | (一財)日本防火・防災協会 | 6月 | 1 |
| 高所作業車運転技能講習 | 大原自動車学校 | 6月 | 1 |
| 小型移動式クレーン運転技能講習 | 大原自動車学校 | 7月 | 1 |
| 玉掛技能講習 | 大原自動車学校 | 7月 | 1 |
| 粉じん作業特別教育 | 三島労基 | 7月 | 1 |
| 研削といし取替等業務特別教育 | 沼津労基 | 7月 | 1 |
| 伐木等業務(2021.8.1 施行) | 林業・木材製造業労働災害防止協会北海道支部 | 7月 | 1 |
| わな猟狩猟免除更新研修 | 千葉県安房地域振興事務所長 | 8月 | 1 |
| 伐木等業務(2021.8.1 施行) | 林業・木材製造業労働災害防止協会北海道支部 | 9月 | 1 |
| 鳥類標識調査講習会(実技講習) | (法)山階鳥類研究所 | 9月 | 1 |
| 鳥類標識調査講習会(実技講習) | (法)山階鳥類研究所 | 10月 | 1 |
| 第三種陸上特殊無線技士養成課程 | 北海道総合通信局 | 11月 | 1 |
| 限定解除:中型車は中型車(8t)に限る | 鴨川自動車教習所 | 12月 | 1 |
| 鳥類標識調査講習会(講義講習) | (法)山階鳥類研究所 | 12月 | 1 |
| ロープ高所作業特別教育 | コベルコ教習所 岐阜教習センター | 12月 | 1 |
| 第二種陸上特殊無線技士養成課程 | 北海道総合通信局 | 1月 | 1 |
| 玉掛け技能講習 | 株式会社PEO建機教習センター北海道教習所 | 2月 | 1 |
| 小型移動式クレーン運転技能講習 | 株式会社PEO建機教習センター北海道教習所 | 2月 | 1 |
| 危険物取扱者(乙種第4類)試験 | 一般財団法人消防試験研究センター北海道支部 | 2月 | 1 |
| 車両系建設機械(解体)運転技能講習 | キャタピラー教習所埼玉教習センター | 2月 | 2 |
| 不整地運搬車技能講習 | キャタピラー教習所埼玉教習センター | 3月 | 1 |
| はい作業主任者技能講習 | キャタピラー教習所(株)北海道教習センター | 3月 | 2 |
| 大型特殊自動車 | 秩父自動車学校 | 4月 | 1 |

3) 災害発生状況

| 災害種別 | 被災者 | | |
|------------------------------|--------|-------|--------|
| | 教職員(件) | 学生(件) | その他(件) |
| 重大災害 | | | |
| 設備災害 | | | |
| 通勤災害 | 1 | | |
| 人的被害あり | 5 | | |
| 人的被害なし (設備災害でない機器・施設損傷あり) | 7 | | |
| 人的被害・機器・施設損傷なし | | | |

東京大学安全衛生管理業務月報に基づく演習林災害統計

| 休業種別 | 被災者 | | |
|------------|--------|-------|--------|
| | 教職員(件) | 学生(件) | その他(件) |
| 休業災害(4日以上) | 1 | | |
| 休業災害(4日未満) | | | |
| 不休災害 | 11 | | |
| 合計 | 12 | | |

4) 山火事予防活動

| 演習林名 | 名称 | 開催場所 | 日程 | 参加人数 |
|--------|----------------------|----------|-------------------------|------------|
| 北海道演習林 | 巡視及び注意喚起の幟, 設置と撤去 | 北海道演習林一円 | 2021/4/21~ 2021/6/30 | 全職員 |
| 秩父演習林 | 消火訓練 | 秩父演習林 | 2021/8/24, 2022/1/17 | 全職員, 5名 |

7. 管理運営

1) 令和3年度技術職員等試験研究・研修会議

参加者

| 演習林名 | 参加者 |
|----------------|---|
| 林長・企画部 | 久保田耕平・蔵治光一郎・五十嵐勇治 |
| 千葉演習林 | 鶴見康幸・村川功雄・米道 学・里見重成・藤平晃司・軽込 勉・三次充和 |
| 北海道演習林 | 井口和信・犬飼 浩・廣田善巳・笠原久臣・福士憲司・宅間隆二・木村徳志・松井理生・大川あゆ子・小池征寛・岡平卓巳・中川雄治・高橋功一・小川 瞳・福岡 哲・算用子麻未・及川 希・犬飼慎也・遠國正樹・木村恒太・千井野聡・小林徹行・平間睦樹・延 栄一 |
| 秩父演習林 | 大村和也・高德佳絵・才木道雄・吉田弓子・千嶋 武・高野充広・原口竜成・斎藤俊浩・磯崎靖雄 |
| 田無演習林 | 栗田直明・相川美絵子 |
| 生態水文学研究所 | 澤田晴雄・井上 淳・丹羽悠二・梁瀬桐子・岸本光樹 |
| 富士癒しの森研究所 | 西山教雄・辻 良子 |
| 樹芸研究所 | 渡邊良広・村瀬一隆・辻 和明・江口由典 |
| 教育・社会連携センター | 近澤静恵 |
| フィールドデータ研究センター | 大石 諭 |



発表

| 表題 | 発表者全氏名 (○発表者) |
|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 秩父演習林における森林現況調査のデジタル化の変遷 | ○高野充広・原口竜成・吉田弓子 (秩父演習林)・中川雄治 (北海道演習林) |
| 樹芸研究所における電子野帳導入への取り組みと課題 | ○江口由典・村瀬一隆・渡邊良広・辻 和明 (樹芸研究所) |
| 全木調査における電子野帳の利用 | ○相川美絵子・栗田直明 (田無演習林) |
| 試験地データを Filemaker で管理することのできるようになったこと | ○小川 瞳・井口和信 (北海道演習林) |
| 試験地樹木の個体管理におけるデジタル技術の活用 | ○辻 良子・西山教雄 (富士癒しの森研究所) |
| 林種区分測量におけるタブレット端末の利用事例 | ○小林徹行・中川雄治 (北海道演習林) |
| 千葉演習林におけるシカ生息数調査の変遷 | ○鶴見康幸 (千葉演習林) |
| 演習林業務におけるデジタル技術によるイラストと漫画の作成 | ○梁瀬桐子 (生態水文学研究所) |
| フィールドデータ研究センターについて | ○大石 諭 (フィールドデータ研究センター) |

2) 技術職員研修

| 研 修 名 | 開 催 機 関 | 開催月 | 参加人数 |
|---|--------------------------------|--------------|------|
| 2021 年度（前期）教室系技術職員学外研修 高所作業車運転技能講習 | 大原自動車学校 | 6 月 | 1 |
| ドローン測量基本技術コース（初級） | ドローンエキスパートアカデミー 大宮校 | 6・7 月 | 1 |
| 2021 年度（前期）教室系技術職員学外研修 小型移動式クレーン運転技能講習 | 大原自動車学校 | 7 月 | 1 |
| 2021 年度（前期）教室系技術職員学外研修 玉掛技能講習 | 大原自動車学校 | 7 月 | 1 |
| 2021 年度（前期）教室系技術職員学外研修 公共測量技術講習会「GNSS による基準点測量・水準測量」 | 公益社団法人日本測量協会 中部支部 | 7 月 | 1 |
| 令和 3 年度東京大学技術職員研修「実験室の清掃・片付けテクニック研修」（オンライン） | 東京大学 | 8 月 | 1 |
| 鳥類標識調査講習会（実技講習） | （法）山階鳥類研究所 | 9 月 | 1 |
| 令和 3 年度技術職員等試験研究・研修会議（オンライン） | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | 10 月 | 58 |
| 令和 3 年度関東甲信越地区大学演習林等技術職員研修 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 10 月 | 14 |
| 鳥類標識調査講習会（実技講習） | （法）山階鳥類研究所 | 10 月 | 1 |
| 2021 年度東京大学階層別研修（係員（3 年経験者）研修） | 東京大学本部人材育成課職員評価・研修チーム | 11 月 ～1 月 | 1 |
| 鳥類標識調査講習会（講義講習） | （法）山階鳥類研究所 | 12 月 | 1 |
| Python 基礎研修 | 株式会社インソース | 12 月 | 1 |
| 生水研 74 林班樹幹注入研修会 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | 12 月 | 6 |
| 2021 年度東京大学次世代リーダー育成研修 | 東京大学本部人材育成課職員評価・研修チーム | 12 月 | 1 |
| 2021 年度（後期）教室系技術職員学外研修 ロープ高所作業特別教育 | コベルコ教習所 岐阜教習センター | 12 月 | 1 |
| 2021 年度（後期）教室系技術職員学外研修 第二種陸上特殊無線技士養成課程 | 北海道総合通信局 | 1 月 | 1 |
| 2021 年度（後期）教室系技術職員学外研修 玉掛け技能講習 | 株式会社 PEO 建機教習センター 北海道教習所 | 2 月 | 1 |
| 2021 年度（後期）教室系技術職員学外研修 小型移動式クレーン運転技能講習 | 株式会社 PEO 建機教習センター 北海道教習所 | 2 月 | 1 |
| 2021 年度森林管理委員会・技術担当・空間情報技術部門 GIS 技術指導者養成研修会（オンライン） | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | 2 月 | 5 |

| 研 修 名 | 開 催 機 関 | 開催月 | 参加人数 |
|------------------------------|-----------------------|-----|------|
| 植物標本製作講習会（オンライン） | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | 2月 | 2 |
| 2021年度第2回情報セキュリティセミナー（オンライン） | 東京大学 | 2月 | 1 |
| 第4回東京大学技術発表会（オンライン） | 第4回東京大学技術発表会実行委員会 | 3月 | 10 |

2) 事務職員

| 研 修 名 | 開 催 機 関 | 開催月 | 参加人数 |
|------------------------------|---------------------------|------------|------|
| 2021年度東京大学階層別研修（係員（3年経験者）研修） | 東京大学本部人材育成課職員 評価・研修チーム | 11月～ 1月 | 1 |
| 2021年度東京大学次世代リーダー育成研修 | 東京大学本部人材育成課職員 評価・研修チーム | 12月 | 1 |

8. 組織図

1) 千葉演習林

| 組織(主任職員) | | 配置職員(教職員) | | 配置職員(非常勤職員) | |
|-----------|-------------|-----------|---------|----------------|---------|
| 林長 | 教授 | 鎌田直人 | | | |
| 林長補佐 | 講師 | 楠本 大 | | | |
| 技術主任 | 技術専門員 | 村川功雄 | | | |
| 技術副主任 | 技術専門員 | 鶴見康幸 | | | |
| 教育研究主任 | 助教 | 久本洋子 | | | |
| | | 助教 | 當山啓介 | | |
| | | 教授 | 鎌田直人(兼) | | |
| | | 講師 | 楠本 大(兼) | | |
| 利用促進チーム主任 | 技術専門職員 | 藤平晃司 | | | |
| | (利用促進担当) | 技術専門職員 | 三次充和 | | |
| | (資料管理担当) | 技術専門職員 | 里見重成 | | |
| 森林管理チーム主任 | 技術専門職員 | 米道 学 | | | |
| | (森林管理担当) | 技術専門職員 | 軽込 勉 | | |
| | (土木担当) | 技術専門職員 | 塚越剛史 | | |
| | | 技術専門職員 | 阿達康眞 | | |
| 作業所チーム主任 | 技術専門員 | 鈴木祐紀 | | | |
| | (清澄作業所) | 技術専門員 | 鶴見康幸(兼) | 特任専門職員 | 嶋崎 拓 |
| | | 職域限定職員 | 岡田康則 | 特任専門職員 | 鈴木 愛 |
| | | | | 特任専門職員 | 富川 勲 |
| | | | | 特任専門職員 | 小林道子(兼) |
| 事務主任 | 事務室係長 | 田山勝則 | | | |
| | (総務担当) | 事務室主任 | 吉田明子 | 事務補佐員 | 藤後紗和子 |
| | | 一般職員 | 野山 智 | | |
| | (資産管理担当) | 係長 | 田山勝則(兼) | | |
| | (施設(作業所)担当) | 技術専門員 | 鈴木祐紀(兼) | | |
| | (宿泊管理担当) | 事務室主任 | 吉田明子(兼) | | |
| | | | | 特任専門職員 | 羽若部理會 |
| | | | | (2021/9/30 まで) | |
| | | | | 特任専門職員 | 小林道子 |

2) 北海道演習林

| 組織（主任職員） | | 配置職員（教職員） | | 配置職員（非常勤職員） | | |
|-------------------|---------|-----------|--------|------------------------------|---------------------------|---------------------------|
| 林長 | 准教授 | 尾張敏章 | | | | |
| 林長補佐 | 講師 | 田中延亮 | | | | |
| 教育研究主任 | 講師 | 福井 大 | | | | |
| | 助教 | 鈴木智之 | | | | |
| 主査 | 主査 | 加藤康洋 | | | | |
| 技術主任 | 技術専門職員 | 松井理生 | | | | |
| 技術副主任 | 上席技術専門員 | 犬飼 浩 | | | | |
| 庶務チーム | 係長 | 横山和宏 | 主任 | 天山 学 | 事務補佐員 穴澤三恵子 | |
| 会計チーム | 係長 | 米田久和 | 一般職員 | 橋場 唯 | | |
| 資産管理チーム | 係長 | 岡田教和 | | | | |
| 企画調整係主任 | 技術専門職員 | 松井理生(兼) | 技術専門職員 | 算用子麻未 | | |
| 調査資料係主任 | 技術専門員 | 井口和信 | 技術専門職員 | 小川 瞳 | 技能補佐員 犬飼雅子 | |
| | | | | | | 2021/5/1 から 2021/10/31 まで |
| | | | 技術専門職員 | 犬飼慎也 | 技能補佐員 中村朝子 | 2021/5/1 から 2021/10/31 まで |
| 種苗造林係主任 | 技術専門職員 | 木村徳志 | 技術専門職員 | 岡平卓巳 | | |
| 造林資料係主任 | 上席技術専門員 | 犬飼 浩(兼) | 技術専門職員 | 宅間隆二 | | |
| 生産販売係主任 | 上席技術専門員 | 犬飼 浩(兼) | | 事務補佐員 片平可奈 | | |
| 土木生産係 (土木担当)主任 | 技術専門職員 | 及川 希 | 技術専門職員 | 遠國正樹 | | |
| | | | | (育児休業)2022/2/28 から 2022/3/18 | | |
| 土木生産係 (生産担当)主任 | 技術専門職員 | 井上 崇 | 技術専門職員 | 高橋功一 | | |
| | | | 技術専門職員 | 木村恒太 | | |
| | | | 一般技術職員 | 小林徹行 | | |
| 調査第一係主任 | 技術専門職員 | 中川雄治 | 技術専門職員 | 福士憲司 | | |
| | | | 一般技術職員 | 千井野 聡 | | |
| | | | 一般技術職員 | 平間睦樹 | | |
| 調査第二係主任 | 技術専門職員 | 小池征寛 | 技術専門職員 | 笠原久臣 | | |
| | | | 技術専門職員 | 大川あゆ子 | | |
| | | | 特任専門職員 | 延 栄一 | | |
| 試験係 | | | 准教授 | 尾張敏章 | | |
| | | | 講師 | 田中延亮 | | |
| | | | 講師 | 福井 大 | | |
| | | | 助教 | 鈴木智之 | | |
| 山部樹木園主任 | 技術専門職員 | 福岡 哲 | 一般技術職員 | 廣田善己 | 技能補佐員 中坪優子 | |
| | | | | | 2021/4/1 から 2021/11/30 まで | |
| | | | | | 技能補佐員 安藤佳子 | |
| | | | | | 2021/4/1 から 2021/11/30 まで | |
| セミナーハウス 施設長 | 准教授 | 尾張敏章 | 一般職員 | 横山和宏(兼) | 技能補佐員 杉原時子 | |
| | | | | | 技能補佐員 望月 睦 | |
| | | | | | 技能補佐員 松村裕美 | |
| | | | | | 2021/5/1 から 2021/10/31 まで | |

3) 秩父演習林

| 組織（主任職員） | | | 配置職員（教職員） | | 配置職員（非常勤職員） | |
|-------------|--------|---------|-----------|------|-------------|-------|
| 林長 | 教授 | 山田利博 | | | | |
| 林長補佐 | 講師 | 平尾聡秀 | | | | |
| 教育研究主任 | 講師 | 浅野友子 | | | | |
| 試験係主任 | 助教 | 坂上大翼 | | | | |
| 事務室 | 専門員 | 大村 栄 | 主任 | 渡邊幸司 | 技術補佐員 | 浅見美津子 |
| | | | 一般職員 | 亀原弥生 | 事務補佐員 | 平沼かやの |
| 技術主任 | 技術専門員 | 大村和也 | | | 事務補佐員 | 富澤貴志 |
| 森林管理 チーム | 技術専門員 | 千嶋武 | 技術専門員 | 齋藤俊浩 | | |
| | | | 技術専門職員 | 原口竜成 | | |
| 利用促進 チーム | 技術専門職員 | 高野充広 | 技術専門職員 | 高德佳絵 | 技術補佐員 | 新井容子 |
| | | | 技術専門職員 | 吉田弓子 | 技術補佐員 | 濱田邦子 |
| 作業所 チーム | 技術専門職員 | 磯崎靖雄 | 技術専門職員 | 才木道雄 | 技術補佐員 | 山中五郎 |
| | | | | | 技術補佐員 | 山中淑子 |
| 影森苗畑 | 技術専門員 | 大村和也(兼) | | | | |

4) 田無演習林

| 組織（主任職員） | | | 配置職員（教職員） | | 配置職員（非常勤職員） | |
|----------|--------|---------|-----------|------|----------------|------|
| 林長 | 教授 | 石橋整司 | | | | |
| 林長補佐 | 助教 | 竹本周平 | | | | |
| 教育研究主任 | 助教 | 竹本周平（兼） | | | | |
| 技術主任 | 技術専門職員 | 相川美絵子 | 技術専門員 | 栗田直明 | 技能補佐員 | 川村 啓 |
| | | | | | 特任研究員 | 梅林利弘 |
| | | | | | (2021年5月31日まで) | |
| | | | | | 特任専門職員 | 石浦恭子 |

5) 生態水文学研究所

| 組織（主任職員） | | 配置職員（教職員） | | | 配置職員（非常勤職員） | |
|-----------|-------|-----------|--------|---------|-------------|-----------|
| 所長 | 准教授 | 安村直樹 | | | | |
| 所長補佐 | 助教 | 水内佑輔 | | | | |
| 教育研究主任 | 助教 | 水内佑輔(兼) | 特任助教 | 佐藤貴紀 | 技能補佐員 | 加藤敦美 |
| 教育研究係主任 | | | 技術専門職員 | 丹羽悠二 | 技能補佐員 | 黒木里香(兼) |
| | | | 一般技術職員 | 岸本光樹 | 特任研究員 | ファラナク モイン |
| | | | 一般技術職員 | 梁瀬桐子(兼) | | |
| | | | 技術専門員 | 澤田晴雄(兼) | | |
| 過去データ管理室長 | 講師 | 浅野友子 | 助教 | 水内佑輔(兼) | 技能補佐員 | 黒木里香 |
| 事務主任 | 事務室係長 | 平野圭二 | | | 事務補佐員 | 加藤正勝 |
| | | | | | 事務補佐員 | 加藤純子 |
| 技術主任 | 技術専門員 | 澤田晴雄 | | | | |
| 技術副主任 | 技術専門員 | 井上 淳 | 一般技術職員 | 梁瀬桐子 | 用務補佐員 | 渡辺平和 |
| 研究林管理係主任 | | | 一般技術職員 | 岸本光樹(兼) | 用務補佐員 | 橋本 聖 |
| 環境安全推進室長 | 事務室係長 | 平野圭二(兼) | 技術専門員 | 井上 淳(兼) | | |

6) 富士癒しの森研究所 2021

| 組織（主任職員） | | 配置職員（教職員） | | 配置職員（非常勤職員） | |
|----------|--------|-----------|--|-------------|---------|
| 所長 | 講師 | 齋藤暖生 | | 用務補佐員 | 高村史香 |
| 所長補佐 | 助教 | 三浦直子 | | 特任専門職員 | 齋藤純子 |
| 教育研究主任 | 助教 | 三浦直子 | | | |
| 技術主任 | 技術専門職員 | 辻 良子 | | 用務補佐員 | 高村史香(兼) |
| 技術主任補佐 | 技術専門職員 | 西山教雄 | | 特任専門職員 | 齋藤純子(兼) |

7) 樹芸研究所

| 組織（主任職員） | | 配置職員（教職員） | | | 配置職員（非常勤職員） | |
|----------|--------|-----------|--------|---------|-------------|-------|
| 所長 | 准教授 | 鴨田重裕 | | | | |
| 所長補佐 | 助教 | 井上広喜 | | | | |
| 教育研究係 | | | | | | |
| 教育研究主任 | 助教 | 井上広喜 | | | | |
| 技術係 | | | | | | |
| 技術主任 | 技術専門職員 | 村瀬一隆 | | | | |
| | | 教育研究支援チーム | 技術専門職員 | 辻 和明 | 技能補佐員 | 大島浩子 |
| | | | 一般技術職員 | 江口由典 | 技能補佐員 | 須田常仁 |
| | | 森林管理チーム | 技術専門員 | 渡邊良広 | | |
| 事務係 | | | 技術専門職員 | 辻 和明(兼) | 事務補佐員 | 進士真理子 |

8) 企画部・教育研究センター

| 組織（主任職員） | | 配置職員（教職員） | | 配置職員（非常勤職員） | |
|-----------------|-------------------|-------------|---------|-------------|-------|
| 演習林長 | 教授 | 久保田耕平 | | | |
| 企画部 | | | | | |
| 企画部長 | 教授 | 蔵治光一郎 | | 特任専門職員 | 柴田ゆう子 |
| 統括技術長 | 技術専門員 | 五十嵐勇治 | | 事務補佐員 | 川野千恵 |
| 教育・社会連携センター | | | | | |
| センター長 | 准教授 | 後藤 晋 | 准教授 | 嶋田重裕(兼) | 事務補佐員 |
| | | | 助教 | 前原 忠 | 小林ひとみ |
| 技術主任 | 技術専門員 | 大石 諭 (兼) | 技術専門職員 | 近澤静恵 | |
| フィールドデータ研究センター | | | | | |
| センター長 | 講師 | 平尾聡秀 (兼) | 助教 | 藤原章雄 | |
| 技術主任 | 技術専門員 | 大石 諭 | | | |
| 農学系事務部 | | | 研究支援チーム | | |
| 事務部長 | 熊澤鉄也 | | 副課長 | 藤田英子 | |
| 総務課長 | 白石英司 | | 係長 | 大溝真由美 | |
| 経理課長 | 吉泉浩二 | | | | |
| 教務課長 | 榎本弘子 | | | | |
| 国際化推進 支援担当課長 | 青木一恵 | | 他事務部各係 | | |
| 学生等 | 氏名 | | | | |
| 博士2年 | 陳 淑芬 | | | | |
| 博士2年 | 牧 貴大 | | | | |
| 博士2/3年 | ペイ・フィチン | | | | |
| 博士1/2年 | ニョ・ミイ・トゥン | | | | |
| 修士2年 | 塚本 宝 | | | | |
| 修士2年 | 吉田 拓矢 | | | | |
| 修士2年 | パイン・エー・ミヤツ・ミヤツ | | | | |
| 修士2年 | 稲田 涼吾 | | | | |
| 修士2年 | 三宮 望 | | | | |
| 修士2年 | 徐 喬逸 | | | | |
| 修士2年 | 陳 田 | | | | |
| 修士2年 | 劉 馨遥 | | | | |
| 修士2年 | 潘 濟楚 | | | | |
| 修士1年 | 竹内 虎輔 | | | | |
| 修士1年 | 森川 周 | | | | |
| 修士1年 | クリスティアン・アンドレアス・アデ | | | | |
| 修士1年 | 戴 健平 | | | | |
| 修士1年 | 蔡 寧馨 | | | | |
| 修士1年 | 高 涵 | | | | |
| 修士1年 | 查 世昊 | | | | |

| 学生 | 氏名 |
|--------|-----------------------|
| 修士1年 | イブティサム・ビンティ・ムハンマド・ガウス |
| 学部4年 | 上妻誠也 |
| 学部4年 | 上野大輔 |
| 学部4年 | 齋藤周 |
| 学部4年 | 坂巻実佳 |
| 学部4年 | 竹ノ内亮太 |
| 研究生 | 陳 悦如 |
| 研究生 | 尤 曉安 |
| 研究生 | 倪 寬 |
| 研究生 | 劉 衡 |
| 研究生 | 胡 睿喆 |
| 研究生 | 張 珂 |
| 研究生 | 蘆 美靈 |
| 研究生 | 曹 偲 |
| 研究生 | 卑 依璠 |
| 研究生 | 帳 嘯宇 |
| 研究生 | 張 遠哲 |
| 特別聴講学生 | 陳 方怡 |
| 特別聴講学生 | 弥 欣成 |

常置専門委員会

1) 大学教育委員会

| 組織 (委員) | 配置職員 (教職員) | |
|----------|------------|-------|
| 委員長 | 准教授 | 後藤 晋 |
| プロジェクト担当 | | |
| 企画部門 | 助教 | 坂上大翼 |
| | 助教 | 水内佑輔 |
| 情報発信部門 | 助教 | 水内佑輔 |
| | 助教 | 三浦直子 |
| | 助教 | 久本洋子 |
| 演習林ゼミ部門 | 助教 | 竹本周平 |
| | 准教授 | 安村直樹 |
| | 助教 | 三浦直子 |
| 支援担当 | | |
| 経費執行部門 | 助教 | 井上 広喜 |
| 情報収集部門 | 助教 | 前原 忠 |
| 国際部門 | 講師 | 福井 大 |
| | 助教 | 竹本周平 |
| 公開森林実習部門 | 准教授 | 後藤 晋 |

2) 研究委員会

| 組織 (主任職員) | 配置職員 (教職員) | | 配置職員 (非常勤職員) |
|---------------------|------------|-------|--------------|
| 委員長 | 講師 | 楠本 大 | |
| 長期生態系データ担当 | 教授 | 鎌田直人 | |
| 企画担当 | 助教 | 鈴木智之 | 助教 竹本周平 |
| 集計担当 | 助教 | 井上広喜 | 助教 藤原章雄 |
| 気象水文水質部門長 (気象分野) | 講師 | 浅野友子 | |
| 観測機器管理総括 | 講師 | 田中延亮 | 技術専門員 鶴見康幸 |
| 観測データ管理総括 | 教授 | 蔵治光一郎 | 技術専門員 鈴木祐紀 |
| 観測データ管理総括補助 | 特任専門職員 | 加藤敦美 | 講師 楠本 大 |
| | | | 講師 田中延亮 |
| | | | 技術専門職員 小川 瞳 |
| | | | 技術専門員 井口和信 |
| | | | 技術専門職員 高德佳絵 |
| | | | 技術専門職員 高野充広 |
| | | | 技術専門員 栗田直明 |
| | | | 技術専門職員 丹羽悠二 |
| | | | 一般技術職員 岸本光樹 |
| | | | 技術専門職員 辻 良子 |
| | | | 助教 井上広喜 |
| | | | 技術専門員 渡邊良広 |

| 組織（主任職員） | | | 配置職員（教職員） | | 配置職員（非常勤職員） | |
|-------------|--------|-------|----------------|-------|-------------|----------|
| （水文水質分野） | | | | | | |
| 観測機器管理総括 | 講師 | 田中延亮 | 技術専門員 | 鶴見康幸 | | |
| 観測データ管理総括 | 教授 | 蔵治光一郎 | 技術専門職員 | 鈴木祐紀 | | |
| 観測データ管理総括補助 | 特任専門職員 | 加藤敦美 | 森林生物地球科学研究室准教授 | 堀田紀文 | | |
| | | | 講師 | 田中延亮 | | |
| | | | 技術専門職員 | 高橋功一 | | |
| | | | 技術専門員 | 井口和信 | | |
| | | | 技術専門職員 | 高德佳絵 | | |
| | | | 技術専門職員 | 高野充広 | | |
| | | | 一般技術職員 | 岸本光樹 | | |
| | | | 技術専門職員 | 丹羽悠二 | | |
| | | | 准教授 | 鴨田重裕 | | |
| | | | 助教 | 井上広喜 | | |
| | | | 技術専門職員 | 辻 和明 | | |
| 生物部門長 | 講師 | 平尾聡秀 | | | | |
| 全演アドバイザー | 助教 | 久本洋子 | | | | |
| 全演アドバイザー | 講師 | 福井 大 | | | | |
| 全演アドバイザー | 教授 | 鎌田直人 | | | | |
| （植物分野） | | | | | | |
| 代表 | 技術専門職員 | 吉田弓子 | 技術専門職員 | 藤平晃司 | | |
| | | | 技術専門職員 | 軽込 勉 | | |
| | | | 技術専門職員 | 木村徳志 | | |
| | | | 技術専門職員 | 木村恒太 | | |
| | | | 技術専門職員 | 吉田弓子 | | |
| | | | 技術専門職員 | 相川美絵子 | | |
| | | | 一般技術職員 | 梁瀬桐子 | | |
| | | | 技術専門職員 | 西山教雄 | | |
| | | | 技術専門員 | 渡邊良広 | | |
| （脊椎動物分野） | | | | | | |
| 代表 | 技術専門職員 | 松井理生 | | | | |
| 脊椎動物グループ | | | | | | |
| 責任者 | 技術専門職員 | 及川 希 | 技術専門職員 | 三次充和 | | |
| 副責任者 | 技術専門職員 | 三次充和 | 一般技術職員 | 小林徹行 | | |
| | | | 技術専門職員 | 磯崎靖雄 | | |
| | | | 技術専門員 | 栗田直明 | | |
| | | | 技術専門職員 | 丹羽悠二 | | |
| | | | 技術専門職員 | 辻 良子 | | |
| | | | 技術専門員 | 渡邊良広 | | |
| 鳥類グループ | | | | | | |
| 責任者 | 技術専門職員 | 松井理生 | 技術専門職員 | 阿達康真 | 特任専門職員 | 齋藤純子（補助） |
| 副責任者 | 技術専門職員 | 才木道雄 | 技術専門職員 | 福岡 哲 | | |
| | | | 技術専門職員 | 高德佳絵 | | |
| | | | 技術専門職員 | 相川美絵子 | | |
| | | | 一般技術職員 | 梁瀬桐子 | | |
| | | | 一般技術職員 | 江口由典 | | |

| 組織(主任職員) | | | 配置職員(教職員) | | 配置職員(非常勤職員) |
|------------|-------|------|-----------|------|-------------|
| (昆虫分野) | | | | | |
| 代表 | 技術専門員 | 千嶋 武 | 技術専門員 | 村川功雄 | |
| | | | 技術専門員 | 井口和信 | |
| | | | 技術専門員 | 千嶋 武 | |
| | | | 技術専門員 | 栗田直明 | |
| | | | 技術専門員 | 井上 淳 | |
| | | | 技術専門職員 | 西山教雄 | |
| | | | 助教 | 井上広喜 | |
| 固定試験地部門長 | 准教授 | 尾張敏章 | 助教 | 藤原章雄 | |
| 固定試験地部門長補佐 | 助教 | 鈴木智之 | 助教 | 當山啓介 | |
| | | | 技術専門職員 | 里見重成 | |
| | | | 技術専門職員 | 小川 瞳 | |
| | | | 技術専門員 | 井口和信 | |
| | | | 助教 | 鈴木智之 | |
| | | | 技術専門職員 | 高德佳絵 | |
| | | | 技術専門員 | 栗田直明 | |
| | | | 技術職員 | 岸本光樹 | |
| | | | 技術専門職員 | 西山教雄 | |
| | | | 技術専門職員 | 村瀬一隆 | |

3) 社会連携委員会

| 組織（委員） | 配置職員（教職員） | 配置職員（非常勤職員） |
|------------|--------------------|--------------|
| 委員長 | 講師 齋藤暖生 | |
| 経理執行担当 | 准教授 後藤 晋 | 事務補佐員 小林ひとみ |
| アウトリーチ担当 | 助教 久本洋子 | |
| 出版広報部門 | | |
| 広報・ウェブサイト | 助教 久本洋子（兼） | |
| | 技術専門職員 | 近澤静恵 |
| | （アドバイザー） | 講師 楠本 大 |
| | （各演広報担当・千葉） | 技術専門職員 米道 学 |
| | （同・北海道） | 係長 横山和宏 |
| | （同・秩父） | 技術専門職員 吉田弓子 |
| | （同・田無） | 技術専門職員 相川美絵子 |
| | （同・生水研） | 一般技術職員 梁瀬桐子 |
| | （同・富士研） | 技術専門職員 辻 良子 |
| | （同・樹芸研） | 技術職員 辻 和明 |
| 科学の森ニュース | 講師 齋藤暖生（兼） | |
| | 技術専門職員 | 近澤静恵 |
| | （各演科学の森ニュース担当・教社連） | 准教授 後藤 晋（兼） |
| | （同・千葉） | 助教 久本洋子（兼） |
| | （同・北海道） | 技術専門職員 算用子麻未 |
| | （同・秩父） | 技術専門職員 吉田弓子 |
| | （同・田無） | 技術専門職員 相川美絵子 |
| | （同・生水研） | 一般技術職員 梁瀬桐子 |
| | （同・富士研） | 技術専門職員 辻 良子 |
| | （同・樹芸研） | 技術専門職員 辻 和明 |
| 東京大学演習林出版局 | 准教授 後藤 晋（兼） | |
| 育成資金部門 | 教授 蔵治光一郎 | |
| | 准教授 後藤 晋（兼） | 特任専門職員 柴田ゆう子 |
| | （各演育成資金担当・千葉） | 技術専門職員 三次充和 |
| | （同・北海道） | 係長 横山和宏 |
| | （同・秩父） | 技術専門職員 高野充広 |
| | （同・田無） | 技術専門職員 相川美絵子 |
| | （同・生水研） | 一般技術職員 梁瀬桐子 |
| | （同・富士研） | 講師 齋藤暖生（兼） |
| | （同・樹芸研） | 技術専門職員 村瀬一隆 |
| 演習林編集委員会 | （主事） | 講師 楠本大（兼） |
| | | 技術専門職員 近澤静恵 |
| 連携推進担当 | 講師 田中延亮 | |
| | （各演連携推進担当・千葉） | 技術専門職員 里見重成 |
| | （同・北海道） | 技術専門員 井口和信 |
| | （同・秩父） | 技術専門職員 高野充広 |

| 組織（委員） | 配置職員（教職員） | 配置職員（非常勤職員） |
|---------|-----------|-------------|
| | 技術専門員 | 栗田直明 |
| (同・田無) | 一般技術職員 | 梁瀬桐子 |
| (同・生水研) | 技術専門職員 | 辻 良子 |
| (同・富士研) | 技術職員 | 江口由典 |
| (同・樹芸研) | | |

4) 国際委員会

| 組織（委員） | 配置職員（教職員） |
|---------------|-----------|
| 委員長 | 教授 鎌田直人 |
| 委員 | 教授 石橋整司 |
| 海南大学担当 | 准教授 尾張敏章 |
| SP 国立台湾大学担当 | 教授 蔵治光一郎 |
| SP ETHZ 担当 | 講師 福井 大 |
| SP ソウル国立大学校担当 | |

5) 森林管理委員会

| 組織（委員） | 配置職員（教職員） |
|----------|---------------------|
| 委員長 | 准教授 尾張敏章 |
| 副委員長 | 技術専門員 五十嵐勇治 |
| 管理担当 | 主担当 技術専門員 五十嵐勇治（兼） |
| | 副担当 助教 當山啓介 |
| | 各演担当・千葉 技術専門員 村川功雄 |
| | 同・北海道 技術専門職員 松井理生 |
| | 同・秩父 技術専門員 大村和也 |
| | 同・田無 技術専門職員 相川美絵子 |
| | 同・生水研 技術専門員 澤田晴雄 |
| | 同・富士研 技術専門職員 辻 良子 |
| | 同・樹芸研 技術専門職員 村瀬一隆 |
| | 同・FDRC 技術専門員 大石 諭 |
| 病虫害担当 | 主担当 教授 鎌田直人 |
| | 副担当 技術専門員 澤田晴雄 |
| | 病害 教授 山田利博 |
| | 病害 助教 坂上大翼 |
| | 虫害 教授 鎌田直人 |
| | 獣害 講師 福井 大 |
| | 生水研技術職員 技術専門員 澤田晴雄 |
| 技術担当 | 主担当 准教授 尾張敏章（兼） |
| | 副担当 技術専門員 五十嵐勇治（兼） |
| 空間情報技術部門 | 事務局 技術専門職員 犬飼慎也 |
| | アドバイザー 助教 藤原章雄 |
| | 助教 三浦直子 |
| | 助教 水内佑輔 |
| | 各演担当・千葉 技術専門職員 米道 学 |
| | 同・北海道 技術専門職員 犬飼慎也 |

| 組織(委員) | 配置職員(教職員) | | |
|------------------|-----------|--------|-------|
| 基礎技術部門 伐木グループ | 同・秩父 | 技術専門職員 | 原口竜成 |
| | 同・田無 | 技術専門職員 | 相川美絵子 |
| | 同・生水研 | 一般技術職員 | 岸本光樹 |
| | 同・富士研 | 技術専門職員 | 辻 良子 |
| | 同・樹芸研 | 一般技術職員 | 江口由典 |
| | 同・FDRC | 技術専門員 | 大石 諭 |
| | 全演研修指導担当 | 技術専門職員 | 軽込 勉 |
| | | 技術専門職員 | 原口竜成 |
| | 各演担当・千葉 | 技術専門員 | 鈴木祐紀 |
| | | 技術専門職員 | 阿達康真 |
| | 同・北海道 | 技術専門職員 | 小池征寛 |
| | | 一般技術職員 | 千井野聡 |
| | 同・秩父 | 技術専門員 | 齋藤俊浩 |
| | 同・田無 | 技術専門職員 | 相川美絵子 |
| | | 技術専門員 | 栗田直明 |
| 同・生水研 | 技術専門員 | 澤田晴雄 | |
| 同・富士研 | 技術専門職員 | 辻 良子 | |
| 同・樹芸研 | 技術専門員 | 渡邊良広 | |

6) 環境安全委員会

| 組織(委員) | 配置職員(教職員) | |
|-----------|-----------|--------|
| 委員長 | 准教授 | 鴨田重裕 |
| 委員 | | |
| | 教授 | 山田利博 |
| | 助教 | 當山啓介 |
| | 技術専門員 | 五十嵐 勇治 |
| | 技術専門職員 | 松井理生 |
| 各演習林担当 | | |
| 企画部・センター | 技術専門員 | 五十嵐勇治 |
| 千葉演習林 | 技術専門員 | 村川功雄 |
| 北海道演習林 | 技術専門職員 | 松井理生 |
| 秩父演習林 | 技術専門員 | 大村和也 |
| 田無演習林 | 技術専門職員 | 相川美絵子 |
| 生態水文学研究所 | 事務室係長 | 平野圭二 |
| 富士癒しの森研究所 | 技術専門職員 | 西山教雄 |
| 樹芸研究所 | 技術専門職員 | 村瀬一隆 |

7) 管理運営委員会

| 組織（委員） | 配置職員（教職員） | |
|----------------------|-----------------|------------------------------|
| 委員長 | 准教授 | 安村直樹 |
| 委員 | 教授 | 久保田耕平 |
| | 教授 | 蔵治光一郎 |
| | 准教授 | 鴨田重裕 |
| | 助教 | 藤原章雄 |
| | 技術専門員 | 五十嵐勇治 |
| | 技術専門職員 | 村瀬一隆 |
| | ネットワーク担当 | （下線は全演アドバイザー、アドバイザーは担当者も兼ねる） |
| 各演担当者 | | |
| 千葉 | 講師 | 楠本大 |
| | 係長 | 田山勝則 |
| | 助教 | <u>鈴木智之</u> |
| 北海道演習林 | 技術専門職員 | 中川雄治 |
| | 技術専門職員 | 犬飼慎也 |
| | 係長 | 岡田教和 |
| | 技術専門職員 | 木村恒太 |
| | 技術専門職員 | 原口竜成 |
| 秩父演習林 | 専門員 | 大村栄 |
| 田無演習林 | 教授 | 石橋整司 |
| | 助教 | <u>竹本周平</u> |
| | 助教 | <u>水内佑輔</u> |
| 生態水文学研究所 | 一般技術職員 | 梁瀬桐子 |
| 富士癒しの森研究所 | 技術専門職員 | 辻良子 |
| | 技術専門職員 | 西山教雄 |
| | 助教 | 井上広喜 |
| 樹芸研究所 | 技能補佐員 | 須田常仁（補助） |
| | 教授 | 蔵治光一郎 |
| | 助教 | 前原忠 |
| | 技術専門員 | 大石諭 |
| 全演アドバイザーの役割分担 | | |
| メールホスティング管理 | 助教 | 鈴木智之 |
| | 助教 | 水内佑輔 |
| サイボウズ | 助教 | 竹本周平 |
| UT-CERT | 助教 | 竹本周平 |
| | 助教 | 鈴木智之 |
| サーバ管理 | 助教 | 鈴木智之 |
| FDRC との関わり | | |
| ネットワークの整備 | 管理運営委員会 | |
| ネットワークの管理・運用 | センター | |

9. 人事

| 日付 | 異動 | 新所属・職名 | | 氏名 | 旧所属・職名 | |
|-----------|--------|------------------------------|-------------|-------|----------|----------|
| 2021.4.1 | 命 | 附属演習林 | 林長 | 久保田耕平 | | |
| 2021.4.1 | 勤務換 | 千葉演習林 | 林長 | 鎌田直人 | 北海道演習林 | 林長 |
| 2021.4.1 | 勤務換 | 北海道演習林 | 林長 | 尾張敏章 | 千葉演習林 | 林長 |
| 2021.4.1 | 命(兼務) | フィールドデータ研究センター | 所長 | 平尾聡秀 | | |
| 2021.4.1 | 兼務 | 生態水文学研究所 | 講師 | 浅野友子 | | |
| 2021.4.1 | 勤務換 | 北海道演習林 | 助教 | 田中延亮 | 生態水文学研究所 | 助教 |
| 2021.4.1 | 所属講座変更 | 教育・社会連携センター | センター長 | 後藤 晋 | 教育研究センター | センター長 |
| 2021.4.1 | 所属講座変更 | 教育・社会連携センター | 助教 | 前原 忠 | 教育研究センター | 助教 |
| 2021.4.1 | 所属講座変更 | 教育・社会連携センター | 技術専門職員 | 近澤静恵 | 教育研究センター | 技術専門職員 |
| 2021.4.1 | 所属講座変更 | フィールドデータ研究センター | 助教 | 藤原章雄 | 教育研究センター | 助教 |
| 2021.4.1 | 勤務換 | 千葉演習林 | 技術専門職員 | 里見重成 | 教育研究センター | 技術専門職員 |
| 2021.4.1 | 勤務換・昇任 | フィールドデータ研究センター(兼)教育・社会連携センター | 技術専門職員 | 大石 諭 | 千葉演習林 | 技術専門職員 |
| 2021.4.1 | 勤務換 | 樹芸研究所 | 一般技術職員 | 江口由典 | 北海道演習林 | 一般技術職員 |
| 2021.4.1 | 勤務換 | 北海道演習林 | 一般技術職員 | 千井野 聡 | 樹芸研究所 | 一般技術職員 |
| 2021.4.1 | 昇任 | 北海道演習林 | 上席技術専門職員 | 犬飼 浩 | 北海道演習林 | 技術専門職員 |
| 2021.4.1 | 昇任 | 千葉演習林 | 技術専門職員 | 村川功雄 | 千葉演習林 | 技術専門職員 |
| 2021.4.1 | 勤務換・昇任 | 企画部 | 技術専門職員 | 五十嵐勇治 | 教育研究センター | 技術専門職員 |
| 2021.4.1 | 昇任 | 千葉演習林 | 技術専門職員 | 鈴木祐紀 | 千葉演習林 | 技術専門職員 |
| 2021.4.1 | 昇任 | 秩父演習林 | 技術専門職員 | 齋藤俊浩 | 秩父演習林 | 技術専門職員 |
| 2021.4.1 | 昇任 | 北海道演習林 | 技術専門職員 | 木村恒太 | 北海道演習林 | 一般技術職員 |
| 2021.4.16 | 昇任 | 北海道演習林 | 講師 | 田中延亮 | 北海道演習林 | 助教 |
| 2021.7.1 | 昇任 | 北海道演習林 | 講師 | 福井 大 | 北海道演習林 | 助教 |
| 2022.3.31 | 定年退職 | 北海道演習林 | 一般技術職員(再雇用) | 犬飼 浩 | 北海道演習林 | 上席技術専門職員 |
| 2022.3.31 | 定年退職 | 北海道演習林 | 一般技術職員(再雇用) | 井口 和信 | 北海道演習林 | 技術専門職員 |
| 2022.3.31 | 定年退職 | 生態水文学研究所 | 一般技術職員(再雇用) | 井上 淳 | 生態水文学研究所 | 技術専門職員 |

10. 予算・収入

1) 予算

| 区分 | 内訳 | 金額 (千円) |
|----------|-------------|----------|
| 運営費予算配分額 | 年度当初配分額 | 218,156 |
| | 市町村交付金相当額予算 | 37,782 |
| | 追加配分・協力金 | 3,638 |
| | その他の予算 | 30,869 |
| | 計 | 290,445 |
| 外部資金 | 科学研究費 | 47,762 * |
| | 奨学寄附金 | 12,253 |
| | 受託研究費 | 12,448 |
| | 他機関との共同研究費 | 10,422 |
| | その他補助金 | 6,336 |
| | 計 | 89,221 |
| 合計 | | 379,666 |

*前年度からの繰越分を含む

2) 収入

| 区分 | 内訳 | 金額 (千円) |
|----|------------|----------|
| 収入 | 演習林林産物収入 | 107,802 |
| | 刊行物販売等売払収入 | 217 |
| | 講習料収入 | 357 |
| | その他の収入 | 13,264 |
| 合計 | | 121, 640 |

1 1. 委員会・会議等

1) 演習林規則に則って開催された委員会・会議

運営委員会

演習林規則第5条により設置されている演習林の管理および運営に関する最高議決機関である。委員は演習林の教授・准教授のほか研究科長が推薦する研究科の教授または准教授（10名以内）と演習林統括技術長、研究科事務部長であり、演習林長が委員長を務める。今年度は2022年3月16日（水）にオンラインで開催し、地方演習林と常置委員会を軸とする演習林の管理および運営に関する重要事項の審議を行う。

演習林会議

演習林規則第6条により設置されている演習林の管理および運営の実務に関する事項を審議決定する機関である。議員は演習林長、演習林長補佐、演習林所属の教授、准教授、講師、演習林統括技術長のほか演習林長が必要と認めた者となる（今年度は研究科総務附属施設担当副課長が指名された）。演習林長が議長を務める。原則として毎月1回（8月をのぞく）教授会開催日の前日に開催する。今年度は11回開催し、そのうち4月および10月から1月までの5回の会議は対面とオンラインのハイブリッドで、他の6回はオンラインで開催した。

2) その他委員会・会議

技術主任会議

統括技術長と地方演習林技術主任により、森林管理・技術主任組織等に関する諸問題を検討する。今年度は7月21日（金）にオンラインで開催し、同日に統括技術長選考委員会および事務担当者・技術主任合同会議を開催した。

統括技術長選考委員会

附属演習林統括技術長候補者選考内規に定められた委員会。統括技術長の任期が終了する6ヶ月以上前に選考委員会を招集し、候補者を審議決定する。今年度は7月21日（金）にオンラインで開催した。

事務担当者・技術主任合同会議

技術主任会議に地方演習林・センターの事務担当者を加え、組織運営等に関する諸問題を検討する。今年度は7月21日（金）にオンラインで開催した。

事務担当者連絡会議

大学院農学生命科学事務担当者による会議であり、地方演習林事務担当者を含めて事務処理遂行上の問題点等について報告、意見交換を行う。隔年（偶数年度）に開催され、2020年度は開催される年に当たっていたが、開催されなかった。2021年度は2022年3月11日にオンラインで開催された。

演習林編集委員会

「東京大学農学部演習林報告」と「演習林」の編集発行を行っている。委員は演習林の教授・准教授のほか関連専攻から推薦された教授・准教授（7名）と編集委員長が指名する者となる。原則として奇数月に開催し、今年度は6回オンラインで開催した。

1 2. 利用状況

1) 千葉演習林

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|---|----|---------------------------------------|-----|----|----------|-----|-----------|---|----------|
| 1 | 4 | 16 | 鴨川市有害鳥獣対策協議会 | | | | 16 | 16 | 有害鳥獣捕獲 | 日帰り |
| 2 | 4 | 2 | 千葉県環境生活部大気保全課 | | | | 2 | 2 | 化学物質大気環境調査 | 日帰り |
| 3 | 4 | 9 | 東京大学大学院農学生命科学研究科・生圏システム学専攻・生物多様性科学研究室 | 9 | | 2 | | 11 | イノシシ (Sus scrofa) が環境選好性を示す耕作放棄地の植生タイプ | 清澄宿泊施設 2 |
| 4 | 4 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科・生圏システム学専攻・生物多様性科学研究室 | 1 | | | | 1 | イノシシ (Sus scrofa) が環境選好性を示す耕作放棄地の植生タイプ | 日帰り |
| 5 | 4 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | 1 | | 1 | | 2 | キヨンの分布拡大や密度増加の生態学的メカニズムに関する卒業研究の調査地下見 | 清澄宿泊施設 2 |
| 6 | 4 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | 1 | | 1 | | 2 | キヨンの分布拡大や密度増加の生態学的メカニズムに関する卒業研究の調査地下見 | 日帰り |
| 7 | 4 | 1 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科 | 1 | | 1 | | 2 | 卒業論文調査下見 | 日帰り |
| 8 | 4 | 1 | 東京大学地震研究所技術部 | 3 | | | | 3 | 定常地震観測設備の点検および保守 | 日帰り |
| 9 | 4 | 1 | 箱根植木株式会社 | | | | 5 | 5 | 造園植栽地を用いた植物の域外保全技術に関する研究 | 日帰り |
| 10 | 4 | 1 | 千葉県立中央博物館生態学・環境研究科 | 6 | | | | 6 | 房総丘陵における清澄山系の昆虫相の特異性、東大千葉演習林における種子標本の収集と博物館生体展示への活用 | 日帰り |
| 11 | 5 | 11 | 鴨川市有害鳥獣対策協議会 | | | | 11 | 11 | 有害鳥獣捕獲 | 日帰り |
| 12 | 5 | 2 | 千葉県環境生活部大気保全課 | | | | 2 | 2 | 化学物質大気環境調査 | 日帰り |
| 13 | 5 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | 2 | | | | 2 | キヨンの密度増加の生態学的メカニズムの解明 | 清澄宿泊施設 2 |
| 14 | 5 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | 1 | | | | 1 | キヨンの密度増加の生態学的メカニズムの解明 | 日帰り |
| 15 | 5 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻 | 1 | | | | 1 | 「森林科学基礎実習 1」の実地実習の準備 | 日帰り |
| 16 | 5 | 1 | 鴨川市教育委員会生涯学習課 | | | | 6 | 6 | 鴨川市・東京大学交流事業「野鳥の巣箱をかけよう！（観察編）」 | 日帰り |
| 17 | 5 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | | | | 2 | 2 | 「東京大学の森」育成資金 記念樹の現地見学 | 日帰り |
| 18 | 5 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林 | 3 | 10 | | | 13 | 全学体験ゼミナール「危険生物の知識（春編）」 | 日帰り |
| 19 | 5 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | 38 | 2 | 1 (1) | | 41 (1) | 2021 年度千葉演習林利用者説明会 | 日帰り |
| 20 | 5 | 1 | 森林総合研究所 森林災害・被害研究拠点 | 4 | | | | 4 | 研究下見（人工林固定試験地および風害地） | 日帰り |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|---|----|-----------------------------|-----|----|----------|-----|----------|---|---------|
| 21 | 5 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科・森林植物学研究室 | 1 | | 1 (1) | | 2 (1) | スギと共生するアーバスキュラー菌根菌の種多様性の解明 | 日帰り |
| 22 | 6 | 2 | 千葉県環境生活部大気保全課 | | | | 2 | 2 | 化学物質大気環境調査 | 日帰り |
| 23 | 6 | 13 | 鴨川市有害鳥獣対策協議会 | | | | 14 | 14 | 有害鳥獣捕獲 | 日帰り |
| 24 | 6 | 2 | 千葉大学大学院理学研究院 | 2 | | | | 2 | 地震に関連する電磁気現象の観測学的研究（保守作業） | 日帰り |
| 25 | 6 | 1 | 筑波大学生命環境科学研究科 | 1 | | 2 | | 3 | ダケカンバ試験地を用いた樹木の高温暖環境適応の解明 | 日帰り |
| 26 | 6 | 1 | 東京大学森林科学専攻森林理水及び砂防工学研究室 | 2 | | 2 (1) | | 4 (1) | 新田・袋山沢における水文観測と測量 | 日帰り |
| 27 | 6 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部 | 2 | 28 | | | 30 | 総合科目「森林環境資源学」 | 日帰り |
| 28 | 6 | 1 | 千葉県立中央博物館庶務部企画調整課 | 1 | | | | 1 | 菌類調査 | 日帰り |
| 29 | 6 | 1 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科 | | | 1 (1) | | 1 (1) | 自動撮影カメラトラップの電池・メモリーカード交換 | 清澄宿泊施設2 |
| 30 | 6 | 1 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科 | | | 1 (1) | | 1 (1) | 自動撮影カメラトラップの電池・メモリーカード交換 | 日帰り |
| 31 | 6 | 1 | 千葉県立中央博物館生態学・環境研究科 | 1 | | | | 1 | 房総丘陵における清澄山系の昆虫相の特異性、東大千葉演習林における種子標本の収集と博物館生体展示への活用 | 日帰り |
| 32 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉道演習林 | | | 1 (1) | | 1 (1) | 修論研究の調査地の選定 | 日帰り |
| 33 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林 | 2 | 4 | | | 6 | 教養学部 全学体験ゼミナール 徹底検証・スギ&ヒノキ〜もっと知ろう木材のこと〜 | 日帰り |
| 34 | 7 | 10 | 千葉県環境生活部大気保全課 | | | | 12 | 12 | 化学物質大気環境調査・ダイオキシン類に係る大気環境調査及び非汚染地域大気環境調査 | 日帰り |
| 35 | 7 | 17 | 鴨川市有害鳥獣対策協議会 | | | | 21 | 21 | 有害鳥獣捕獲 | 日帰り |
| 36 | 7 | 9 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科 | | | 9 | | 9 | イノシシ痕跡調査の調査地検討（下見） | 清澄宿泊施設 |
| 37 | 7 | 1 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科 | | | 1 | | 1 | イノシシ痕跡調査の調査地検討（下見） | 日帰り |
| 38 | 7 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | 3 | 3 | | | 6 | キヨンの密度増加の生態学的メカニズムの解明 | 日帰り |
| 39 | 7 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | 1 | 1 | | | 2 | キヨンの密度増加の生態学的メカニズムの解明 | 日帰り |
| 40 | 7 | 1 | 東京大学農学部環境資源科学課程森林環境資源科学専修 | | | | | 0 | 研究下見（人工林 生産現場理解のため） | 日帰り |
| 41 | 7 | 1 | 千葉大学大学院理学研究院 | 1 | | | | 1 | 地震に関連する電磁気現象の観測学的研究（保守作業） | 日帰り |
| 42 | 7 | 2 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科 | 2 | 1 | | | 3 | 卒研研究の下見（ナラ枯れ跡地の更新に与えるシカの影響） | 日帰り |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|---|----|---------------------------------------|-----|----|----------|-----|----------|---|--------|
| 43 | 7 | 1 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科 | 1 | 1 | | | 2 | 卒研研究の下見（ナラ枯れ跡地の更新に与えるシカの影響） | 日帰り |
| 44 | 7 | 1 | 千葉県立中央博物館生態学・環境研究科 | 4 | | | | 4 | 房総丘陵における清澄山系の昆虫相の特異性 | 日帰り |
| 45 | 7 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森園管理学研究室 | 2 | | | | 2 | アサダ林調査 | 日帰り |
| 46 | 7 | 1 | 千葉県庁環境生活部自然保護課 | | | | 2 | 2 | 令和3年度指定管理鳥獣捕獲等事業（ニホンジカ・県南部区域） | 日帰り |
| 47 | 7 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科・森林植物学研究室 | 1 | | 1 (1) | | 2 (1) | スギと共生するアーバスキュラー菌根菌の種多様性の解明（根のサンプリング） | 日帰り |
| 48 | 7 | 9 | 東京大学大学院農学生命科学研究科・生圏システム学専攻・生物多様性科学研究室 | | | | 9 | 9 | 哺乳類四種が環境選好性を示す耕作放棄地 | 清澄宿泊施設 |
| 49 | 7 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科・生圏システム学専攻・生物多様性科学研究室 | | | | 1 | 1 | 哺乳類四種が環境選好性を示す耕作放棄地 | 日帰り |
| 50 | 7 | 1 | 千葉県農林水産部森林課森林整備班 | | | | 2 | 2 | ナラ枯れ被害調査地の見学 | 日帰り |
| 51 | 7 | 1 | 千葉県立中央博物館庶務部企画調整課 | 1 | | | 1 | 2 | 菌類調査 | 日帰り |
| 52 | 7 | 1 | グリーン航業株式会社 | | | | 3 | 3 | 林野庁の委託事業である森林生態家多様性基礎調査の現地調査を行うことを目的とする | 日帰り |
| 53 | 7 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | | | | 7 | 7 | 高校生のための森と海のゼミナール～大学の先生と考える環境問題と生物多様性～ | |
| 54 | 7 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | | | | 9 | 9 | 高校生のための森と海のゼミナール～大学の先生と考える環境問題と生物多様性～ | 日帰り |
| 55 | 7 | 1 | 宇都宮大学農学部森林科学科 | 1 | | | | 1 | 天然林固定試験地設置の現地指導 | 日帰り |
| 56 | 8 | 18 | 鴨川市有害鳥獣対策協議会 | | | | 19 | 19 | 有害鳥獣捕獲 | 日帰り |
| 57 | 8 | 2 | 千葉県環境生活部大気保全課 | | | | 2 | 2 | 化学物質大気環境調査 | 日帰り |
| 58 | 8 | 1 | 演習林 教育・社会連携センター | 1 | | 1 (1) | | 2 (1) | 全国スケールでの相互移植による気候変動に対する北方樹木ダケカンバの応答解明 | 日帰り |
| 59 | 8 | 1 | 東京農業大学生命科学部分子生命科学科 | 2 | | 1 | | 3 | 演習林内に産するキノコの生態及び化学成分に関する研究 | 日帰り |
| 60 | 8 | 5 | 東京大学理学研究科・地球惑星科学専攻 | 30 | 65 | 20 | | 115 | 東京大学地球環境科学科野外調査実習(1) | 清澄宿泊施設 |
| 61 | 8 | 1 | 東京大学理学研究科・地球惑星科学専攻 | 6 | 13 | 4 | | 23 | 東京大学地球環境科学科野外調査実習(2) | 日帰り |
| 62 | 8 | 1 | 千葉県立中央博物館生態学・環境研究科 | 1 | | | | 1 | ヒメコマツ繁殖状況調査 | 日帰り |
| 63 | 8 | 2 | 東京大学 大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | | 24 | | | 24 | 全学体験ゼミナール「房総の常緑樹林で森林動態を学ぶ」 | 日帰り |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|----|----|-----------------------------------|-----|----|----------|-----|----------|---|--------|
| 64 | 8 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | | | | 7 | 7 | Abies 活動（一杯水林道踏査・携帯電話電波状況・外来植物（キンシバイ）定着状況の把握・確認 | 日帰り |
| 65 | 8 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科・森林植物学研究室 | 1 | | 1 (1) | | 2 (1) | スギと共生するアーバスキュラー菌根菌の種多様性の解明（根のサンプリング） | 日帰り |
| 66 | 8 | 1 | 東京大学教育学部 | | 1 | | | 1 | シェフィールド大学オンラインサマープログラムのクラス分けテストを受講するため | |
| 67 | 8 | 1 | 千葉大学大学院理学研究院 | 1 | | | | 1 | 地震に関連する電磁気現象の観測学的研究（保守作業） | 日帰り |
| 68 | 8 | 1 | 千葉県立中央博物館庶務部企画調整課 | 1 | | | | 1 | 菌類調査 | 日帰り |
| 69 | 8 | 2 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科 | 2 | 2 | | | 4 | ナラ枯れ跡地の更新に与えるシカの影響調査 | 日帰り |
| 70 | 9 | 17 | 鴨川市有害鳥獣対策協議会 | | | | 18 | 18 | 有害鳥獣捕獲 | 日帰り |
| 71 | 9 | 2 | 千葉県環境生活部大気保全課 | | | | 2 | 2 | 化学物質大気環境調査 | 日帰り |
| 72 | 9 | 2 | 国立研究開発法人森林研究整備機構・新林道郷研究所 | 9 | | | | 9 | 将来的な共同研究を目指した調査地選定のための見学 | 日帰り |
| 73 | 9 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秋父演習林 | 4 | 4 | | | 8 | キヨンの密度増加の生態学的メカニズムの解明 | 日帰り |
| 74 | 9 | 1 | 東京大学大学院森林科学専攻・森林生物地球科学研究室 | 1 | | 1 | | 2 | 新田・袋山沢における水文観測と測量 | 日帰り |
| 75 | 9 | 1 | 千葉県庁環境生活部自然保護課 | | | | 6 | 6 | 令和3年度指定管理鳥獣捕獲等事業（ニホンジカ・県南部区域） | 日帰り |
| 76 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科・森林植物学研究室 | 1 | | | | 1 | 森林科学基礎実習Ⅰの下見 | 日帰り |
| 77 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科・農学国際専攻 | 3 | | 1 (1) | | 4 (1) | JICA イノベーターアジアインターンシップ実地研修（見学） | 清澄宿泊施設 |
| 78 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科・森林植物学研究室 | 2 | 9 | | | 11 | 23 林班C3-1 [小屋ノ沢、間伐]、22 林班C7-4 [池ノ沢、枝打ち、除伐]、44 林班C5-1 [願人坊、植付け]、郷台林道周辺 | 日帰り |
| 79 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科・森林植物学研究室 | 4 | 9 | 1 | | 14 | 23 林班C3-1 [小屋ノ沢、間伐]、22 林班C7-4 [池ノ沢、枝打ち、除伐]、44 林班C5-1 [願人坊、植付け]、郷台林道周辺 | 日帰り |
| 80 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科・森林植物学研究室 | 2 | 9 | | | 11 | 23 林班C3-1 [小屋ノ沢、間伐]、22 林班C7-4 [池ノ沢、枝打ち、除伐]、44 林班C5-1 [願人坊、植付け]、郷台林道周辺 | 日帰り |
| 81 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科・森林植物学研究室 | 1 | | 1 (1) | | 2 (1) | 40 林班C5、C6 小班 | 日帰り |
| 82 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 教育・社会連携センター | | | | | | 農学部生物素材科学専修「バイオマス科学実習」木質構造科学専修「森林科学実習」オンライン | |
| 83 | 9 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | | | | 3 | 3 | Abies 活動（郷台林道踏査・携帯電話電波状況・外来植物（キンシバイ）定着状況の把握・確認 | 日帰り |
| 84 | 10 | 15 | 鴨川市有害鳥獣対策協議会 | | | | 15 | 15 | 有害鳥獣捕獲 | 日帰り |
| 85 | 10 | 26 | 千葉県庁環境生活部自然保護課 | | | | 110 | 110 | 令和3年度指定管理鳥獣捕獲等事業（ニホンジカ・県南部区域） | 日帰り |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|----|----|---------------------------------------|-----|----|----------|-----------|-----------|---|---------|
| 86 | 10 | 2 | 千葉県環境生活部大気保全課 | | | | 2 | 2 | 化学物質大気環境調査 | 日帰り |
| 87 | 10 | 1 | 房日新聞社編集部 | | | | 1 | 1 | 取材（森林博物資料館） | 日帰り |
| 88 | 10 | 2 | 国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所・野生動物研究領域 | | | | 4 | 4 | SFTS に代表される人獣共通感染症対策における生態学的アプローチ | 日帰り |
| 89 | 10 | 6 | 東京大学大学院農学生命科学研究科・生圏システム学専攻・生物多様性科学研究室 | | | | 6 | 6 | 哺乳類四種が環境選好性を示す耕作放棄地 | 清澄宿泊施設2 |
| 90 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科・生圏システム学専攻・生物多様性科学研究室 | | | | 1 | 1 | 哺乳類四種が環境選好性を示す耕作放棄地 | 日帰り |
| 91 | 10 | 1 | 千葉市立千城台南中学校 | | | | 1 | 1 | 研究課題「千葉県における林業の歴史について」の研究のため | 日帰り |
| 92 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | 2 | 10 | | | 12 | 全学体験ゼミナール「危険生物の知識（秋編）」 | 日帰り |
| 93 | 10 | 1 | 演習林 教育・社会連携センター | 1 | | 1 (1) | | 2 (1) | 全国スケールでの相互移植による気候変動に対する北方樹木ダケカンパの応答解明 | 日帰り |
| 94 | 10 | 1 | 千葉大学大学院理学研究院 | 1 | | | | 1 | 地震に関連する電磁気現象の観測学的研究（保守作業） | 日帰り |
| 95 | 10 | 3 | 千葉大学理学研究院地球科学 | 5 | 17 | 4 | | 26 | 理学部地球科学科選択必修科目（地質学野外実験2、地殻構造学野外実験1） | 日帰り |
| 96 | 10 | 1 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科 | 1 | 1 | | | 2 | ナラ枯れ跡地の更新に与えるシカの影響調査 | 清澄宿泊施設 |
| 97 | 10 | 1 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科 | 1 | 1 | | | 2 | ナラ枯れ跡地の更新に与えるシカの影響調査 | 日帰り |
| 98 | 10 | 1 | 千葉県立中央博物館 自然誌・歴史研究部 地学研究科 | 1 | | | | 1 | 千葉演習林および隣接地域に分布する三浦層群天津層の無脊椎動物化石相。千葉演習林内の三浦層群および上総層群にみられる陸成炭酸塩堆積物について | 日帰り |
| 99 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科・生圏システム学専攻 | | | | 11 (2) | 11 (2) | 生圏システム学特論 | 日帰り |
| 100 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | 1 | 1 | | | 2 | キョンの密度増加の生態学的メカニズムの解明 | 日帰り |
| 101 | 11 | 14 | 鴨川市有害鳥獣対策協議会 | | | | 14 | 14 | 有害鳥獣捕獲 | 日帰り |
| 102 | 11 | 2 | 千葉県環境生活部大気保全課 | | | | 2 | 2 | 化学物質大気環境調査 | 日帰り |
| 103 | 11 | 4 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | 4 | 4 | | | 8 | キョンの密度増加の生態学的メカニズムの解明 | 清澄宿泊施設2 |
| 104 | 11 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | 1 | 1 | | | 2 | キョンの密度増加の生態学的メカニズムの解明 | 日帰り |
| 105 | 11 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所 | 6 | 20 | | | 26 | 全学体験ゼミ「森のエネルギーをつかひこなす」 | 日帰り |
| 106 | 11 | 1 | 国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所・野生動物研究領域 | 3 | | | | 3 | SFTS に代表される人獣共通感染症対策における生態学的アプローチ | 日帰り |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|----|----|------------------------------------|-----|----|----------|-----|----------|---|---------|
| 107 | 11 | 1 | 東京大学大学院森林科学専攻・森林生物地球科学研究室 | 1 | | 1 | | 2 | 新田・袋山沢における水文観測と測量 | 日帰り |
| 108 | 11 | 1 | 箱根植木株式会社 | | | | 3 | 3 | 造園植栽地を用いた植物の域外保全技術に関する研究 | 日帰り |
| 109 | 11 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科・森林植物学研究室 | 1 | | 1 (1) | | 2 (1) | スギと共生するアーバスキュラー菌根菌の種多様性の解明（根のサンプリング） | 日帰り |
| 110 | 11 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科・農学国際専攻 | 2 | | | | 2 | 天然林樹木個体群を対象とした樹齢調査と生存時間解析 | 清澄宿泊施設2 |
| 111 | 11 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科・農学国際専攻 | 1 | | | | 1 | 天然林樹木個体群を対象とした樹齢調査と生存時間解析 | 日帰り |
| 112 | 11 | 1 | 東京大学国際森林環境学研究室 | | | 1 (1) | | 1 (1) | 檜ノ木台周辺の森林現況調査プロット跡地（広嶋先生同行） | 清澄宿泊施設2 |
| 113 | 11 | 1 | 東京大学国際森林環境学研究室 | | | 1 (1) | | 1 (1) | 檜ノ木台周辺の森林現況調査プロット跡地（広嶋先生同行） | 日帰り |
| 114 | 11 | 1 | 株式会社 R00TS | | | | 1 | 1 | 令和3年度指定管理鳥獣捕獲等事業捕獲業務委託 | 日帰り |
| 115 | 12 | 21 | 鴨川市有害鳥獣対策協議会 | | | | 21 | 21 | 有害鳥獣捕獲 | 日帰り |
| 116 | 12 | 4 | 千葉県庁環境生活部自然保護課 | | | | 9 | 9 | 令和3年度指定管理鳥獣捕獲等事業（ニホンジカ・県南部区域） | 日帰り |
| 117 | 12 | 2 | 千葉県環境生活部大気保全課 | | | | 2 | 2 | 化学物質大気環境調査 | 日帰り |
| 118 | 12 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科・生圏システム学専攻 | 3 | 7 | | | 10 | フィールド科学専修森園管理学実習 | 日帰り |
| 119 | 12 | 1 | 鴨川市教育委員会生涯学習課 | | | | 13 | 13 | 鴨川市・東京大学交流事業「野鳥の巣箱をかけよう！（巣箱作り編）」 | 日帰り |
| 120 | 12 | 1 | 千葉大学大学院理学研究院 | 1 | | | | 1 | 地震に関連する電磁気現象の観測学的研究（保守作業） | 日帰り |
| 121 | 12 | 1 | 国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所・野生動物研究領域 | 1 | | | | 1 | SFTS に代表される人獣共通感染症対策における生態学的アプローチ | 日帰り |
| 122 | 12 | 1 | コマツ建機ソリューション本部グリーン事業（林業・農業）推進部 | | | | 3 | 3 | 衛星及びUAV撮影の演習林現場の視察 | 日帰り |
| 123 | 12 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | | | | 1 | 1 | Abies 活動（猪ノ川林道踏査・携帯電話電波状況、外来植物（キンシバイ）定着状況の把握・確認 | 日帰り |
| 124 | 12 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部 | 1 | 28 | | | 29 | 総合科目「森林環境資源学」 | 日帰り |
| 125 | 12 | 2 | 京都大学農学研究科森林科学専攻熱帯林環境学分野 | 2 | | 4 | | 6 | マンリョウとそれに付随する微生物群衆の地理的変異 | 清澄宿泊施設 |
| 126 | 12 | 1 | 京都大学農学研究科森林科学専攻熱帯林環境学分野 | 1 | | 2 | | 3 | マンリョウとそれに付随する微生物群衆の地理的変異 | 日帰り |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 | |
|-----|----|----|---------------------------------------|-----|----|----|-----|-----|--|--------------------------------------|-----|
| 127 | 12 | 1 | 森林総合研究所林木育種センター遺伝資源部探索収集課分類同定研究室 | 4 | | | | 4 | 千葉演習林のコウヨウザンの自殖家系における成長・材質特性及び遺伝性特性の解明 | 日帰り | |
| 128 | 12 | 1 | 鴨川市立天津小湊小学校6年 | | | | 9 | 9 | 総合学習(6年生) | 日帰り | |
| 129 | 12 | 1 | 株式会社野生動物保護管理事務所 | | | | 1 | 1 | 千葉県発注「令和3年ニホンジカ・キョン生息状況調査業務委託」のための糞粒調査 | 日帰り | |
| 130 | 12 | 1 | 株式会社一成東京支店 | | | | 3 | 3 | シカ糞塊密度調査(千葉県発注業務)を実施のため | 日帰り | |
| 131 | 12 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | | | | 223 | 223 | 東京大学千葉演習林オンラインイベント「おもしろ動画いっぱい!千葉の森に暮らす動物たち」実施のため | 日帰り | |
| 132 | 1 | 14 | 鴨川市有害鳥獣対策協議会 | | | | 14 | 14 | 有害鳥獣捕獲 | 日帰り | |
| 133 | 1 | 10 | 千葉県環境生活部大気保全課 | | | | 11 | 11 | 化学物質大気環境調査・ダイオキシン類に係る大気環境調査及び非汚染地域大気環境調査 | 日帰り | |
| 134 | 1 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科・生圏システム学専攻・生物多様性科学研究室 | | | 1 | | 1 | 哺乳類四種が環境選好性を示す耕作放棄地 | 日帰り | |
| 135 | 1 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科・生圏システム学専攻・生物多様性科学研究室 | | | 1 | | 1 | 哺乳類四種が環境選好性を示す耕作放棄地 | 日帰り | |
| 136 | 1 | 1 | 国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所・野生動物研究領域 | 3 | | | | 3 | SFTSに代表される人獣共通感染症対策における生態学的アプローチ | 日帰り | |
| 137 | 1 | 2 | 株式会社野生動物保護管理事務所 | | | | 8 | 8 | 千葉県発注「令和3年ニホンジカ・キョン生息状況調査業務委託」のための糞粒調査 | 日帰り | |
| 138 | 1 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | | | | 2 | 2 | Abies活動(モウソウチク開花年限試験地の間伐) | 日帰り | |
| 139 | 1 | 1 | 岩手大学農学部森林科学科 | 1 | | | | 1 | 災害リスクを考慮した木材供給可能量推定の研究打合せおよび視察 | 日帰り | |
| 140 | 1 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 森林科学専攻・森林生物科学研究室 | | | 1 | | 1 | 新田・袋山沢における水文観測と測量 | 日帰り | |
| 141 | 1 | 1 | 株式会社エコグリーンホールディングス | 3 | | | | 3 | 千葉演習林におけるユリノキ、コウヨウザン等の林分の視察と打合せのため | 日帰り | |
| 142 | 1 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科・森林植物学研究室 | 1 | | 1 | (1) | 2 | (1) | スギと共生するアーバスキュラー菌根菌の種多様性の解明(根のサンプリング) | 日帰り |
| 143 | 2 | 15 | 鴨川市有害鳥獣対策協議会 | | | | 29 | 29 | 有害鳥獣捕獲 | 日帰り | |
| 144 | 2 | 2 | 千葉県環境生活部大気保全課 | | | | 2 | 2 | 化学物質大気環境調査・ダイオキシン類に係る大気環境調査及び非汚染地域大気環境調査 | 日帰り | |
| 145 | 2 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | 1 | 14 | | | 15 | 全学体験ゼミナール「房総の森と生業(なりわい)を学ぶ」 | 日帰り | |
| 146 | 2 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | | | | | | 全学体験ゼミナール「房総の森と生業(なりわい)を学ぶ」 | 日帰り | |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|---|----|------------------------------------|-----|----|----------|-----|----------|--|------|
| 147 | 2 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | 1 | | | | 1 | 全学体験ゼミナール「房総の森と生業（なりわい）を学ぶ」 | |
| 148 | 2 | 1 | 国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所・野生動物研究領域 | 1 | | | | 1 | SFTS に代表される人獣共通感染症対策における生態学的アプローチ | 日帰り |
| 149 | 2 | 2 | 国立研究開発法人産総研地質調査総合センター 地質情報研究部門 | 2 | | | | 2 | 国の基本図5万分の1地質図幅「大多喜」作成のための地質調査 | 日帰り |
| 150 | 2 | 1 | コマツ建機ソリューション本部グリーン事業（林業・農業）推進部 | | | | 5 | 5 | 材積量・バイオマス量の推定（UAV 測量） | 日帰り |
| 151 | 3 | 16 | 鴨川市有害鳥獣対策協議会 | | | | 26 | 26 | 有害鳥獣捕獲 | 日帰り |
| 152 | 3 | 2 | 千葉県環境生活部大気保全課 | | | | 2 | 2 | 化学物質大気環境調査・ダイオキシン類に係る大気環境調査及び非汚染地域大気環境調査 | 日帰り |
| 153 | 3 | 1 | 国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所・野生動物研究領域 | 1 | | | | 1 | SFTS に代表される人獣共通感染症対策における生態学的アプローチ | 日帰り |
| 154 | 3 | 1 | 東京大学大学院森林科学専攻・森林生物地球科学研究室 | 1 | | | | 1 | 新田・袋山沢における水文観測と測量 | 日帰り |
| 155 | 3 | 1 | 東京大学大学院理学系研究科・小石川植物園 | 1 | | | | 1 | 花と昆虫の相互作用の調査の下見 | 日帰り |
| 156 | 3 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科・森林植物学研究室 | 1 | | 1 (1) | | 2 (1) | スギと共生するアーバスキュラー菌根菌の種多様性の解明（根のサンプリング） | 日帰り |
| 157 | 3 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉道演習林 | | | 4 | | 4 | 枯死したコナラから羽化する甲虫相の時間変化 | 日帰り |
| 158 | 3 | 1 | 千葉大学大学院園芸学研究科 | | | 1 | | 1 | 今後の演習林利用のための下見 | 日帰り |

※括弧内の数値は外国人利用数を示す

利用者数合計 1,303
(20)
利用件数 158

2)北海道演習林

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|---|----|----------------------------|-----|----|----|-----|----|---|----------|
| 1 | 4 | 14 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | 14 | | | 4 | 18 | 異動にかかる教育研究・管理運営の引き継ぎ打合せ | 山部宿泊施設 |
| 2 | 4 | 1 | 富良野市生涯学習センター | 2 | | | 8 | 10 | 森林学習プログラム推進事業 | 日帰り |
| 3 | 4 | 4 | 北海道地方環境事務所 | | | | 7 | 7 | 猛禽類の保護増殖事業に関わる猛禽類生息状況調査及び巣箱の状況調査・保守 | 日帰り |
| 4 | 4 | 1 | 北海道立総合研究所林業試験場 | 3 | | | | 3 | 気候変動下における河川生態系のレジリエンス | 日帰り |
| 5 | 5 | 30 | 附属演習林 | | | 30 | | 30 | 針広混交林の動態を予測する個体ベース森林動態モデルの開発、およびシミュレーションに基づく持続的な管理方法の揭示 | 山部長期滞在宿舎 |
| 6 | 5 | 1 | 岩手大学 | 1 | | | 2 | 3 | クスサンの飼育実験 | 日帰り |
| 7 | 5 | 2 | 森林総合研究所 | 2 | | | | 2 | カバノキ類の着花量・開花時期に関する研究調査 | 日帰り |
| 8 | 5 | 2 | 農林総合研究センター茶業研究所 | 2 | | | | 2 | 茶樹の極寒冷地育種・栽培企画試験 | |
| 9 | 5 | 2 | 北海道演習林 | 2 | | | | 2 | 積雪制御による天然更新促進技術の開発 | 山部宿泊施設 |
| 10 | 5 | 6 | 東京大学総合文化研究科 | 6 | 6 | | | 12 | トドマツ標高別集団の適応形質の探索と環境条件の計測 | 山部宿泊施設 |
| 11 | 5 | 1 | 富良野市立東山保育所 | | | | 41 | 41 | 春の遠足 | 日帰り |
| 12 | 5 | 2 | 帯広畜産大学生命科学研究部 | 2 | 10 | | | 12 | 樹上性小型ほ乳類の森林利用性に関する基礎生態学研究 | 山部宿泊施設 |
| 13 | 5 | 2 | 森林総合研究所 | 2 | | | | 2 | カバノキ類の着花量・開花時期に関する研究調査 | 山部宿泊施設 |
| 14 | 5 | 1 | 北海道演習林 | 8 | 17 | | | 25 | 教養学部全学体験ゼミナール「景観としての森林生態系と人間の感覚」 | セミナーハウス |
| 15 | 5 | 4 | 日本森林技術協会 森林情報グループ | | | | 20 | 20 | デジタル森林空間情報利用技術開発事業 | |
| 16 | 6 | 2 | 北海道立総合研究所林業試験場 | 4 | 2 | 2 | | 8 | 気候変動下における河川生態系のレジリエンス | |
| 17 | 6 | 1 | 帯広畜産大学保全生態学研究室 | 1 | 1 | | | 2 | 気候変動下における河川生態系のレジリエンス | |
| 18 | 6 | 1 | 帯広畜産大学生命科学研究部門 | 1 | 4 | 4 | | 9 | エゾモモンガ・ヒメズミ調査 | 日帰り |
| 19 | 6 | 2 | 北海道大学大学院地球環境研究院生物化学部門 | 2 | | | | 2 | 気候変動下における河川生態系のレジリエンス | |
| 20 | 6 | 3 | 北海道地方環境事務所 | | | | 6 | 6 | 猛禽類の保護増殖事業に関わる猛禽類生息状況調査及び巣箱の状況調査・保守 | |
| 21 | 6 | 1 | 帯広畜産大学生命科学研究部門 | 1 | 4 | 3 | | 8 | エゾモモンガ・ヒメズミ調査 | 日帰り |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|---|----|-----------------------------|-----|----|----|-----|----|-------------------------------------|----------|
| 22 | 6 | 1 | 北海道地方環境事務所 | 4 | | | 3 | 7 | 猛禽類の保護増殖事業に関わる猛禽類生息状況調査及び巣箱の状況調査・保守 | 日帰り |
| 23 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | 1 | | 1 | | 2 | グイマツ雑種 F1 (クリーンラーチ) のゲノム選抜 | |
| 24 | 6 | 1 | 北海道地方環境事務所 | 2 | | | 3 | 5 | 猛禽類の保護増殖事業に関わる猛禽類生息状況調査及び巣箱の状況調査・保守 | 日帰り |
| 25 | 6 | 1 | 帯広畜産大学保全生態学研究室 | 1 | | 1 | | 2 | 気候変動下における河川生態系のレジリエンス | 日帰り |
| 26 | 6 | 3 | (株)三共コンサルタン | | | | 9 | 9 | 森林生態系多様性基礎調査 | |
| 27 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林 | | 23 | 3 | | 26 | 森林生態圏管理学「空間情報技術を用いた森林情報の管理」 | |
| 28 | 6 | 1 | 北海道地方環境事務所 | | | | 3 | 3 | 猛禽類の保護増殖事業に関わる猛禽類生息状況調査及び巣箱の状況調査・保守 | 日帰り |
| 29 | 6 | 1 | フラノデザイン(株) | | | | 2 | 2 | フリーペーパー掲載のため、小池氏を取材 | 日帰り |
| 30 | 6 | 2 | 東京大学大学院農学研究科生圏システム学専攻 | | | 2 | | 2 | コウモリの食性を明らかにするための捕獲及び分析調査 | 山部国際宿泊施設 |
| 31 | 7 | 31 | 東京大学大学院農学研究科生圏システム学専攻 | | | 31 | | 31 | コウモリの食性を明らかにするための捕獲及び分析調査 | 山部国際宿泊施設 |
| 32 | 7 | 2 | 帯広畜産大学生命科学研究部門 | 2 | 7 | 6 | | 15 | エゾモンガ・ヒメズミ調査 | 日帰り |
| 33 | 7 | 1 | 帯広畜産大学保全生態学研究室 | 1 | | 1 | | 2 | 気候変動下における河川生態系のレジリエンス | 日帰り |
| 34 | 7 | 2 | 富良野市立麓郷中学校 | 11 | | | 9 | 20 | 大麓自然愛護少年団 夏山登山 | 日帰り |
| 35 | 7 | 4 | 北海道大学大学院地球環境研究院生物化学部門 | 4 | | | | 4 | 気候変動下における河川生態系のレジリエンス | |
| 36 | 7 | 2 | 東京藝術大学美術学部 | 2 | | 2 | | 4 | 森林の美について | 山部宿泊施設 |
| 37 | 7 | 2 | 株式会社開発調査研究所 | | | | 14 | 14 | 「麓郷山部停車場線地道債(局改)工事環境調査」委託業務における環境調査 | |
| 38 | 7 | 4 | 名古屋大学大学院生命農学研究科 | | | 8 | | 8 | カミキリムシ科昆虫と微生物の共生の進化 | 山部宿泊施設 |
| 39 | 7 | 1 | 帯広畜産大学保全生態学研究室 | 1 | | 1 | | 2 | 気候変動下における河川生態系のレジリエンス | 日帰り |
| 40 | 7 | 3 | 東京大学教育学部附属中等教育学校 | 3 | | | 6 | 9 | 生物部 夏季合宿の実施踏査 | 山部宿泊施設 |
| 41 | 7 | 3 | 住友林業株式会社紋別山林事業所 | | | | 3 | 3 | 選木調査見学 | 山部宿泊施設 |
| 42 | 7 | 1 | 富良野市生涯学習センター | 2 | 1 | | | 3 | 森林学習プログラム推進事業 | 日帰り |
| 43 | 8 | 31 | 東京大学大学院農学研究科生圏システム学専攻 | | | 31 | | 31 | コウモリの食性を明らかにするための捕獲及び分析調査 | 山部国際宿泊施設 |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|----|----|-------------------------------|-----|----|----|-----|----|----------------------------------|----------|
| 44 | 8 | 1 | 北海道立総合研究機構 | 24 | | | 28 | 52 | 富良野の高校生による水源探訪フィールドワーク | 日帰り |
| 45 | 8 | 1 | 帯広畜産大学生命科学研究部門 | 1 | 2 | 4 | | 7 | エゾモモンガ・ヒメスズメ調査 | 日帰り |
| 46 | 8 | 1 | 北海道大学大学院環境フロンティアコース | 1 | | 2 | | 3 | 風倒攪乱とその後の管理法が北方林の回復力に与える複合的影響 | 山部宿泊施設 |
| 47 | 8 | 1 | 帯広畜産大学生命科学研究部門 | 1 | 3 | 4 | | 8 | エゾモモンガ・ヒメスズメ調査 | 日帰り |
| 48 | 8 | 2 | 北海道大学大学院地球環境研究院生物化学部門 | 2 | | | | 2 | 気候変動下における河川生態系のレジリエンス | |
| 49 | 8 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究センター | 1 | | 2 | | 3 | イオノーム分析用のトドマツ分離集団のシュート採取 | |
| 50 | 8 | 3 | 名古屋大学大学院生命農学研究科 | 3 | | | | 3 | カミキリムシ科昆虫と微生物の共生の進化 | 山部宿泊施設 |
| 51 | 8 | 1 | 富良野市生涯学習センター | 3 | | | | 3 | 博物館事業「湿地林植生調査」 | 日帰り |
| 52 | 8 | 2 | 富良野市生涯学習センター | 11 | 3 | | 31 | 45 | 森林学習プログラム推進事業 | 日帰り |
| 53 | 8 | 1 | 帯広畜産大学保全生態学研究室 | 1 | | 1 | | 2 | 気候変動下における河川生態系のレジリエンス | 日帰り |
| 54 | 9 | 30 | 東京大学大学院農学研究科生圏システム学専攻 | | | 30 | | 30 | コウモリの食性を明らかにするための捕獲及び分析調査 | 山部国際宿泊施設 |
| 55 | 9 | 2 | 帯広畜産大学生命科学研究部門 | 2 | 6 | 6 | | 14 | エゾモモンガ・ヒメスズメ調査 | 日帰り |
| 56 | 9 | 2 | 富良野市生涯学習センター | 12 | 1 | | 22 | 35 | 森林学習プログラム推進事業 | 日帰り |
| 57 | 9 | 1 | 帯広畜産大学保全生態学研究室 | 1 | | 1 | | 2 | 気候変動下における河川生態系のレジリエンス | 日帰り |
| 58 | 9 | 1 | 東京藝術大学美術学部 | | | 1 | | 1 | 森林の美について | |
| 59 | 9 | 5 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | 5 | | | | 5 | 異動にかかる教育研究・管理運営の引き継ぎ打合せ | |
| 60 | 10 | 22 | 東京大学大学院農学研究科生圏システム学専攻 | | | 22 | | 22 | コウモリの食性を明らかにするための捕獲及び分析調査 | 山部国際宿泊施設 |
| 61 | 10 | 1 | 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター | 1 | | | | 1 | 大規模森林操作実験による生物多様性と生態系機能の原因と帰結の探求 | 日帰り |
| 62 | 10 | 2 | 株式会社借成社 | | | | 4 | 4 | | |
| 63 | 10 | 2 | アジア航測株式会社 | | | | 8 | 8 | | |
| 64 | 10 | 2 | 帯広畜産大学生命科学研究部門 | 2 | 6 | 6 | | 14 | エゾモモンガ・ヒメスズメ調査 | 日帰り |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|----|----|-------------------------------|-----|----|----|-----|----|-------------------------------------|---------|
| 65 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林 | 3 | | | | 3 | 令和3年度 技術職員等試験研究・研修会議 | |
| 66 | 10 | 1 | NPO 法人どんころ野外学校 | | | | 15 | 15 | 南富良野町町民登山 | 日帰り |
| 67 | 10 | 19 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | 19 | | | | 19 | 実務研修 | 山部宿泊施設 |
| 68 | 10 | 12 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | 5 | | 12 | | 17 | ブナの芽鱗痕解析によるブナの開花数の年変動解析 | 山部宿泊施設 |
| 69 | 10 | 5 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻 | 9 | 5 | 5 | | 19 | 林業現場および作業 IOT 機構と利用システム | 山部宿泊施設 |
| 70 | 10 | 1 | 北海道新聞社 | | | | 2 | 2 | 日曜版「五感紀行」のための見学と取材 | 日帰り |
| 71 | 10 | 4 | 名古屋大学大学院生命農学研究科 | | 4 | 4 | 4 | 12 | カミキリムシ科昆虫と微生物の共生の進化 | セミナーハウス |
| 72 | 10 | 1 | 北海道新聞社富良野支局 | | | | 1 | 1 | 富良野緑峰高校連携事業 | 日帰り |
| 73 | 10 | 1 | 帯広畜産大学保全生態学研究室 | 1 | | 1 | | 2 | 気候変動下における河川生態系のレジリエンス | 日帰り |
| 74 | 10 | 1 | 北海道富良野緑峰高等学校 | 2 | | | 3 | 5 | 園芸科学科3年選択科目「園芸デザイン」 | 日帰り |
| 75 | 10 | 1 | 酪農学園とわの森三愛高校 | 2 | | | 9 | 11 | 道内研修 | 日帰り |
| 76 | 10 | 2 | 株式会社開発調査研究所 | | | | 14 | 14 | 「麓郷山部停車場線地道債（局改）工事環境調査」委託業務における環境調査 | 日帰り |
| 77 | 10 | 4 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物研究室 | | | 4 | | 4 | 暗色雪腐病菌の伝播・繁殖様式の解明 | 山部宿泊施設 |
| 78 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林 | | | | 9 | 9 | 白鳥山ガイドツアー ～麓郷の小さな森で秋探し～ | 日帰り |
| 79 | 10 | 1 | 富良野市生涯学習センター | 4 | | | 10 | 14 | 森林学習プログラム推進事業 | 日帰り |
| 80 | 10 | 3 | 北海道立総合研究機構 林業試験場 | 12 | | | | 12 | 水資源開発・管理のための支援システム「水資源 Navi」の開発 | |
| 81 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究センター | 2 | | | | 2 | 温暖な環境に移植された北方針葉樹のストレス応答評価 | |
| 82 | 10 | 2 | 北海道立北の森づくり専門学院 | 4 | | | 54 | 58 | 森林施業実習 | 日帰り |
| 83 | 10 | 1 | 酪農学園大学農食環境学群環境共生学類 | 1 | 1 | | | 2 | コウモリ相調査におけるバットボックスの利用可能性に関する研究 | 日帰り |
| 84 | 10 | 1 | 帯広畜産大学保全生態学研究室 | 2 | | | | 2 | 気候変動下における河川生態系のレジリエンス | 日帰り |
| 85 | 11 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | 2 | | | | 2 | コウモリ類のデータ分析補助 | 山部宿泊施設 |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|----|----|-------------------------------|-----|----|----|-----|----|--|----------|
| 86 | 11 | 1 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科 | 1 | | | | 1 | 次世代の自然風景地の保護 | |
| 87 | 11 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際専攻 | 2 | | | | 2 | 天然林における樹齢情報と生存時間解析に基づく伐採木の剪定 | |
| 88 | 11 | 1 | 上川総合振興局何六森林管理室 | 6 | | | | 6 | 上川管内における優良広葉樹資源視察のため | 日帰り |
| 89 | 11 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | 2 | | 2 | 4 | 8 | ゲノム情報を利用したクリーンラーチの在室育種 | |
| 90 | 11 | 1 | 北海道立総合研究機構 | 6 | | | 1 | 7 | 富良野の高校生による水源探訪フィールドワーク | 日帰り |
| 91 | 11 | 1 | 富良野市教育委員会 | 2 | | | | 2 | 富良野市木育スタート事業 | |
| 92 | 12 | 1 | 富良野市生涯学習センター | 4 | | | | 4 | 森林学習プログラム推進事業 | 日帰り |
| 93 | 12 | 2 | 北海道地方環境事務所 | | | | 2 | 2 | 猛禽類の保護増殖事業に関わる猛禽類生息状況調査及び巣箱の状況調査・保守 | |
| 94 | 1 | 2 | 森林総合研究所 | 2 | | | | 2 | カバノキ類の着花結実動態に関する研究調査 | |
| 95 | 1 | 26 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林 | 26 | | | | 26 | 学生指導のため（修士論文「間伐が樹冠における降雨配分に与える影響」） | 山部国際宿泊施設 |
| 96 | 1 | 26 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林流域管理学研究室 | | | 26 | | 26 | 修士論文「間伐が樹冠における降雨配分に与える影響」 | 山部国際宿泊施設 |
| 97 | 1 | 14 | 東京大学大学院農学研究科生圏システム学専攻 | | | 14 | | 14 | コウモリの食性を明らかにするための捕獲及び分析調査 | 山部国際宿泊施設 |
| 98 | 1 | 5 | 東京大学農学生命科学研究科農学国際専攻 | | | 5 | | 5 | Monitoring and assessment of production forests under selection system by using UAV remote sensing in combination with Deep Learning (DL) approach | 山部宿泊施設 |
| 99 | 2 | 5 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林 | 5 | | | | 5 | 学生指導のため（修士論文「間伐が樹冠における降雨配分に与える影響」） | 山部国際宿泊施設 |
| 100 | 2 | 26 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林流域管理学研究室 | | | 26 | | 26 | 修士論文「間伐が樹冠における降雨配分に与える影響」 | 山部国際宿泊施設 |
| 101 | 2 | 28 | 東京大学大学院農学研究科生圏システム学専攻 | | | 28 | | 28 | コウモリの食性を明らかにするための捕獲及び分析調査 | 山部国際宿泊施設 |
| 102 | 2 | 1 | 北海道大学大学院農学研究院 | | | 1 | | 1 | アイヌ森林利用権回復に向けた取り組みの実態と課題 | 日帰り |
| 103 | 2 | 3 | 東京大学教養学部 | | 3 | | | 3 | 東京大学体験活動プログラム「森が社会に貢献するー持続可能な森づくりへの挑戦ー」 | |
| 104 | 2 | 8 | 東京大学教養学部 | | 32 | | | 32 | 東京大学体験活動プログラム「森が社会に貢献するー持続可能な森づくりへの挑戦ー」 | |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|---|----|-------------------------------|-----|----|----|-----|----|-------------------------------------|----------|
| 105 | 2 | 3 | 北海道地方環境事務所 | | | | 6 | 6 | 猛禽類の保護増殖事業に関わる猛禽類生息状況調査及び巣箱の状況調査・保守 | 日帰り |
| 106 | 3 | 5 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林流域管理学研究室 | | | 5 | | 5 | 修士論文「間伐が樹冠における降雨配分に与える影響」 | 山部国際宿泊施設 |
| 107 | 3 | 31 | 東京大学大学院農学研究科生圏システム学専攻 | | | 31 | | 31 | コウモリの食性を明らかにするための捕獲及び分析調査 | 山部国際宿泊施設 |
| 108 | 3 | 11 | 北海道地方環境事務所 | | | | 22 | 22 | 猛禽類の保護増殖事業に関わる猛禽類生息状況調査及び巣箱の状況調査・保守 | |

※括弧内の数値は外国人利用数を示す

| | |
|--------|---------------|
| 利用者数合計 | 1,181 (79) |
| 利用件数 | 108 |

3) 秩父演習林

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|---|----|----------------------------|-----|----|----|-----|----|------------------------------------|--------|
| 1 | 4 | 23 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属秩父演習林 | | | 23 | | 23 | カエデ属の多様化機構と分布境界の形成過程 | 影森自炊宿舎 |
| 2 | 4 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属秩父演習林 | | | 1 | | 1 | カエデ属の多様化機構と分布境界の形成過程 | 日帰り |
| 3 | 4 | 25 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属秩父演習林 | | | 25 | | 25 | 花蜜資源となる木本種が送粉者を介して林床植物ソバナの繁殖に与える影響 | 影森自炊宿舎 |
| 4 | 4 | 2 | 新潟大学佐渡自然共生科学センター演習林 | 2 | | | | 2 | シオジの開花結実特性 | 日帰り |
| 5 | 4 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科技術基盤センター | 2 | | | | 2 | 海洋環境における木材の生分解性実証実験 | 日帰り |
| 6 | 4 | 1 | 奥秩父山塊イヌワシ調査グループ | | | | 1 | 1 | 奥秩父地域における大型猛禽類の生息実態調査 | 日帰り |
| 7 | 4 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 北海道演習林 | 2 | | | | 2 | 全国多地点におけるコナラ丸太の分解と生物間相互作用 | 日帰り |
| 8 | 4 | 1 | 埼玉県立川の博物館 | | | | 4 | 4 | ヒガシヒダサンショウウオの生態調査 | 日帰り |
| 9 | 4 | 4 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属秩父演習林 | | | 4 | | 4 | 自動撮影カメラによる哺乳類の個体群動態と空間分布の解明 | 影森自炊宿舎 |
| 10 | 4 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属秩父演習林 | | | 1 | | 1 | 自動撮影カメラによる哺乳類の個体群動態と空間分布の解明 | 日帰り |
| 11 | 4 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | | | 2 | | 2 | 花蜜資源となる木本種が送粉者が介して林床植物の繁殖に与える波及効果 | 日帰り |
| 12 | 4 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科田無演習林 | 1 | | | | 1 | 落葉広葉樹4種の成長特性と心材形成機構の解明 | 日帰り |
| 13 | 4 | 2 | なし | | | | 2 | 2 | 鳥類群集の動態、ミズナラの結実特性、長期生態系 | 日帰り |
| 14 | 4 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林風致計画学研究室 | 1 | | | | 1 | サイバーフォレストに関する研究 | 日帰り |
| 15 | 5 | 29 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属秩父演習林 | | | 29 | | 29 | 花蜜資源となる木本種が送粉者を介して林床植物ソバナの繁殖に与える影響 | 影森自炊宿舎 |
| 16 | 5 | 1 | 埼玉県環境科学国際センター | 1 | | | | 1 | オゾン濃度計の回収及びびヤマスカシユリの鉢の確認 | 日帰り |
| 17 | 5 | 1 | 特定非営利活動法人バードリサーチ | 1 | | | | 1 | モニタリングサイト1000 鳥類調査 | 川俣自炊宿舎 |
| 18 | 5 | 1 | 特定非営利活動法人バードリサーチ | 1 | | | | 1 | モニタリングサイト1000 鳥類調査 | 日帰り |
| 19 | 5 | | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 1 | | 1 | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 日帰り |
| 20 | 5 | 1 | 特定非営利活動法人バードリサーチ | 1 | | | | 1 | モニタリングサイト1000 鳥類調査 | 川俣自炊宿舎 |
| 21 | 5 | 1 | 特定非営利活動法人バードリサーチ | 1 | | | | 1 | モニタリングサイト1000 鳥類調査 | 日帰り |
| 22 | 5 | 1 | 埼玉県寄居林業事務所 | | | | 2 | 2 | 森林資源モニタリング調査 | 日帰り |
| 23 | 5 | 5 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 5 | | 5 | 花蜜資源となる木本種が送粉者を介して林床植物の繁殖に与える波及効果 | 日帰り |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|---|----|----------------------------|-----|----|----------|-----|----------|--|--------|
| 24 | 5 | 1 | 新潟大学佐渡自然共生科学センター | 1 | | | | 1 | シオジの開花結実特性の研究 | 日帰り |
| 25 | 5 | 15 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 15 | | 15 | カエデ属の多様化機構の分布境界の形成過程 | 影森自炊宿舎 |
| 26 | 5 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 1 | | 1 | カエデ属の多様化機構の分布境界の形成過程 | 日帰り |
| 27 | 5 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室 | 1 | | 1 | | 2 | スギ・ヒノキの生育を地下から支えるアーバスキュラー菌根菌の種多様性の解明と単孢子分離株の確立 | 日帰り |
| 28 | 5 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | | | 2 | | 2 | 人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 29 | 5 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | | | 1 | | 1 | 人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響 | 日帰り |
| 30 | 5 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科田無演習林 | 1 | | | | 1 | 落葉広葉樹4種の成長特性と心材形成機構の解明 | 日帰り |
| 31 | 5 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | 3 | 9 | | | 12 | ニホンジカの植食圧が森林動態に及ぼす影響 | 川俣自炊宿舎 |
| 32 | 5 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 3 (3) | | 3 (3) | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 影森自炊宿舎 |
| 33 | 5 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 1 (1) | | 1 (1) | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 日帰り |
| 34 | 5 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | | 14 | | | 14 | 全学体験ゼミナール「春の奥秩父を巡る」現地講義 | 日帰り |
| 35 | 5 | 1 | なし | | 1 | | 1 | 2 | 高標高山地帯天然林の鳥類群集、ミズナラの結実動態、山地帯天然林生態系 | 日帰り |
| 36 | 5 | 2 | 東京大学農学部森林環境資源科学専修 | | 1 | 1 | 2 | 4 | 捕獲活動に対するシカの警戒活動を応用した密度調整手法の検討 | 日帰り |
| 37 | 5 | 1 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻 | 1 | | 1 | | 2 | 感性と論理の融合アプローチにより森と人を紡ぎ直すサイバーフォレストに関する研究 | 日帰り |
| 38 | 5 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 1 (1) | | 1 (1) | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 影森自炊宿舎 |
| 39 | 5 | 1 | 東京大学農学部 | | 1 | | | 1 | 捕獲活動に対するシカの警戒行動を応用した密度調整手法の検討 | |
| 40 | 5 | 1 | 埼玉県立自然の博物館 | | | | 2 | 2 | 秩父山地におけるミネカエデ・ナンゴクミネカエデの分布や性表現に関する研究 | 日帰り |
| 41 | 6 | 26 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属秩父演習林 | | | | 26 | 26 | 花蜜資源となる木本種が送粉者を介して林床植物ソバナの繁殖に与える影響 | 影森自炊宿舎 |
| 42 | 6 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | 2 | 6 | | | 8 | ニホンジカの植食圧が森林動態に及ぼす影響 | 栃本自炊宿舎 |
| 43 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | 1 | 3 | | | 4 | ニホンジカの植食圧が森林動態に及ぼす影響 | 日帰り |
| 44 | 6 | 1 | 埼玉昆虫談話会 | | | | 1 | 1 | 秩父演習林及びその周辺の昆虫相データベースの構築 | 日帰り |
| 45 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | | 5 | | | 5 | 全学体験ゼミナール「春の奥秩父を巡る」現地講義 | 日帰り |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|---|----|---------------------------|-----|-----|----------|-----|----------|---|--------|
| 46 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 1 (1) | | 1 (1) | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 日帰り |
| 47 | 6 | 3 | 東京大学農学部 | | | | 3 | 3 | 捕獲活動に対するシカの警戒行動を応用した密度調整手法の検討 | |
| 48 | 6 | 8 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | | | 8 | | 8 | 人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 49 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | | | 1 | | 1 | 人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響 | 日帰り |
| 50 | 6 | 6 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | | | 6 | | 6 | 花蜜資源となる木本種が送粉者を介して林床植物の繁殖に与える波及効果 | 日帰り |
| 51 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室 | 1 | (1) | | | 1 (1) | スギ・ヒノキの生育を地下から支えるアーバスキュラー菌根菌の種多様性の解明と単孢子分離株の確立 | 日帰り |
| 52 | 6 | 1 | 埼玉県寄居林業事務所 | | | | 1 | 1 | 森林資源モニタリング調査 | 日帰り |
| 53 | 6 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 3 (3) | | 3 (3) | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 影森自炊宿舎 |
| 54 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 1 | | 1 | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 日帰り |
| 55 | 6 | 3 | 東京大学農学部森林環境資源科学専修 | | 3 | | 3 | 6 | 捕獲活動に対するシカの警戒行動を応用した密度調整方法の検討 | |
| 56 | 6 | 1 | なし | | | | 1 | 1 | 高標高山地天然林の鳥類群集、ミズナラの結実動態、山地帯天然林生態系 | 日帰り |
| 57 | 6 | 1 | 新潟大学佐渡自然共生科学センター | | | | 1 | 1 | シオジの開花結実特性の研究 | 日帰り |
| 58 | 6 | 1 | 埼玉県環境科学国際センター | 2 | | | | 2 | オゾン濃度計の回収及びミヤマスカシユリの鉢の確認 | 日帰り |
| 59 | 6 | 1 | NPO 法人ニホンオオカミを探す会 | | | | 2 | 2 | ニホンオオカミの生存確認調査 | 日帰り |
| 60 | 6 | 1 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻 | 2 | | | | 2 | 感性と論理の融合アプローチにより森と人を紡ぎ直すサイバーフォレストに関する研究 | 日帰り |
| 61 | 6 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 3 (3) | | 3 (3) | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 影森自炊宿舎 |
| 62 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 1 (1) | | 1 (1) | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 日帰り |
| 63 | 6 | 1 | なし | | | | 1 | 1 | 高標高山地帯天然林の鳥類群集 | |
| 64 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室 | 1 | | 1 | | 2 | 関東・中部地方の亜高山帯林におけるコケ植物着生シアノバクテリアの種組成および窒素固定能に関する研究 | 日帰り |
| 65 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | | | 1 | | 1 | 花蜜資源となる木本種が送粉者を介して林床植物の繁殖に与える波及効果 | 日帰り |
| 66 | 7 | 1 | 埼玉県立秩父農工科学高等学校 | 3 | | | 36 | 39 | 樹木採集実習 | 日帰り |
| 67 | 7 | 31 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属秩父演習林 | | | 31 | | 31 | 花蜜資源となる木本種が送粉者を介して林床植物ソバナの繁殖に与える影響 | 影森自炊宿舎 |
| 68 | 7 | 12 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | | | 12 | | 12 | 花蜜資源となる木本種が送粉者を介して林床植物の繁殖に与える波及効果 | 日帰り |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|---|----|---------------------------|----------|----|----------|-----|----------|--|--------|
| 69 | 7 | 8 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻 | | | 8 | | 8 | シェルトマダニとライム病原菌の集団遺伝構造の解明 | 影森自炊宿舍 |
| 70 | 7 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻 | | | 1 | | 1 | シェルトマダニとライム病原菌の集団遺伝構造の解明 | 日帰り |
| 71 | 7 | 1 | 新潟大学佐渡自然共生科学センター | | | 1 | 1 | 2 | シオジの開花結実特性の研究 | 日帰り |
| 72 | 7 | 4 | 東京大学農学部森林生物科学専修 | | 4 | | | 4 | 外来種キヨンの密度増加を引き起こす生態学的メカニズム | |
| 73 | 7 | | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻 | | | 8 | | 8 | カエデ属の多様化機構と分布境界の形成過程 | 影森自炊宿舍 |
| 74 | 7 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻 | | | 1 | | 1 | カエデ属の多様化機構と分布境界の形成過程 | 日帰り |
| 75 | 7 | 1 | 埼玉県寄居林業事務所 | | | | 1 | 1 | 森林環境モニタリング調査 | 日帰り |
| 76 | 7 | 1 | 筑波大学 | 2 | | | | 2 | 国土地理協会学術研究助成「トチノキ巨木林の分布と成立要因に関する地理学的研究・文化景観としての評価に向けて」 | 日帰り |
| 77 | 7 | 2 | なし | | | | 2 | 2 | 高標高山地帯天然林の鳥類群集 | |
| 78 | 7 | 1 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科 | 2 | | | | 2 | 感性と論理の融合アプローチにより森と人を紡ぎ直すサイバーフォレストに関する研究 | 日帰り |
| 79 | 7 | 4 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 4 (4) | | 4 (4) | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 影森自炊宿舍 |
| 80 | 7 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 1 (1) | | 1 (1) | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 日帰り |
| 81 | 7 | 1 | 埼玉県茶業研究所 | 2 | | | | 2 | 茶樹の山間冷涼地育種 | 日帰り |
| 82 | 7 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室 | 1 (1) | | 1 | | 2 (1) | スギ・ヒノキの生育を地下から支えるアーバスキュラー菌根菌の種多様性の解明と単孢子分離株の確立 | 日帰り |
| 83 | 8 | 31 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属秩父演習林 | | | 31 | | 31 | 花蜜資源となる本木種が送粉者を介して林床植物ソバナの繁殖に与える影響 | 影森自炊宿舍 |
| 84 | 8 | 14 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | | | 14 | | 14 | 人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響 | 影森自炊宿舍 |
| 85 | 8 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | | | 1 | | 1 | 人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響 | 日帰り |
| 86 | 8 | 10 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻 | | | 10 | | 10 | シェルトマダニとライム病原菌の集団遺伝構造の解明 | 影森自炊宿舍 |
| 87 | 8 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻 | | | 1 | | 1 | シェルトマダニとライム病原菌の集団遺伝構造の解明 | 日帰り |
| 88 | 8 | 1 | 埼玉県寄居林業事務所 | | | | 1 | 1 | 森林資源モニタリング調査 | 日帰り |
| 89 | 8 | 1 | 新潟大学佐渡自然共生科学センター | | | | 1 | 1 | シオジの開花結実特性の研究 | 日帰り |
| 90 | 8 | 7 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | | | 7 | | 7 | 花蜜資源となる本木種が送粉者を介して林床植物の繁殖に与える波及効果 | 日帰り |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|---|----|---------------------------|-----|----|----|-----|----|--|--------|
| 91 | 8 | 1 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻 | 2 | | 1 | | 3 | 感性と論理の融合アプローチにより森と人を紡ぎ直すサイバーフォレストに関する研究 | 日帰り |
| 92 | 8 | 9 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻 | | | 9 | | 9 | カエデ属の多様化機構と分布境界の形成過程 | 影森自炊宿舍 |
| 93 | 8 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻 | | | 1 | | 1 | カエデ属の多様化機構と分布境界の形成過程 | 日帰り |
| 94 | 8 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室 | 1 | | 1 | | 2 | スギ・ヒノキの生育を地下から支えるアーバスキュラー菌根菌の種多様性の解明と単胞子分離株の確立 | 日帰り |
| 95 | 8 | 1 | 豊田工業高等専門学校 | 1 | | | | 1 | 森林流域における溶存有機炭素流出に関する変動要因解析 | 日帰り |
| 96 | 8 | 7 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | | | 7 | | 7 | 人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響 | |
| 97 | 8 | 15 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻 | | | 15 | | 15 | シェルトマダニとライム病原菌の集団遺伝構造の解明 | 影森自炊宿舍 |
| 98 | 8 | 8 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 8 | | 8 | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 影森自炊宿舍 |
| 99 | 8 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 1 | | 1 | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 日帰り |
| 100 | 8 | 1 | なし | | | | 1 | 1 | 高標高山地帯天然林の鳥類群集 | 日帰り |
| 101 | 8 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室 | 1 | | | | 1 | 森林科学基礎実習Ⅲ下見 | 日帰り |
| 102 | 8 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | | | 1 | | 1 | 人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響 | 影森自炊宿舍 |
| 103 | 8 | 1 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻 | 2 | | | | 2 | 感性と論理の融合アプローチにより森と人を紡ぎ直すサイバーフォレストに関する研究 | 日帰り |
| 104 | 8 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 2 | | 2 | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 影森自炊宿舍 |
| 105 | 8 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | | | 2 | | 2 | 花蜜資源となる木本種が送粉者を介して林床植物の繁殖に与える波及効果 | 日帰り |
| 106 | 9 | 30 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属秩父演習林 | | | 30 | | 30 | 花蜜資源となる木本種が送粉者を介して林床植物ソバナの繁殖に与える影響 | 影森自炊宿舍 |
| 107 | 9 | 4 | 筑波大学生命環境系山岳科学センター菅平高原実験所 | 18 | | | 6 | 24 | スズタケに生じる菌類の分類・生態学的研究 | 日帰り |
| 108 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室 | 2 | 10 | | | 12 | 森林科学基礎実習Ⅲ | 日帰り |
| 109 | 9 | 30 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻 | | | 30 | | 30 | シェルトマダニとライム病原菌の集団遺伝構造の解明 | 影森自炊宿舍 |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|---|----|-----------------------------------|-----|----|----------|-----|----------|---|--------|
| 110 | 9 | 4 | 東京大学農学部森林生物科学専修 | | 4 | | | 4 | 外来種キョンの密度増加を引き起こす生態学的メカニズム | |
| 111 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生物材料科学専攻 | 2 | 17 | 1 | | 20 | バイオマス科学実習・森林科学実習 | 日帰り |
| 112 | 9 | 30 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | | | 30 | | 30 | 人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響 | 影森自炊宿舍 |
| 113 | 9 | 4 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | | | 4 | | 4 | 亜熱帯地域から亜寒帯地域における木本種つる植物の分布とその規定要因の解明 | 日帰り |
| 114 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室 | 1 | | 1 | | 2 | 関東・中部地方の亜高山帯林におけるコケ植物着生シアノバクテリアの種組成および窒素固定能に関する研究 | 日帰り |
| 115 | 9 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 2 (2) | | 2 (2) | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 影森自炊宿舍 |
| 116 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 1 (1) | | 1 (1) | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 日帰り |
| 117 | 9 | 1 | 埼玉県寄居林業事務所 | | | | 1 | 1 | 森林資源モニタリング | 日帰り |
| 118 | 9 | 1 | 新潟大学佐渡自然共生科学センター | | | | 1 | 1 | シオジの開花結実特性の研究 | 日帰り |
| 119 | 9 | 1 | NPO 法人ニホンオオカミを採す会 | | | | 2 | 2 | ニホンオオカミの生存確認調査 | 日帰り |
| 120 | 9 | 1 | (株)ゼロステーション | | | | 2 | 2 | NHK 総合「生き物新伝説 ダーウィンが来た！ニホンオオカミ編」取材のため | 日帰り |
| 121 | 9 | 2 | 秋田県立大学生物資源科学部 | | | | 2 | 2 | 冷温帯域に植栽された落葉広葉樹4種の成長特性の解明 | 日帰り |
| 122 | 9 | 1 | (株)ゼロステーション | | | | 4 | 4 | NHK 総合「生き物新伝説 ダーウィンが来た！ニホンオオカミ編」取材のため | 外部宿泊 |
| 123 | 9 | 1 | (株)ゼロステーション | | | | 4 | 4 | NHK 総合「生き物新伝説 ダーウィンが来た！ニホンオオカミ編」取材のため | 日帰り |
| 124 | 9 | 4 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 4 (4) | | 4 (4) | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 影森自炊宿舍 |
| 125 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 1 (1) | | 1 (1) | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 日帰り |
| 126 | 9 | 1 | なし | | | | 1 | 1 | 高標高山地帯天然林の鳥類群集 | 日帰り |
| 127 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻森圏管理学研究室 | 1 | | | | 1 | 秩父山地におけるカエデ属 Palmata 節ヒナウチワカエデとコハウチワカエデの交雑の実態 | 日帰り |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|----|----|-----------------------------|----------|----|----------|-----|----------|---|--------|
| 128 | 9 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林 | 4 | | | | 4 | 全国多地点におけるコロナ丸太の分解と生物間相互作用 | 日帰り |
| 129 | 9 | 1 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻 | 1 | | | | 1 | 感性と論理の融合アプローチにより森と人を紡ぎ直すサイバーフォレストに関する研究 | 日帰り |
| 130 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室 | 1 (1) | | 1 | | 2 (1) | スギ・ヒノキの生育を地下から支えるアーバスキュラー菌根菌の種多様性の解明と単胞子分離株の確立 | 日帰り |
| 131 | 9 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 3 (3) | | 3 (3) | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 影森自炊宿舎 |
| 132 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | | | 1 | | 1 | 人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響 | 日帰り |
| 133 | 10 | 31 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属秩父演習林 | | | 31 | | 31 | 花蜜資源となる木本種が送粉者を介して林床植物ソバナの繁殖に与える影響 | 影森自炊宿舎 |
| 134 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻 | | | 1 | | 1 | シェルツマダニとライム病原菌の集団遺伝構造の解明 | 日帰り |
| 135 | 10 | 31 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | | | 31 | | 31 | 人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 136 | 10 | 7 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 7 (7) | | 7 (7) | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 影森自炊宿舎 |
| 137 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 1 (1) | | 1 (1) | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 日帰り |
| 138 | 10 | 28 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻 | | | 28 | | 28 | カエデ属の多様化機構と分布境界の形成過程 | 影森自炊宿舎 |
| 139 | 10 | 28 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻 | | | 28 | | 28 | シェルツマダニとライム病原菌の集団遺伝構造の解明 | 影森自炊宿舎 |
| 140 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室 | 1 | | 1 | | 2 | 関東・中部地方の亜高山帯林におけるコケ植物着生シアノバクテリアの種組成および窒素固定能に関する研究 | 日帰り |
| 141 | 10 | 1 | 埼玉県環境科学国際センター | 1 | | | | 1 | オゾン濃度計の回収及びミヤマスカシユリの鉢の確認 | 日帰り |
| 142 | 10 | 8 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | 8 | 21 | | | 29 | ニホンジカの植食圧が森林動態に及ぼす影響 | 外部宿泊 |
| 143 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | 1 | 3 | | | 4 | ニホンジカの植食圧が森林動態に及ぼす影響 | 日帰り |
| 144 | 10 | 1 | (株)ゼロステーション | | | | 1 | 1 | NHK 総合「生き物新伝説 ダーウィンが来た！ニホンオオカミ編」取材のため | 日帰り |
| 145 | 10 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | | | 2 | | 2 | 人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響 | 日帰り |
| 146 | 10 | 1 | なし | | | | 1 | 1 | 2020年度研究課題の調査資料の片付け | 外部宿泊 |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 | |
|-----|----|----|-----------------------------------|-----|----|----|------|----|--|-----------------|--------|
| 147 | 10 | 2 | なし | | | | 2 | 2 | 2020年度研究課題の調査資料の片付け | 日帰り | |
| 148 | 10 | 1 | 埼玉県寄居林業事務所 | | | | 1 | 1 | 森林資源モニタリング調査 | 日帰り | |
| 149 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | | 3 | | | 3 | 2021年度国際農学実験・実習Ⅰ 森林圏生態学研究室個別実験「シカ問題と森林の未来」 | 川俣学生宿舎(食事あり) | |
| 150 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | | 3 | | | 3 | 2021年度国際農学実験・実習Ⅰ 森林圏生態学研究室個別実験「シカ問題と森林の未来」 | 日帰り | |
| 151 | 10 | 1 | 東京大学農学部森林生物科学専修 | | 1 | | | 1 | 外来種キョウの密度増加を引き起こす生態学的メカニズム | | |
| 152 | 10 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | | | 3 | | 3 | 人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響 | 日帰り | |
| 153 | 10 | 1 | 埼玉県立自然の博物館 | | | | 2 | 2 | 秩父山地におけるミネカエデ・ナンゴクミネカエデの分布や性表現に関する研究 | 日帰り | |
| 154 | 10 | 1 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻 | 2 | | | | 2 | 感性と論理の融合アプローチにより森と人を紡ぎ直すサイバーフォレストに関する研究 | 日帰り | |
| 155 | 10 | 1 | 新潟大学佐渡自然共生科学センター | | | | 1 | 1 | シオジの開花結実特性の研究 | 日帰り | |
| 156 | 10 | | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 12 | (12) | 12 | (12) | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 影森自炊宿舎 |
| 157 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 1 | (1) | 1 | (1) | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 日帰り |
| 158 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻森圏管理学研究室 | 2 | 8 | 1 | | 11 | フィールド科学専修3年 森圏管理学実習 | 日帰り | |
| 159 | 10 | 1 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻 | 2 | | | | 2 | 感性と論理の融合アプローチにより森と人を紡ぎ直すサイバーフォレストに関する研究 | 日帰り | |
| 160 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林 | 1 | | | | 1 | 全国多地点におけるコナラ丸太の分解と生物間相互作用 | 日帰り | |
| 161 | 10 | 1 | (株)ゼロステーション | | | | 3 | 3 | NHK総合「生き物新伝説 ダーウィンが来た！ニホンオオカミ編」取材のため | 日帰り | |
| 162 | 10 | 1 | 埼玉県環境科学国際センター | | | | 1 | 1 | ニホンジカによる森林植生への影響評価と植生回復に関する研究 | 日帰り | |
| 163 | 10 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | | 20 | | | 20 | 全学体験ゼミナール「秋の奥秩父を巡る」現地講義 | 日帰り | |
| 164 | 10 | 5 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 5 | (5) | 5 | (5) | 樹木腐朽の生物防除の関する研究 | 影森自炊宿舎 |
| 165 | 10 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | | 6 | | | 6 | ニホンジカの植食圧が森林動態に及ぼす影響 | 日帰り | |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|----|----|----------------------------|----------|----|----------|-----|----------|--|--------|
| 166 | 11 | 30 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属秩父演習林 | | | 30 | | 30 | 花蜜資源となる木本種が送粉者を介して林床植物ソバナの繁殖に与える影響 | 影森自炊宿舎 |
| 167 | 11 | 30 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | | | 30 | | 30 | 人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 168 | 11 | 30 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻 | | | 30 | | 30 | カエデ属の多様化機構と分布境界の形成過程 | 影森自炊宿舎 |
| 169 | 11 | 30 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻 | | | 30 | | 30 | シェルトツマダニとライム病原因菌の集団遺伝構造の解明 | 影森自炊宿舎 |
| 170 | 11 | 6 | 東京大学農学部森林生物学専修 | | 6 | | | 6 | 外来種キョウの密度増加を引き起こす生態学的メカニズム | |
| 171 | 11 | 5 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 5 (5) | | 5 (5) | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 影森自炊宿舎 |
| 172 | 11 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 1 (1) | | 1 (1) | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 日帰り |
| 173 | 11 | 1 | 森林総合研究所立地環境研究領域 | 3 | | | | 3 | 森林の落葉多様性が分解度を促進するプロセスの解明 | 日帰り |
| 174 | 11 | 4 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | | | 4 | | 4 | 人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響 | 日帰り |
| 175 | 11 | 1 | 埼玉昆虫談話会 | | | | 1 | 1 | 秩父演習林及びその周辺の昆虫相データベースの構築（第5期） | 日帰り |
| 176 | 11 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | | | 1 | | 1 | 秩父山地における水安定同位体比を用いた降雨一流出過程の解明 | 日帰り |
| 177 | 11 | 8 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 8 (8) | | 8 (8) | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 影森自炊宿舎 |
| 178 | 11 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 1 (1) | | 1 (1) | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 日帰り |
| 179 | 11 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻 | 1 | | 2 | | 3 | 暗色雪腐病菌の伝播・繁殖様式の解明 | 日帰り |
| 180 | 11 | 1 | (株)ゼロステーション | | | | 3 | 3 | NHK 総合「生き物新伝説 ダーウィンが来た！ニホンオオカミ編」取材のため | |
| 181 | 11 | 1 | 東京都農林総合研究センター緑化森林科 | 1 | | | | 1 | 多摩地域における広葉樹林の遺伝情報を踏まえた種苗育成に関する研究 | 日帰り |
| 182 | 11 | 1 | 埼玉県環境科学国際センター | 2 | | | | 2 | オゾン濃度計の回収及びビヤマスカシユリの鉢の確認 | 日帰り |
| 183 | 11 | 1 | 新潟大学佐渡自然共生科学センター | 1 | | | | 1 | シオジの開花結実特性の研究 | 日帰り |
| 184 | 11 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 7 (7) | | 7 (7) | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 影森自炊宿舎 |
| 185 | 11 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室 | 1 (1) | | 1 | | 2 (1) | スギ・ヒノキの生育を地下から支えるアーバスキュラー菌根菌の種多様性の解明と単孢子分離株の確率 | 日帰り |
| 186 | 11 | 1 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻 | 2 | | | | 2 | 感性と論理の融合アプローチにより森と人を紡ぎ直すサイバーフォレストに関する研究 | 日帰り |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|----|----|----------------------------------|-----|----|----------|-----|----------|---|--------|
| 187 | 11 | 2 | なし | | | | 2 | 2 | ミズナラの結実動態調査 | 日帰り |
| 188 | 11 | 1 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻 | 1 | | | 1 | 2 | 感性と論理の融合アプローチにより森と人を紡ぎ直すサイバーフォレストに関する研究 | 日帰り |
| 189 | 11 | 1 | (株) ゼロステーション | | | | 1 | 1 | NHK 総合「生き物新伝説 ダーウィンが来た! ニホンオオカミ編」取材のため | 日帰り |
| 190 | 11 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | | | 2 | | 2 | 人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響 | 日帰り |
| 191 | 12 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属秩父演習林 | | | 1 | | 1 | 花蜜資源となる木本種が送粉者を介して林床植物ソバナの繁殖に与える影響 | 日帰り |
| 192 | 12 | 23 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | | | 23 | | 23 | 人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響 | 影森自炊宿舍 |
| 193 | 12 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | | | 1 | | 1 | 人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響 | 日帰り |
| 194 | 12 | 27 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻 | | | 27 | | 27 | カエデ属の多様化機構と分布境界の形成過程 | 影森自炊宿舍 |
| 195 | 12 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻 | | | 1 | | 1 | カエデ属の多様化機構と分布境界の形成過程 | 日帰り |
| 196 | 12 | | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻 | | | 27 | | 27 | シェルトマダニとライム病原菌の集団遺伝構造の解明 | 影森自炊宿舍 |
| 197 | 12 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻 | | | 1 | | 1 | シェルトマダニとライム病原菌の集団遺伝構造の解明 | 日帰り |
| 198 | 12 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 2 (2) | | 2 (2) | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 影森自炊宿舍 |
| 199 | 12 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 1 (1) | | 1 (1) | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 日帰り |
| 200 | 12 | 1 | なし | | | | 1 | 1 | ミズナラの結実動態調査 | 日帰り |
| 201 | 12 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | 2 | | 14 | | 16 | 大学院講義「森林圏水循環環境機能学」 | 日帰り |
| 202 | 12 | 1 | 新潟大学佐渡自然共生科学センター | 1 | | | | 1 | シオジの開花結実特性の研究 | 日帰り |
| 203 | 12 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | | | 3 | | 3 | 人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響 | 日帰り |
| 204 | 12 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | | | 1 | | 1 | 人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響 | 外部宿泊 |
| 205 | 12 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林・教育社会連携センター | 1 | | | | 1 | 温暖地域に移植した北方針葉樹3種の生残と成長 | 日帰り |
| 206 | 12 | 9 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 9 (9) | | 9 (9) | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 影森自炊宿舍 |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|----|----|-----------------------------|-----|----|------------|-----|------------|---|--------|
| 207 | 12 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 1 (1) | | 1 (1) | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 日帰り |
| 208 | 12 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生態システム学専攻 | | | 2 | | 2 | 人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響 | 日帰り |
| 209 | 12 | 2 | (株)ゼロステーション | | | | 2 | 2 | NHK 総合「生き物新伝説 ダーウィンが来た！ニホンオオカミ編」取材のため | 日帰り |
| 210 | 12 | 1 | 埼玉県立川の博物館 | 2 | | | | 2 | ヒガシヒダサンショウウオの生息調査 | 日帰り |
| 211 | 12 | 2 | 埼玉県立川の博物館 | 6 | | | | 6 | 固定試験地の成長量の違いに関わる地形因子および土壌の生物・非生物要因 | 日帰り |
| 212 | 12 | 4 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻 | | | 4 (4) | | 4 (4) | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 影森自炊宿舍 |
| 213 | 12 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 1 (1) | | 1 (1) | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 日帰り |
| 214 | 12 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林 | 1 | | | | 1 | 全国多地点におけるコナラ丸太の分解と生物間相互作用 | 日帰り |
| 215 | 12 | 1 | 埼玉県環境科学国際センター | 2 | | | | 2 | オゾン濃度計回収及びびミヤマスカシユリの鉢の確認 | 日帰り |
| 216 | 1 | 1 | 特定非営利活動法人バードリサーチ | 1 | | | | 1 | 鳥類調査 | 川俣自炊宿舍 |
| 217 | 1 | 1 | 特定非営利活動法人バードリサーチ | 1 | | | | 1 | 鳥類調査 | 日帰り |
| 218 | 1 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林 | 1 | | | | 1 | 全国多地点におけるコナラ丸太の分解と生物間相互作用 | 日帰り |
| 219 | 1 | 1 | 新潟大学佐渡自然共生科学センター | 1 | | | | 1 | シオジの開花結実特性の研究 | 日帰り |
| 220 | 1 | 1 | 奥秩父山塊イヌワシ調査グループ | | | | 1 | 1 | 奥秩父山地におけるニホンイヌワシの生息繁殖調査 | 日帰り |
| 221 | 1 | 1 | (株)ゼロステーション | | | | 1 | 1 | NHK 総合「生き物新伝説 ダーウィンが来た！ニホンオオカミ編」取材のため | 日帰り |
| 222 | 1 | 1 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科自然科学専攻 | 2 | | 1 | 5 | 8 | 感性と論理の融合アプローチにより森と人を紡ぎ直すサイバーフォレストに関する研究 | 日帰り |
| 223 | 1 | 10 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 10 (10) | | 10 (10) | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 影森自炊宿舍 |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|---|----|----------------------------|-----|----|------------|-----|------------|--------------------------------------|--------|
| 224 | 1 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 1 (1) | | 1 (1) | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 日帰り |
| 225 | 1 | 4 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | | | 4 | | 4 | 人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響 | 日帰り |
| 226 | 1 | 21 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻 | | | 21 | | 21 | カエデ属の多様化機構と分布境界の形成過程 | 影森自炊宿舍 |
| 227 | 1 | 21 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | | | 21 | | 21 | 人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響 | 影森自炊宿舍 |
| 228 | 1 | 1 | ニホンオオカミを探す会 | | | | 2 | 2 | ニホンオオカミの生存を確認する作業 | 日帰り |
| 229 | 1 | 4 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 4 (4) | | 4 (4) | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 影森自炊宿舍 |
| 230 | 1 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 1 (1) | | 1 (1) | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 日帰り |
| 231 | 2 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | | | 1 | | 1 | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 日帰り |
| 232 | 2 | 28 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻 | | | 28 | | 28 | 人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響 | 日帰り |
| 233 | 2 | 9 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | | | 9 | | 9 | カエデ属の多様化機構と分布境界の形成過程 | 影森自炊宿舍 |
| 234 | 2 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | | | 1 | | 1 | 人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響 | 影森自炊宿舍 |
| 235 | 2 | 1 | 新潟大学佐渡自然共生科学センター | 1 | | | | 1 | 人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響 | 日帰り |
| 236 | 2 | 4 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | 4 | | | | 4 | シオジの開花結実特性の研究 | |
| 237 | 2 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | 1 | | | | 1 | 環境 DNA を用いた森林葉食性昆虫の天敵微生物のモニタリング技術の開発 | 外部宿泊 |
| 238 | 2 | 11 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 11 (11) | | 11 (11) | 環境 DNA を用いた森林葉食性昆虫の天敵微生物のモニタリング技術の開発 | 日帰り |
| 239 | 2 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 1 (1) | | 1 (1) | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 影森自炊宿舍 |
| 240 | 2 | 15 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻 | | | 15 | | 15 | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 日帰り |
| 241 | 2 | 4 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | | | 4 | | 4 | 花蜜資源となる木本種が送粉者を介して林床植物の繁殖に与える波及効果 | 影森自炊宿舍 |
| 242 | 2 | 1 | 埼玉県環境科学国際センター | 1 | | | | 1 | オゾン濃度計回収及びミヤマスカシユリの録の確認 | 日帰り |
| 243 | 3 | 24 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻 | | | 24 | | 24 | カエデ属の多様化機構と分布境界の形成過程 | 影森自炊宿舍 |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|---|----|---------------------------|----------|----|------------|-----|------------|--|--------|
| 244 | 3 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻 | | | 1 | | 1 | カエデ属の多様化機構と分布境界の形成過程 | 日帰り |
| 245 | 3 | 24 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻 | | | 24 | | 24 | シェルトツマダニとライム病原菌の集団遺伝構造の解明 | 影森自炊宿舎 |
| 246 | 3 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻 | | | 1 | | 1 | シェルトツマダニとライム病原菌の集団遺伝構造の解明 | 日帰り |
| 247 | 3 | 10 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 10 (10) | | 10 (10) | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 影森自炊宿舎 |
| 248 | 3 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 1 (1) | | 1 (1) | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 日帰り |
| 249 | 3 | 10 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | | | 10 | | 10 | 人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 250 | 3 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | | | 2 | | 2 | 人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響 | 日帰り |
| 251 | 3 | 1 | 奥秩父山塊イヌワシ調査グループ | | | | 1 | 1 | 奥秩父山地におけるニホンイヌワシの生息繁殖調査 | 日帰り |
| 252 | 3 | 2 | (株)ゼロステーション | | | | 2 | 2 | NHK 総合「生き物新伝説 ダーウィンが来た! ニホンオオカミ編」取材のため | 日帰り |
| 253 | 3 | 1 | 特定非営利活動法人バードリサーチ | | | | 1 | 1 | 鳥類調査 | 日帰り |
| 254 | 3 | 1 | 新潟大学佐渡自然共生科学センター | 1 | | | | 1 | シオジの開花結実特性の研究 | 日帰り |
| 255 | 3 | 9 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 9 (9) | | 9 (9) | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 影森自炊宿舎 |
| 256 | 3 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 1 (1) | | 1 (1) | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 日帰り |
| 257 | 3 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室 | 1 (1) | | 1 | | 2 (1) | スギ・ヒノキの生育を地下から支えるアーバスキュラー菌根菌の種多様性の解明と単孢子分離株の確立 | 日帰り |
| 258 | 3 | 4 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 4 (4) | | 4 (4) | 樹木腐朽の生物防除に関する研究 | 影森自炊宿舎 |

※括弧内の数値は外国人利用数を示す

| | |
|--------|----------------|
| 利用者数合計 | 1,517 (164) |
| 利用件数 | 258 |

4) 田無演習林

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|---|----|--|-----|----|----------|-----|----------|--|------|
| 1 | 4 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林 | 3 | 10 | | | 13 | 全学体験ゼミナール「体験して考える森林ガイドボランティアの現在と未来」 | |
| 2 | 4 | 4 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | 1 | | 5 (1) | | 6 (1) | 修士論文「ナラ枯れにより枯死した古いコナラから羽化する甲虫相に影響を及ぼす要因」修士2年 稲田涼悟 | |
| 3 | 4 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室 | 3 | 8 | | | 11 | 森林科学基礎実習1、森林科学基礎実習3(4/9 実習下見) | |
| 4 | 4 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室 | 3 | | | | 3 | 博士論文「チャノキの内生菌の多様性と内生菌-病原菌間の相互作用の解明」博士課程2年 ウィン・ビューマ (Win, Phyu Mar) | |
| 5 | 4 | 7 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室 | | | | 7 | 7 | 樹木の成長特性の解明 | |
| 6 | 4 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室 | 3 | | | | 3 | 土壌微生物相の維持に関する基礎研究、樹木種ハイブリッド個体のゲノム解析に関する基礎研究 | |
| 7 | 4 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | 1 | | | | 1 | 針葉樹苗の熱傷害に関する研究 | |
| 8 | 4 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科アジア生物資源環境研究センター地域資源評価研究室 | 1 | | | | 1 | 土壌生物相の評価 | |
| 9 | 4 | 1 | 自由学園最高学部(大学部) | 3 | 2 | | | 5 | 卒業研究「向山緑地の若返りについて」と関連するナラ枯れ調査 大学部4年 亀山泰良 大学部3年 伊澤麻里 | |
| 10 | 4 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林経理学研究室 | 1 | | | | 1 | 森林経理学実習(4/28 実習下見、実習の開催は中止) | |
| 11 | 5 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林 | 7 | 20 | | | 27 | 全学体験ゼミナール「危険生物の知識(春編)」 | |
| 12 | 5 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | | | 2 (1) | | 2 (1) | 修士論文「ナラ枯れにより枯死した古いコナラから羽化する甲虫相に影響を及ぼす要因」修士2年 稲田涼悟 | |
| 13 | 5 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室 | 4 | 16 | | | 20 | 森林科学基礎実習1、森林科学基礎実習3(4/9 実習下見) | |
| 14 | 5 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室 | 1 | | | | 1 | 博士論文「チャノキの内生菌の多様性と内生菌-病原菌間の相互作用の解明」博士課程2年 ウィン・ビューマ (Win, Phyu Mar) | |
| 15 | 5 | 7 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室 | 7 | | | | 7 | 樹木の成長特性の解明 | |
| 16 | 5 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | 3 | | | | 3 | 樹木の樹脂道形成に対するシグナル物質の作用 | |
| 17 | 5 | 1 | 株式会社総合環境計画 | | | | 1 | 1 | 東京都希少猛禽類調査 | |
| 18 | 5 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林 | 6 | 30 | | | 36 | 「森林生態圏管理学特論」学外講義 | |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|---|----|----------------------------|-----|----|----------|-----|----------|--|------|
| 19 | 5 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室 | 2 | | 1 | | 3 | 修士論文「千葉県柏市に隔離分布するズミの保全に関する研究」 修士課程2年 白間菜々海 | |
| 20 | 5 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室 | | | 1 | | 1 | 博士論文「時間的視点を考慮した外生菌根性樹木における根圏バクテリア群集決定要因の検討」 博士課程2年 白川 誠 | |
| 21 | 5 | 1 | 実践学園中学校 (1年) | 1 | | | | 1 | 校外授業 6/18 (理科特別授業) とそのための打合せ、下見 5/31 | |
| 22 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林 | 6 | 10 | | | 16 | 全学体験ゼミナール「体験して考える森林ガイドボランティアの現在と未来」 | |
| 23 | 6 | 5 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | 1 | | 6 (2) | | 7 (2) | 修士論文「ナラ枯れにより枯死した古いコナラから羽化する甲虫相に影響を及ぼす要因」修士2年 稲田 涼悟 | |
| 24 | 6 | 1 | 東大農場・演習林の存続を願う会 | | | | 3 | 3 | 演習林内生物(動植物)観察・調査・記録 | |
| 25 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | 1 | | | | 1 | 樹木の樹脂道形成に対するシグナル物質の作用 | |
| 26 | 6 | 2 | 大気汚染測定運動東京連絡会 | | | | 2 | 2 | 大気汚染測定 | |
| 27 | 6 | 4 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室 | 4 | | 2 | | 6 | 修士論文「千葉県柏市に隔離分布するズミの保全に関する研究」 修士課程2年 白間菜々海 | |
| 28 | 6 | 1 | 東京大学新領域創成科学研究科生物圏機能学分野 | 1 | | 1 | | 2 | 修士論文「都市近郊の残存林の生態系機能について～生物由来のサービスとディスプレイサービスの評価～」 修士課程2年 竹井通隆 | |
| 29 | 6 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室 | 2 | | 2 | | 4 | 卒業論文「酢酸溶液施用によるスギ苗の乾燥耐性獲得機構の解明」 学部4年 小林裕子 | |
| 30 | 6 | 5 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林動物学研究室 | | | 5 | | 5 | 修士論文「局在する高価値資源をめぐる昆虫の群集構造」 修士課程2年 三好 伊織 | |
| 31 | 6 | 1 | 実践学園中学校 (1年) | 5 | | | 79 | 84 | 校外授業 6/18 (理科特別授業) とそのための打合せ、下見 5/31 | |
| 32 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林 | 3 | | | | 3 | 全学体験ゼミナール「森の魅力をマッピング～GPSを使ったオリジナル地図づくり～」の下見 | |
| 33 | 6 | 1 | 法政大学生命科学部応用植物科学科 | 1 | | 2 | | 3 | マツ類に発生する Lophodermium 属およびその関連菌の分類学的研究 修士課程2年 野口亜衣 | |
| 34 | 6 | 1 | 法政大学生命科学部応用植物科学科 | 1 | | 2 | | 3 | 酵母類の森林生態機能解明に向けた同定の基盤構築に関する研究 博士後期課程2年 柴田紗帆 | |
| 35 | 6 | 1 | 東京大学理学系研究科生物科学専攻川北篤研究室 | | | | 4 | 4 | 植物の繁殖様式の調査 | |
| 36 | 6 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林 | 2 | | | | 2 | 病害虫による大量枯死が森林生態系のCO2放出におよぼす影響の解明(分担) | |
| 37 | 6 | 1 | 前沢幼稚園 | 3 | | | | 3 | 七夕飾り用の笹の分譲(コロナ対策のため保育士のみ) | |
| 38 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | 1 | | 1 (1) | | 2 (1) | 修士論文「カシノナガキイムシのナラ菌保持量に影響する要因」修士1年 Kristian Abe Andreas | |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|---|----|---------------------------------|-----|----|----------|-----|----------|--|------|
| 39 | 6 | 1 | いであ株式会社 | | | | 1 | 1 | 東京大学西東京キャンパス（仮称）整備計画 モニタリング調査 | |
| 40 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林 | 6 | | | 33 | 39 | 第38回子ども樹木博士認定会 | |
| 41 | 6 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科アジア生物資源環境研究センター | 6 | | 4 | | 10 | 田無演習林内アジアセンター温室片付け | |
| 42 | 7 | 5 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | 1 | | 5 | | 6 | 修士論文「ナラ枯れにより枯死した古いコナラから羽化する甲虫相に影響を及ぼす要因」修士2年 稲田 涼悟 | |
| 43 | 7 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室 | 1 | 1 | | | 2 | 森林科学基礎実習1(7/6補講分)、森林科学基礎実習3(4/9実習下見) | |
| 44 | 7 | 1 | 自由学園最高学部（大学部） | 1 | | | | 1 | 卒業研究「向山緑地の若返りについて」と関連するナラ枯れ調査 大学部4年 亀山泰良 大学部3年 伊澤麻里 | |
| 45 | 7 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室 | 3 | | | | 3 | 修士論文「千葉県柏市に隔離分布するズミの保全に関する研究」 修士課程2年 白間菜々海 | |
| 46 | 7 | 1 | 東京大学新領域創成科学研究科生物圏機能学分野 | | | 1 | | 1 | 修士論文「都市近郊の残存林の生態系機能について～生物由来のサービスとディスプレイの評価～」 修士課程2年 竹井通隆 | |
| 47 | 7 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室 | 1 | | | | 1 | 卒業論文「酢酸溶液施用によるスギ苗の乾燥耐性獲得機構の解明」 学部4年 小林裕子 | |
| 48 | 7 | 4 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林動物学研究室 | | | 4 | | 4 | 修士論文「局在する高価値資源をめぐる昆虫の群集構造」 修士課程2年 三好 伊織 | |
| 49 | 7 | 1 | 日本大学文理学部生命科学科 | 1 | 2 | | | 3 | ヤマノイモのウイルス感染とその病徴の程度の解明 学部4年 前田 裕 学部4年 松木優香子 | |
| 50 | 7 | 5 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | 1 | | 5 (5) | | 6 (5) | 修士論文「カシノナガキイムシのナラ菌保持量に影響する要因」修士1年 Kristian Abe Andreas | |
| 51 | 7 | 1 | いであ株式会社 | | | | 1 | 1 | 東京大学西東京キャンパス（仮称）整備計画 モニタリング調査 | |
| 52 | 7 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科アジア生物資源環境研究センター | 2 | | | | 2 | 田無演習林内アジアセンター温室片付け | |
| 53 | 7 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林動物学研究室 | 2 | | | | 2 | 本部林長、演習林企画部長による田無演習林内視察 | |
| 54 | 7 | 1 | 社会福祉法人てつなぎの会 田無ひまわり保育園 | 3 | | | | 3 | 七夕飾り用の笹の分譲 | |
| 55 | 7 | 1 | 個人（造園業） | | | | | 0 | 七夕用の竹を幼稚園に届ける（6/25下見、7/2搬出） | |
| 56 | 7 | 1 | GOO CHOKI PAR | | | | | 0 | バラアート製作ワークショップのための西東京市内にある施設の視察 | |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|---|----|----------------------------------|-----|----|----------|-----|-----------|--|------|
| 57 | 8 | 8 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | | | 8 | | 8 | 修士論文「ナラ枯れにより枯死した古いコナラから羽化する甲虫相に影響を及ぼす要因」修士2年 稲田 涼悟 | |
| 58 | 8 | 5 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | 5 | | | | 5 | 樹木の樹脂道形成に対するシグナル物質の作用 | |
| 59 | 8 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室 | | | 1 | | 1 | 修士論文「千葉県柏市に隔離分布するズミの保全に関する研究」 修士課程2年 白間菜々海 | |
| 60 | 8 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室 | 1 | | 1 | | 2 | 博士論文「時間的視点を考慮した外生菌根性樹木における根圏バクテリア群集決定要因の検討」 博士課程2年 白川 誠 | |
| 61 | 8 | 1 | 東京大学新領域創成科学研究科生物圏機能学分野 | | | 1 | | 1 | 修士論文「都市近郊の残存林の生態系機能について～生物由来のサービスとディスプレイサービスの評価～」 修士課程2年 竹井通隆 | |
| 62 | 8 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室 | 4 | | 2 | | 6 | 卒業論文「酢酸溶液施用によるスギ苗の乾燥耐性獲得機構の解明」 学部4年 小林裕子 | |
| 63 | 8 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林動物学研究室 | | | 2 | | 2 | 修士論文「局在する高価値資源をめぐる昆虫の群集構造」 修士課程2年 三好 伊織 | |
| 64 | 8 | 1 | 日本大学文理学部生命科学科 | 1 | 2 | | | 3 | ヤマノイモのウィルス感染とその病徴の程度の解明 学部4年 前田 裕 学部4年 松木優香子 | |
| 65 | 8 | 8 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | | | 8 (8) | | 8 (8) | 修士論文「カシノナガキクイムシのナラ菌保持量に影響する要因」修士1年 Kristian Ade Andreas | |
| 66 | 8 | 1 | いであ株式会社 | | | | 1 | 1 | 東京大学西東京キャンパス (仮称) 整備計画 モニタリング調査 | |
| 67 | 8 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室 | 2 | | 2 | | 4 | 暗所保管によるスギコンテナ苗の伸長制御 | |
| 68 | 8 | 7 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育・社会連携センター | 9 | | 4 (2) | | 13 (2) | 修士論文「ダケカンバ産地別個体の生理形態解析」PAIN AYE MYAT MYAT | |
| 69 | 8 | 2 | 自由学園リビングアカデミー | 4 | | | | 4 | 自由学園リビングアカデミー樹木クラス校外学習の相談と打合せ | |
| 70 | 8 | 2 | 陶芸家(北側隣接地住民) | | | | 3 | 3 | 夏休みの自由研究「香りの研究 No.2-お香を作りたい」における樹木の特定と樹木の香りについての質問 | |
| 71 | 8 | 1 | 西東京市立田無第二中学校(2年生) | 2 | | | | 2 | 校外授業 10/27(西東京市の 地域の文化・歴史の学習) とそのための打合せ、下見 8/31 | |
| 72 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | | | 2 | | 2 | 修士論文「ナラ枯れにより枯死した古いコナラから羽化する甲虫相に影響を及ぼす要因」修士2年 稲田 涼悟 | |
| 73 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室 | 2 | 8 | | | 10 | 森林科学基礎実習1(7/6 補講分)、森林科学基礎実習3(4/9 実習下見) | |
| 74 | 9 | 1 | 東大農場・演習林の存続を願う会 | | | | 3 | 3 | 演習林内生物(動植物)観察・調査・記録 | |
| 75 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | 1 | | | | 1 | 樹木の樹脂道形成に対するシグナル物質の作用 | |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|----|----|----------------------------------|-----|----|------------|-----|------------|--|------|
| 76 | 9 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室 | 1 | | 1 | | 2 | 修士論文「千葉県柏市に隔離分布するズミの保全に関する研究」 修士課程2年 白間菜々海 | |
| 77 | 9 | 1 | 東京大学新領域創成科学研究科生物圏機能学分野 | | | 1 | | 1 | 教育（修論） | |
| 78 | 9 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室 | 2 | 2 | | | 4 | 卒業論文「酢酸溶液施用によるスギ苗の乾燥耐性獲得機構の解明」 学部4年 小林裕子 | |
| 79 | 9 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林動物学研究室 | | | 3 | | 3 | 修士論文「局在する高価値資源をめぐる昆虫の群集構造」 修士課程2年 三好 伊織 | |
| 80 | 9 | 10 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | | | 10 (10) | | 10 (10) | 修士論文「カシノナガキイムシのナラ菌保持量に影響する要因」 修士1年 Kristian Ade Andreas | |
| 81 | 9 | 4 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育・社会連携センター | 4 | | | | 4 | トドマツのイオノーム分析に向けた乾燥重量測定（修士論文「ダケカンパ産地別個体の生理形態解析」 修士2年 PAIN AYE MYAT MYAT） | |
| 82 | 9 | 1 | 西東京市立谷戸小学校3年 | 2 | | | | 2 | 校外学習 生き物調査 10/14 下見、相談 9/6（教員1名） | |
| 83 | 9 | 1 | 西東京市立中原小学校1年 | 4 | | | | 4 | 生活科の授業（秋の生き物とふれあう） 下見、相談 9/28（教員4名） | |
| 84 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科育種学研究室 | | | 1 | | 1 | モウソウチクの開花研究 | |
| 85 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生物素材科学研究室 | | | | | 0 | 機械学習で導き出したスギ横断面における全組織の形状と位置、その応用 （修士論文 中田 健人 修士1年） | |
| 86 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生物素材科学研究室 | | | | | 0 | フェノール水溶液可溶性樹皮抽出物を組み込んだ新規フェノール樹脂接着剤の開発 （修士論文 中田 健人 修士1年） | |
| 87 | 10 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | | | 2 | | 2 | 修士論文「ナラ枯れにより枯死した古いコナラから羽化する甲虫相に影響を及ぼす要因」 修士2年 稲田 涼悟 | |
| 88 | 10 | 1 | 学習院大学理学部生命科学科生物遺伝資源学研究室 | | | 1 | | 1 | 天蚕・柞蚕の飼料樹としてのクスギの植栽と利用 博士前期課程1年 真家 悠輔 | |
| 89 | 10 | 1 | 東大農場・演習林の存続を願う会 | | | | 8 | 8 | 演習林内生物（動植物）観察・調査・記録 | |
| 90 | 10 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室 | 1 | | 1 | | 2 | 修士論文「千葉県柏市に隔離分布するズミの保全に関する研究」 修士課程2年 白間菜々海 | |
| 91 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室 | | | 1 | | 1 | 博士論文「時間的視点を考慮した外生菌根性樹木における根圏バクテリア群集決定要因の検討」 博士課程2年 白川 誠 | |
| 92 | 10 | 2 | 東京大学新領域創成科学研究科生物圏機能学分野 | | | 2 | | 2 | 修士論文「都市近郊の残存林の生態系機能について～生物由来のサービスとディスプレイの評価～」 修士課程2年 竹井通隆 | |
| 93 | 10 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林 | 5 | 10 | | | 15 | 全学体験ゼミナール「危険生物の知識（秋編）」 | |
| 94 | 10 | 1 | 東京大学理学系研究科生物科学専攻川北篤研究室 | | | | 1 | 1 | 植物の繁殖様式の調査 | |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|----|----|----------------------------------|-----|----|------------|-----|------------|---|------|
| 95 | 10 | 2 | (独) 森林総合研究所森林防災領域 | 4 | | | | 4 | 森林土壌圏の炭素収支における枯死木効果の包括的評価 | |
| 96 | 10 | 11 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | | | 11 (11) | | 11 (11) | 修士論文「カシノナガキクイムシのナラ菌保持量に影響する要因」修士1年 Kristian Ade Andreas | |
| 97 | 10 | 1 | いであ株式会社 | | | | 2 | 2 | 東京大学西東京キャンパス (仮称) 整備計画 モニタリング調査 | |
| 98 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育・社会連携センター | 1 | | | | 1 | 日本産、韓国産、台湾産ヒノキによる生育比較 | |
| 99 | 10 | 1 | 西東京市立田無第二中学校 (2年生) | 2 | | | 40 | 42 | 校外授業 10/27 (西東京市の 地域の文化・歴史の学習) とそのための打合せ、下見 8/31 | |
| 100 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育・社会連携センター | 1 | | | | 1 | トドマツのイオノーム分析に向けた乾燥重量測定 (修士論文「ダケカンバ産地別個体の生理形態解析」修士2年 PAIN AYE MYAT MYAT) | |
| 101 | 10 | 1 | 西東京市立谷戸小学校3年 | 3 | | | 53 | 56 | 校外学習 生き物調査 10/14 下見、相談 9/6 (教員1名) | |
| 102 | 10 | 1 | 西東京市立中原小学校1年 | 4 | | | 133 | 137 | 生活科の授業 (秋の生き物とふれあう) 下見、相談 9/28 (教員4名) | |
| 103 | 10 | 2 | 自由学園初等部 | 2 | | | 37 | 39 | 生活科見学 (10/15 下見)、10/25 | |
| 104 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林 | 5 | | 4 | 50 | 59 | 第39回子ども樹木博士認定会 | |
| 105 | 10 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林 | 6 | | 4 | | 10 | 全学体験ゼミナール「体験して考える森林ガイドボランティアの現在と未来」 | |
| 106 | 10 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林 | | | 2 | | 2 | 子どもの自然体験活動と非認知能力について (仮題) | |
| 107 | 11 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | | | 2 | | 2 | 修士論文「ナラ枯れにより枯死した古いコナラから羽化する甲虫相に影響を及ぼす要因」修士2年 稲田 涼悟 | |
| 108 | 11 | 1 | 東大農場・演習林の存続を願う会 | | | | 6 | 6 | 演習林内生物 (動植物) 観察・調査・記録 | |
| 109 | 11 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室 | | | 1 | | 1 | 修士論文「千葉県柏市に隔離分布するズミの保全に関する研究」修士課程2年 白間菜々海 | |
| 110 | 11 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林 | 9 | 20 | | | 29 | 全学体験ゼミナール「森の魅力をマッピング〜GPSを使ったオリジナル地図づくり〜」 | |
| 111 | 11 | 1 | 日本大学文理学部生命科学科 | | 2 | | | 2 | ヤマノイモのウイルス感染とその病徴の程度の解明 学部4年 前田 裕 学部4年 松木優香子 | |
| 112 | 11 | 8 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | | | 8 (8) | | 8 (8) | 修士論文「カシノナガキクイムシのナラ菌保持量に影響する要因」修士1年 Kristian Ade Andreas | |
| 113 | 11 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育・社会連携センター | 1 | | | | 1 | トドマツのイオノーム分析に向けた乾燥重量測定 (修士論文「ダケカンバ産地別個体の生理形態解析」修士2年 PAIN AYE MYAT MYAT) | |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|----|----|-----------------------------------|-----|----|----------|-----|----------|--|------|
| 114 | 11 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属生態水文学研究所 | 3 | 7 | | | 10 | 全学体験ゼミナール「人の手で作り管理する森林-武蔵野編」 | |
| 115 | 11 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林生物地球科学研究室 | 6 | | | | 6 | 2021年度森林二専修内定者用クラスルーム | |
| 116 | 11 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科アジアセンター森林共生生物学研究室 | 1 | | | | 1 | 外生菌根菌共生系に関する研究 | |
| 117 | 11 | 1 | 西東京市立田無小学校 1年 わかば学級 | 12 | | | 116 | 128 | 生活科見学(11/5 下見、相談)、11/22 | |
| 118 | 11 | 1 | 西東京市立住吉小学校 1年 | 4 | | | 76 | 80 | 生活科見学 (11/26 見学)、相談 | |
| 119 | 11 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林 | 19 | | | 4 | 23 | 2021年度教職員リースづくり体験会 (対面10人、ZOOM9人、材料のみ1人) | |
| 120 | 11 | 1 | 株式会社自由が丘フラワーズ | | | | 3 | 3 | 不用枝物出荷品の打合せと下見 | |
| 121 | 11 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林 | 6 | 8 | | | 14 | 令和3年度推薦入学者の田無演習林見学 | |
| 122 | 12 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | | | 1 | | 1 | 修士論文「ナラ枯れにより枯死した古いコナラから羽化する甲虫相に影響を及ぼす要因」修士2年 稲田 涼悟 | |
| 123 | 12 | 1 | 学習院大学理学部生命科学科生物遺伝資源学研究室 | | | 1 | | 1 | 天蚕・柞蚕の飼料樹としてのクヌギの植栽と利用 博士前期課程1年 真家 悠輔 | |
| 124 | 12 | 1 | 東大農場・演習林の存続を願う会 | | | | 6 | 6 | 演習林内生物(動植物)観察・調査・記録 | |
| 125 | 12 | 1 | 自由学園最高学部(大学部) | 3 | | | | 3 | 卒業研究「向山緑地の若返りについて」と関連するナラ枯れ調査 大学部4年 亀山泰良 大学部3年 伊澤麻里 | |
| 126 | 12 | 1 | 東京大学新領域創成科学研究科生物圏機能学分野 | | | 1 | | 1 | 修士論文「都市近郊の残存林の生態系機能について～生物由来のサービスとディスプレイの評価～」修士課程2年 竹井通隆 | |
| 127 | 12 | 9 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | | | 9 (9) | | 9 (9) | 修士論文「カシノナガキイムシのナラ菌保持量に影響する要因」修士1年 Kristian Ade Andreas | |
| 128 | 12 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室 | 1 | 4 | | | 5 | 森林土壌学実験 | |
| 129 | 12 | 1 | 練馬区立関町リサイクルセンター | | | | 16 | 16 | 見学 | |
| 130 | 12 | 1 | 生態調和農学機構 | 1 | | | | 1 | 実習用資材(キクの支柱)の材料の分譲(モウソウチク) | |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|----|----|-------------------------------|----------|----|----------|-----|----------|--|------|
| 131 | 12 | 1 | 個人 | | | | 1 | 1 | シリブカガシ里親、シリブカガシのドングリ採集 | |
| 132 | 12 | 1 | 国立研究開発法人森林総合研究所 | 1 | | | 6 | 7 | 見学、相談 | |
| 133 | 12 | 2 | 一般個人見学者 | | | | 256 | 256 | 見学 | |
| 134 | 12 | 1 | 海南大学 | 1 (1) | | | | 1 (1) | 見学と研究打合せ | |
| 135 | 12 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所 | 1 | | | | 1 | 実習機材の引取 | |
| 136 | 1 | 1 | 東大農場・演習林の存続を願う会 | | | | 6 | 6 | 演習林内生物（動植物）観察・調査・記録 | |
| 137 | 1 | 1 | 自由学園最高学部（大学部） | 3 | 2 | | | 5 | 卒業研究「向山緑地の若返りについて」と関連するナラ枯れ調査 大学部4年 亀山泰良 大学部3年 伊澤麻里 | |
| 138 | 1 | 9 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | | | 9 (9) | | 9 (9) | 修士論文「カシノナガキイムシのナラ菌保持量に影響する要因」修士1年 Kristian Ade Andreas | |
| 139 | 1 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構 | 2 | 7 | | | 9 | 緑地環境実地実習 | |
| 140 | 1 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林経理学研究室 | 2 | | | | 2 | 2022年度の森林経理学実習または基礎実習の準備調査・計測 | |
| 141 | 1 | 1 | 株式会社セルコ | | | | 1 | 1 | 東京都委託 カラス生息状況調査 | |
| 142 | 2 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | 1 | | 3 | | 4 | 修士論文「ナラ枯れにより枯死した古いコナラから羽化する甲虫相に影響を及ぼす要因」修士2年 稲田 涼悟 | |
| 143 | 2 | 1 | 学習院大学理学部生命科学科生物遺伝資源学研究室 | 1 | 7 | 1 | | 9 | 天蚕・柞蚕の飼料樹としてのクスギの植栽と利用 博士前期課程1年 真家悠輔 | |
| 144 | 2 | 1 | 東大農場・演習林の存続を願う会 | | | | 6 | 6 | 演習林内生物（動植物）観察・調査・記録 | |
| 145 | 2 | 5 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | | | 5 (5) | | 5 (5) | 修士論文「カシノナガキイムシのナラ菌保持量に影響する要因」修士1年 Kristian Ade Andreas | |
| 146 | 2 | 1 | いであ株式会社 | | | | 1 | 1 | 東京大学西東京キャンパス（仮称）整備計画 モニタリング調査 | |
| 147 | 2 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林経理学研究室 | 1 | | 1 | | 2 | 2022年度の森林経理学実習または基礎実習の準備調査・計測 | |
| 148 | 2 | 1 | 東京大学工学系研究科総合研究機構 | 1 | | | | 1 | 樹木の材形成に関する研究（田無演習林内ポプラ萌芽の採取） | |
| 149 | 2 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室 | 1 | | | | 1 | コナラの養分吸収 | |
| 150 | 3 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室 | 1 | | | | 1 | 博士論文「チャノキの内生菌の多様性と内生菌-病原菌間の相互作用の解明」博士課程2年 ウィン・ビューマ (Win, Phyu Mar) | |
| 151 | 3 | 1 | 東大農場・演習林の存続を願う会 | | | | 6 | 6 | 演習林内生物（動植物）観察・調査・記録 | |
| 152 | 3 | 1 | 自由学園最高学部（大学部） | 3 | 1 | | | 4 | 卒業研究「向山緑地の若返りについて」と関連するナラ枯れ調査 大学部4年 亀山泰良 大学部3年 伊澤麻里 | |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|---|----|-----------------------------------|-----|----|----------|-----|----------|---|------|
| 153 | 3 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | | | 2 (2) | | 2 (2) | 修士論文「カシノナガキクイムシのナラ菌保持量に影響する要因」修士1年 Kristian Ade Andreas | |
| 154 | 3 | 1 | いであ株式会社 | | | | 1 | 1 | 東京大学西東京キャンパス（仮称）整備計画 モニタリング調査 | |
| 155 | 3 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育・社会連携センター | | | 1 | | 1 | 日本産、韓国産、台湾産ヒノキによる生育比較 | |
| 156 | 3 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科アジアセンター森林共生生物学研究室 | | | 1 | | 1 | 外生菌根菌共生系に関する研究 | |
| 157 | 3 | 1 | AIR PLANNING | | | | 1 | 1 | 見学、相談 | |
| 158 | 3 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所 | 1 | | | | 1 | 田無演習林公用車譲渡のため引取、回送、納車 | |

※括弧内の数値は外国人利用数を示す

利用者数合計 1,596
(75)
利用件数 158

5) 生態水文学研究所

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|---|----|-----------------------------------|----------|-----------|------------|-----|------------|--------------------------------------|----------|
| 1 | 4 | 1 | シデコブシの会 | | | | 7 | 7 | シデコブシの会 定例会 | 日帰り |
| 2 | 4 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 8 | 8 | ギフチョウ調査 | 日帰り |
| 3 | 4 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 8 | 8 | 春のふれあい自然観察会準備 | 日帰り |
| 4 | 4 | 1 | 豊田工業高等専門学校環境都市工学科 | 1 | | | 18 | 19 | 森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析 | 日帰り |
| 5 | 4 | 2 | 大山市役所経済環境部環境課 | | | | 14 | 14 | 春のふれあい自然観察会 | 日帰り |
| 6 | 4 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 6 | 6 | 蝶モニター | 日帰り |
| 7 | 4 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | 1 | | | | 1 | ナラ枯れがカミキリムシ相に及ぼす影響の解明 | 日帰り |
| 8 | 4 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林 | 2 | | | | 2 | 過去データ管理室会議の引き継ぎ、採水同行、調査打ち合わせ | 外部宿泊施設 |
| 9 | 4 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林 | 1 | | | | 1 | 過去データ管理室会議の引き継ぎ、採水同行、調査打ち合わせ | 日帰り |
| 10 | | | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 8 | 8 | ギフチョウ調査 | 日帰り |
| 11 | 4 | 6 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | 6 | 12 (6) | | | 18 (6) | ナラ枯れがカミキリムシ相に及ぼす影響の解明 | 赤津宿泊施設 |
| 12 | 4 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | 1 (1) | | | | 1 (1) | ナラ枯れがカミキリムシ相に及ぼす影響の解明 | 日帰り |
| 13 | 4 | 1 | 豊田工業高等専門学校環境都市工学科 | 1 | | | | 1 | 森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析 | 日帰り |
| 14 | 5 | 1 | シデコブシの会 | | | | 7 | 7 | シデコブシの会 定例会 | 日帰り |
| 15 | 5 | 1 | 豊田工業高等専門学校環境都市工学科 | 1 | | | | 1 | 森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析 | 日帰り |
| 16 | 5 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 2 | 2 | 蝶モニター | 日帰り |
| 17 | 5 | 2 | 豊田工業高等専門学校環境都市工学科 | 2 | | | | 2 | 森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析 | 日帰り |
| 18 | 6 | 14 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻森圏管理学研究室 | | | 14 | | 14 | 亜熱帯から亜寒帯における木本性つる植物の分布パターンとその規定要因の解明 | 赤津宿泊施設 |
| 19 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻森圏管理学研究室 | | | 1 | | 1 | 亜熱帯から亜寒帯における木本性つる植物の分布パターンとその規定要因の解明 | 日帰り |
| 20 | 6 | 1 | シデコブシの会 | | | | 7 | 7 | シデコブシの会 定例会 | 日帰り |
| 21 | 6 | 1 | 豊田工業高等専門学校環境都市工学科 | 1 | 3 | | | 4 | 森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析 | 日帰り |
| 22 | 6 | 10 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林 | 3 | | 14 (13) | | 17 (13) | 豊田受託研究、民間との共同研究の現場、室内打ち合わせ | 長期滞在者用宿舎 |
| 23 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林 | | | 1 (1) | | 1 (1) | 豊田受託研究、民間との共同研究の現場、室内打ち合わせ | 日帰り |
| 24 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | 1 | | | | 1 | 研究委員会長期生態系データ生物部門植物分野の植生調査 | 日帰り |
| 25 | 6 | 1 | 豊田工業高等専門学校環境都市工学科 | 1 | 3 (1) | | | 4 (1) | 森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析 | 日帰り |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|---|----|-----------------------------|-----|----|---------|-------|---------|--------------------------------|----------|
| 26 | 6 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 2 (1) | 2 (1) | 蝶モニター | 日帰り |
| 27 | 6 | 1 | 豊田工業高等専門学校環境都市工学科 | 1 | 2 | | | 3 | 森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析 | 日帰り |
| 28 | 6 | 1 | 株式会社水地盤研究所 | | | | 2 | 2 | 生態水文学研究所の水文観測施設見学 | 日帰り |
| 29 | 6 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 9 | 9 | 定例活動 | 日帰り |
| 30 | 7 | 1 | 豊田工業高等専門学校環境都市工学科 | 1 | | | | 1 | 森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析 | 日帰り |
| 31 | 7 | 1 | シデコブシの会 | | | | 7 | 7 | シデコブシの会 定例会 | 日帰り |
| 32 | 7 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林 | 2 | | | | 2 | 豊田受託研究、民間との共同研究の現場、室内打ち合わせ | 外部宿泊施設 |
| 33 | 7 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林 | 1 | | | | 1 | 豊田受託研究、民間との共同研究の現場、室内打ち合わせ | 日帰り |
| 34 | 7 | 27 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 27 (27) | | 27 (27) | 植生組成が森林流域の地表流出と土壌侵食に及ぼす影響 | 五位塚宿泊施設 |
| 35 | 7 | 1 | 豊田工業高等専門学校環境都市工学科 | 1 | | | | 1 | 森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析 | 日帰り |
| 36 | 7 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 7 | 7 | 定例活動 | 日帰り |
| 37 | 7 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 7 | 7 | 蝶モニター | 日帰り |
| 38 | 7 | 1 | 豊田工業高等専門学校環境都市工学科 | 1 | | | | 1 | 森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析 | 日帰り |
| 39 | 7 | 1 | 名古屋林業土木協会 | | | | 4 | 4 | 令和4年度林業土木連盟現地技術研修会の見学候補地としての下見 | 日帰り |
| 40 | 8 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 3 (3) | | 3 (3) | 植生組成が森林流域の地表流出と土壌侵食に及ぼす影響 | 五位塚宿泊施設 |
| 41 | 8 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 1 (1) | | 1 (1) | 植生組成が森林流域の地表流出と土壌侵食に及ぼす影響 | 日帰り |
| 42 | 8 | 1 | シデコブシの会 | | | | 63 | 63 | シデコブシの会 親子水生生物観察会 | 日帰り |
| 43 | 8 | 1 | 豊田工業高等専門学校環境都市工学科 | 1 | | | | 1 | 森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析 | 日帰り |
| 44 | 8 | 1 | 名古屋林業土木協会 | | | | 21 | 21 | 令和4年度林業土木連盟現地技術研修会の見学候補地としての下見 | 日帰り |
| 45 | 8 | 1 | シデコブシの会 | | | | 7 | 7 | シデコブシの会 定例会 | 日帰り |
| 46 | 8 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 8 | 8 | 蝶モニター | 日帰り |
| 47 | 8 | 9 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 9 (9) | | 9 (9) | 科研調査補助・修士論文の現地データ収集と打ち合わせ | 五位塚宿泊施設 |
| 48 | 8 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 1 (1) | | 1 (1) | 科研調査補助・修士論文の現地データ収集と打ち合わせ | 日帰り |
| 49 | 8 | 13 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 13 (13) | | 13 (13) | 科研調査補助・修士論文の現地データ収集と打ち合わせ | 長期滞在者用宿舎 |
| 50 | 8 | 4 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林 | 4 | | | | 4 | 豊田受託研究、民間との共同研究の機材設置、打ち合わせ | 外部宿泊施設 |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|----|----|-----------------------------|-----|----|------------|-----|------------|----------------------------|---------|
| 51 | 8 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林 | 1 | | | | 1 | 豊田受託研究、民間との共同研究の機材設置、打ち合わせ | 日帰り |
| 52 | 9 | 1 | シデコブシの会 | | | | 7 | 7 | シデコブシの会 定例会 | 日帰り |
| 53 | 9 | 6 | 株式会社地球科学総合研究所 | 2 | 1 | | 44 | 47 | 隣接道路上で実施する地下構造調査の測定用車両の駐車 | 日帰り |
| 54 | 9 | 1 | 豊田工業高等専門学校環境都市工学科 | 1 | | | | 1 | 森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析 | 日帰り |
| 55 | 9 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 8 | 8 | 蝶モニター | 日帰り |
| 56 | 9 | 1 | 豊田工業高等専門学校環境都市工学科 | 1 | 3 | | | 4 | 森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析 | 日帰り |
| 57 | 9 | 1 | 東京大学農学部森林生物地球科学研究室 | 1 | | | | 1 | 森林流域への土壌侵食モデルの適用 | 外部宿泊施設 |
| 58 | 9 | 1 | 東京大学農学部森林生物地球科学研究室 | 1 | | | | 1 | 森林流域への土壌侵食モデルの適用 | 日帰り |
| 59 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部 | 1 | | | | 1 | 水源涵養モニタリング研究委託 | 日帰り |
| 60 | 9 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林 | 3 | | | | 3 | 民間との共同研究のための機材設置、現場打合せ | 外部宿泊施設 |
| 61 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林 | 1 | | | | 1 | 民間との共同研究のための機材設置、現場打合せ | 日帰り |
| 62 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部 | 1 | | | 3 | 4 | 水文観測施設の見学 | 赤津宿泊施設 |
| 63 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部 | 1 | | | 3 | 4 | 水文観測施設の見学 | 日帰り |
| 64 | 10 | 1 | 豊田工業高等専門学校環境都市工学科 | 1 | 1 | | | 2 | 森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析 | 日帰り |
| 65 | 10 | 1 | シデコブシの会 | | | | 7 | 7 | シデコブシの会 定例会 | 日帰り |
| 66 | 10 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 8 | 8 | 定例活動 | 日帰り |
| 67 | 10 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 7 | 7 | 蝶モニター | 日帰り |
| 68 | 10 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 6 | 6 | 定例活動 | 日帰り |
| 69 | 10 | 1 | 豊田森林組合総務課 | | | | 10 | 10 | とよた森林学校「森林と災害」 | 日帰り |
| 70 | 10 | 1 | 猿投の森づくりの会 | | | | 10 | 10 | 間伐 | 日帰り |
| 71 | 10 | 2 | シデコブシの会 | | | | 37 | 37 | きのご観察会 | 日帰り |
| 72 | 10 | 1 | 神戸大学海事科学部砂防研究室 | 2 | | | | 2 | GPRを用いた治山ダム堆砂物調査地の下見 | 日帰り |
| 73 | 10 | 11 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 11 (11) | | 11 (11) | 森林流域における土砂生産源及び表面流出に関する研究 | 五位塚宿泊施設 |
| 74 | 10 | 1 | 株式会社水地盤研究所 | 2 | 5 | | 4 | 11 | 生態水文学研究所の歴史と水門観測の手法について | 日帰り |
| 75 | 10 | 2 | 神戸大学海事科学部砂防研究室 | 4 | | | | 4 | GPRを用いた治山ダム堆砂物調査地の下見 | 赤津宿泊施設 |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|----|----|------------------------------------|-----|----|----|-----|----|---------------------------|----------|
| 76 | 10 | 1 | 豊田工業高等専門学校環境都市工学科 | 1 | 3 | | | 4 | 森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析 | 日帰り |
| 77 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部 | 1 | | | | 1 | 水源涵養モニタリング研究委託 | 日帰り |
| 78 | 10 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 10 | 10 | 定例活動 | 日帰り |
| 79 | 10 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 12 | 12 | 犬山市民総合大学第2回現地講義 | |
| 80 | 10 | 1 | 犬山市役所経済環境部環境課 | 3 | | | 14 | 17 | 犬山市民総合大学第2回現地講義 | 日帰り |
| 81 | 11 | 4 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 4 | | 4 | 森林流域における土砂生産源及び表面流出に関する研究 | 五位塚宿泊施設 |
| 82 | 11 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 1 | | 1 | 森林流域における土砂生産源及び表面流出に関する研究 | 日帰り |
| 83 | 11 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林 | 1 | | | | 1 | 民間との共同研究のための現場機材のメンテナンス | 外部宿泊施設 |
| 84 | 11 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林 | 1 | | | | 1 | 民間との共同研究のための現場機材のメンテナンス | 日帰り |
| 85 | 11 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部 | 4 | | | | 4 | 水源涵養モニタリング研究委託とよた森林学校下見 | 日帰り |
| 86 | 11 | 1 | 東京大学農学部森林生物地球科学研究室 | 1 | | | | 1 | 森林流域への土壌侵食モデルの適用 | 外部宿泊施設 |
| 87 | 11 | 1 | 東京大学農学部森林生物地球科学研究室 | 1 | | | | 1 | 森林流域への土壌侵食モデルの適用 | 日帰り |
| 88 | 11 | 1 | シデコブシの会 | | | | 7 | 7 | シデコブシの会 定例会 | 日帰り |
| 89 | 11 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生態システム学専攻森林圏社会学研究室 | 3 | | | | 3 | 日本における銘木の流通構造 | 五位塚宿泊施設 |
| 90 | 11 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 9 | 9 | 定例活動 | 日帰り |
| 91 | 11 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 12 | 12 | 犬山市秋のふれあい自然観察会 | 日帰り |
| 92 | 11 | 1 | 犬山市役所経済環境部環境課 | | | | 18 | 18 | 犬山市秋のふれあい自然観察会 | 日帰り |
| 93 | 11 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 7 | 7 | 蝶モニター | 日帰り |
| 94 | 11 | 1 | 猿投の森づくりの会 | | | | 10 | 10 | 間伐 | 日帰り |
| 95 | 11 | 1 | 豊田工業高等専門学校環境都市工学科 | 1 | 3 | | | 4 | 森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析 | 日帰り |
| 96 | 11 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 2 | | 2 | 森林流域における土砂生産源及び表面流出に関する研究 | 五位塚宿泊施設 |
| 97 | 11 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 2 | | 2 | 森林流域における土砂生産源及び表面流出に関する研究 | 日帰り |
| 98 | 11 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 10 | 10 | 定例活動 | 日帰り |
| 99 | 11 | 19 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 19 | | 19 | 科研調査補助・修士論文の現地データ収集と打ち合わせ | 長期滞在者用宿舎 |
| 100 | 11 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 1 | | 1 | 科研調査補助・修士論文の現地データ収集と打ち合わせ | 日帰り |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|----|----|-------------------------------|-----|----|------------|-----|------------|---------------------------|------------------|
| 101 | 12 | 2 | シデコブシの会 | | | | 13 | 13 | シデコブシの会 標石ツアー | 日帰り |
| 102 | 12 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 6 | 6 | 定例活動 | 日帰り |
| 103 | 12 | 15 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 15 (15) | | 15 (15) | 科研調査補助・修士論文の現地データ収集と打ち合わせ | 長期滞在者用 宿舎 |
| 104 | 12 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 1 (1) | | 1 (1) | 科研調査補助・修士論文の現地データ収集と打ち合わせ | 日帰り |
| 105 | 12 | 1 | 猿投の森づくりの会 | | | | 10 | 10 | 間伐 | 日帰り |
| 106 | 12 | 1 | 豊田工業高等専門学校環境都市工学科 | 1 | 3 | | | 4 | 森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析 | 日帰り |
| 107 | 12 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 10 | 10 | 定例活動 | 日帰り |
| 108 | 1 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 8 | 8 | 定例活動 | 日帰り |
| 109 | 1 | 1 | 豊田工業高等専門学校環境都市工学科 | 1 | 3 | | | 4 | 森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析 | 日帰り |
| 110 | 1 | 1 | シデコブシの会 | | | | 31 | 31 | シデコブシの会 巣箱作り | 日帰り |
| 111 | 1 | 1 | 東京大学農学部森林生物地球科学研究室 | 1 | | | | 1 | 森林流域への土壌侵食モデルの適用 | 外部宿 泊施設 |
| 112 | 1 | 1 | 東京大学農学部森林生物地球科学研究室 | 1 | | | | 1 | 森林流域への土壌侵食モデルの適用 | 日帰り |
| 113 | 1 | 1 | 猿投の森づくりの会 | | | | 11 | 11 | 間伐 | 日帰り |
| 114 | 1 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 1 | 1 | 定例活動 | 日帰り |
| 115 | 2 | 1 | 豊田工業高等専門学校環境都市工学科 | 1 | 3 | | | 4 | 森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析 | 日帰り |
| 116 | 2 | 1 | シデコブシの会 | | | | 7 | 7 | シデコブシの会 定例会 | 日帰り |
| 117 | 2 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 1 | | 1 | 修士論文の現地データ収集と打ち合わせ | 長期滞 在者用 宿舎 |
| 118 | 2 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 1 | | 1 | 修士論文の現地データ収集と打ち合わせ | 日帰り |
| 119 | 2 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所 | | 2 | | 4 | 6 | 体験活動プログラム | 赤津宿 泊施設 |
| 120 | 2 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所 | | | | 2 | 2 | 体験活動プログラム | 日帰り |
| 121 | 2 | 1 | 猿投の森づくりの会 | | | | 12 | 12 | 間伐 | 日帰り |
| 122 | 2 | 1 | 豊田工業高等専門学校環境都市工学科 | 1 | 3 | | | 4 | 森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析 | 日帰り |
| 123 | 3 | 1 | シデコブシの会 | | | | 8 | 8 | シデコブシの会 定例会 | 日帰り |
| 124 | 3 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林 | 3 | | | | 3 | 民間との共同研究のための現場機材のメンテナンス | 外部宿 泊施設 |
| 125 | 3 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林 | 1 | | | | 1 | 民間との共同研究のための現場機材のメンテナンス | 日帰り |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|---|----|----------------------------|-----|----|------------|-----|------------|------------------------------|--------------|
| 126 | 3 | 21 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 21 (21) | | 21 (21) | 修士論文の現地データ収集と打ち合わせ | 長期滞在者用 宿舎 |
| 127 | 3 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 | | | 1 (1) | | 1 (1) | 修士論文の現地データ収集と打ち合わせ | 日帰り |
| 128 | 3 | 1 | 豊田工業高等専門学校環境都市工学科 | 1 | 3 | | | 4 | 森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析 | 日帰り |
| 129 | 3 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | 1 | | | | 1 | ナラ枯れがカミキリムシ相に及ぼす影響の解明 | 日帰り |
| 130 | 3 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部 | 1 | | | | 1 | 水源涵養モニタリング研究委託 | 日帰り |
| 131 | 3 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 11 | 11 | 定例活動 | 日帰り |
| 132 | 3 | 1 | 犬山民生委員児童委員協議会 | | | | 4 | 4 | 民生委員児童委員協議会委員のための里山再生と林業遺産見学 | 日帰り |
| 133 | 3 | 1 | 豊田工業高等専門学校環境都市工学科 | 1 | 2 | | | 3 | 森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析 | 日帰り |
| 134 | 3 | 1 | 猿投の森づくりの会 | | | | 8 | 8 | 間伐 | 日帰り |
| 135 | 3 | 1 | 名古屋経済大学市邨高等学校 | 1 | | | 18 | 19 | 高校生樹木調査支援活動 | 日帰り |
| 136 | 3 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 9 | 9 | 民生・児童委員自然観察研究会支援活動 | 日帰り |
| 137 | 3 | 1 | 犬山民生委員児童委員協議会 | | | | 20 | 20 | 民生委員児童委員協議会委員のための里山再生と林業遺産研修 | 日帰り |

※括弧内の数値は外国人利用数を示す

利用者数合 986
計 (126)
利用件数 137

6) 富士癒しの森研究所

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|---|----|--------------------------------|-----|----|----|-----|----|---|------------------|
| 1 | 4 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 1 | | | | 1 | 全学体験ゼミナール「危険生物の知識（春編）」オンラインガイダンス | 日帰り |
| 2 | 4 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 1 | | | | 1 | 音楽イベント打ち合わせ | 日帰り |
| 3 | 4 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | 4 | | | | 4 | 星の観察可能時間調査（「環境教育素材の開発Ⅱ」） | 山中寮 内藤セミナーハウス |
| 4 | 4 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | 2 | | | | 2 | 星の観察可能時間調査（「環境教育素材の開発Ⅱ」） | 日帰り |
| 5 | 4 | 1 | 星のや富士 | | | | 3 | 3 | 施設見学 | 日帰り |
| 6 | 4 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 3 | | 1 | | 4 | 樹木のハイスループットフェノタイピング方法の開発 | 山中寮 内藤セミナーハウス |
| 7 | 4 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 3 | | 1 | | 4 | 樹木のハイスループットフェノタイピング方法の開発 | 日帰り |
| 8 | 4 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 4 | | | 8 | 12 | 癒しの森の会の森林散策および第13回例会 | 日帰り |
| 9 | 4 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | 6 | | | | 6 | カラマツ系統別試験地調査 | 富士山中宿泊施設 |
| 10 | 4 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | 2 | | | | 2 | カラマツ系統別試験地調査 | 日帰り |
| 11 | 4 | 1 | 東京大学産学協創推進本部 | 1 | | | | 1 | 見学・散策 | 日帰り |
| 12 | 4 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻 | 1 | | | | 1 | 感性と論理の融合アプローチにより森と人を紡ぎ直すサーバーフォレストに関する研究 | 日帰り |
| 13 | 5 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | 3 | | | | 3 | 全学体験ゼミナール「危険生物の知識（春編）」 | 山中寮 内藤セミナーハウス |
| 14 | 5 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | 5 | 10 | | | 15 | 全学体験ゼミナール「危険生物の知識（春編）」 | 日帰り |
| 15 | 5 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | 4 | | | | 4 | 星の観察可能時間調査（「観光教育素材の開発Ⅱ」） | 山中寮 内藤セミナーハウス |
| 16 | 5 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | 2 | | | | 2 | 星の観察可能時間調査（「観光教育素材の開発Ⅱ」） | 日帰り |
| 17 | 5 | 1 | 箱根を守る会 | | | | 3 | 3 | 春植物の観察 | 日帰り |
| 18 | 5 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 3 | | | 10 | 13 | 癒しの森の会の森林散策および音楽会打ち合わせ | 日帰り |
| 19 | 5 | 1 | 山梨県立吉田高等学校 | 2 | | | 3 | 5 | 課題研究 | 日帰り |
| 20 | 5 | 1 | 東京大学生産技術研究所森下研究室 | 3 | | | 12 | 15 | OTOCARE Fuji Iyashi no Mori：音を介した森林空間と人の関係性に関する実験 | 山中寮 内藤セミナーハウス |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|---|----|--|-----|----|----------|-----|-------|---|--------------------------|
| 21 | 5 | 1 | 東京大学生産技術研究所 森下研究室 | 3 | | | 9 | 12 | OTOCARE Fuji Iyashi no Mori : 音を介した森林空間と人の 関係性に関する実験 | 日帰り |
| 22 | 5 | 1 | なし | | | | 2 | 2 | 林内見学 | 日帰り |
| 23 | 5 | 1 | 山中湖おもてなしの会 | | | | 3 | 3 | 施設見学のため | 日帰り |
| 24 | 5 | 1 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属演習林富 士癒しの森研究所 | 1 | | | | 1 | 演習林会議オンライン出席 | 日帰り |
| 25 | 5 | 1 | 山中湖おもてなしの会 | | | | 2 | 2 | 施設見学のため | 日帰り |
| 26 | 5 | 1 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属演習林富 士癒しの森研究所 | 4 | | | 9 | 13 | 音楽会打ち合わせ | 日帰り |
| 27 | 5 | 1 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属演習林富 士癒しの森研究所 | 3 | | 1 | 1 | 5 | 樹木のハイスループットフェノタ イピング方法の開発 | 山中寮 内藤セ ミナー ハウス |
| 28 | 5 | 1 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属演習林富 士癒しの森研究所 | 3 | | 1 | 1 | 5 | 樹木のハイスループットフェノタ イピング方法の開発 | 日帰り |
| 29 | 5 | 2 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属田無演習 林 | 4 | | | | 4 | 染色実験（「環境教育素材の開 発」） | 富士山 中宿泊 施設 |
| 30 | 5 | 1 | NPO 法人アースバウンダ ー | | | | 1 | 1 | 山中湖村宿泊施設に潜在する小学 生を対象とした環境教育プログラ ム実施のための下見 | 日帰り |
| 31 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属田無演習 林 | 2 | | | | 2 | 染色実験（「環境教育素材の開 発」） | 日帰り |
| 32 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属演習林富 士癒しの森研究所 | 1 | | | | 1 | 全学体験ゼミナール「東大の別荘 『癒しの森』で心も体もリフレッ シュ」ガイドランス（オンライン講 義 40 名） | 日帰り |
| 33 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科森林科学専攻 森林植物学研究室 | | | 1 | | 1 | 時間的視点を考慮した外生菌根性 樹木における根圏バクテリア群集 決定要因の検討 | 日帰り |
| 34 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属演習林富 士癒しの森研究所 | 1 | | | | 1 | ドローン飛行練習 | 日帰り |
| 35 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属演習林富 士癒しの森研究所 | 3 | | | 8 | 11 | 音楽会打ち合わせ | 日帰り |
| 36 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属千葉演習 林 | 1 | | 1 (1) | | 2 (1) | カシノナガキクイムシのナラ菌保 有量に影響する要因 | 日帰り |
| 37 | 6 | 2 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属田無演習 林 | 4 | | | | 4 | 星の観察可能時間調査（「観光教育 素材の開発Ⅱ」） | 富士山 中宿泊 施設 |
| 38 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属田無演習 林 | 2 | | | | 2 | 星の観察可能時間調査（「観光教育 素材の開発Ⅱ」） | 日帰り |
| 39 | 6 | 2 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属演習林富 士癒しの森研究所 | 10 | 20 | | | 30 | 総合科目「森林資源学」フィール ドワーク 1「森と癒し」 | 日帰り |
| 40 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命科 学研究科附属演習林富士癒 しの森研究所 | 1 | | | | 1 | 教員総会のオンライン出席 | 日帰り |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|---|----|------------------------------------|-----|----|----|-----|----|--|------------------|
| 41 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 4 | | | 9 | 13 | 音楽会準備作業 | 日帰り |
| 42 | 6 | 1 | 山中湖おもてなしの会 | 2 | | | 3 | 5 | 音楽会準備のため | 日帰り |
| 43 | 6 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 4 | 2 | 3 | 6 | 15 | 樹木のハイスループットフェノタイピング方法の開発 | 山中寮 内藤セミナーハウス |
| 44 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | | | | 3 | 3 | 樹木のハイスループットフェノタイピング方法の開発 | 日帰り |
| 45 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属秩父演習林 | 1 | | | | 1 | サワラ溝腐症状の胞子形成観察 | 日帰り |
| 46 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属千葉演習林 | 1 | | | | 1 | カシノナガキクイムシのナラ菌保有量に影響する要因 | 日帰り |
| 47 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属千葉演習林 | 3 | | | | 3 | ナラ枯れ防止のヒノキチップ設置作業指導 | 日帰り |
| 48 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 6 | | | 15 | 21 | 音楽会準備作業 | 日帰り |
| 49 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 4 | | | 91 | 95 | 癒しの森の宵やみ音楽会 | 日帰り |
| 50 | 6 | 2 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻 | 4 | | | 8 | 12 | 森と人を紡ぎ直すサーバーフォレストに関連したワークショップ実験 | 山中寮 内藤セミナーハウス |
| 51 | 6 | 1 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻 | 2 | | | 4 | 6 | 森と人を紡ぎ直すサーバーフォレストに関連したワークショップ実験 | 日帰り |
| 52 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生態圏システム学専攻森圏管理学研究室 | 2 | | | | 2 | フィールド科学専修森圏管理学実習下見 | 日帰り |
| 53 | 7 | 4 | 山中湖おもてなしの会 | 4 | | | 14 | 18 | ナラ枯れ被害木の薪加工のため | 日帰り |
| 54 | 7 | 1 | 東京大学農学部応用生物学専修 | | 1 | | | 1 | 近接・衛星リモートセンシングに基づくナラ枯れのモニタリングと病害発生予測モデルの構築 | 日帰り |
| 55 | 7 | 1 | 東京大学理学部生物学科 | | | 1 | | 1 | モミ属の針葉樹の標高適応の研究のための下見 | 日帰り |
| 56 | 7 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属千葉演習林 | 2 | | | | 2 | カシノナガキクイムシのナラ菌保有量に影響する要因 | 日帰り |
| 57 | 7 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | 4 | | | | 4 | カラマツ系統別試験地調査 | 富士山中宿泊施設 |
| 58 | 7 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | 2 | | | | 2 | カラマツ系統別試験地調査 | 日帰り |
| 59 | 7 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | 4 | | | | 4 | 星の観察可能時間調査（「観光教育素材の開発Ⅱ」） | 富士山中宿泊施設 |
| 60 | 7 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | 2 | | | | 2 | 星の観察可能時間調査（「観光教育素材の開発Ⅱ」） | 日帰り |
| 61 | 7 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 2 | | | 9 | 11 | 異なるスケールで収集したデータの回帰的構造を考慮したモデル化手法の構築 | 山中寮 内藤セミナーハウス |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|---|----|--------------------------------|-----|----|----------|-----|--------|-------------------------------------|----------------------|
| 62 | 7 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 2 | | | 9 | 11 | 異なるスケールで収集したデータの回送的構造を考慮したモデル化手法の構築 | 日帰り |
| 63 | 7 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 3 | | | 8 | 11 | 癒しの森の例会 | 日帰り |
| 64 | 7 | 2 | 山梨県立吉田高等学校 | 4 | | | 6 | 10 | 課題研究 | 日帰り |
| 65 | 7 | 2 | 東京大学農学部森林科学専攻森林動物学研究室 | 4 | 24 | 8 (2) | | 36 (2) | 森林科学基礎実習Ⅲ | 山中寮 内藤セミナー ハウス |
| 66 | 7 | 1 | 東京大学農学部森林科学専攻森林動物学研究室 | 2 | 12 | 4 (2) | | 18 (1) | 森林科学基礎実習Ⅲ | 日帰り |
| 67 | 7 | 1 | 株式会社ザクティ | | | | 4 | 4 | NEDO 先導研究ナラ枯れ観測用地上観測カメラ設置対応 | 外部宿泊施設 |
| 68 | 7 | 1 | 株式会社ザクティ | | | | 4 | 4 | NEDO 先導研究ナラ枯れ観測用地上観測カメラ設置対応 | 日帰り |
| 69 | 7 | 2 | 住友林業株式会社筑波研究所 | | | | 7 | 7 | 共同研究に基づくカラマツ葉のサンプリング | 日帰り |
| 70 | 7 | 1 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻 | 2 | | 1 | | 3 | 研究候補地の見学および打合せ | 日帰り |
| 71 | 8 | 3 | 山中湖おもてなしの会 | 3 | | | 14 | 17 | ナラ枯れ被害木の薪加工のため | 日帰り |
| 72 | 8 | 2 | 東京大学生産技術研究所森下研究室 | 2 | | | 26 | 28 | 演習林を利用した共同研究実験(OTOCARE) | 山中寮 内藤セミナー ハウス |
| 73 | 8 | 1 | 東京大学生産技術研究所森下研究室 | 1 | | | 13 | 14 | 演習林を利用した共同研究実験(OTOCARE) | 日帰り |
| 74 | 8 | 1 | 株式会社NT システム | | | | 1 | 1 | 測定器回収 | 日帰り |
| 75 | 8 | 1 | 株式会社ザクティ | | | | 1 | 1 | NEDO 先導研究ナラ枯れ観測用地上観測カメラ設置対応 | 日帰り |
| 76 | 8 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻 | 1 | | 1 | | 2 | 異なるスケールで収集したデータの階層的構造を考慮したモデル化手法の構築 | 山中寮 内藤セミナー ハウス |
| 77 | 8 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻 | 1 | | 1 | | 2 | 異なるスケールで収集したデータの階層的構造を考慮したモデル化手法の構築 | 日帰り |
| 78 | 8 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属千葉演習林 | 2 | | | | 2 | カシノナガキクイムシのナラ菌保有量に影響する要因 | 日帰り |
| 79 | 8 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | 4 | | | | 4 | ピットホールトラップによる地表俳諧性昆虫調査 | 富士山中 宿泊施設 |
| 80 | 8 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | 2 | | | | 2 | ピットホールトラップによる地表俳諧性昆虫調査 | 日帰り |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|---|----|------------------------------------|-----|----|------------|-----|------------|--|------------------|
| 81 | 8 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | 4 | | | | 4 | 星の観察可能時間調査（「観光教育素材の開発Ⅱ」） | 富士山中宿泊施設 |
| 82 | 8 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | 4 | | | | 4 | 星の観察可能時間調査（「観光教育素材の開発Ⅱ」） | 日帰り |
| 83 | 8 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | 2 | | | | 2 | ピットホールトラップによる地表俳諧性昆虫調査 | 日帰り |
| 84 | 8 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 1 | | | | 1 | 癒しの森の会 | 日帰り |
| 85 | 8 | 2 | 東京大学地震研究所 | 4 | | | 6 | 10 | 東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻「地球観測実習」の地震計設置事前打ち合わせ | 山中寮 内藤セミナーハウス |
| 86 | 8 | 1 | 東京大学地震研究所 | 4 | | 1 | | 5 | 東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻「地球観測実習」 | 山中寮 内藤セミナーハウス |
| 87 | 8 | 1 | 株式会社ザクティ | 2 | | 1 | | 3 | NEDO 先導研究ナラ枯れ観測用地上観測カメラ設置対応 | 外部宿泊施設 |
| 88 | 8 | 1 | 株式会社ザクティ | | | | 4 | 4 | NEDO 先導研究ナラ枯れ観測用地上観測カメラ設置対応 | 日帰り |
| 89 | 8 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | | | | 4 | 4 | ピットホールトラップによる地表俳諧性昆虫調査 | 山中寮 内藤セミナーハウス |
| 90 | 8 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | 12 | | | | 12 | ピットホールトラップによる地表俳諧性昆虫調査 | 日帰り |
| 91 | 8 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | 3 | | | | 3 | カラマツ系統別試験地調査 | 山中寮 内藤セミナーハウス |
| 92 | 8 | 1 | 東京大学大学院理学系研究科天文学専攻 | 12 | | | | 12 | 林内散策 | 日帰り |
| 93 | 8 | 1 | 山梨県立吉田高等学校 | 1 | | | 2 | 3 | 課題研究 | 日帰り |
| 94 | 8 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生態圏システム学専攻森圏管理学研究室 | | | | 3 | 3 | フィールド科学専修森圏管理学実習 | 山中寮 内藤セミナーハウス |
| 95 | 8 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生態圏システム学専攻森圏管理学研究室 | 4 | 14 | 2 (1) | | 20 (1) | フィールド科学専修森圏管理学実習 | 日帰り |
| 96 | 8 | 1 | 株式会社ザクティ | 2 | 7 | 1 | | 10 | ドローン撮影 | 日帰り |
| 97 | 8 | 1 | FRS コーポレーション株式会社 | 1 | | | 4 | 5 | ドローン撮影 | 日帰り |
| 98 | 8 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | | | | 2 | 2 | 森林圏生態社会学実習 | 山中寮 内藤セミナーハウス |
| 99 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | 4 | | 10 (10) | | 14 (10) | 林内見学 | 日帰り |
| 100 | 9 | 2 | 山中湖おもてなしの会 | 2 | | 5 (5) | | 7 (5) | ナラ枯れ被害木の薪加工のため | 日帰り |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|----|----|--------------------------------|-----|-----------|----|-----|--------|--|--------------|
| 101 | 9 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 5 | | | 14 | 19 | 癒しの森の会 | 日帰り |
| 102 | 9 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属千葉演習林 | 2 | | | | 2 | カシノナガキクイムシのナラ菌保有量に影響する要因 | 日帰り |
| 103 | 9 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | 6 | | | | 6 | 星の観察可能時間調査（「観光教育素材の開発Ⅱ」） | 富士山中宿泊施設 |
| 104 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | 2 | | | | 2 | 星の観察可能時間調査（「観光教育素材の開発Ⅱ」） | 日帰り |
| 105 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 5 | 19 | | | 24 | 全学体験ゼミナール「東大の別荘「癒しの森」で心も体もリフレッシュ」 | 日帰り |
| 106 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | 4 | 1 | | | 5 | 国際農学実験実習Ⅰ個別実験 | 山中寮内藤ゼミナーハウス |
| 107 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | 4 | 1 | | | 5 | 国際農学実験実習Ⅰ個別実験 | 日帰り |
| 108 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 1 | | | | 1 | 森林科学基礎実習Ⅳ（オンライン受講者13名） | 日帰り |
| 109 | 9 | 1 | 株式会社ザクティ | 1 | | | | 1 | NEDO 先導研究ナラ枯れ観測用地上観測カメラ設置対応 | 外部宿泊施設 |
| 110 | 9 | 3 | 株式会社ザクティ | 4 | | | | 4 | NEDO 先導研究ナラ枯れ観測用地上観測カメラ設置対応 | 日帰り |
| 111 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 2 | 1 | 2 | | 5 | 異なるスケールで収集したデータの回送的構造を考慮したモデル化手法の構築、樹木のハイスループットフェノタイピング方法の開発 | 山中寮内藤ゼミナーハウス |
| 112 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 2 | 1 | 2 | | 5 | 異なるスケールで収集したデータの回送的構造を考慮したモデル化手法の構築、樹木のハイスループットフェノタイピング方法の開発 | 日帰り |
| 113 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林植物学研究室 | | | 1 | | 1 | 時間的視点を考慮した外生菌根性樹木における根圏バクテリア群集決定要因の検討 | 日帰り |
| 114 | 9 | 4 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻 | 8 | | 12 | | 20 | 陸域景観学実習および国立公園内ワーケーションの社会実験 | 山中寮内藤ゼミナーハウス |
| 115 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | 2 | | | | 2 | カラマツ精英樹保存林調査 | 富士山中宿泊施設 |
| 116 | 10 | 1 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻 | 2 | | 3 | | 5 | 陸域景観学実習および国立公園内ワーケーションの社会実験 | 山中寮内藤ゼミナーハウス |
| 117 | 10 | 1 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻 | 2 | | 3 | | 5 | 陸域景観学実習および国立公園内ワーケーションの社会実験 | 日帰り |
| 118 | 10 | 4 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻 | 8 | 32 (4) | | 12 | 52 (4) | 森と人を紡ぎ直すサーバフォレストに関連したワーケーション実験 | 山中寮内藤ゼミナーハウス |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|----|----|-----------------------------------|-----|----------|----|-----|--------|--|--------------|
| 119 | 10 | 1 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻 | 2 | 8 (1) | | 3 | 13 (1) | 森と人を紡ぎ直すサーバーフォレストに関連したワーケーション実験 | 日帰り |
| 120 | 10 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属千葉演習林 | 2 | | | | 2 | カシノナガキクイムシのナラ菌保有量に影響する要因 | 日帰り |
| 121 | 10 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | 4 | | | | 4 | 星の観察可能時間調査（「環境教育素材の開発Ⅱ」） | 富士山中宿泊施設 |
| 122 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | 2 | | | | 2 | 星の観察可能時間調査（「環境教育素材の開発Ⅱ」） | 日帰り |
| 123 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | 2 | | | | 2 | カラムツ系統別試験地調査、ピットフォールトラップによる地上徘徊性昆虫調査 | 富士山中宿泊施設 |
| 124 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 2 | | 3 | | 5 | 研究打合せ | 日帰り |
| 125 | 10 | 2 | 東京大学生産技術研究所森下研究室 | 2 | | 4 | | 6 | 演習林を利用した「Field Studio」の実験 | 山中寮内藤セミナーハウス |
| 126 | 10 | 1 | 東京大学生産技術研究所森下研究室 | 1 | | 2 | | 3 | 演習林を利用した「Field Studio」の実験 | 日帰り |
| 127 | 10 | 4 | 山中湖おもてなしの会 | 4 | | | | 4 | 林地残存木の運搬、借用木材運搬、ナラ枯れ材運搬のため | 日帰り |
| 128 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生態システム学専攻森圏管理学研究室 | 2 | | 1 | | 3 | 研究打合せ | 山中寮内藤セミナーハウス |
| 129 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生態システム学専攻森圏管理学研究室 | 2 | | 1 | | 3 | 研究打合せ | 日帰り |
| 130 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | 5 | 10 | | | 15 | 全学体験ゼミナール「危険生物の知識（秋偏）」 | 日帰り |
| 131 | 10 | 3 | 東京大学生産技術研究所森下研究室 | 3 | | | 18 | 21 | 演習林を利用した「Field Studio」の実験 | 山中寮内藤セミナーハウス |
| 132 | 10 | 1 | 東京大学生産技術研究所森下研究室 | 1 | | | 6 | 7 | 演習林を利用した「Field Studio」の実験 | 日帰り |
| 133 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 3 | 1 | 1 | | 5 | 異なるスケールで収集したデータの回送的構造を考慮したモデル化手法の構築、樹木のハイスループットフェノタイピング方法の開発 | 山中寮内藤セミナーハウス |
| 134 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 3 | 1 | 1 | | 5 | 異なるスケールで収集したデータの回送的構造を考慮したモデル化手法の構築、樹木のハイスループットフェノタイピング方法の開発 | 日帰り |
| 135 | 10 | 1 | 山中湖村役場福祉健康課健康グループ | | | | 2 | 2 | 基礎代謝アップ教室現場視察 | 日帰り |
| 136 | 10 | 5 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 11 | | | 49 | 60 | 癒しの森の会 | 日帰り |
| 137 | 10 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 2 | | | | 2 | ドローン飛行練習 | 日帰り |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|----|----|----------------------------------|-----|----|------------|-----|------------|---|----------------------|
| 138 | 10 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林風致計画学研究室 | 6 | 18 | | | 24 | 森林風景計画実習 | 山中寮 内藤セミナー ハウス |
| 139 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林風致計画学研究室 | 2 | 6 | | | 8 | 森林風景計画実習 | 日帰り |
| 140 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 7 | | | 10 | 17 | 特別ガイド「きのこに親しむ」 | 日帰り |
| 141 | 10 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 28 | | | | 28 | 関東甲信越地区演習林等技術職員研修 | 山中寮 内藤セミナー ハウス |
| 142 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 14 | | | | 14 | 関東甲信越地区演習林等技術職員研修 | 日帰り |
| 143 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | | | | 143 | 143 | 森の文化祭 | 日帰り |
| 144 | 11 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属千葉演習林 | 1 | | | | 1 | カシノナガキクイムシのナラ菌保有量に影響する要因 | 日帰り |
| 145 | 11 | 1 | 株式会社モキ製作所 | | | | 3 | 3 | 無煙炭化器を使用している現場の見学 | 日帰り |
| 146 | 11 | 3 | 山梨県高等学校体育連盟ヨット専門部 | | | | 450 | 450 | 令和3年度第28回関東高等学校選抜ヨット大会開催のため | 日帰り |
| 147 | 11 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | 4 | | | | 4 | 星の観察可能時間調査（「環境教育素材の開発Ⅱ」） | 山中寮 内藤セミナー ハウス |
| 148 | 11 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | 2 | | | | 2 | 星の観察可能時間調査（「環境教育素材の開発Ⅱ」） | 日帰り |
| 149 | 11 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 12 | 4 | 12 (12) | 1 | 29 (12) | 森林圏生態社会学特別演習（森林圏生態社会学研究室ゼミ） | 山中寮 内藤セミナー ハウス |
| 150 | 11 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 6 | 2 | 6 (6) | 1 | 16 (6) | 森林圏生態社会学特別演習（森林圏生態社会学研究室ゼミ） | 日帰り |
| 151 | 11 | 2 | NPO 法人アースバウンダー | | | | 2 | 2 | 山中湖村宿泊施設に滞在する小学生を対象とした環境教育プログラム実施のための下見 | 日帰り |
| 152 | 11 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林植物学研究室 | 1 | | 1 | | 2 | ズミの果実採集 | 日帰り |
| 153 | 11 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 6 | 20 | | | 26 | 全学体験ゼミナール「森のエネルギーを使いこなす」 | 日帰り |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|----|----|--------------------------------|-----|----|----------|-----|-------|--|------------------|
| 154 | 11 | 1 | 山中湖おもてなしの会 | | | | 2 | 2 | 林地残存木の運搬、借用木材運搬、ナラ枯れ材運搬のため | |
| 155 | 11 | 1 | NPO 法人アースバウンダー | 5 | 4 | | 85 | 94 | 山中湖村宿泊施設に滞在する小学生を対象とした環境教育プログラム実施のため | 日帰り |
| 156 | 11 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 3 | | | 10 | 13 | 癒しの森の会活動 | 日帰り |
| 157 | 11 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻 | 2 | | 2 | | 4 | カラマツのリモートセンシング | 山中寮 内藤セミナーハウス |
| 158 | 11 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻 | 2 | | 2 | | 4 | カラマツのリモートセンシング | 日帰り |
| 159 | 11 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 4 | 4 | | | 8 | 森林政策学演習 | 山中寮 内藤セミナーハウス |
| 160 | 11 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 4 | 4 | | | 8 | 森林政策学演習 | 日帰り |
| 161 | 11 | 1 | 癒しの森の会 | | | | 13 | 13 | 子供たちの書道教室 | 日帰り |
| 162 | 12 | 2 | 神奈川大学理学部生物化学科 | | | 2 | | 2 | 器材の撤収 | 日帰り |
| 163 | 12 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | 4 | | | | 4 | 星の観察可能時間調査および染色実験（「環境教育素材の開発ⅠおよびⅡ」） | 山中寮 内藤セミナーハウス |
| 164 | 12 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | 2 | | | | 2 | 星の観察可能時間調査および染色実験（「環境教育素材の開発ⅠおよびⅡ」） | 日帰り |
| 165 | 12 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究センター | 3 | | | | 3 | 次世代森林情報基盤サイバーフォレストのための現地情報記録転送システムの開発と運用試験 | 日帰り |
| 166 | 12 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 8 | | | 18 | 26 | シカ捕獲調査 | 日帰り |
| 167 | 12 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | | 4 | | | 4 | 体験活動プログラム「森の人になろうー森と暮らす仕事」 | 山中寮 内藤セミナーハウス |
| 168 | 12 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | | 4 | | | 4 | 体験活動プログラム「森の人になろうー森と暮らす仕事」 | 日帰り |
| 169 | 12 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | 3 | | 5 (5) | | 8 (5) | 落葉焚き | 山中寮 内藤セミナーハウス |
| 170 | 12 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | 3 | | 5 | | 8 | 落葉焚き | 日帰り |
| 171 | 12 | 1 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻 | 3 | 1 | 1 | 2 | 7 | 森と人を紡ぎ直すサイバーフォレストに関連したワークショップ実験 | 日帰り |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|----|----|----------------------------|-----|----|----|-----|----|---|------------------|
| 172 | 12 | 1 | THE HIGHEST PEAK | | | | 9 | 9 | ナラ枯れ材活用事例の見学 | 日帰り |
| 173 | 1 | 4 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | 6 | | | | 6 | 星の観察可能時間調査（「環境教育素材の開発Ⅱ」） | 山中寮 内藤セミナーハウス |
| 174 | 1 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | 4 | | | | 4 | 星の観察可能時間調査（「環境教育素材の開発Ⅱ」） | 日帰り |
| 175 | 1 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属千葉演習林 | 1 | | | | 1 | ナラ枯れ発生機構における樹種間差の研究 | 外部宿泊施設 |
| 176 | 1 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属千葉演習林 | 1 | | | | 1 | ナラ枯れ発生機構における樹種間差の研究 | 日帰り |
| 177 | 1 | 2 | 東京大学生産技術研究所森下研究室 | 1 | | | 6 | 7 | OTOの勉強会 | 山中寮 内藤セミナーハウス |
| 178 | 1 | 1 | 東京大学社会連携本部 | 3 | | | | 3 | 富士癒しの森研究所視察のため | 日帰り |
| 179 | 2 | 1 | 東京大学生産技術研究所森下研究室 | 1 | | | 3 | 4 | OTOの勉強会 | 日帰り |
| 180 | 2 | 1 | なし | | | | 3 | 3 | 林内散策 | 日帰り |
| 181 | 2 | 1 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻 | 1 | | | 3 | 4 | 森と人を紡ぎ直すサーバーフォレストに関連したワークショップ実験 | 日帰り |
| 182 | 2 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | 2 | | | | 2 | 星の観察可能時間調査（「環境教育素材の開発Ⅱ」）および染色実験 | 山中寮 内藤セミナーハウス |
| 183 | 3 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | 2 | | | | 2 | 星の観察可能時間調査（「環境教育素材の開発Ⅱ」）および染色実験 | 山中寮 内藤セミナーハウス |
| 184 | 3 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | 2 | | | | 2 | 星の観察可能時間調査（「環境教育素材の開発Ⅱ」）および染色実験 | 日帰り |
| 185 | 3 | 1 | NPO 法人えんしゅう生活支援 net | | | | 1 | 1 | 施設見学 | 日帰り |
| 186 | 3 | 1 | 株式会社 SHINON | | | | 2 | 2 | 植物・自然写真の撮影 | 山中寮 内藤セミナーハウス |
| 187 | 3 | 1 | 株式会社 SHINON | | | | 2 | 2 | 植物・自然写真の撮影 | 日帰り |
| 188 | 3 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻 | 2 | 1 | 1 | | 4 | カラマツのリモートセンシング | 山中寮 内藤セミナーハウス |
| 189 | 3 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻 | 2 | 1 | 1 | | 4 | カラマツのリモートセンシング | 日帰り |
| 190 | 3 | 1 | 長生寺 | | | | 2 | 2 | 見学 | 日帰り |
| 191 | 3 | 2 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻 | 8 | 4 | | 16 | 28 | 森と人を紡ぎ直すサーバーフォレストに関連したワークショップとシンポジウムの実施 | 山中寮 内藤セミナーハウス |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|---|----|--------------------------|-----|----|----|-----|----|---|------------------|
| 192 | 3 | 1 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻 | 4 | 2 | | 7 | 13 | 森と人を紡ぎ直すサーバーフォレストに関連したワークショップとシンポジウムの実施 | 日帰り |
| 193 | 3 | 1 | 山中湖おもてなしの会 | | | | 6 | 6 | ナラ枯れ材の割材のため | 日帰り |
| 194 | 3 | 1 | 目黒星美学園小学校 | 41 | | | | 41 | 合宿での野外活動の実施踏査 | 日帰り |
| 195 | 3 | 4 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | 8 | | | | 8 | 星の観察可能時間調査「環境教育素材の開発Ⅱ」 | 山中寮 内藤セミナーハウス |
| 196 | 3 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 | 2 | | | | 2 | 星の観察可能時間調査「環境教育素材の開発Ⅱ」 | 日帰り |

※括弧内の数値は外国人利用数を示す

| | |
|--------|---------------|
| 利用者数合計 | 2,213 (48) |
| 利用件数 | 196 |

7) 樹芸研究所

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|----|----|----------------------------|-----|----|----------|-----|-----------|-------------------------------|-------|
| 1 | 4 | 4 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | 4 | | 8 (4) | | 12 (4) | ナラ枯れがカミキリムシ相に及ぼす影響の解明 | 外部施設泊 |
| 2 | 4 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | 1 | | 2 (1) | | 3 (1) | ナラ枯れがカミキリムシ相に及ぼす影響の解明 | 日帰り |
| 3 | 4 | 1 | 伝統工芸木炭生産技術保存会 | | | | 2 | 2 | 伝統工芸駿河炭に関するアブラギリ調査 | 外部施設泊 |
| 4 | 4 | 1 | 伝統工芸木炭生産技術保存会 | | | | 2 | 2 | 伝統工芸駿河炭に関するアブラギリ調査 | 日帰り |
| 5 | 4 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所 | | 24 | | | 24 | 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶs1 (伊豆編) ①」 | 日帰り |
| 6 | 5 | 1 | グリーン航業株式会社 | | | | 3 | 3 | 森林生態系多様性基礎調査における現地調査の実施 | 日帰り |
| 7 | 6 | 1 | 名古屋大学大学院環境学研究科附属地震火山研究センター | 2 | | | | 2 | 観測局舎撤去のご相談・PCB使用機器調査 | 外部施設泊 |
| 8 | 6 | 1 | 名古屋大学大学院環境学研究科附属地震火山研究センター | 2 | | | | 2 | 観測局舎撤去のご相談・PCB使用機器調査 | 日帰り |
| 9 | 9 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所 | | 16 | | | 16 | 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶs2 (伊豆編) ①」 | 日帰り |
| 10 | 9 | 1 | 笑楽窯 | | | | 3 | 3 | ニホンアブラギリ搬出、白炭窯修繕 | 日帰り |
| 11 | 10 | 2 | 伝統工芸木炭生産技術保存会 | | | | 6 | 6 | ニホンアブラギリ林地整備視察 | 外部施設泊 |
| 12 | 10 | 1 | 伝統工芸木炭生産技術保存会 | | | | 3 | 3 | ニホンアブラギリ林地整備視察 | 日帰り |
| 13 | 10 | 1 | 個人 | | | | 2 | 2 | 温室見学 | 日帰り |
| 14 | 10 | 1 | 森林総合研究所林木育種センター遺伝資源部 | 3 | | | | 3 | コウヨウザンの遺伝資源収集及び遺伝変異の解析 | 日帰り |
| 15 | 11 | 10 | 一般 | | | | 60 | 60 | 狩猟 | 日帰り |
| 16 | 11 | 1 | なし | | | | 2 | 2 | 温室見学 | 日帰り |
| 17 | 11 | 1 | 国立環境研究所・環境計測研究センター・動態化学研究室 | 1 | | | | 1 | フタバガキによるハロゲン化メチル放出過程の研究 | 日帰り |
| 18 | 12 | 1 | 国立環境研究所・環境計測研究センター・動態化学研究室 | 1 | | | | 1 | フタバガキによるハロゲン化メチル放出過程の研究 | 日帰り |
| 19 | 12 | 9 | 一般 | | | | 54 | 54 | 狩猟 | 日帰り |
| 20 | 12 | 1 | 株式会社森の日帰りエネルギー研究所 | | | | 4 | 4 | 研究所内のユーカリ育苗施設の視察のため | 日帰り |
| 21 | 12 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所 | | 24 | | | 24 | 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ熱帯植物編 (伊豆編) ①」 | 日帰り |
| 22 | 12 | 1 | 加賀市政策戦略部加賀ライズタウン推進本部 | | | | 10 | 10 | 温室カカオ栽培の視察と共同研究打ち合わせ | 日帰り |
| 23 | 1 | 10 | 一般 | | | | 60 | 60 | 狩猟 | 日帰り |
| 24 | 1 | 1 | 加賀市政策戦略部加賀ライズタウン推進本部 | | | | 6 | 6 | 温室カカオ栽培の視察と共同研究打ち合わせ | 日帰り |
| 25 | 1 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所 | | 14 | | | 14 | 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ熱帯植物編 (伊豆編) ②」 | 日帰り |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|---|----|----------------------------|-----|----|----|-----|----|---|----------|
| 26 | 2 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所 | | 14 | | | 14 | 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ熱帯植物編（伊豆編）②」 | 日帰り |
| 27 | 2 | 9 | 一般 | | | | 54 | 54 | 狩猟 | 日帰り |
| 28 | 2 | 1 | 株式会社テレビ朝日 | | | | 4 | 4 | テレビ朝日「帰れマンデー」の撮影 | 日帰り |
| 29 | 2 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所 | | 23 | | | 23 | 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ（竹林管理・炭焼き編①）」 | 日帰り |
| 30 | 2 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所 | | 12 | | | 12 | 体験活動プログラム「林業体験と獣害問題」 | 下賀茂寮宿泊施設 |
| 31 | 2 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所 | | 6 | | | 6 | 体験活動プログラム「林業体験と獣害問題」 | 日帰り |
| 32 | 2 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所 | | 14 | | | 14 | 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ（竹林管理・炭焼き編②）」 | 日帰り |
| 33 | 3 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所 | | 10 | | | 10 | 体験活動プログラム「林業体験と獣害問題」 | 下賀茂寮宿泊施設 |
| 34 | 3 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所 | | 5 | | | 5 | 体験活動プログラム「林業体験と獣害問題」 | 日帰り |
| 35 | 3 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所 | | 15 | | | 15 | 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ（竹林管理・炭焼き編②）」 | 日帰り |
| 36 | 3 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 | 1 | | | | 1 | ナラ枯れがカミキリムシ相に及ぼす影響の解明 | 日帰り |
| 37 | 3 | 1 | 鶴岡工業高等専門学校 創造工学科 化学・生物コース | 1 | | | | 1 | クローナル植物の過去を解き明かすメチル化 DNA 遺伝子座プロファイリング法の開発 | 日帰り |
| 38 | 3 | 4 | 一般 | | | | 24 | 24 | 狩猟 | 日帰り |

※括弧内の数値は外国人利用数を示す

利用者数合計 502
(5)
利用件数 38

13. 各演習林所在地および連絡先

| 演習林名 作業所名 | 郵便番号 | 住所 | 電話 | FAX |
|--|----------|-----------------------------------|--------------|--------------|
| 企画部/教育・社会 連携センター/フイ ールドデータ研究 センター | 113-8657 | 東京都文京区弥生 1-1-1 農学部 1 号館 116 号室 | 03-5841-5497 | 03-5841-5494 |
| 千葉演習林 | 299-5503 | 千葉県鴨川市天津 770 | 04-7094-0621 | 04-7094-2321 |
| 清澄作業所 | 299-5505 | 千葉県鴨川市清澄 135 | 04-7094-0585 | |
| 札郷作業所 | 292-0537 | 千葉県君津市黄和田畑字前沢 1442-1 | 0439-39-3122 | |
| 郷台作業所 | 292-0533 | 千葉県君津市折木沢字相ノ沢 1542-1 | | |
| 北海道演習林 | 079-1563 | 北海道富良野市山部東町 9 番 61 号 | 0167-42-2111 | 0167-42-2689 |
| 山部樹木園 | 079-1582 | 北海道富良野市字山部第一苗圃 | 0167-39-6017 | |
| セミナーハウス | 076-0161 | 北海道富良野市字麓郷市街地 1 | 0167-42-2111 | |
| 秩父演習林 | 368-0034 | 埼玉県秩父市日野田町 1-1-49 | 0494-22-0272 | 0494-23-9620 |
| 栃本作業所 | 369-1901 | 埼玉県秩父市大滝 3450-2 | 0494-55-0355 | 0494-55-0355 |
| 大血川作業所 | 369-1901 | 埼玉県秩父市大滝 5198 | 0494-54-1220 | |
| 影森苗畑 | 369-1871 | 埼玉県秩父市下影森 764 | 0494-23-9768 | |
| 田無演習林 | 188-0002 | 東京都西東京市緑町 1-1-1 | 042-461-1528 | 042-461-2302 |
| 生態水文学研究所 | 489-0031 | 愛知県瀬戸市五位塚町 11-44 | 0561-82-2371 | 0561-85-2838 |
| 赤津作業所 | 489-0014 | 愛知県瀬戸市北白坂町 1-1 | 0561-21-1185 | |
| 犬山作業所 | 484-0094 | 愛知県犬山市塔野地字大畔 178-2 | | |
| 富士癒しの森研究所 | 401-0501 | 山梨県南都留郡山中湖村山中 341-2 | 0555-62-0012 | 0555-62-4798 |
| 樹芸研究所 | 415-0304 | 静岡県賀茂郡南伊豆町加納 457 | 0558-62-0021 | 0558-62-3170 |
| 青野作業所 | 415-0327 | 静岡県賀茂郡南伊豆町青野 851 | 0558-62-0254 | |

